

第3章 事務局運営

- 第1節 事務局設置 ● 247
- 第2節 機能及び役割 ● 249
- 第3節 主要業務推進及び成果 ● 250
- 第4節 実務小委員会 ● 262
- 第5節 実務者ワークショップ ● 272
- 第6節 国際経済フォーラム ● 290

第3章 事務局運営

第1節 事務局設置

1. 設立背景及び意義

ア. 設立背景

- 1996年設立時、NEARは議長自治体の円滑なNEAR運営のために巡回事務局制度を採択したが、2年ごとに議長自治体と事務局が同時に移動することによって問題点が発生した。

〈巡回事務局制度運営内訳〉

- ・ 第1回：大韓民国慶尚北道(1996～1998)
 - ・ 第2回：日本富山県(1998～2000)
 - ・ 第3回：日本兵庫県(2000～2002)
 - ・ 第4回：ロシアハバロフスク地方(2002. 9. 10～9. 11)
 - * 次期総会開催自治体が総会開催時まで2年間歴任することに変更
 - ・ 第5回：中国黒龍江省(2002. 9～2004. 9)
- 巡回事務局の問題点は、対内的には事務局の頻繁な移動で業務の連携性・持続性の欠如、迅速な情報交換及び伝達機能の求心的な役割が不十分、会員自治体間の類似事業の散発的な推進、連合の長期発展プログラム開発及びビジョン提示の困難などが、対外的には連合の国際的地位向上と立地確保の限界性、国際機関との連携性不足及び役割の不十分さなどが問題点として指摘された。
- 事務局常設化は、2000年9月第3回日本兵庫総会で慶尚北道の提案により公式化され、2002年9月第4回ハバロフスク総会で事務国機構、運営に関して6自治体で「事務局設置共同実務機構」を構成、2004年9月第5回黒龍江省総会で常設事務局を慶尚北道に設置することに決定。

〈常設事務局推進及び議論過程〉

- ・ 1998年10月第2回富山総会
 - － 事務局運営、経費負担などに関する問題提起
 - ・ 1999年7月第2回実務委員会(富山県)
 - － 事務局運営体制について継続的に検討することを合意
 - ・ 2000年9月第3回兵庫総会
 - － 慶尚北道知事：連合事務局の必要性と慶尚北道に事務局誘致提案
 - － 事務局設置に関する案件は 2001年実務小委員会と実務委員会で検討し、2002年ハバロフスク総会に報告するように最終合意文採択
 - ・ 2001年2月第3回実務小委員会開催(兵庫県)
 - － 慶尚北道の事務局設置提案に対して同意
 - ・ 2001年8月第3回実務委員会開催(兵庫県)
 - － 慶尚北道と富山県からそれぞれ事務局設置の希望
 - － 2002年9月ハバロフスク総会で最終決定することに合意
 - ・ 2002年9月第4回ハバロフスク総会
 - － 事務局の機構、運営について6自治体で構成した「事務局設置共同実務機構」結成合意
- ※(韓国)慶尚北道、釜山広域市/(日本)兵庫県、富山県
(ロシア)ハバロフスク地方/(中国)黒龍江省
- ・ 2004年1月第4回実務委員会(黒龍江省)
 - － 事務局誘致は慶尚北道が単独申し込み
 - － 2004年9月第5回黒龍江省総会で最終決定することにする
 - ・ 2004年9月第5回黒龍江省総会で事務局を4年連任制にし、慶尚北道に置くことに決定

イ. 設立意義

- 常設事務局制度を導入することで、事務局の実質的機能遂行と交流協力の中心としての役割を期待
- 国際機関として連合の活動を対外的に公式化し、連合の国際的地位強化及び連合運営のノウハウの蓄積によって、共同发展ビジョンの提示とプログラム開発などが可能
- 会員自治体間の結束力強化及び成功事例の施策を広め共有することで北東アジア共同发展に寄与

2. 組織及び人員

ア. 組織：1総長、1局、2課（企画総務課、国際協力課）

イ. 人員：15人（慶尚北道派遣公務員5人）

- 事務総長(1級公務員相当)
- 事務局長(行政4級公務員)
- 課長2人(行政5級、電算5級)
- 職員2人(行政6級、行政7級)
- 専門職4人(中国語、日本語、モンゴル語、ロシア語、英語)
- 会員自治体派遣公務員 4人(中国、日本、ロシア、モンゴル)

3. 予算

ア. 事務局の円滑な運営のために「NEAR 事務局設置及び運営支援条例」を制定(2005. 4. 14)し、予算を確保する。

イ. 年度別予算現況

- 2005年度予算：784百万ウォン
 - ・ 人件費336、運営費161、事業費279、その他8
- 2006年度予算：1,235百万ウォン
 - ・ 人件費277、運営費283、事業費564、その他112
- 2007年度予算：1,304百万ウォン
 - ・ 人件費416、運営費378、事業費494、その他16
- 2008年度予算：1,304百万ウォン
 - ・ 人件費419、運営費424、事業費542、その他14

4. 場所

- 場所：浦項テクノパーク3階(慶尚北道浦項市南区芝谷洞601)
- 開所日：2005年5月2日
- 使用面積：専用面積104坪(333m²)

第2節 機能及び役割

1. 機能

- 常設事務局制度の導入以来、組織を細分化して役割を具体化し、企画総務課は、職員の人事管理、予算編成及び執行、事業計画書、年次報告書、会計報告書作成、連合の長期発展計画案作成及び調整、連合発展のための共同プロジェクト開発及び推進、連合関連資料整理、そ

して情報分析などを担当する。

- 国際協力課は、総会及び実務委員会の運営支援、総会及び実務委員会議決事項の遂行支援、分科委員会活動支援、連合ホームページ運営、電子情報管理、会員自治体間の業務連絡及び調整、地域研究機関間のネットワーク構築、連合情報誌発刊、対外広報などを担当する。

2. 役割

- 北東アジアの経済、文化、情報など交流協力のメインチャンネル
- 北東アジアの実質的な「経済通商交流の場」提供
- 資料収集・分析提供、実質的な交流協力プログラム開発及び執行、積極的な対外協力及び広報

第3節 主要業務推進及び成果

1. 2005年

- 事務局設置などインフラ構築
 - ・ 事務局設置：2005.5.2、浦項テクノパーク内入居
 - ・ 組織及び職員構成：慶尚北道派遣公務員及び直接採用(外国語専門職員)
 - ・ 規定制定：服務規定、会計規定など各種規定制定
- 会員自治体広報展示館設置・運営
 - ・ 目的：各会員自治体を象徴する特産品、広報物の統合展示で北東アジアの‘実感できる場’として活用
 - ・ 事業内容
 - － 展示館(全体：770×270×50cm、自治体別：60×49×50cm)
 - － 会員自治体を代表する物品を展示
 - ※ CD、パンフレット、工芸品、特産品など展示
 - ・ 推進成果
 - － 5ヵ国32自治体(中国5、日本9、韓国10、モンゴル2、ロシア6)の展示品
 - － 釜山実務委員会及び慶尚北道ビジネス促進会議の期間中に事務局訪問の会員自治体参加者が見学
- NEAR公式ホームページ(経済通商ネットワーク)運営
 - ・ 目的：サイバー上で NEARと会員自治体を体系的に広報し、会員自治体間の通商交流を促進するための電子商取引システム構築
 - ・ 事業内容(構成)
 - － About NEAR：NEARの誕生過程と活動成果を整理

- Secretariat : リアルタイムで情報交換と業務処理支援
- NEAR Members : 会員自治体情報、ビジネス情報提供
- e-Marketplace : 会員自治体の企業体及び商品紹介、直取引支援
- ・ 推進成果
 - 経済通商分科コーディネーターである慶尚北道の提案('01. 8)
 - 慶尚北道の連合事務局誘致をきっかけに着手('04. 9)
 - 1次開通('05. 7. 1)第6回日韓経済交流会議で試行(慶州)
 - ネットワーク説明会開催('05. 12. 1)、会員自治体職員事務局訪問時

○ NEAR広報物製作・ 配付

- ・ 目的 : 多様な形態の広報物を作成して会員自治体及び主要機関・ 団体に提供することで事務局の国内外知名度向上
- ・ 事業内容
 - 広報パンフレット製作・ 配布 : 韓、英、中、日、ロシアなど5ヵ国語で製作・ 配布、会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関・ 団体に送付
 - 月刊ニュースレター(NEAR News) : 英語を共通語にし、韓、中、日、ロシアなど4ヵ国語で併記で製作、会員自治体 174など関連機関・ 団体に定期的に送付
 - プレゼンテーション製作・ 活用 : 韓、英、中、日、ロシアなど 5ヵ国語で製作
- ・ 推進成果
 - 広報パンフレット製作・ 配布 : 7. 20
 - NEAR News 発刊 : 毎月末
 - プレゼンテーション製作広報 : 11. 30(釜山実務委員会時)

○ 海外会員自治体広報団派遣

- ・ 目的 : 事務局設置を広く広報し、資料収集、事務局と各会員自治体との人的ネットワーク構築
- ・ 事業内容
 - 言語別新規採用職員を中心に3チームで広報団編成
 - 日本(10. 3～8)、中国(10. 17～22)、ロシア(10. 26～29)など3地域
 - 議長歴任自治体、分科委員会コーディネート自治体、新規加入自治体訪問
- ・ 推進成果
 - 歴代総会、実務委員会及び分科委員会を開催して会員自治体の資料収集
 - 各会員自治体と事務局間の人的ネットワーク構築で業務効率性向上

○ 第5回釜山実務委員会開催

- ・ 目的 : 会議資料準備、通訳支援など実務委員会の準備を主導的に行い、事務局の役割とイメージを確立

- ・ 会議概要

- 日時：2005. 11. 29～12. 1
- 場所：釜山市(ロッテホテル)
- 参加：5ヵ国22自治体約100人
- 議題：NEAR徽章制定、海外会員自治体職員のNEAR事務局派遣など

- ・ 推進成果

- 招請状発送及び参加者確定、会議企画及び会議書類作成(11月)
- 今後の事務局が各種会議を主導的に運営することができる能力を養う

- 2005環日本海国際シンポジウム開催

- ・ 目的：北東アジアの専門家と関連機関・団体を招待して北東アジア地域の協力と共同発展方
案について模索等

- ・ 事業内容

- 日時/場所：2005. 10. 21/浦項文化芸術会館
- 主催/主管：北東アジア地域自治体連合事務局、浦項市/韓東大学

- ・ 行事内容

- 基調演説：趙建植前統一部長官、環日本海経済圏活性化と南北経済協力
- 主題発表：チェイユ(中国)、フレールロブスカヤ(ロシア)など6人

- ・ 推進成果

- NEAR 事務局の役割と発展方向を公式的に議論
- 国内外に連合事務局を広報する契機を作る

2. 2006年

- NEAR公式ホームページ構築・運営

- ・ 目的：会員自治体及び一般の方に、NEARに対する親しみを向上させ、映像会議システム構築
などで業務の効率性向上

- ・ 事業内容

- NEAR公式ホームページ構築及び運営
- E-マーケットプレイス及び電子カタログ製作など経済通商ネットワーク運営

- ・ 推進成果

- NEAR公式ホームページ構築(会員自治体情報掲載)
- 電子商取引サポートシステム構築など

- NEAR会員自治体拡大

- ・ 目的：NEARが北東アジアを代表する国際機関としての地位を確立するために会員自治体を拡大する
- ・ 事業内容
 - NEARの現会員自治体は40で、北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の25%程度
 - ※ 韓国16(10)、中国31(5)、日本47(11)、ロシア32(10)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(2) (括弧の中は加入自治体数)
 - 非会員自治体を対象に NEAR 広報及び加入案内実施
 - NEAR ホームページ案内や広報物の持続的な送付
 - 国内市・道を対象に市道別姉妹提携自治体の参加勧誘要請
 - 国内派遣国際交流員(K2H など)を NEAR 会員自治体間議会交流実施
- ・ 推進成果：25新規会員自治体加入
 - 6ヵ国40自治体⇒6ヵ国65自治体に拡大

○ NEAR実務者ワークショップ開催

- ・ 目的：実務者ワークショップを通じた業務担当者中心の人的交流網を形成、効率的な行政システムを構築して連合の結束と発展の契機を作る。
- ・ 行事概要
 - 期間：2006. 5. 17～5. 19[2泊3日]
 - 場所：慶州(現代ホテル)
 - 参加：5ヵ国20自治体60人余り
 - 議題：NEAR発展方案議論、総会上程議題議論など
- ・ 推進成果
 - 事務局活動広報及び対外交流窓口用意
 - 業務担当者との人的ネットワーク形成で業務効率性向上

○ 海外会員自治体職員NEAR事務局派遣勤務

- ・ 目的：会員自治体の結束力を高め円滑な事務局業務推進のために、各会員自治体所属職員の事務局派遣推進
- ・ 派遣勤務実施
 - 人員：3人(中国、モンゴル、ロシア各1人)
 - 期間：'05. 5月から1年間の単位で実施
- ※ 事務局では派遣勤務者が国内生活に不便がないように生活費の一部支援
- ・ 推進成果
 - 職員構成多国籍化で名実共に国際機関としての位置を占めた。
 - 慶尚北道主導の事務局運営から会員自治体運営体制に切り替えるための土台を作った。

○ NEAR第6回総会開催

- ・ 目的：事務局開所以来初めて開催された総会の成功により、事務局業務の力量を示す
- ・ 行事概要
 - － 期間：2006. 9. 12～9. 15[3泊4日]
 - － 場所：釜山(ロッテホテル)
 - － 参加：5ヵ国52自治体150人余り
 - － 議題：連合主要活動経過報告、会員自治体代表基調演説、その他総会一般議題討論
- ・ 推進成果
 - － 事務局の国際会議開催能力を養い事務局の力量を示した

○ NEAR会員自治体間の議会交流実施

- ・ 目的：会員自治体間の多様な交流協力を通じた友好増進及び発展方案模索
- ・ 推進事項
 - － 期間：2006年12月
 - － 訪問対象：中国寧夏回族及びモンゴル中央県議会
 - － 内容：慶尚北道議会議員の会員自治体議会を訪問して相互議会交流実施
- ・ 推進成果：2ヵ国2会員自治体と議会交流実施

3. 2007年

○ 北東アジア通商交流事業支援

- ・ 目的：北東アジア会員自治体間通商交流を推進して実質的な経済通商交流増進に寄与
- ・ 推進事項
 - － 期間：4. 22～4. 28(土)[7日間]
 - － 訪問自治体：モンゴルウランバートル市、中国湖北省、河南省
- ・ 主要内容
 - － モンゴルウランバートル市：市・道間、商工会議所間 MOU締結、輸出入商談
 - － 中国湖北省：副省長接見、商工会議所間MOU締結、輸出入商談
 - － 中国河南省：投資貿易博覧会参加
- ・ 推進成果：2ヵ国3会員自治体と議会交流実施、各会員自治体とMOU締結で交流協力の活性化に寄与

○ NEAR ホームページ補完構築事業

- ・ 目的：使用者が簡単に使えるように便宜性を考慮したシステム構築、資料保安のための情報保護システム補強

- ・ 事業概要
 - － 事業期間：2007. 9月～12月
 - － 使用言語：6ヵ国語(韓、英、中、日、ロシア、モンゴル語)
- ・ 事業内容
 - － 「北東アジア地域自治体連合」27の新規自治体情報追加
 - － 分科委員会別ホームページ構築及びリンク
 - － NEAR ホームページと経済通商ネットワークを分離してリンク
 - － 未構築分科委員会(国境協力、科学・技術) ホームページ開設
 - － 既構築分科委員会(環境、文化交流、防災) リンク
 - － 総会、実務委員会、会議資料及び運営規定などDB構築
- ・ 推進成果
 - － 北東アジア地域自治体連合のすべての活動情報をDB構築することで手軽に議事録及び関連資料検索
 - － 分科委員会ホームページを通じたプロジェクト推進及び情報交流
 - － 6ヵ国語の連合ホームページ運営でオンラインを通じた会員自治体間交流強化
 - － 北東アジア地域自治体連合の生活、文化、観光情報などの構築を通じた会員国家及び自治体情報共有活性化
- 第2回NEAR実務者Workshop開催
 - ・ 目的：実務者間の人的ネットワークを堅固にし、効率的な業務体系構築を通じた連合の結束と発展の契機を用意
 - ・ 行事概要
 - － 期間：5. 15(火)～5. 18(金)[3泊4日]
 - － 場所：慶尚北道内一円(慶州、安東、榮州、聞慶、高靈など)
 - ・ 主要内容
 - － 2007年度事務局主要事業説明
 - － 連合交流拡大及び発展方案議論
 - － 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - － 事務局訪問及び会員自治体文化体験など
 - － 参加：5ヵ国32自治体80人余り
 - ・ 推進成果
 - － 事務局活動広報、対外交流窓口の用意
 - － 連合会員業務担当者間交流拡大、連合発展方案議論を通じた連合結束と発展の契機を用意
 - － 人的ネットワーク形成で業務効率性及び相互理解増進

○ 第6回山東省実務委員会開催

- ・ 目的：第6回連合総会で新しい議長自治体に選任された中国山東省が、その間の各分科委員会活動状況を点検して連合の各種懸案を実務レベルで議論するため
- ・ 行事概要
 - － 期間：9.3(月)～9.6(水)[3泊4日]
 - － 場所：中国山東省済南市ソフィテルギンザホテル
- ・ 主要内容
 - － 分科委員会設置及び運営規程改正
 - － 連合会費制導入議論
 - － 京畿道2010年総会誘致提案
 - － 慶尚北道連合事務局連任制提案など
 - － 参加：5ヵ国31自治体80人余り
- ・ 推進成果
 - － 分科委員会及び連合事務局活動報告
 - － 観光、海洋・漁業分科委員会新設協議
 - － 連合会費制導入は2008年総会に上程することに決定
 - － 京畿道2010年総会誘致決定
 - － 連合事務局慶尚北道連任決定('09年～'13年)
 - － 2008年第7回総会に備えた事前点検など

○ 2007年 NEAR 国際経済フォーラム開催(第1回)

- ・ 目的：北東アジア経済通商分野の学者・企業家などが参加する国際経済フォーラムを開催して、北東アジア地域の共同発展のための具体的・実質的な方案模索
- ・ 行事内容
 - － 期間：2007. 10. 16～10. 19[3泊4日]
 - － 場所：大邱広域市インターブルゴホテル
 - － 主題：北東アジア地方政府間経済協力増進
 - － 発表者：5ヵ国11人(韓、中、日、モンゴル、ロシア)
- ・ 発表内容
 - － 北東アジア発展条件
 - － 経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案
 - － 文化的共通性の開発を通じた北東アジア共同体模索
 - － 北東アジア地域の協力構想と北東アジア共同体構想など

- ・ 参加：5ヵ国22会員自治体など300人
- ・ 推進成果
 - － 北東アジア地域の交流協力及び共同発展のための具体的で実質的な方案を模索する契機とする
 - － 事務局が名実共に北東アジア交流協力チャンネルのハブの役割を主導することができる多様な施策を本格的に推進
- 海外会員自治体職員 NEAR 事務局派遣勤務
 - ・ 目的： 会員自治体の結束力を高め円滑な事務局業務推進のために、各会員自治体所属職員の事務局派遣推進
 - ・ 派遣勤務実施
 - － 人員：4人(中国、モンゴル、ロシア、日本各1人)
 - － 期間：'05.5月から1年間の単位で実施
 - ※ 事務局では派遣勤務者が国内生活に不便がないように生活費一部支援
 - ・ 推進成果
 - － 職員構成多国籍化で名実共に国際機関としての位置を占める。
 - － 事務局運営の慶尚北道主導から会員自治体運営体制に切り替えるための土台を準備
- 国際研修室運営
 - ・ 目的： 海外派遣職員に対する現地適応能力養成、慶尚北道に対する好感度向上
 - ・ 推進状況
 - － 事務局外国職員対象韓国語講座運営－ボランティア活用
 - － 慶尚北道海外派遣公務員の語学及び国際エチケット講座
 - － 地域内で参加希望の学生、主婦、企業人など一般人にも公開
 - ・ 推進成果
 - － 海外派遣職員に対する現地適応能力養成
 - － 地域住民の参加を通じた連合事務局の対外的広報及び奉仕の機会として活用
- NEAR広報物製作、配付
 - ・ 目的： 様々な形態の広報物を作成して会員自治体や主要機関団体に提供することで事務局の国内外の知名度向上
 - ・ 事業内容
 - － 広報パンフレット製作、配布
 - ・ 韓、英、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語で製作配布
 - ・ 会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関、団体に送付
 - － 月刊ニュースレター(NEAR News)製作・配布(隔月制)
 - ・ 英語を共通語にし、韓、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語で併記製作

- ・ 会員自治体など関連機関、団体に定期的に送付。団体に提供することで事務局の国内外知名度向上
- ・ 推進成果
 - － 会員自治体及び国内外関連機関に配布することで連合の知名度向上
- NEAR会員自治体拡大で連合の地位強化
 - 目的： NEARが北東アジアを代表する国際機構としての地位を確立するために会員自治体拡大
 - ・ 事業内容
 - － NEARの現会員自治体が65で、北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の40%程度(括弧の中は加入自治体数)
 - ※ 韓国16(11)、中国31(6)、日本47(10)、ロシア32(14)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(22)
 - － 非会員自治体を対象に NEAR 広報及び加入案内実施
 - － NEAR ホームページ案内及び News Letterなど広報物を継続的に送付
 - － 国内市・道を対象に市道別姉妹提携自治体に参加勧誘要請
 - － 国内派遣国際交流員(K2H など)を NEAR 会員加入広報要員化
 - ・ 推進成果
 - － 6ヵ国65自治体⇒6ヵ国69自治体に拡大
 - ・ 正式加入書提出ーマガダン(ロシア)
 - ・ 加入申し出自治体ー天津、山西省、甘肅省(中国)
 - ・ オブザーバー自治体ー山口(日本)、遼寧省(中国)

4. 2008年

- NEAR ホームページサーバー維持補修事業
 - ・ 目的： '05年5月に導入したウェブ、DB、メールサーバーなどの無償瑕疵補修期間の終了により、安定的なシステム運営のためのシステム維持補修契約締結
 - ・ 事業概要
 - － 事業期間：2008.5月
 - － 維持補修期間：'08年5月～'09年4月(1年間)
 - ・ 事業内容
 - － ハードウェア：ウェブサーバー、メールサーバー、DBサーバー各1式、Back up装置1式
 - － ソフトウェア：NEARホームページ、経済通商ネットワーク、Solaris10などの運営プログラム
 - ・ 推進成果
 - － NEAR交流協力のサイバー拠点としての発展期待
 - － 会員自治体間の情報のリアルタイム提供で会員自治体間交流協力増進

- 安定的なシステム管理で24時間ウェブサービス提供

○ 第3回NEAR実務者Workshop開催

- ・ 目的：実務者間の人的ネットワークを強化し、効率的な業務体系構築を通じた連合の結束と発展の契機を用意し、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換
- ・ 行事概要
 - 期間：5.27(火)～5.30(金)[3泊4日]
 - 場所：慶尚北道浦項市POSCO国際館
 - 主要内容
- ・ 2008年度事務局主要事業説明
- ・ 経済・観光分野の交流活性化方案、経済・観光・文化分野の交流のための優秀事例及び要望事項(国家別発表)
- ・ 参加会員自治体広報及び協力事項発表
- ・ 事務局訪問、産業視察及び文化体験など
 - 参加：5ヵ国42自治体84人
- ・ 中国6、日本5、韓国13、モンゴル13自治体
- ・ 推進成果
 - 事務局活動の広報及び北東アジア交流協力のメインチャンネルとしての役割を充実に遂行
 - 連合会員の業務担当者間交流拡大及び連合発展方案の議論を通じた連合結束と発展の契機を用意
 - 人的ネットワーク形成で業務効率性及び相互理解増進

○ 第7回山東省総会開催

- ・ 目的：北東アジア地域自治体連合(NEAR) 第7回連合総会は創設以来12年間、経済、環境、文化、防災、国境協力、科学・技術など多様な分野で交流と協力を展開し、そこで得た多くの成果を基に共同発展を模索しようと“革新的な協力で共に繁栄を”を主題に開催
- ・ 行事概要
 - 期間：9.1(月)～9.4(木)[3泊4日]
 - 場所：中国山東省済南市山東ホテル
 - 主要内容
 - ・ 連合主要活動経過報告(実務委員会/事務局/分科委員会)
 - ・ 会員自治体代表発表(4ヵ国12自治体)
 - ・ 総会議題発表及び票決(6議題)
- (1) 2010年総会誘致申し込み(大韓民国京畿道)
- (2) 事務局誘致申し込み(大韓民国慶尚北道)

(3) 海洋・漁業分科委員会新設及びコーディネーター担当選定(中国山東省)

(4) 観光分科委員会新設及びコーディネーター担当選定(中国河南省)

(5) 連合会費制導入提案(ロシアハバロフスク地方)

(6) 新規会員加入申し込み

－ 参加：5ヵ国31自治体80人余り

・ 推進成果

－ 連合主要活動経過報告(実務委員会/事務局/分科委員会)

－ 第7回北東アジア地域自治体連合総会山東宣言採択

－ 総会議決事項

(1) 2010年第8回総会を大韓民国京畿道で開催決定

(2) 2012年9月まで連合事務局を引き続いて大韓民国慶尚北道に置くことに決定

(3) 海洋・漁業分科委員会の新設を承認してコーディネート自治体は山東省に決定

(4) 観光分科委員会の新設を承認してコーディネート自治体は中国河南省に決定

(5) 連合会費制は連合事務局に委任して各国会員自治体から国家別に1人代表を推薦してもらい、会費制度特別委員会を構成して具体的な方案を検討した後、次期実務委員会に上程して討論した後総会で決定

(6) 大韓民国の仁川広域市、大田広域市、光州広域市、蔚山広域市とロシア連邦マガダン州の5つの自治体の新規加入を議決。

○ 第2回2008年NEAR国際経済フォーラム開催

・ 目的：北東アジア経済分野の学者、企業人、公務員などが参加する国際経済フォーラムを開催して、北東アジア地域の共同発展のための具体的で実質的な方案模索

・ 行事内容

－ 期間：2008. 11. 5～11. 7[3泊4日]

－ 場所：慶尚北道慶州市現代ホテル

－ 主題：北東アジア共同発展のための企業及び企業人の役割と協力

－ 発表者及び討論者：5ヵ国15人(韓、中、日、モンゴル、ロシア)

・ 発表内容

－ アジア太平洋地域の経済統合に向けた動き：現況、挑戦課題及び北東アジア地域に与える意味

－ 世界金融危機と北東アジア経済協力

－ 東アジア共同体の成立

－ 商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化

－ 沿海地方経済のための商工会議所の役割

- 物流の観点からみた、北東アジア地域での韓国の戦略的位置
- 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力
- グリーン成長と企業の社会的責任
- 豆満江開発計画(GTI) 北東アジア協力プログラム
- ・参加：5ヵ国22会員自治体など300人
- ・推進成果
 - 北東アジア共同発展のための企業及び企業人の協力と役割について具体的で実質的な方案を模索する契機となった
 - 事務局が名実共に北東アジア交流協力チャンネルのハブの役割を主導することができる多様な取り組みを本格的に推進
- 海外会員自治体職員のNEAR事務局への派遣勤務
 - ・目的：会員自治体の結束力を高め、事務局の円滑な業務推進のために各会員自治体所属職員の事務局への派遣を推進
 - ・派遣勤務実施
 - 人員：4人(中国、モンゴル、ロシア、日本各1人)
 - 期間：'05.5月から1年単位で実施
 - ※ 事務局側は、派遣勤務者が派遣生活に不便のないように生活費の一部を支援
 - ・推進成果
 - 職員構成の多国籍化で名実共に国際機関となる。
 - 慶尚北道主導の事務局運営から会員自治体共同運営体制へと切り替えるための基盤作り
- 国際研修室運営
 - ・目的：海外派遣職員に対する現地適応能力を養い慶尚北道に対する好感度向上
 - ・推進状況
 - 事務局外国職員対象韓国語講座運営－ボランティア活用
 - 慶尚北道海外派遣公務員語学及び国際エチケット講座
 - 地域内で参加希望の学生、主婦、企業人など一般の方にも公開
 - ・推進成果
 - 海外派遣職員に対する現地適応能力養成
 - 地域住民の参加を通じた連合事務局の対外的広報及び奉仕の機会として活用
- NEAR広報物製作、配付
 - ・目的：様々な形態の広報物を作成して会員自治体及び主要機関団体に提供することで事務局の国内外認知度向上
 - ・事業内容

- 広報パンフレット製作、配付
 - ・韓、英、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語で製作、配付
 - ・会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関、団体に送付
 - ニュースレター(NEAR News)製作、配付(隔月制)
 - ・英語を共通語として韓、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語併記で製作、配付
 - ・会員自治体など関連機関、団体に定期的に提供することで事務局の国内外認知度向上
 - ・推進成果
 - 会員自治体及び国内外関連機関に配布することで連合認知度向上
- NEAR 会員自治体拡大で連合の地位強化
- ・目的: NEARが北東アジアを代表する国際機構としての地位を確立するために会員自治体数の拡大
 - ・事業内容
 - NEARの今の会員自治体数は69で北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の43%程度(括弧の中は加入自治体数)
- ※ 韓国16(15)、中国31(6)、日本47(10)、ロシア32(14)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(22)
- 非会員自治体を対象にNEAR広報及び加入案内実施
 - ・NEAR ホームページ案内及びNews Letterなど広報物の継続的な送付
 - ・国内市・道を対象に、市道別姉妹提携自治体の参加誘導要請
 - ・国内派遣国際交流員(K2Hなど)をNEAR会員加入のための広報要員化
 - ・推進成果
 - 6ヵ国65自治体⇒6ヵ国69自治体に拡大
 - * 第7回総会(中国山東省)で新規加入議決自治体
 - 大韓民国4(仁川、大田、光州、蔚山広域市)、ロシア1(マガダン州)

第4節 実務小委員会

1. 実務小委員会概要

- 総会または実務委員会などで提案された重要案件を円滑に処理するために多くの会員自治体の意見を十分に聞き、実務委員会または総会に報告する必要がある時に開催

2. 主要活動

ア. 第1回会議

(1) 開催背景及び目的

- '97実務委員会の会議で提案された議題をより具体化し、'98年度総会で査定するため

(2) 会議概要

- 開催日時：'97. 11. 26(水)～11. 29(土)
- 開催場所：ヒルサイドホテル(大邱・八公山)
- 参加：課長級実務者7自治体14人(韓4、中3、日5、ロシア2)
 - ・ 韓国：慶尚北道、忠清北道
 - ・ 中国：河南省、黒龍江省
 - ・ ロシア：極東ザバイカル経済協議会
 - ・ 日本：富山県、兵庫県
- 会議進行形式
 - ・ 4カ国語による逐次通訳の円卓会議
- 会議スケジュール

区 分	11/26(水)	11/27(木)	11/28(金)	11/29(土)
09:00	・入国/登録	・開会 ・事務総長挨拶 ・参加代表紹介	・討議	・出国
09:30		・討議		
12:00		・午餐	・午餐	
13:30		・討議	・市内観光	
19:00	・晚餐	・晚餐 (事務総長主催)	・晚餐	

○ 討議内容

'97実務委員会時、議論することにした事務局運営や共同課題導出などに関する事項

(3) 会議内容総括

〈北朝鮮・モンゴルの連合加入問題〉

- ロシア極東ザバイカル経済協議会の推進状況報告
 - ・ 北朝鮮の加入誘導

- － ハバロフスクが接触中であり、30人余りの使節団の訪北に対して北朝鮮政府と合意(近いうちに訪北を行う計画)
- ・ モンゴルの加入勧誘
 - － ハバロフスクと何回かの意見交換で肯定的な答えを期待
- 実務小委員会は北朝鮮とモンゴルの連合加入に備えて憲章の会員条項の改正案に合意。連合憲章第4条“会員の範囲”で既存の大韓民国、中華人民共和国、日本国、ロシア連邦以外に北朝鮮とモンゴルを追加するように憲章を改正
 - ※ 日本の会員自治体の中で一部は北朝鮮の連合加入に否定的な立場を表明。

〈分科委員会設置〉

- '97実務委員会で提案された様々な事業の効率的な推進のために機能別に 5つの分科委員会を構成
 - ・ 分類：経済・通商、文化交流、環境、防災、一般交流
 - ・ 構成：実務委員会の補助機関として構成し、総会の承認を得てから設置
 - ・ 運営：委員会別にコーディネート自治体を選定して運営
- 設置根拠を作るために憲章改正案に合意

〈北東アジアビジネス促進会議開催提議〉

- 慶北で'98.9 北東アジア地域連合会員自治体間の経済・通商交流促進総合イベントとして開催される北東アジアビジネス促進会議の事業概要説明
- 中国、ロシア側で関心を表明

〈連合センター及び事務局運営〉

- 事務局の巡回による問題点には参加者たちが概ね共感したが、現段階で事務局の固定問題には否定的な雰囲気
- 慶北道では長期発展研究機能及び現巡回事務局の欠点補完のために参謀機関として連合センターの設置意志を表明
- 事務局固定及び連合センター設立に関する各国の意見

[日本側]

- － 連合設立時の事務局固定の必要性は認めるが、慶北に固定させることは時期尚早という立場
- － 連合センターの設置は事務局を事実上固定させることとして総会で討議しなければならない事項という立場

[ロシア側]

- － 事務局固定問題は財政分担問題が先だという立場を表明(従来の立場を変更)

- 連合センターの必要性には共感するが、財政分担、機構体系上の問題は残る。

[中国側]

- 意見なし。(連合センター設置に河南省は同調)
- 慶北道は設立の必要性、既存事務局との差別性などで継続的な議論の必要性を申し立てたが、全体的に今回の会議で連合センター設置を憲章に規定する改正案準備には否定的な立場→長期課題として残す('98総会再討議)

(4) 今後の関連事項

- 富山県で第2回実務小委員会開催を希望
- 慶北は事務局として第2回会議の議題、開催の場所及び日程を定める計画

※ 連合事務局では

- ① 分科委員会構成及び運営規定の準備
- ② 各自自治体別の大型プロジェクトをまとめて連絡
- ③ '98総会報告書作成

- 合 意 文 -

'97年8月に開催された北東アジア地域自治体連合実務委員会の合意文に基づいて、中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の代表自治体関係者たちが'97年11月26日から11月29日にかけて慶尚北道で実務小委員会を開催した。

参加者一同は'98連合総会に報告する事項について次のとおり共通の意見を出した。

1. 北朝鮮、モンゴル国の連合加入による憲章改正

現 行	改 正
連合の会員は北東アジア地域に位置する中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の自治体の中で“連合”の設立目的に賛同する広域地方自治体とし、総会の決定により範囲を拡大できる。	連合の会員は北東アジア地域に位置する中華人民共和国、北朝鮮、日本国、大韓民国、ロシア連邦、 <u>モンゴル国</u> の自治体の中で“連合”の設立目的に賛同する広域地方自治体とし、総会の決定により範囲を拡大できる。

2. 分科委員会の設置に関する事項

1) 分科委員会の区分

- ① 経済通商分科委員会 ② 文化交流分科委員会 ③ 環境分科委員会
④ 防災分科委員会 ⑤ 一般交流分科委員会

2) 分科委員会構成などに関する憲章改正

現 行	改 正
第2節 実務委員会 第10条 (構成及び運営) ① 実務委員会は、事務総長及び各会員自治体長が指名する局長級幹部によって構成され、事務総長が議長の承認を得て毎年 1回以上召集する。 ② 実務委員会の委員長は事務総長が努め、会議結果は総会に報告しなければならない。	第2節 実務委員会 第10条 (構成及び運営) ① 左同 ② 左同 ③ <u>個別プロジェクトなどの円滑な推進の支援のために、総会の承認を得て実務委員会の補助機関として分野別に分科委員会を設置することができる。</u>

現 行	改 正
第11条 (機能) 実務委員会は次の各号の機能を遂行する。 1. 事業計画及び個別プロジェクトの協議 2. 年例報告書及び会計報告書の検討 3. 会員自治体間の意見調整 4. 総会で委任した事項の決定	第11条 (機能) 実務委員会は次の各号の機能を遂行する。 1. 事業計画及び個別プロジェクトの協議 2. 年例報告書及び会計報告書の検討 3. 会員自治体間の意見調整 4. <u>分科委員会の設置 (構成、機能、運営方法など) に関する事項 (新設)</u> 5. 総会で委任した事項の決定 6. その他、必要と認められる事項

会議参加者は、上記の事項を会員自治体に伝え、事務局から'98年連合総会に報告することに同意すると同時に、結果の合意文を中国語、日本語、韓国語及びロシア語で作成した。

イ. 第2回会議

(1) 開催背景及び目的

- 第1回実務小委員会(大邱)で出された案件の未合意点の議論及び今年の定期総会議題の討議、次期総会開催地の選定などに関する協議

(2) 会議概要

- 開催日時：'98.7.7(火)～7.10(金)
- 開催場所：日本富山県富山市(厚生年金休暇センター)
- 参加：連合会員国別各代表自治体実務課長級19人
 - ・ 韓国5、中国4、日本6、ロシア4
 - － 韓国：慶尚北道、忠清北道
 - － 中国：河南省、黒龍江省
 - － 日本：富山県、兵庫県
 - － ロシア：極東ザバイカル経済協議会
- 会議進行：4ヵ国逐次通訳による円卓会議形式
- 会議スケジュール

区 分	7/7(火)	7/8(水)	7/9(木)	7/10(金)
09:30	・入国・登録	・開会 ・富山県副知事 歓迎の挨拶 ・事務次長挨拶 ・参加者紹介	・討議	・出国
10:00		・討議		
12:00		・午餐	・午餐	
13:30		・討議	・視察	
19:00	・夕食	・懇談会	・夕食	

○ 討議内容

- ・ 分科委員会設置規定及び新規会員の加入規定協議
- ・ '98連合総会開催関連日程案内及び議題協議
- ・ 2000年連合総会開催地選定に関する事項など協議

(3) 会議内容総括

＜ 連合センター設立 ＞

- 慶尚北道から、連合の持続的発展のために連合事務局の機能以外の総合サポート機能を担当する連合センターの設立が提案されたことについて、連合センターの主旨及びその必要性には同感するが、これは実務小委員会より総会で議論される事項という意見に従って
- 慶尚北道は連合センターに関する基本計画を各会員自治体に提示し、会員自治体はその意見を整理し、憲章改正案に関する意見と共に慶尚北道に知らせることに合意
- 連合センター設立に関する各代表自治体の意見

[日本側]

- 慶尚北道が独自的に設立・運営するには賛同するが“連合センター”を連合憲章に明記するのには反対の立場
- “連合センター”は日本語で唯一無二の核心機関という意味を持つため“連合支援機関”に変更することを提案

[中国側]

- 特別な意見なし。

[ロシア側]

- 慶尚北道提案に基本的に賛成して
- 各国を代表するセンターとして育成することも考える。

＜北朝鮮及びモンゴルの連合参加＞

- モンゴルの中央県が'98総会への参加を希望したのに反して北朝鮮の参加意志は不透明だった。
- 連合憲章第4条(会員の範囲)で北朝鮮を削除することを日本側が提案
- 慶北は連合の門戸を開放するという主旨で会員の範囲に北朝鮮を明記することを提示して合意

＜連合分科委員会設置＞

- 第1回実務小委員会の合意文による5つの分科委員会の設置を再確認して関連規定案を総会に提出することに合意

※ 分科委員会区分：経済・通商、文化交流、環境、防災、一般交流

- ただし、分科委員会の自律性と推進力を養うために慶尚北道が提案した機能(3条)、参加(6条)、費用負担(7条)条項の変更については、富山県と協議して素案を総会に提出することに合意
- 連合の分科委員会への参加を希望する自治体を事務局である慶尚北道で申込みの受付及び選定を推進

〈連合'98総会開催関連〉

- “連合富山総会” への名称変更を提議
 - 富山県が'98年10月に開催される連合総会の公式名称として「'98北東アジア地域自治体会議」を使うということについて
 - 慶尚北道側は連合が結成されて連合憲章上の総会開催という点から「'98北東アジア地域自治体連合富山総会」に変更することを提案
 - “連合総会” という名称を使う時には中国側の参加が難しい点から、中国及び日本側が反対の立場を表明
- 2000年総会開催地決定
 - 連合事務局である慶尚北道が8月10日まで開催希望自治体の申込みを受けて調整することに合意
- 議長自治体引継手続き協議
 - 引継の当事者である慶尚北道と富山県が今後十分に協議し決めることに合意
 - ロシアは、連合が創立されてから初の議長交代という点で格式ある儀式(行事)の必要性を指摘。
- 自治体新規加入
 - 自治体の連合参加手続きに対し、中国の場合、中央政府の統制を受けなければならないという現実的な側面を考慮し、当分の間は連合憲章の基本精神に賛成を示し、北東アジア地域自治体会議に参加することを入会したものと認定
- 事務局活動事項報告
 - 慶尚北道が事務局の活動事項及び共同プロジェクトの推進状況を総会で報告することに合意

－ 合 意 文 －

1998年7月7日から7月10日まで日本国富山県で中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の代表自治体関係者などが集まり、北東アジア地域自治体連合(以下「連合」と言う。)第2回実務小委員会を開催した。

この小委員会で'98北東アジア地域自治体会議(以下「自治体会議」と言う。)における議事運営などに関する協議を行い以下の事項について合意を得た。

1. 自治体会議においては必要によって連合事務局と協議しながら開催自治体である富山県が開催準備を行う。
2. 会員の範囲及び分科委員会の設置については、第1次実務小委員会の合意文どおり憲章改正

を行うことを確認する。

3. 5つの分科委員会を設置することについては、第1次実務小委員会の合意文どおり総会の承認を得ることを確認する。
4. 分科委員会の設置及び運営に関する規定案については、第1次実務小委員会で合意した内容について慶尚北道から機能、参加及び費用負担の項目に対する新しい提案があった。このため、実務小委員会の構成員が各国自治体の意見を集約し、その結果を踏まえ慶尚北道と富山県が協議し、自治体会議に提出する草案を作成する。
5. 2000年の北東アジア地域自治体会議開催自治体については、連合事務局が調整を行う。
6. 自治体の連合参加手続きについては、当分の間、連合憲章の基本精神に賛成を示し、北東アジア地域自治体会議に参加することを入会したこととする。
7. 慶尚北道側から北東アジア地域自治体連合センターの設立に関する新しい提案があった。実務小委員会の構成員は、慶尚北道が意図するこのセンターの基本計画を提示してもらい、各国自治体の意見をまとめ、憲章改正案に関する意見も合わせて慶尚北道に報告する事にする。また慶尚北道は実務小委員会の構成員にその報告の写しを送付する。
8. 極東ザバイカル協議会から各国ごとに連絡調整を担当する機関の設置について提案があり、有益な意見交換を行った。

上記の内容を今回の実務小委員会の合意事項とし、中国語、日本語、韓国語、ロシア語で作成する。この内容を連合事務局は実務委員会構成員に報告する。

ウ. 第3回会議

(1) 開催背景及び目的

- 第5回総会(2004年中国黒龍江省)での自治体連合の会費に関する件及び第5回実務委員会連合徽章制定、連合事務局への職員派遣に関する決意事項の進行状況を報告するため。

(2) 会議概要

- 開催日時：2006. 5. 17(水)～5. 19(金)
- 開催場所：慶尚北道慶州市現代ホテル
- 参加：5ヵ国20自治体40人
 - ・ 中国(4)：黒龍江省、山東省、河南省、寧夏回族自治区
 - ・ 日本(2)：富山県、鳥取県
 - ・ 韓国(9)：釜山広域市、京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道

- ・モンゴル(1)：中央県
- ・ロシア(4)：ハバロフスク地方、サハ(ヤクーチア)共和国、イルクーツク州、ブリヤート共和国

○ 日程

区分	5/17(水)	5/18(木)	5/19(金)
09:00	・入国/登録	・開会式 ・参加者紹介 ・実務小委員会	・慶州観光
10:00		・実務者ワークショップ	
12:00		・午餐	・午餐
13:30		・posco視察 ・事務局訪問	・出国
19:00	・歓迎晚餐	・晚餐	

(3) 会議内容

〈報告事項：事務局〉

(ア) 総会決意事項の進行状況報告

- 自治体連合会費に関する件：第5回総会で連合会費制導入について満場一致で同意。具体的な納付方法は第5回実務委員会で議論し、総会で討論して決定することに合意。

(イ) 実務委員会決意事項進行状況の報告

- 連合徽章制定
 - ・ 第5回総会で連合徽章制定議題が通過し、来る第6回釜山総会で決めることに決定
 - ・ 2005年11月30日に開かれた第5回実務委員会で徽章制定委員会の構成に合意し、2006年4月徽章制定委員会発足、2006年5月18日第1回徽章制定委員会を開催。
 - ・ 徽章制定委員会の委員

国名	自治体名	委員名	職位
中国	黒龍江省	楊鴻鵬	外事弁公室副処長
日本	富山県	城木一郎	国際・日本海政策課長
韓国	釜山広域市	安ジョンイル	国際協力課長
モンゴル	中央県	ナムナンシレン	社会政策課長
ロシア	ハバロフスク地方	ベセディーナ	対外経済開発及び観光局長

○ 連合事務局への職員派遣

- 第5回実務委員会の合意によって、2005年12月から2006年2月まで職員派遣の受付
- 2006年5月から中国、ロシア、モンゴルから各 1人ずつ派遣され事務局に勤務する計画
- 事務局では会員自治体派遣職員が韓国生活に不便がないように支援する。
- 派遣公務員

国 名	自治体名	氏 名	職位
中国	寧夏回族自治区	・馬玉岐	外事弁公室処長
モンゴル	中央県	・ダシゼベク チェレンドンドフ	国営会計財団専門委員
ロシア	ブリヤート共和国	・アレクサンドル マングトフ	経済開発対外関係部傘下国際 関係及び対外協力局顧問

(4) 会議結果

○ 連合徽章制定

- ・ 提案理由：北東アジア地域自治体連合徽章制定による推進経過を報告し「徽章制定委員会」が最終確定した徽章(案)に対し総会の承認を申請する。
- ・ 推進経過
 - 2004年9月：第5回総会で日本富山県と中国黒龍江省が提案した連合徽章制定議題を通過させ、第6回釜山総会で確定することに決定
 - 2005年11月：第5回釜山実務委員会で徽章制定に関する具体的な推進方法について議論した結果「徽章制定委員会」を構成して推進することに決定
 - 2006年5月：第1回徽章制定委員会会議を開催、以前から使用していた事務局徽章を基に委員からの意見を踏まえ、事務局で徽章(案)を作成することにする。
 - 2006年8月：第2回徽章制定委員会の会議(釜山・西面)で、事務局が準備した徽章(案)に対し、委員の検討意見を聞き「徽章制定委員会」の最終案として確定し、総会に上程することに決定
 - 決定事項：「徽章制定委員会」で用意した徽章(案)を総会に上程する事にする。

第5節 実務者ワークショップ

1. 第1回会議

ア. 行事概要

- (1) 日時：2006年5月17日(水)～5月19日(金)

- (2) 場所：慶州現代ホテル
- (3) 主催：釜山広域市、北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 会議の趣旨：第5回総会と第5回実務委員会の決議事項に関する推進状況の点検及び第6回総会の議題発掘、そして会員自治体間の通商、文化、観光などの交流拡大と共同発展方を模索し、相互発展の基盤作りと連合の結束力強化が目的
- (5) 主要議題：総会、分科委員会関連事項、経済活性化、連合運営、黄砂被害の共同対処のための自治体の役割
- (6) 会議言語：韓国語、中国語、日本語、ロシア語
- (7) 参加自治体：5ヵ国20自治体40人

国 名	自 治 体 名
中国 (4)	黒龍江省、山東省、河南省、寧夏回族自治区
日本 (2)	富山県、鳥取県
韓国 (9)	釜山広域市、京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道
モンゴル (1)	中央県
ロシア (4)	ハバロフスク地方、サハ(ヤクーチア)共和国、イルクーツク州、ブリヤート共和国

イ. 行事日程

- 5/17(水)
 - ・ ～18:30：登録
 - ・ 19:00～21:00：歓迎晚餐
- 5/18(木)
 - ・ 09:00～12:00：実務小委員会
 - ・ 12:00～13:00：実務者ワークショップ
 - ・ 15:00～18:40：POSCO産業視察、事務局訪問など
 - ・ 19:00～21:00：晚餐
- 5/19(金)
 - ・ 09:00～12:00：慶州市文化視察
 - ・ 13:00～ : 送迎

ウ. 議題内容

- (1) 総会・分科委員会

(ア) 2008年総会開催申請及び事務局との協力(山東省)

- 山東省は、今年9月釜山で開かれる北東アジア地域自治体連合第6回総会で2008年北東アジア地域自治体連合第7回総会の開催を公式に申請。
- 山東省の2008年総会開催が確定した場合、山東省総会のために創設する準備委員会と北東アジア地域自治体連合事務局が緊密に協調して行くことを提案

(イ) 2010年連合総会開催申請(京畿道)

- 京畿道は、朝鮮半島の中央に位置する人口1千万の韓国最大の地方自治体として、北東アジア先端産業の集積地及び北東アジアのハブになろうと努力している。
- 京畿道の北東アジア地域自治体連合総会誘致は、21世紀北東アジア地域の共同発展と交流協力ネットワークを強化し、連合を一つに連携すると同時に、世界の中に跳躍する京畿道を経験できる良い機会になると予想

(ウ) 分科委員会次期コーディネート自治体選出提案

- 国境地区協力分科委員会：ハバロフスク地方
- 一般交流分科委員会：富山県

(エ) 分科委員会新設提案

(2) 経済活性化

(ア) 北東アジア地域自治体連合総会開催時、貿易博覧会開催(忠清北道)

- 連合の総会期間中に総会開催地域で連合自治体間の実質的な経済・貿易交流促進のために「北東アジア地域貿易博覧会」を開催すれば、連合会員国家間の交流を活性化し、相互に企業情報を得ることができる良い機会になる。
- また連合会員自治体間貿易交流がもっと活発になって、相互経済貿易ネットワーク構築が可能になると予想。

(3) 連合運営

(ア) 連合会員の範囲規定(黒龍江省)

- 第5回総会まで北東アジア地域自治体連合の会員は39自治体であった。過去の慣例によって自治体が総会に参加すれば自動的に連合会員として認められた。しかし、一部の自治体は会議に一度参加した後、その後開かれた関連会議には参加せず会員の資格を喪失している。北東アジア地域自治体連合の組織形式を規範化することを希望

(イ) 実質的成果を出すことができる議題の導出希望(黒龍江省)

- 北東アジア地域自治体連合が創立されてから10年になったが、まだ具体的で実質的な成果を出すことができない。第6回総会では北東アジア地域間の経済、貿易、文化などの分野における相互交流と協力関連行事のような実質的な議題を提案することを希望。

(ウ) 多様な分野の行事開催提案(河南省)

- 北東アジア地域自治体連合は、経済、貿易、環境、観光分野の交流と協力を強化すべきである。毎年、貿易、文化、ハイテク製品、物流など一定の主題を決めて展覧会や投資誘致行事などを開催し、連合は行事の開催主題、場所、巡回方法を定め、会員自治体を回りながら開催する方法を模索するべきである。

(エ) 北東アジア地域自治体連合の共同研究課題選定(忠清北道)

- 北東アジア地域自治体連合は、会員自治体が 6ヵ国 40自治体に広がったが、総会や実務委員会会議の時に、該当自治体に関連する主題を主として発表するために、他の自治体に参加を呼びかけても反応が少ないのが実情だ。
- したがって会議の時、該当自治体の意見発表も重要だが、会員全体の共通の関心事に対して共同議題を決めて研究及び討論することで会議運営が活性化することを希望。

(4) 黄砂被害共同対処のための自治体の役割(京畿道)

- 北東アジア地域の乾燥地帯の砂塵や砂嵐の発生頻度が頻繁になり、規模も益々拡大する趨勢で、関心や憂慮が表明されている。現在北東アジアの砂漠化及び黄砂の発生を抑制するために韓国、日本、中国などの国家レベルでの共同対応の必要性に合意をした状況である。
- このような国家間の合意事項を黄砂発源地域レベルで効率的に履行するために、地方政府の役割がいっそう強調されなければならない。このため北東アジアの黄砂発生及び被害地域範囲に属した地方自治体間の相互協力と支援を通じて、黄砂問題に対する対処方案と中・長期的な共同協力方案を準備しなければならない。

〈北東アジアの黄砂被害の低減と緩和のための地方政府の可能な役割〉

- (ア) 市民の認識転換を誘導(黄砂の影響都市、市民の認識向上を誘導し、草の根レベルで実行可能な市民行動の提案を発掘)
- (イ) 地方自治体間レベルの協力体制構築
- (ウ) 資金調達の融通性及び長期計画に焦点を置いた実行計画を樹立
- (エ) 砂漠化の進行地域に対する技術及び関連教育訓練機会の提供(政策開発と法的制度含む)
- (オ) 学者/技術者/公務員相互間の情報共有と交換など
- (5) その他検討事項

(ア) 北東アジア地域自治体連合(NEAR)諮問委員会新設、運営提案

- 現在北東アジア地域自治体連合の組織は、総会、実務委員会、分科委員会で構成されているが、連合の効率的な運営と活性化のために諮問委員会を新設し運営することを提案
- 諮問委員会の委員構成及び委嘱対象：退任した歴代 NEAR 議長及び国際関係の専門家
- * 前・現職議長に対する持続的な関心と礼遇

(イ) 韓国企業人のハバロフスク地方訪問及びハバロフスクの企業人との懇談会開催

エ. 会議結果

(ア) 2008年総会の開催申し込み(山東省)

(イ) 連合「諮問委員会」新設及び運営(江原道)

(ウ) 科学技術分科委員会新設(京畿道)

(エ) 国境協力分科委員会のコーディネート自治体変更(ハバロフスク地方)案件は第6回釜山総会に上程することに決定

＜ 参照：第6回北東アジア地域自治体連合総会概要 ＞

○ 開催期間：2006年9月12日(火)～9月15日(金)[3泊4日]

○ 開催場所：BEXCO、APEC ホールなど

○ 参加対象：6ヵ国40会員自治体長など100人余り

○ 使用言語：韓国語、中国語、日本語、英語、ロシア語

○ 主要予想議題

① 分科委員会新設

② 加入希望会員自治体加入決議

③ 連合徽章制定

④ 次期総会(2008年)開催地決定

⑤ その他会員自治体提出案件

○ 主要日程

・ 9.12：到着、登録

・ 9.13：総会(前日)、歓迎晚餐

・ 9.14：総会(午前)、視察、歓送晚餐

・ 9.15：出発

○ 参加条件：会議期間中、自治体別に2人まで宿泊費と現地交通を提供

○ 参加費(分担金)：参加自治体当り327,000ウォン(\$333相当)

2. 第2回会議

ア. 開催概要

(1) 期間：2007. 5. 15(火)～5. 18(金)[3泊4日]

(2) 場所：慶尚北道一円(慶州、安東、榮州、聞慶、高靈など)

- (3) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 主旨：実務者間の人的ネットワークを強化し、効率的な業務体系を構築し、連合の結束と発展の契機をつくる
- (5) 主要内容
 - 2007年事務局主要事業説明
 - 連合の交流拡大及び発展方案議論(国家別発表)
 - 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - 会員自治体文化体験
- (6) 会議言語：中国語、日本語、韓国語、モンゴル語、ロシア語
- (7) 参加
 - 参加会員自治体：5ヵ国32自治体61人
 - ・ 中国6自治体、日本2自治体、韓国8自治体、モンゴル12自治体、ロシア4自治体
 - NEAR事務局：16人

イ. 行事日程

- 5月15日(火)
 - ・ ~ 18:30：登録、宿泊所割当
 - ・ 19:00 ~ 21:00：歓迎晚餐
- 5月16日(水)
 - ・ 08:30 ~ 08:45：出席者紹介
 - ・ 08:45 ~ 08:55：事務局長挨拶
 - ・ 08:55 ~ 09:15：2007年事務局主要事業説明
 - ・ 09:30 ~ 11:00：連合交流拡大及び発展方案議論
 - ・ 11:00 ~ 12:30：参加自治体広報及び協力事項発表
 - ・ 14:00 ~ 18:00：移動(事務局→安東)
 - ・ 18:00 ~ 19:00：陶山書院探訪
 - ・ 19:30 ~ 21:00：夕食、親交の時間
- 5月17日(木)
 - ・ 09:00 ~ 10:00：移動(安東国学文化会館→榮州紹修書院)
 - ・ 10:00 ~ 10:40：紹修書院探訪
 - ・ 11:00 ~ 12:00：浮石寺探訪
 - ・ 13:30 ~ 16:30：浮石寺→聞慶鳥嶺

・ 16:30 ～ 18:00 : 聞慶鳥嶺探訪

・ 20:00 ～ 22:00 : 歓送晚餐

○ 5月18日(金)

・ 10:00 ～ 11:00 : 大伽倻(高霊・大加羅)博物館探訪

・ 14:30 ～ : 送迎

ウ. 参加自治体

国 名	自 治 体 名
中国(6)	黒龍江省、河南省、湖北省、湖南省、寧夏回族自治区、山東省
日本(2)	新潟県、島根県
韓国(8)	釜山広域市、大邱広域市、京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅南道、慶尚北道、済州特別自治道
モンゴル(12)	ドンドゴビ県、ウブルハンガイ県、中央県、ウムヌゴビ県、スフバートル県、セレンゲ県、ドルノゴビ県、ゴビスンベル県、ゴビ・アルタイ県、オルホン県、ボルガン県、バヤンホンゴル県
ロシア(4)	サハ(ヤクーツク)共和国、ハバロフスク地方、サハリン州、トムスク州

エ. 会議内容

(1) 2007年事務局主要事業報告

(ア) 2006年事業推進成果

- 会員自治体誘致拡大 : 全6ヵ国65会員自治体に拡大、国際機関としての地位確保
- 実務小委員会及び実務者ワークショップ開催 : 5. 17～19日、慶州で5ヵ国20自治体、50人が参加、会員自治体が結束力を強化して協力ネットワークを構築
- 会員自治体職員事務局派遣勤務実施 : 5月から中国、ロシア、モンゴル各 1人ずつ勤務、国際機関本部にふさわしい組織構成及び対外業務効率性向上
- NEAR会員自治体間の議会交流支援 : 2006年12月中慶尚北道議会交流団の中国寧夏回族自治区、モンゴル中央県の議会訪問支援、議会レベルの交流協力方案及び議会交流協議会発足協議など
- 広報物などの発刊、NEARの広報強化 : 「NEAR NEWS LETTER」5ヵ国語で発刊、会員自治体などに配付、連合広告用リーフレット 5ヵ国語で発刊など

(イ) 2007年主要事業計画

- 北東アジア通商交流事業支援 : 会員自治体間、経済主体間の相互訪問友好協力締結などの支援、官民合同通商使節団構成、有望会員自治体訪問

- 北東アジア経済フォーラム開催：北東アジア経済通商専門家を討論者として招待しセミナーを開催、経済通商交流活性化のための企業人の役割を議論、対外民間経済協力の人的ネットワーク基盤構築及び情報提供

＊10. 16～19日慶尚北道北東アジアビジネス促進会議と連携

- NEAR実務者ワークショップ開催：連合業務の実務者相互間ネットワークを強化して効率的な業務体制構築、会員自治体別実務者1～2人、5. 15～18日、慶尚北道一円
- 北東アジア民俗フェスティバル開催：NEAR会員自治体の多様な伝統民俗芸術公演推進、慶州世界文化エキスポ期間(9. 7～10. 26) 中
- 事務局交流協力基盤強化：現65会員自治体を80会員自治体に拡大推進中、中国、ロシア、モンゴルに引き続き日本も職員派遣、モンゴルの自治体の会員拡大によるモンゴル専門委員採用、ニュースレター6ヵ国語で発刊

(ウ) 連合交流拡大及び発展方案

- 文化、体育交流及び連合総会開催に関する議題(中国黒龍江省)
 - 1) 文化、体育分野交流の強化：総会開催時、書道・美術展、小規模芸術公演、茶道、太極拳、テコンドーのような文化行事開催を提案
 - 2) 連合総会は、各国地方自治体を回りながら開催する方案：第9回総会がモンゴルやその外の地域で開催されると、相互理解を増進し、連合と北東アジア地域の繁栄と発展を促進すると期待
- 「北東アジア交流の翼inしまね」運営に関して(日本島根県)
 - 1) 北東アジア地域の青年たちを島根に招待し、島根県の青年たちと一緒に文化交流プログラムを行うことで、各地域の相互理解促進及び次代を担う若者達の北東アジア地域の新しいネットワーク形成を目的とする。
 - 2) 2008年は文化交流分科委員会が結成されてから 10年目になる年として、交流の翼事業を見直し、今後10年間交流の翼事業を実施する自治体を島根県だけではなく、NEARに参加する自治体に徐々に拡大する計画である。
- NRAR発展方案(韓国大邱広域市)
 - 1) 事務局レベルでの努力方案：対外活動強化及び他の国際機関とのネットワーク構築[世界地方自治体アジア太平洋支部(ジャカルタ)、Citynet(福岡)、Asia Network of Major Cities(東京)、北東アジア知事・省長会議(江原道) など]
 - 2) 会員自治体の努力部門：会員自治体の国際行事を事務局のウェブサイトや隔月の機関誌を通じて広報するだけでなく、事務局主要関係者を招待し、活動範囲を広げる必要がある。
 - 3) 定期会議構成に関する意見：総会時、地方自治体に有益で必要な主題として会員自治体の成功事例の発表を通じた優秀な行政を共有することができるトレーニングフォーラムや、これらの分野で有名な人物の基調演説または、講演、そして専門機関とともに実務者

力量強化プログラムなどを並行させ、会員自治体の総会に対する関心度と参加率を向上。

- 会員自治体間の共同発展のための環境造成(モンゴル・ウムヌゴビ県)
 - 1) 会員国家と人材教育及び研修、業務提携などの協力が必要であり、砂漠化と黄沙を防ぐために防止林造成事業の協力が切実である。
 - 2) 中小企業発展と地域民たちの保健・教育分野にも会員自治体が協力して相互利益がある交流を希望。
 - モンゴルに連合事務局支部開設(モンゴル中央県)
 - 1) 北東アジア地域自治体連合の行事がモンゴルでも開催できるように、連合支部をモンゴルに開設する方案
 - 経済協力を通じた北東アジア自治体間交流活性化(ロシアハバロフスク地方)
 - 1) 北東アジアの国々の経済交流活性化のためには、地域単位での共同プロジェクトを開発してこれらのプロジェクトを成功させるために努力
 - 2) 我々の連合の活動が各々自分を紹介する水準から脱し、連合会員自治体の相互間の協力を通じて実質的な業務を推進する時期になったと考え、会員としてより責任のある連合活動のために連合会員資格を再検討し連合加入費、連合会費制導入などを検討する必要がある。
 - 一般交流分科委員会次期コーディネーター募集案内(事務局)
- (ウ) 参加会員自治体広報及び協力事項
- 2007北東アジア地域自治体連合実務委員会開催案内(中国山東省)
 - 1) 9月3日～6日まで済南市で開催
 - 2) 北東アジア自治体国際協力対話行事開催
 - ・ 地方自治体の国際化推進施策と成功事例
 - ・ 外国人投資誘致のための新しいモデル、新しい方式、新しい施策
 - ・ 地方自治体が文化ブランドを創造し、自らの知名度を高める方法
 - ・ 企業と製品の海外進出施策
 - 2007年慶北訪問の年(韓国慶尚北道)
 - 1) 訪問の年のスローガン：“オソオイソ(ようこそ)、慶北2007!”。
 - 2) 約160余りの新しい代表観光商品開発(週末テーマ旅行商品、推薦観光コース各52選、列車旅行商品など)
 - 3) 3,100人分の職創出効果、4,200億ウォン相当の地域経済波及効果
 - 2012麗水世界博覧会誘致支持協力(韓国全羅南道)
 - 1) 全羅南道の位置と麗水エキスポの意義：オリンピック、ワールドカップとともに世界3大イベントの一つで、人類が成し遂げた様々な成果を展示、未来に対するビジョンを提示
 - 2) 国際的観点からの麗水博覧会の意義：海洋を主題に計画しており、人類に海と沿岸の価値を

- 知らせ、発展的な未来ビジョンを共有することで人類の共栄と生活の質の向上にも大きく寄与
- 3) 我が全羅南道で2012麗水世界博覧会の開催が成功するように連合会員自治体皆さんの特別な関心と積極的なサポートをお願いする。

－ ドルノゴビ県の観光現況に関する紹介(モンゴルドルノゴビ県)

- 1) 珍しい砂漠動物、海洋化石、恐竜化石、砂丘、冷たい湧き水、絶壁、考古学遺物
- 2) モンゴルの宗教指導者であり哲学者、作家、社会評論家、芸術家、作曲家、画家、医師、反体制僧侶でもあるダンザンラブジャの多くの遺産

－ 第4回アジアの子供国際競技大会紹介

- 1) 青少年たちにオリンピック精神を鼓吹し、青少年体育システム確保と向上、アジア青少年間の友好関係確立、国際青少年体育分野協力などが目的
- 2) ヤクーツクは国際競技大会が円満に進行できるようにスポーツ競技進行に必要なすべてのインフラを構築
- 3) 2008年7月サハ共和国ヤクーツクで開催される予定。

－ ロシア・トムスク州の革新フォーラム紹介(ロシアトムスク州)

- 1) トムスク革新フォーラム
 - ・ 毎年開催される行事として他の自治体との革新的な活動組織に関する経験について交流し、その過程で国際関係をより発展させることが目的
 - ・ 今年は、革新フォーラム開催10周年になる年、毎年他の地域から150人以上がフォーラムに参加し、外国人投資者の関心が高くなっている。
- 2) 北東アジア地域自治体連合会員自治体所在大学総長会議
 - ・ 北東アジア地域間の発展を阻害する主要問題の一つが北東アジア地域専門家の不在(北東アジア地域経済、文化、通商法及び言語専門家の不在)
 - ・ 北東アジア地域自治体所在大学総長の集まりを通じて、北東アジア地域所在大学の相互間の交流を通じた両大学の成績認定制、交換学生制、交換教授制など多様な事業を広げることでヨーロッパの“教育統合システム”のようなシステム導入

－ サハリン州発展戦略紹介(ロシア・サハリン州)

- 1) 輸送施設：ロシア大陸 ～ サハリン州を連結するトンネル型橋建設、サハリン港の現代化など
- 2) 建設部門：安楽な居住地建設という名称の住宅建設プロジェクトが進行中、2006年～2010年の間、新都市建設計画
- 3) 観光：休養施設地“山の中の空気”建設中、“アニバ～海辺”の観光団地建設プロジェクト
- 4) 石油ガス油田事業：石油ガス採掘作業と加工作業連携推進
- 5) 石炭採掘分野：全部で70の石炭埋蔵地所有、推定埋蔵量140億トン、輸送インフラ建設が主要課題

- 北東アジア地域自治体連合第1回科学技術分科委員会開催案内(韓国京畿道)
 - 1) 北東アジア自治体の科学技術振興協力方案という主題で、2007年7月23日から4日間京畿道・水原で開催
 - 2) 会員自治体間の科学技術振興のための協力基盤構築など

3. 第3回会議

ア. 行事概要

- (1) 期間：2008. 5. 27(火)～5. 30(金) (3泊4日)
- (2) 場所：慶尚北道浦項市POSCO国際館
- (3) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 趣旨：実務者間の人的ネットワークを強固にすることで効率的な業務体制の構築を通じた連合の結束と発展の契機をつくり、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換
- (5) 主要内容
 - 2008年事務局主要事業説明
 - 経済・観光分野の交流活性化方案、経済・観光・文化分野の交流のための優秀事例及び要望事項(国家別発表)
 - 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - 会員自治体産業視察及び文化体験
- (6) 会議言語：中国語、日本語、韓国語、モンゴル語、ロシア語
- (7) 参加
 - 参加会員自治体：5ヵ国42自治体84人
 - 中国6自治体、日本5自治体、韓国13自治体、モンゴル13自治体、ロシア5自治体
 - NEAR事務局：17人

イ. 日程

	日時	分	内 容	場 所	備 考
5. 27 (火)	～ 18:30		・登録、宿所割当	Posco国際館 1階ロビー	
	19:00～21:00	120	歓迎晚餐 ・歓迎の辞(事務総長) ・祝辞(浦項副市長)	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	
	21:00～		宿泊	Posco国際館、ホテルバレンタイン	
5. 28 (水)	07:00～08:20	80	朝食	Posco国際館ディメドレー(2階)	
	09:00～09:20	20	開会及び出席者紹介	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	司会(企画総務課長)
	09:20～09:45	25	2008事務局主要事業説明		国際協力課長
	09:45～10:00	15	休息		
	10:00～11:10	70	経済・観光分野交流活性化 方案及び行政優秀事例発表	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	進行(事務局長)
	11:10～12:40	90	会員自治体広報及び協助事項発表	〃	進行(事務局長)
	12:40～13:40	60	昼食	Posco国際館ディメドレー(2階)	
	13:40～13:50	10	移動(Posco国際館→事務局)		
	13:50～14:20	30	事務局訪問		企画総務課長
	14:20～14:40	20	移動(事務局 → Posco)		専用バス
	14:40～15:40	60	Posco 見学		
	15:40～16:20	40	移動(Posco→虎尾岬日の出公園)		専用バス
	16:20～17:50	90	虎尾岬日の出公園観覧		
	17:50～19:10	80	移動(虎尾串→慶州現代ホテル)		専用バス
	19:10～20:00	30	チェックイン	慶州現代ホテル 1階ロビー	
5. 29 (木)	20:00～21:30	90	晚餐及び親交時間	慶州現代ホテルダイヤモンドホール(地下 1階)	
	08:00～09:00	60	朝食	慶州現代ホテルサラホール(1階)	
	09:00～09:10	10	移動(現代ホテル→慶州博物館)		専用バス
	09:10～10:40	90	国立慶州博物館観覧		
	10:40～11:00	20	移動(慶州博物館→天馬塚)		専用バス
	11:00～11:50	50	天馬塚観覧		
	11:50～12:00	10	移動(天馬塚→ウォンブン食堂)		専用バス
	12:00～13:00	60	午餐	ウォンブン食堂	韓食

	日 時	分	内 容	場 所	備 考
5. 29 (木)	13:00 ~ 13:20	20	移動(ウォンブン食堂→慶州EXP0)		専用バス
	13:20 ~ 14:50	90	慶州EXP0観覧		
	14:50 ~ 15:10	20	移動(慶州EXP0→仏国寺)		専用バス
	15:10 ~ 15:40	30	仏国寺観覧		
	15:40 ~ 16:50	70	移動(仏国寺→大邱 E-Mart)		専用バス
	16:50 ~ 18:30	100	Shopping	大邱 E-Mart	
	18:30 ~ 18:50	20	移動(E-Mart→グランドホテル)		専用バス
	18:50 ~ 19:30	40	チェックイン	グランドホテル	
	19:30 ~ 21:30	120	歓送晩餐	グランドホテルプラザホール(5階)	
5. 30 (金)	08:00 ~ 09:00	60	朝食及びチェックアウト	グランドホテルコーヒーショップ(1階)	
	09:00 ~ 09:40	40	移動(ホテル→八公山桐華寺)		専用バス
	09:40 ~ 11:40	120	八公山桐華寺観覧		
	11:40 ~ 12:00	20	移動(桐華寺→ポクポ食堂)		専用バス
	12:00 ~ 13:30	90	午餐	ポクポ食堂	韓食
	13:30 ~ 14:00	30	移動(ポクポ食堂→東大邱駅)		専用バス
	14:00 ~		歓送		

ウ. 参加者名簿 : 5カ国42自治体84人

国 名	自 治 体 名
中国 (6)	黒龍江省、湖北省、河南省、寧夏回族自治区、山東省、天津市
日本 (5)	富山、山形、新潟、鳥取、島根県
韓国 (13)	釜山広域市、大邱広域市、京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道、済州特別自治道、蔚山広域市、大田広域市、仁川広域市
モンゴル (13)	アルハンガイ、バヤンホンゴル、ボルガン、ゴビアルタイ、ゴビスンベル、ダルハンオール、オルホン、ウムヌゴビ、ウブルハンガイ、セレンゲ、ホブド、オブス、ウランバートル
ロシア (5)	ブリヤート共和国、ハバロフスク地方、イルクーツク州、サハリン州、トムスク州

エ. 2008年度事務局主要事業

(1) 2007年事業推進成果

(ア) 会員自治体誘致拡大

- 広報団派遣など積極的な誘致活動で3ヵ国6自治体加入意思表示
 - ※ 中国(1)、韓国(4)、ロシア(1)
- 2008年総会まで6ヵ国75会員自治体に拡大すると予想、国際機関としての地位確保
 - (イ) 会員自治体間通商交流実施
- 4.22～28 慶尚北道通商交流団の中国、モンゴル訪問
- 自治体間通商交流として交流協力の活性化に寄与
 - (ウ) 実務者ワークショップ開催
- 5.15～18 慶州で5ヵ国32自治体80人参加
- 会員自治体間結束力強化、人的ネットワーク構築で相互理解増進
 - (エ) 第6回山東省実務委員会開催
- 9.3～6 中国山東省で5ヵ国32自治体80人参加
- 観光、海洋・漁業分科委員会新設協議、事務局慶尚北道連任協議など。
 - (オ) 国際経済フォーラム開催
- 10.16～19 大邱で 5ヵ国 22自治体及び専門家など300人参加
- 経済、文化分野など北東アジア地域自治体間協力強化方案模索など
 - (カ) 会員自治体公務員の招請留学斡旋
- 韓国大邱大学韓国語過程、学部、大学院過程毎年2名ずつ
- モンゴル・ドルノゴビ県ナンディンチェチェック(ロシア1人推進中)
 - (キ) 広報物など発刊、NEAR広報強化
- NEAR NEWS誌及び広告用リーフレット(6ヵ国語)配付
- 会員自治体など152機関、連合知名度向上など
- (2) 2008主要事業計画
 - (ア) 第7回山東省総会開催支援
 - 9.1～4 中国山東省で開催される総会が充実したものになることで連合の結束と発展の契機をつくる
 - 観光、海洋・漁業分科委員会新設及びコーディネート自治体選出、新規会員自治体承認、2010年総会開催地決定及び事務局連任決定、連合会費制の導入に関する審議、議決など
 - (イ) 会員自治体の拡大
 - 2008年総会まで6ヵ国 75会員自治体に拡大計画
 - * 現在入会推進自治体：4ヵ国10自治体
 - 非会員自治体を対象に新規加入集中広報及び山東省総会ではオブザーバーの資格で参加するように積極的に広報

(ウ) 国際経済フォーラム開催

- 北東アジアのエネルギー・資源分野の学者をパネラーとして招待しフォーラムを開催
- エネルギー・資源分野開発及び交流活性化方案論議
- エネルギー・資源分野での人的ネットワーク基盤構築及び情報提供

※ 2008年10月中の慶尚北道の北東アジアビジネス促進会議と連携推進

(エ) NEAR実務者ワークショップ開催

- 実務者ネットワークを強化し、効率的な業務体制の構築及び連合の結束と発展のきっかけをつくる、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換

会員自治体別実務者2人を招待し、事務局活動紹介及び懸案事項に関する実務者討議など

※ 5.27～30 慶尚北道一円(浦項、慶州)

(オ) NEAR連合白書発刊

- NEARの10年間の成果と活動を新たに評価し、新しい相互交流協力プログラムを準備するための指針を用意
- NEARの創立と沿革、分野別主要活動など各種資料収集、整理
- 6ヵ国語(中国語、日本語、ロシア語、モンゴル語、韓国語、英語)約500ページ

※ 事務局で各種会議資料、結果報告書など資料収集に積極的な協力を願う。

(カ) 事務局交流協力基盤強化

- 分科委員会運営活性化及び新設を通して会員自治体の実のある交流協力推進
- NEARを紹介する動画や映像を製作し、またニュースレターを6ヵ国語で発刊し、会員自治体、非会員自治体、主要団体に配付

オ. 経済、観光分野交流活性化方案及び行政優秀事例

(1) 北東アジア地域自治体連合の発展方案(大韓民国慶尚北道)

- (ア) 自治体間の交流と協力ネットワークを強化：実務者が業務に愛着を持ち、活発な交流や意思疎通ができるようなプログラム開発に積極的に努力
- (イ) 連合会費制導入の必要性：連合がより独立的で、活発な活動をするためには責任と権限を分散し、共同責任の下に運営するのが望ましい
- (ウ) 毎年実務者ワークショップが開かれているが、北東アジア業務を担当する他の地方政府の実務者とのインタビュー記事を、NEARが発刊するニュースレターのシリーズで取り扱い、相互の意思疎通をより活性化する方案
- (エ) 北東アジア地域自治体連合事務局で派遣勤務をした歴代会員自治体の公務員の持続的な交流
- (オ) 北東アジア地域自治体連合のホームページ活性化：訪問回数や掲示が多い人、あるいは該当地方自治体の便り掲載、リプライをする回数などを基準に、イベント行事をしたり、所

定のインセンティブを与えたり、各自治体のNEAR担当者が一日一度は自発的にホームページを訪問する方法を考える。

(2) 連合交流発展方案(モンゴルセレンゲ県)

- (ア) 連合会員国であるモンゴル、ロシア、中国、日本、北朝鮮及び韓国これら6カ国は、それぞれその国の特徴を持ち、発展水準が異なるため、連合側ではできるだけ会員自治体間の交流活動を共通の関心分野に限って促進・発展させることが重要
- (イ) 堅実な財政状態を維持するためには会費制形態の基金作りが重要：総会で基金規定を承認、常設運営サポート及び会計専門家(財政専門家) 採用、運営報告は1年または6ヵ月ごと
- (ウ) 類似国際機構と団体の運営形態調査、連合の目標に相応しい主要施策の導入、専門家の交換及び研修などの活動を実施することも効果的である。

(3) 会員自治体間経済協力方案(ロシアハバロフスク地方)

- (ア) 地域レベルの協力や共同発展のためには、NEAR連合の可能性をもっと積極的に利用すべき時期である。
- (イ) NEAR事務局が北東アジア国家の経済問題に対する情報分析や研究を施行するための準備が必要：このためにはもちろんNEARの会員自治体もそういう経済関連資料を継続的に収集、し準備をして、持続的に事務局に提供しなければならない。

カ. 参加会員自治体広報及び協力事項

(1) 2008年山東省北東アジア地域自治体連合総会紹介(中国山東省)

- (ア) 9月1日から4日まで済南市で開催
- (イ) 今回の総会の特徴の一つは、総会期間の間、第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア環境保護産業商談会を同時に開催

(2) 鳥取県と北東アジア地域との国際交流現況(日本鳥取県)

- (ア) 鳥取砂丘、温泉MAP、皆生温泉、三朝温泉、ゴルフ場、三徳山投入堂など
- (イ) 2008SBS Korean Tour(エマソンパシフィック鳥取県オープン開催)
- (ウ) 鳥取県と北東アジア地域各国との友好交流：大韓民国(江原道)、中国(吉林省、河北省)、ロシア(沿海地方)、モンゴル(中央県)

(3) 忠北バイオコリア2008五松(韓国忠清北道)

- (ア) 行事概要
 - ・ 期間：'08年10月8日(水)～10月10日(金)
 - ・ 場所：忠清北道五松生命科学団地
 - ・ 主催：忠清北道、韓国保健産業振興院、韓国貿易協会
 - ・ 主管：(財)五松バイオ振興財団ほか11の機関・団体

(イ) 主なプログラム

- ・ 展示会：250社、400ブース、誘致対象(国内外バイオ企業、機関、団体及び外国国家・主要政府)
- ・ カンファレンス：13トラック、40セッション、誘致対象(基調演説－ノーベル賞受賞者など世界的な学者、CEO、専門家など、学術会議－生命工学会、細胞分子生物学会などバイオ関連)
- ・ ビジネスフォーラム：企業説明会(企業、地方自治体など保有技術・事業戦略発表、投資誘致)、パートナーリング(企業、地方自治体、投資者など相互に1：1のビジネスミーティング)

(4) 2012麗水博覧会など紹介(韓国全羅南道)

(ア) 2012年麗水世界博覧会開催

- ・ “生きている海、呼吸する沿岸”を主題に2012年5月12日から8月12日まで
- ・ 世界80余国と国際機関、企業などの参加予想
- ・ 141万㎡の敷地には海洋テーマ館、国際機構館、国内外企業広報館など展示施設や支援施設
- ・ 展示施設の他にも優秀海洋都市コンテスト

(イ) 2010年F1国際自動車競技大会

- ・ 2010年から2016年まで全羅南道霊巖郡サーキット場
- ・ ワールドカップ、オリンピックと並ぶ世界3大スポーツイベント、11チーム 22人のドライバーが毎年 17 ～ 18ヵ国を巡回して参加

(ウ) 第10回韓中の地方政府交流会議

- ・ 2008年11月4日から7日まで全南霊巖郡現代ホテル
- ・ 全羅南道と韓国地方自治団体国際化財団の共同開催
- ・ 主題は“地域活性化及び地域発展政策と課題”

(5) ラムサール総会開催を控えて(韓国慶尚南道)

(ア) “健康な湿地、健康な人間”という主題で2008年10月28日から11月4日まで開催

(イ) 参加規模165ヵ国政府代表と国際機関、NGOなど2千人余り

(ウ) 主要行事：全体会議、常任委員会会議、地域会議などがあり、付帯行事としては、参加者に湿地と自然環境、地域文化探訪機会を提供する湿地探訪・生態観光プログラム、伝統料理市場、文化公演など多様な文化芸術行事。

(6) トムスク州一般現況及び北東アジア地域交流現況紹介(ロシアトムスク州)

(ア) シベリア連邦地区自治体中、石油やガスの採掘分野で1位

(イ) 世界第1の鉄鉱石の産地、バクチャル(Bakchar)鉄鉱石産地はロシアの全体鉄鉱石埋蔵量の57%

(ウ) シベリア地域の学問や教育の中心地、6主要国立大学が位置する

(エ) ロシア市場の石油加工分野及びIT、BT分野の先導的な役割

(7) 2008年皆既日食紹介(モンゴルホブド県)

- (ア) 2008年8月1日の皆既日食をきっかけに盛りだくさんの行事を用意
 - (イ) 言語と文化、そして伝統が異なる多くの民族が住むモンゴルホブド県で起こる皆既日食の観測行事に関心と参加を願う。
- (8) 中国山東第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア地域環境保護産業商談会基本現況(中国山東省)
- (ア) 山東省は中国の環境保護産業の最大の市場：自らに挑戦状を投げて中国で一番厳格な環境保護基準と環境管理制度を実行、投資を拡大して循環経済を発展させ、生態山東建設、新しい舞台構築、環境保護産業発展、市場を造成して環境保護対外協力を拡大
 - (イ) 中国山東第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア地域環境保護産業商談会
 - ・ 主要特徴：環境保護市場の莫大な需要満足、需要による専門ブース区域設置、参加企業にオーダーメード型商談案内、公平で開放的な環境保護市場構築
 - ・ 主要内容：北東アジア地域環境保護産業商談会、環境保護産業技術製品展、親環境産業製品展、環境保護需要展、技術フォーラム及びオーダーメード商談
 - (ウ) 参加案内：グリーン博覧会公式ホームページ <http://www.greenexhibition.com>
- (9) 観光分科委員会設置及びコーディネート担当(中国河南省)
- (ア) 中国にはまだ分科委員会のコーディネートを担当する自治体がない。2006年第6回釜山総会で河南省人民政府外事弁公室ボンヨンチョン主任が初めて観光分科委員会新設提議及び分科委員会コーディネーターを希望
 - (イ) 河南省は、観光資源が豊かで、観光産業発展が急速である：中国国内観光交易会が河南省鄭州市で開催され、全国31省、自治区、直轄市の観光関連2,095業者及び1万人の観光従事者が参加
 - (ウ) 河南省が観光分科委員会のコーディネートを引き受けた場合、我々は河南省の天恵の観光資源と、数々の国際及び国内観光行事の開催を成功させた経験を生かし、観光分科委員会と行事を有機的に結合し、北東アジア地域自団体連合の各会員自治体のために観光展覧会や紹介行事、観光協力フォーラムなどを開催する等、実質的な協力の場を提供する。
- (10) 世界科学都市連合(WTA) 紹介(韓国大田広域市)
- (ア) 大田広域市が主導的に創設・運営している、計29ヵ国59会員を持つ国際機構として第5回WTAテクノマートのドバイでの開催を成功させた。WTA創立10周年を記念する第6回WTA総会が来る10月、WTA宗主都市である大田で開催される。
 - (イ) 世界科学都市連合(WTA)は、持続可能な科学都市発展のための世界科学都市間国際交流及び相互協力増進、科学都市の企業、大学、研究所などの発展的な欲求を解消することができる汎世界的な交流の場を提供、世界科学都市間発展戦略共有、科学技術を通じた人類の幸福と繁栄に寄与

(ウ) 国際機構レベルで会員都市間の国際交流活性化支援を通じた緊密な協力体制の構築や、UNESCO、IASPなど関連の国際機関との共助など、国際機関としての活動を積極的に推進している。

(エ) 都市連合体レベルでは会員都市間の人材、情報、技術交流を通じた地域発展促進と経済活性化を図り、市場フォーラムを通じた科学都市発展戦略と経験を共有、大学総長によるフォーラムを通じた地域の拠点大学間協力体制構築のために努力している。

第6節 国際経済フォーラム

1. 第1回フォーラム

ア. 行事概要

(1) 日時：2007. 10. 16(火)～10. 18(木)

※ 全体日程：16日登録、歓迎晚餐、17日フォーラム・商談会、18日産業文化視察

(2) 場所：韓国・大邱市インターブルゴホテル・クラベルホール(本館1階)

(3) 参加：北東アジア地域65会員自治体 150人余り(局・課長級及び実務公務員、バイヤー・企業、産・学・研の経済関連分野従事者)

(4) 主催：北東アジア地域自治体連合、大韓民国慶尚北道

(5) 主題：北東アジア地方政府間経済協力増進

(6) 発表者：5ヵ国11人(韓、中、日、ロシア、モンゴル)

※ 慶尚北道と2007北東アジア国際経済フォーラム及び貿易商談会を共同開催する。

イ. 主要内容

(1) 晚餐

○ 総長主宰歓迎晚餐：10. 16(火)19:00～21:00

○ 知事主宰歓迎晚餐：10. 17(水)19:00～20:30

(2) 国際経済フォーラム：10. 17(水)09:00～17:30

○ 基調演説：金泳鎬柳韓大学総長

○ 主題発表1：岩國哲人(日本)衆院議員外4人

○ 主題発表2：和田春樹(日本)前東京大社会科学研究所所長外4人

○ 総合討論：意見発表及び自由討論

ウ. 日程別詳細推進計画

(1) 1日目

(ア) 歓迎晩餐[10.16(火)19:00～21:00、2階アマンテホール、総長主宰]

- 参加人員：15名程度(NEAR事務総長、事務局長、発表者11人等)
- メニュー：韓定食または洋食(ラウンドテーブル)
- 進行手順：参席者紹介→総長歓迎の辞→参加者答辞または乾杯→晩餐→閉会
- 準備事項：座席配置図、席札、総長歓迎の辞、通訳要員、司会シナリオ、お盆など

(2) 2日目

(イ) 2007NEAR国際経済フォーラム[10.17(水)09:00～17:30、1階クラベルホール]

- 参加者：300人(専門家及び経済通商関連公務員など)

※ 主要参加者：道知事

- 発表者：岩國哲人外10人
- 準備事項
 - ・ 通訳員確保(中、日、ロシア、英語)座席配置図、席札、メモ用紙、筆記具、ミネラルウォーター、コップ、デジタルマイク(発表者)
 - ・ 総長開会の辞、知事歓迎の辞、慶尚北道議会議長または中央政府招待者からの祝辞、司会シナリオ
 - ・ 会議場の外には、飲料水台、お盆、懸垂幕設置など

エ. 2007年NEAR国際経済フォーラムスケジュール

時間	分	内 容	場 所	備 考
09:00～09:20	20	登録	インタブルゴホテル クラベルホール(1階)	
09:20～09:30	10	開会及び参加者紹介		NEAR 事務局長
09:30～09:40	10	開会の辞(李海斗NEAR事務総長)		
09:40～09:50	10	歓迎の辞(金寛容慶尚北道知事)		
09:50～10:00	10	祝辞(姜大明山東省省長)		
10:00～10:25	25	基調演説 -北東アジア地方間協力の制度設計		柳韓大学 総長 金泳鎬
{主題発表 I } 10:30～12:10[100分]				
10:30～10:50	20	岩國 哲人 - 北東アジア発展の条件	クラベルホール (1階)	
10:50～11:10	20	ブリアナトーリ -経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案		
11:10～11:30	20	張宇燕 - 世界エネルギー構図と中国エネルギー安保		
11:30～11:50	20	孫炳海 - 文化的共通性の開発による北東アジア共同体の模索		

時間	分	内 容	場所	備考
11:50～12:10	20	ハシチョロン － モンゴルの対外貿易、ヨーロッパからアジア各国との統合へ	クラベルホール (1階)	
12:10～14:00		午餐	コンベンションホール(2階)	
[主題発表Ⅱ] 14:00～15:40[100分]				
14:00～14:20	20	和田春樹 － 北東アジア地域協力構想と東アジア共同体構想	クラベルホール (1階)	
14:20～14:40	20	イヴァンコフ － シベリア経済活動の現況とシベリア協定		
14:40～15:00	20	張軍 － 北東アジア経済統合：経済的合理性と政治的知恵		
15:00～15:20	20	ドードンバルジル － モンゴルの投資環境		
15:20～15:40	20	金仁哲 － 東アジア金融統合の進化過程		
15:40～16:05	25	Coffee Break		
16:05～17:30	85	総合討論		
19:00～20:30	90	歓迎晩餐	レディースホール(2階)	

オ. 歓迎晩餐[10.17(水) 19:00～20:30、2階レディースホール、総長主宰]

○ 参加人員：40名程度

- ・ 道議会議長、発表者(11人)、会員自治体(1人)、地域大学及びその他(18人)
- ・ メニュー：韓定食または洋定食
- ・ 進行手順：参加者紹介、歓迎の辞、参加者答辞または乾杯、晩餐、閉会

※ 社会：NEAR 事務局長(4ヵ国語随時通訳)

- ・ 準備事項：座席配置図、歓迎の辞、司会シナリオ、通訳員配置、席札準備など

カ. 主題発表内容

(1) 基調演説

(ア) 主題：北東アジアの地方間協力の制度設計

(イ) 発表者“金泳鎬(韓国、柳韓大学総長)

(ウ) 内容

○ 地方の立場からの接近—もう一つの北東アジア

- ・ Nation to nationの北東アジアではなく、local to localの北東アジアという、もう一つの北東アジアを作ろうということ。

- ・ 理念の壁、安保の壁、過去の歴史の壁などがいたる所にあるので、政経分離型または、過去と未来に分離する時間分離型にするしかなく、国家と地方を分離し地方がリードする形にする。
- もう一つ北東アジアの制度化とNEAR連合の活性化問題
 - ・ 北東アジアの地方自治体連合のNEARへの吸収・統合
 - ・ NEARは6カ国80余地方自治体相互間の交流協力組織のため、地域内の市民、企業、大学、NGOなどの各セクター間の交流を伴っていない。
- NEARは、貿易投資だけではなく金融的な関心も重要
 - ・ 西ヨーロッパは自由貿易協定や関税同盟などの貿易統合をしてから、貨幣、金融の統合に進んだ。
 - ・ 地方間の共同事業、特に地球温暖化に関する共同対応事業のためのNEAR Fund造成が重要
- NEAR が共に出捐し参加するNEAR大学設立提議
 - ・ 北東アジア各地方の産業発展や情報化及び環境等に関する研究や教育のセンター及び各地方に必要な人材養成所
- 北東アジアの地方間技術協力モデル
 - ・ 地域大学の研究開発資源を活用するための大学内研究センターの設立
 - ・ 地域内ベンチャーキャピタル創出のための技術金融会社の設立
 - ・ 地域中小企業のための技術資源プログラム
 - ・ Matching Fundの概念に根拠がある地域特化研究開発プロジェクトの支援
 - ・ 地域研究施設など研究開発下部構造拡充など
- Near is beautiful
 - ・ 今日すべての地方やすべての国家は近くの地方や隣国と良い関係を持つことが競争力の源泉
 - ・ 世界化は地域統合を経てから成り立ち、同時に地域統合が世界化の大海で安全な場所になる。
- (2) 主題発表
 - (ア) 北東アジア発展条件：岩國哲人(日本、衆議院議員)
- 北東アジアの歴史的一体性
 - ・ 文字という共有文化財
 - ・ 儒教の影響と家族主義
 - ・ 気候の共通性：四季の変化、豊かな水、天恵の農業環境
- 北東アジアと日本経済
 - ・ 長寿企業の数字と順位(日本最高の長寿企業は韓国人が設立した会社)
 - ・ 日本と北東アジアの貿易額(50年間の推移別添資料)

○ 北東アジア経済力の強みと弱点

- ・ 経済発展の優位性: 高い人口増加率、豊かな食糧資源、高度工業国の存在
- ・ 経済発展の問題点: エネルギー資源不足、産業資金不足、地域内経済格差、交通網などインフラ構築未備、深刻しつつある環境汚染、政治、軍事的緊張

○ 北東アジア経済に対する提案

- ・ 各国自治体共同の企画・推進機関の設立
- ・ 域内共通の労働ライセンス
- ・ 資金調達のための証券市場整備
- ・ エネルギー資源確保のための常設航路設置
- ・ 交通網、特にシルクロード鉄道建設
- ・ 自由貿易地区「FTZ」を各国に設置

(イ) 経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案: ブリアナトーリ(ロシア、極東ザバイカル経済協議会事務局長)

○ ロシア・中国関係の地域的側面

- ・ 両国機関間の関係が強化され、協力過程での合意及び法的基盤、組織基盤の拡大
- ・ 政治的統合の展開
- ・ ロ・中間経済交流が速いスピードで増加

○ 地域的側面でのロシア・日本関係

- ・ 日・ロ関係で注目すべき事実は、日本財界の努力で日・ロ間協力が、両国間の大型プロジェクトを主とした協力から極東地域に位置する中小企業への支援に、その性格を変化させた。

○ ロシア極東地域での韓国・ロシア協力

- ・ 極東やザバイカル(Trans-baikalia) 地域にある、沿海地方やハバロフスク地方、サハリン州及びサハ共和国などの自治体は、韓国の主要パートナーとして極東地域に埋蔵されている資源の開発やエネルギー分野での協力が進行中。
- ・ 両国の地方間協力のためのインフラ強化に努力を傾けている。

○ 協力活性化措置

- ・ ロシア政府は、2007年8月に連合統合プログラムの「極東及びザバイカル地域の経済及び社会発展プログラム」を2013年まで承認
- ・ 「アジア-太平洋地域の国際協力の中心としてのウラジオストク市開発」プログラムの下部プログラムとしてウラジオストク市に通商・ファイナンシャル、輸送・物流、工業、学問・教育などのための大型センターの建設計画

(ウ) 世界エネルギー構図と中国エネルギー安保: 張宇燕(中国、中国社会科学院アジア太平洋研究所長)

- 世界エネルギー構図の進歩、現況及び未来
 - ・ 油価変動と世界エネルギー構図の進歩：燃料時代、石炭時代、石油時代、天然ガス時代、太陽エネルギー、風力エネルギー時代に次々と移り変わっていくだろう。
 - ・ 国際原油価格の趨勢と世界エネルギー構図の未来：現在、基本的に判断できるのは、国際原油価格は相変らず高い水準に位置しており、長期間高油価時期にあるということ。
- 中国のエネルギー安保基本問題
 - ・ 価格変動リスク：油価上昇が世界経済に一部否定的な影響を及ぼし、M.A. Alexanderによると、油価の高低を判別する価格基準は、1バレル45ドルが高油価、35ドルは低油価、35～45が正常油価ということ。
 - ・ 可用性リスク：供給源の安定性を維持するいくつかの方法は直接投資、株式投資、戦略備蓄、市場直購買
- 油価変動は国際市場の需要・供給の構造を反映するだけでなく、国際関係の権力構造を反映
 - ・ S. Strangeは、“エネルギーは国際政治・経済学で権力運営にはなくてはならない条件だ。また、信頼できないエネルギー供給では安全や財貨を獲得することができない”と指摘する。
- (エ) 文化的共通性の開発を通じた北東アジア共同体模索：孫炳海(韓国、韓国国際経済学会長)
- 共同文化圏としての北東アジア：漢字、儒教、律令のような中国文化を主成分としている。
- 東アジア経済に対する儒教文化の影響：修己安民や知行合一の思想が資本主義発展の倫理的基礎、高い道徳的倫理意識と国民優先の統治理念、教育重視及び節制の行動様式など
- 北東アジア共同体論議で儒教的価値が持つ意義：アジア的価値の根源として儒教的価値、北東アジアのアイデンティティ確保
- 儒教的共同体形成と意義：アジア的価値の開発と世界体制内の文化的多様性維持、市場経済の非道徳性補完
- 伝統価値復元と再解釈や共同文化の伝播は、地方政府、非政府機構、民間企業及び個人間の交流活動を通じて十分に行うことができる地域統合運動の一環
- 北東アジア共同体構築のための文化的共通性回復運動には、既に組織となっているNEARのような地方政府間の協力組織や学術、観光、文化部門での民間組織が大きく寄与すると期待される。
- (オ) モンゴルの対外貿易、ヨーロッパからアジア各国との統合：ハシチョロン(モンゴル、国立モンゴル大学長)
- '90年代初の市場経済体制の転換期：旧ソ連の支配的な役割、特殊通貨使用、産業化及び東欧諸国との協力(1962年モンゴルのCMEA加入、CMEA諸国との協力など)、コメコンでモンゴルの特化産業：モンゴルは鉱物供給国家、モンゴル対外貿易の95%がコメコン中心、その中旧ソ連が90%を占める。

- 1990年市場経済への転換及び対外貿易自由化：1990年以前モンゴルはほとんど独占的に東欧と貿易、貿易自由化以後主要交易相手をアジアに転換
 - (カ) 北東アジア地域協力構想と東アジア共同体構想：和田春樹(日本、東京大学名誉教授)
- リージョナリズムの大切さが増大している状況：東アジア共同体、東南アジア共同体、北東アジア共同体
- 北東アジア共同体を推進するためにまず必要なこと：北東アジア地域は絶えず戦争を繰り返す、和合しなければ共存することができない。
- 地域共同体発展のために次に必要なこと：経済協力、環境保護協力など
 - ・ 渡り鳥、鳥類インフルエンザ、黄砂、台風、津波などが国境を越えて発生しており国を越えたシステムを求めている。
 - ・ (キ)シベリア経済活動現況とシベリア協定：イワンコフ(ロシア、シベリア協議事務総長)
- “シベリア協議”は1990年10月にロシア連邦19の連邦州による自発的な経済連合体として創設
 - ・ 会員自治体の総面積650万km²(ロシア連邦総面積の38.4%)人口2,300万人(ロシア連邦総人口の16%)、ロシア総石油埋蔵量の77%、天然ガスの85%、石炭の80%、銅の70%埋蔵
 - ・ 経済の主要分野：鉄、非鉄金属、電気エネルギー、石油ガス、化学及び石油化学、林業木材加工、軽工業、食品工業など
 - ・ 地域総生産1兆3,330億ルーブル
- シベリアと北東アジア国家の天然資源と経済はお互いに補完的な関係：シベリアは大規模石炭原料供給先として北東アジア国家と協力、地域交通インフラの共同発展は北東アジアからヨーロッパへの商品運送期間を短縮、運送費を節減させ、シベリアの学術研究所は海外パートナーに研究成果物を実行させるための提案をし、生産競争力を高めることができる構造的・技術的共同協力体構築可能
 - ・ (ク)北東アジア経済統合(経済的合理性と政治的知恵)：張軍(中国、上海復旦大学教授)
- 北東アジア国家間には経済発展や相互補充性において完璧な「1はしご構造」が形成されている。日本は高度に発達した産業国家として資本と技術が豊富であり、韓国は新しい産業国家として生産コストが増加しつつあり、中国は安い労働力と人的資源、市場潜在性が豊富であり、極東地方のロシアとモンゴルは天然資源が豊富である。
- 域内構造変化と技術移転に対する機会は莫大で、域内関連国家はこれによるとてつもない経済的利益を享受することになるだろう。
- 北東アジアの経済協力のためには関連国、特に韓・中・日が相互間理解及び信頼増進のために政治的知恵を集めなければならず、このような点で韓・中・日は新アジアリージョナリズムに向けて積極的な役目を果たさなければならない。
 - ・ (ケ)モンゴル投資環境：ドードンバルジル(モンゴル、中央モンゴル開発庁長)

○ モンゴル投資環境現況

- ・ 1990年以後政治及び経済の体制転換を同時に始めたモンゴルは、民主化及び市場経済体制を導入し、経済・知識・思考を自由化、対外開放政策を推進
- ・ モンゴルは広大な領土、豊かな天然資源、遊牧文明を維持した牧畜業とそれらからの原資材、ロシアや中国の強大国の間に位置し、比較的若い労働人口の保有と高い教育水準などの長所によって外国人投資量が年々増加
- ・ モンゴル議会で外国人投資誘致のために“ザミン-ウッド”地域を自由経済貿易地帯、“アルタンボラク”、“チャガンノル”地域を自由貿易地帯として指定・承認

○ 外国人投資の法的環境、外国人投資のための法的保障

- ・ 外国人投資に対する平等措置
- ・ 外国人投資者の私有財産を国有化や強制没収ができないように法律的に保障
- ・ 外国への円滑な配当金送金、自分の財産を外国に送り、財産権譲渡
- ・ 長期投資安定化契約締結
- ・ (コ)東アジア金融統合への段階的アプローチ：金仁哲(韓国、成均館大学教授)

○ 域内金融統合のための段階的アプローチ：地域国家間の為替政策調整、域内共同通貨導入、域内単一通貨創設

○ 東アジア単一通貨のための3段階の取り組み：問題の核心は域内単一通貨を望むか望まないかではなく、どんな過程と段階を経て単一通貨を樹立するか、来るアジア単一通貨時代にどのように備えるかである。

- ・ 第1段階(為替安定に向けた政策調整)：為替が安定する場合、域内貿易及び投資がさらに促進され通貨危機を予防
- ・ 第2段階(地域通貨の導入)：域内通貨基金及び地域開発銀行、地域投資銀行など設立、会員国相互間合意を通じて固定相場制を採用し、国際外為市場の非会員国を相手に変動為替が適用される。
- ・ 第3段階(東アジア単一通貨樹立)：単一中央銀行が設立され、会員諸国では地域単一通貨は国内通貨に置き換えられるようになる。

2. 第2回フォーラム

ア. 行事概要

(1) 日時：2008. 11. 5(水)～11. 7(金) [2泊3日]

※ 全体日程：5日登録、歓迎晚餐、6日フォーラム・歓迎晚餐、7日文化体験

(2) 場所：大韓民国慶尚北道慶州市現代ホテル

(3) 参加：300人(各会員自治体公務員、企業家、産・学・研経済関連分野従事者及び地域の名士)

- (4) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (5) 主題：北東アジア共同発展のための企業及び企業人の役割と協力
- (6) 発表者：5ヵ国8人(韓、中、日、ロ、モ)

イ. 行事主要内容

(1) 晚餐

- 総長主宰歓迎晚餐：11.5(水)18:30～20:00
- 知事主宰歓迎晚餐：11.6(木)18:30～20:00

(2) 2008国際経済フォーラム：11.6(木)09:30～17:00

- 基調演説：金学洙アジア経済共同体理事長、前UNESCAP事務総長
 - 主題発表Ⅰ：李景台韓国貿易協会国際貿易研究院長外3人
 - 主題発表Ⅱ：村上雅章(日本)ソウルジャパンプラブ理事長外2人
 - 招待演説：ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)
 - 総合討論：意見発表及び自由討論
- ### (3) 文化体験：11.7(金)09:30～14:00
- 国立慶州博物館、慶州世界文化EXPO、仏国寺観覧

ウ. 日程別詳細推進計画

(1) 1日目(11月5日)

(ア) 歓迎晚餐[11.5(水)18:30～20:00、1階ピサホール、総長主宰]

- 参加人員：20人程度
 - ※ NEAR事務総長、事務局長、発表者及び討論者14人等
- メニュー：洋食(ラウンドテーブル方式)
- 進行手順：①参加者紹介→②総長歓迎の辞→③参加者答辞または乾杯→④晚餐→⑤閉会
- 準備事項：座席配置図、席札、総長歓迎の辞、通訳要員(言語別) 司会シナリオ、お盆など

(2) 2日目(11月6日)

(ア) 2008NEAR国際経済フォーラム[11.6(木)09:30～17:00、コンベンションホール(地下1階)]

- 参加者：200人程度(経済関連専門家、企業家及び経済通商関連公務員など)
 - ※ 主要参加者：金寛容(慶尚北道知事)、ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)、金学洙(元UNESCAP事務総長)など
- 発表者：李景台韓国国際貿易研究院長外8人

○ 討論者：楊平安(中国国際貿易促進委員会韓国首席代表)外4人

(イ) 歓迎晚餐[11.6(木)18:30～20:00、地下1階コンベンションホール、知事主宰]

○ 参加人員：100人程度

※ 知事、NEAR事務総長、発表者及び討論者、経済関係者、会員自治体参加者など

○ メニュー：洋食(ラウンドテーブル方式)

○ 進行手順：① 参加者紹介→② 知事歓迎の辞→③ 参加者答辞または乾杯→④ 晚餐→⑤ 国楽
(韓国伝統音楽)公演→⑥ 閉会

※ 司会：NEAR事務局長(随時通訳)

(3) 3日目(11月7日)

(ア) 国立慶州博物館観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)09:50～10:50(60分)

○ 場所：慶州市仁旺洞

○ 観覧内容：1975年設立、新羅千年の文化をひと目で見ることができる所、慶州一帯で出土された10万点の遺物の展示、本館、第1展示室、第2別館など

○ 移動：国立慶州博物館→慶州文化EXPO

(イ) 慶州世界文化EXPO観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)11:10～12:10(60分)

○ 場所：慶州市千軍洞

○ 観覧内容：エキスポ公園、3Dアニメーションワールド、世界化石博物館、慶州タワー、CT体験
官、新羅王京森など

○ 移動：天馬塚→食堂

(ウ) 仏国寺観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)13:50～14:40(50分)

○ 場所：慶州市進峴洞

○ 観覧内容：統一新羅時代の建築、ユネスコの世界文化遺産(仏国寺の大雄殿、釈迦塔、多宝
塔、青雲橋、白雲橋など)

○ 移動：仏国寺→送迎

4) スケジュール

	日時	分	内 容	場所	備考	
1日目 (11.5)	15:00～18:00	180	登録、チェックイン	慶州現代ホテル1階ロビー		
	18:30～20:00	90	歓迎晚餐	招待：ピサホール(1階) 一般：ダイヤモンドホール(地下1階)		
	20:00～		宿泊			
2日目 (11. 6)	07:00～08:30	90	朝食	サラホール(1階)		
	09:30～10:00	30	登録	コンベンションホール(地下1階)		
	10:00～10:05	5	開会及び参加者紹介		司会 (NEAR事務局長)	
	10:05～10:11	6	開会の辞(李海斗NEAR事務総長)			
	10:11～10:18	7	歓迎の辞(金寛容慶尙北道知事)			
	10:18～10:25	7	祝辞(アミルドショルUNパートナーシップ事務所事務総長)			
	10:25～10:50	25	基調演説 － アジア太平洋地域の経済統合：最新動向、挑戦課題及び北東アジア地域に及ぶ影響		アジア経済共同体理事長金学洙	
	10:50～11:00	10	移動(Posco国際館→事務局)			
	[主題発表Ⅰ] 11:00～12:20[80分]					
	11:00～11:20	20	李景台 － 北東アジア金融協力方案	コンベンションホール(地下1階)		
	11:20～11:40	20	谷口誠 － 東アジア共同体成立のために			
	11:40～12:00	20	劉方會 － 商工会議所の積極的な役割による北東アジア地域の経済協力活性化			
	12:00～12:20	20	ブレジネフ － 沿海地方経済のための商工会議所の役割			
	12:20～14:00	100	昼食			
	[主題発表Ⅱ] 14:00～15:00[60分]					
	14:00～14:20	20	村上雅章 － 物流の視点から見た北東アジア地域における韓国の戦略的位置	コンベンションホール(地下1階)		
	14:20～14:40	20	テンベレル － 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力			

日 時		分	内 容	場 所	備 考
	14:40～15:00	20	崔劉浩 － グリーン成長と企業の社会的責任 (CSR)	コンベンションホール(地下1階)	
	15:00～15:20	20	招待演説		GTI代表ナタリア
	15:20～15:30	10	Coffee Break		
	15:30～17:00	90	総合討論	コンベンションホール(地下1階)	司会 (NEAR事務局長)
	18:30～20:00	90	歓迎晚餐		
	3日目 (11. 7)	07:00～08:30	90	朝食	サラホール(1階)
08:30～09:30		60	チェックアウト		
09:30～09:50		20	ホテル→慶州国立博物館		専用バス
09:50～10:50		60	慶州国立博物館観覧		
10:50～11:10		20	博物館→慶州文化EXPO		専用バス
11:10～12:10		60	慶州文化EXPO観覧		
12:10～12:30		15	慶州文化EXPO→食堂		専用バス
12:30～13:30		60	昼食		
13:30～13:50		20	食堂→仏国寺		専用バス
13:50～14:40		50	仏国寺観覧		
14:40～			歓送		専用バス

5) 主題発表者紹介：9人

- **基調演説**：金学洙(韓国、アジア経済共同体理事長、前UNESCAP事務総長)
 - ・ アジア太平洋地域の経済統合：最新動向、挑戦課題及び北東アジア地域に及ぶ影響
- **李景台**(韓国、韓国国際貿易研究院長、前対外経済政策研究院長)
 - ・ 北東アジア金融協力方案
- **崔龍浩**(韓国、韓国産学研究院理事長、慶北大教授)
 - ・ グリーン成長と企業の社会的責任
- **谷口誠**(日本、前OECD事務次長、岩手県立大総長)
 - ・ 東アジア共同体成立のために
- **村上雅章**(日本、ソウルジャパンクラブ理事長)

- ・ 物流の視点から見た北東アジア地域での韓国の戦略的位置
- 劉方会(中国、山東省国際貿易促進委員会会長)
 - ・ 商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化
- プレジネフ(ロシア、沿海地方商工会議所長)
 - ・ 沿海地方経済のための商工会議所の役割
- テンベレル(モンゴル、モンゴル商工会議所所長)
 - ・ 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力
- 招請演説：ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)
 - ・ 「豆満江開発計画」北東アジア協力プログラム

6) 討論者紹介：5人

- 孫東辰(韓国、東国大慶州キャンパス総長、アジア研究院理事長)
- 孫炳海(韓国、慶北大東アジア経済研究所長)
- 楊平安(中国、中国国際貿易促進委員会韓国代表部首席代表)
- クズネゾフ(ロシア、在韓ロシア貿易代表部副代表)
- ラウダンオヨン(モンゴル、在韓モンゴル大使館商務官)

7) 主題発表内容

(1) 基調演説

(ア) 主題：アジア太平洋地域の経済統合に向けた動き-現況、挑戦課題及び北東アジア地域に与える意味

(イ) 発表者：金学洙(韓国、アジア経済共同体理事長)

(ウ) 内容

- アジア太平洋地域経済統合に向けたいくつかの歩み
 - ・ アジアハイウェイ(Asian Highway)やアジア横断鉄道(Trans-Asian Railway)のように会員国家の参加と交渉を通じて各国の首都と首都、または重要な経済地点と地点を繋ぐことで広範囲な地域に渡っている国々を連結する段階
 - ・ 貿易協定のようなソフト面での政府間の協定
- 小地域的(Sub-regional) 処理方式の重要性：ASEANとGMS(メコン河流域開発計画)、SAARC(南アジア地域協力連合)、ECO(経済協力機構)、SPECA(中央アジア経済圏特別プログラム)、SCO(上海協力機構)、PIFS(太平洋諸島フォーラム)など小地域機関の役割が重要だ。
- 北東アジアの挑戦課題及び潜在的戦略
 - ・ 政府間体制の不在：他の小地域とは異なり北東アジアには公式的で包括的なすべての国家を

含む政府間体制がまだない。

- ・ 周辺小地域協力浮上
 - ・ 地方政府の重要性
 - ・ 民間部門の重要性
- 歴史的残滓や敵対意識、紛争が相変らず残っている北東アジア地域では中央政府の役割が大変制限的なので、このような空白は地方政府と民間部門で補うことができる。

(2) 主題発表内容

(ア) 世界金融危機と北東アジア経済協力：李景台(韓国、韓国国際貿易研究院長)

- 北東アジア金融資本市場の衝撃と安定回復：域内金融協力体制強化、アジアの域内資金の流れを拡大すること。
- 実物経済の沈滞予防：景気の急激な鈍化を防止するためには内需拡大が要求され、租税減免、財政支出拡大、金利引下げなど、積極的な内需拡大手段を動員しなければならないが、国家別に独断的に運用するよりは北東アジア国家が協力して共同で施行するのがより効果的だ。
- 北東アジア通貨協力の加速化：北東アジアは今世界製造業の中心であり、今後もそうなるためには、金融と実体経済間の健全な関係を設定しなければならないという主張を、説得力をもって準備すべきである。

(イ) 東アジア共同体の成立：谷口誠(日本、岩手県立大総長)

- 東アジア共同体の必要性：1990年グローバル化の動きの中でEU(欧州連合)、NAFTA(北米自由貿易協定)に代表される地域統合は進展しつつあり、アジアにも何らかの形の地域統合が必要だと主張
- “東アジア共同体”構築は韓・中・日の共同責任
- 日本の“価値観外交”の問題：アジアの一国である日本がアメリカ一辺倒ととられかねない市場主義、民主主義、人権といった“価値観外交”を推進することにはより慎重であるべきだった。
- 実効性ある“アジア共同体”のために日本が取るべき具体的な政策
 - 日本の新しい外交政策確立：日米同盟を重視しながらもアジアの一国として東アジア共同体成立を考慮した自主的外交推進
 - 日・韓・中関係の大切さ：日・韓・中3国の関係強化が必須
- “東アジア共同体”成立に向けて日本が取るべき具体的な政策
 - 東アジア経済共同体構築
 - 北東アジア環境協力機構構築
 - 北東アジアのエネルギー資源共同開発
 - 北東アジアの共通農業政策構想
- 日・韓・中3国がFTA、EPAなどの経済分野での地域協力を推進することは、北東アジアの地域

協力を進展させ“東アジア経済共同体”を成立できるようにし、環境、農業、エネルギー、金融などの分野において地域協力を強化し、日・韓・中間の相互信頼関係が生まれ、そこに共同体の構築に不可欠な“共同体意識”が醸成されるはずだ。

(ウ) 商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化：劉方會(中国、山東省国際貿易促進委員会会長)

- 北東アジア地域経済協力は発展の真っ只中にある。
- 山東省は北東アジア地域経済協力で積極的な役割を發揮するはずだ。
- 北東アジア地域経済協力で企業が主体的な役割を發揮するはずだ。
 - ・ 経済交流を展開して北東アジア地域企業間協力の需要を満足させなければならない。
 - ・ 核心的な分野を発掘して協力の場を構築し、さらに実質的な経済貿易協力を展開しなければならない。

(エ) 沿海地方の経済のための商工会議所の役割：ブレジネフ(ロシア、沿海地方商工会議所所長)

- 沿海地方発展プロジェクト紹介：輸送施設の現代化(貨物積替、1万トン規模の化学製品、260億m³のLNG積替えのための動力ターミナル建設計画) 極東南部地域に新しい経済地区建設(年間60万トンの生産能力を持ったアルミニウム工場、原子力発電所、石油・石油製品及び液化ガス運送用のタンカーの造船所など) 沿海地方南部地域に 約3百万人が居住可能な新都市建設。
- 商工会議所は沿海地方の企業代表と外国企業代表との定例的な会議を開催、3年以上企業活動をしている企業が会員として登録され、商工会議所役員企業は皆活発な企業活動をしている。他地域の商工会議所と相互協力、企業家交流、地域経済発展の見込みについて議論

(オ) 物流の視点で見た北東アジア地域での韓国の戦略的位置：村上雅章(日本、ソウルジャパンプクラブ理事長)

- 広大な経済後背地を持つ韓国：中国、ロシア、日本、モンゴル
- 渤海湾経済圏に面する韓国：韓国企業が密集する山東省、特に天津・東北3省を後背地にした巨大プロジェクト多数

(カ) 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力：テンベレル(モンゴル、モンゴル商工会議所所長)

- 北東アジア地域の総合パートナーシップを拡張発展：中央政府間会議の拡大強化、国際的な協力強化、中央政府及び企業の経済協力強化発展、文化教育、科学、人文分野の協力拡大などを通じた短期事業基本計画樹立
- 北東アジア地域協力強化のためには政治会談及び中央政府省長間協議及び会談、各国首脳相互訪問、首脳会談の定例化を進める一方、企業間各種行事、展示会、博覧会、商談会、研修会などを開催して互いに協力。

- (キ) グリーン成長と企業の社会的責任：崔龍浩(韓国、韓国産学研究院理事長)
- 気候変化と持続可能な発展：グローバル環境規制の強化、企業の経済的規制強化、環境統制不十分な場合の莫大な経済的損失
- 韓国のグリーン成長構想：エネルギー、環境部門の立ち後れ
 - ・ OECD国家中排出量7位、エネルギー効率性は日本の1/3
 - ・ グリーン成長に向けた政策基調：低炭素及び親環境、グリーン成長、グリーンエネルギー産業発展戦略(インフラ構築を通じた成長動力化支援)
- 韓国企業の持続可能な発展戦略：経済と環境そして社会的価値の調和、透明性と倫理経営重視、人権と労働問題考慮、利害関係者と活発なコミュニケーション
 - ・ 国際基準に当たる持続可能な経営推進、環境産業進出、親環境技術開発
- 韓国地方自治体とNEARの役割
 - ・ 韓国地方自治体の持続可能な発展戦略(地方自治体の持続可能な発展ビジョン及びロードマップの樹立、4大分野7大重点課題、国際基準に基づく持続可能な発展戦略推進(国際機関加入及び活動参加))
 - ・ 持続可能な発展のための NEARの役割：北東アジアグリーンファンド造成、北東アジア持続可能な経営アカデミー運営、北東アジア企業の社会的責任連帯、北東アジア炭素排出権市場の開設、北東アジア親環境技術共同開発と移転の円滑化、北東アジアの大々的な植樹運動の展開
- (3) 招待講演
 - (ア) 主題：豆満江開発計画(GTI) 北東アジア協力プログラム
 - (イ) 発表者：ナタリア・ヤチェイストバ(ロシア、UNDP-GTI 事務局代表)
 - (ウ) 発表内容
- 北東アジア地域協力：地理的・経済的・インフラ的に互いに繋がっている国々にもかかわらず強力な地域機構が無く、深い統合を成す重要な必須条件であるFTAが一つも締結されたことがない。
- 豆満江開発計画(GTI)プログラム
 - ・ 北東アジアの国々はAPECやUNESCAPまたは、上海協力機構のような多様な地域機構に参加しているが、北東アジア国家に焦点を置いた地域の政府間機構はまだない状況。
 - ・ GTIは唯一の政府間協力モデル：GTIはUNDPの支援を受ける北東アジア国家間の協力プログラムとして、中国、北朝鮮、韓国、モンゴル、ロシアなど 5ヵ国が加盟している。
 - ・ 2005年中国長春で開催された第8回GTI諮問委員会会議：UNDPの継続的な支援と共に財政・人的資源支援を増やすことを決定、2006～2015GTI戦略的実行計画を採択(運送、エネルギー、観

光、投資分野に活動を集中)

○ GTIの最近活動 - 実質的な結果に焦点

- ・ 第9回GTI諮問委員会会議(2007年11月ロシア・ウラジオストク)：新しく実質的な協力段階の扉を開いたという点で、GTI発展の全過程の分岐点、企業人諮問会議、エネルギー理事会、観光協議会、環境協力の枠組みが揃った。
- ・ 第10回GTI諮問会議が2009年4月モンゴル政府主催で開かれる予定：初めてのGTI諮問委員会-企業人諮問委員会が共同セッションとして開催されることで、域内投資制度の透明性と魅力を高めることを目標に、北東アジア内の直接的な官民の対話が行われる。

○ 地域貿易及び投資：ロシアに対する日本の直接投資総規模は2年前1億7千500万ドルで、2008年初めは3億2千200万ドルに増え、特にエネルギー及び自動車分野の投資が増加、ロシア経済に対する韓国総投資は2008年7億3千830万ドル。

○ インフラ分野の地域協力

- ・ 貨物及び旅客運送を通じた北東アジア地域開発促進のためにザルビノ(ロシア)、束草(韓国)、新潟(日本)を連結する3国フェリー路線が近々開通予定、エネルギー分野の協力も順調である。

○ 協力強化の結果と展望

- ・ ロシア及び中国政府は GTI共同基金を継続的に支持、財政的な支援をすることに決定
- ・ GTIプログラムはUNDPの協力を受けて政府と市民社会、民間部門が共同で取り組むことになる。
- ・ GTIプログラムは会員政府の努力に対するシナジーを新たにすることで北東アジア交流メカニズムのバネとして作用
- ・ 北東アジアの経済統合促進は本質的に非常に重要な任務だが、親善関係を強化して国民間の相互理解を増進させることも同様に重要
- ・ GTI教育及び研究ネット構築が必要、NEARがこの部門で積極的な役割を果たすと信じて、GTI事務局との関係が強化されるのを希望する。

第4章 会員自治体現況

第1節 会員資格及び加入 ● 309

第2節 会員自治体紹介 ● 311

The Association of
North East Asia Regional Governments

4

第4章 会員自治体現況

第1節 会員資格及び加入

1. 資格要件

ア. 会員資格

- 中華人民共和国、日本、モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、ロシアなどで構成される北東アジア地域に位置
- 連合の設立目的に賛同する広域自治体
- 総会の決定によって範囲拡大可能。

イ. 会員の権利義務

- 会員は“連合”が行う多様な事業と活動に参加する権利を持ち、憲章の諸規定を誠実に守る義務を負う。

ウ. 会員現況

- '96年創設時には、中国、日本、大韓民国、ロシアなど 4カ国29の自治体に参加
- 2000年北朝鮮、モンゴル、ロシアの自治体の参加で 6カ国 40の自治体に拡大
- 2006年釜山総会時、中国、韓国、モンゴル、ロシアの自治体の参加により、6カ国65の会員自治体に拡大
- 2008年山東省総会時、韓国(仁川広域市、大田広域市、光州広域市、蔚山広域市)、ロシア(マガダン州)の加入で6カ国69の会員自治体に拡大

＜ 会員自治体現況2008.12月現在＞

国 名	数	自 治 体 名（ 加 入 年 度 ）
韓国	15	慶尚北道('96)、慶尚南道('96)、江原道('96)、京畿道('96)、忠清北道('96)、忠清南道('96)、全羅北道('96)、全羅南道('96)、済州島('96)、釜山広域市('00)、大邱広域市('06)、仁川広域市('08)、大田広域市('08)、光州広域市('08)、蔚山広域市('08)
中国	6	黒龍江省('96)、河南省('96)、山東省('96)、寧夏回族自治区('00)、湖北省('06)、湖南省('06)
日本	10	新潟県('96)、富山県('96)、鳥取県('96)、島根県('96)、兵庫県('96)、京都府('96)、青森県('96)、石川県('96)、福井県('96)、山形県('98)
モンゴル	22	中央県('98)、セレンゲ県('02)、ウランバートル市('06)、ドルノド県('06)、スフバートル県('06)、ヘンティ県('06)、ドルノド県('06)、ボルガン県('06)、ドントゴビ県('06)、ウムヌゴビ県('06)、ウブルハンガイ県('06)、バヤンホンゴル県('06)、アルハンガイ県('06)、フブスゴル県('06)、ザウハン県('06)、ゴビ・アルタイ県('06)、ホブド県('06)、オブス県('06)、バヤン・ウルギー県('06)、オルホン県('06)、ゴビスンベル県('06)、ダルハン・オール県('06)
ロシア	14	ハバロフスク地方('96)、サハリン州('96)、アムール州('96)、カムチャツカ地方('96)、イルクーツク州('96)、サハ共和国('96)、ブリヤート共和国('96)、チタ州('96)、沿海地方('98)、トムスク州('06)、クラスノヤルスク地方('06)、トゥヴァ共和国('06)、アルタイ地方('06)、マガダン州('08)
北朝鮮	2	咸鏡北道('02)、羅先特級市('02)

2. 会員加入及び除名

ア. 北東アジア地域に位置する広域自治体として連合の設立目的に賛成する自治体

イ. 総会で在籍会員自治体の過半数の出席と出席会員自治体の2/3の賛成議決により加入及び除名することができる。

第2節 会員自治体現況

1. 中国会員自治体

1) 黒龍江省

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・1931年“満州事変(9.18 事変)”発生後日本に占領された。 ・1945年抗日戦争勝利の後、満洲国が崩壊し、黒龍江は解放を迎えた。(当時 5省設置) ・1954年黒龍江省に合併された。
地域特性	・黒龍江省は山地、大地(plateau)、平原、河川などで成り立っている。そのうち、土地の面積が約24.7%で、海拔300m以上の丘陵が約35.8%、平原が37.0%である。平均海拔高度は、50～200mである。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：45万4,000km² ・位置：中国東北部に位置。中国の最北端に位置し、中国で緯度が最も高い省 ・気候：中温帯から寒温帯までの大陸性季節風気候
人口及び世帯	・人口：3,824万人 ・人口密度：84.2人/km²
行政区划	・省長(1)、副省長(7)、秘書長(9)、室局(57) ・基礎自治体数：地級市(12)、県級市(19)、県(45)
主要行事	ハルビン国際冰雪祭り、ハルビン国際貿易商談会
文化遺跡	松花江、興凱湖、扎龍自然保護区、五大連池

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP(ドル) : 1,031億3,900ドル • 1人当り所得(ドル) : 2,697.52ドル • 省財政規模(ドル) : 84億5,700万ドル
産業現況	• 産業構造 工業 : 57.7%、農業 : 35.4%、第3次産業 : 6.9% • 工業団地及び開発区 - 哈大齊工業走廊 - ハルビン経済技術開発区 - ハルビンハイテク産業開発区
主要産品	• 農林水産品 : 稲、とうもろこし、小麦、大豆 • 工業生産品 : 4大主要産業(装備、石油化学、エネルギー、食品) • 核心産業 : 冶金工業、建築材工業、森林工業、軽紡織工業

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 黒龍江省人民政府外事弁公室朝韓処 • 住 所 : 黒龍江省哈尔滨市南岗区 果戈里大街 298号 • 電 話 : +86-451-53634118 • F A X : +86-451-53607183 • E-M a i l : yanghp@163.com
国際友好都市 (北東アジア地域)	• 姉妹都市 : 日本新潟県、北海道、山形県、韓国忠清北道、ロシアハバロフスク地方、アムール州、クラスノヤルスク地方 • 友好都市 : 韓国慶尚北道
インターネット ホームページ	http://www.hlj.gov.cn (人民政府)

2) 河南省

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	河南省は、中国中東部地域の黄河中下流に位置し、略称は豫である。大部分の地域が、黄河の南にあることから、河南と呼ばれる。夏の国の大禹王の時に天下を9の州に分け、豫州が9の州の中間にあったことから、河南は古くから中原と呼ばれた。中国歴史上の8大古都中、4つ(鄭州、洛陽、開封、安陽)が河南省にあり、20余りの王朝が河南に首都を決めるなど、遷都して来た。
地域特性	遠い昔、この地域は河川が多く森林が生い茂り野生の象がたくさん暮したことから、河南省は人が象をひいて行く所だと呼び、これはまさに漢字の象形文字である“豫”の起源であり、河南省を豫と略称する理由である。河南は、東は山東省と安徽省、北は河北省と山西省、西は陝西省、南は湖北省と接している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：16万 7,000km² ・位置：北緯31° 23′～36° 22′、東経110° 21′～116° 39′間 ・気候：四季が明確
人口及び世帯	・人口：9,800万人 ・人口密度：586人/km²
行政区域	・省長(1)、副省長(8)、秘書長(11)、室局(21) ・基礎自治体数：地級市(18)、県級の市(20)、県(89)
主要行事	1つの節、3つの祝祭(慶典)
文化遺跡	国宝と呼ばれる国家級の核心文物保護機関 96ヵ所

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP(元) : 1兆5,000億元(2007年) • 1人当り所得(元) : 11,477元(2007年) • 省財政規模(元) : 861億5,000万元(2007年地方財政収入)
産業現況	• 産業構造 第1次産業 : 17.5%、第2次産業 : 52.6%、第3次産業 : 29.9%
主要産品	• 農林水産品 : 小麦(生産量全国1位)、綿花(全国2位)、肉類(全国3位) • 工業生産品 : 国際的に発見された150種類余りの鉱山資源の中で、126種類を保有 石油(埋蔵量全国8位)、石炭(全国10位)、天然ガス(全国11位) • 特産品 : ナツメ、ニンニク、唐辛子、ザクロ、山茱萸、スイカ、キウイ、柿、梨、漢方薬剤 など

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 河南省人民政府外事弁公室亜非処(アジア・アフリカ処) • 住所 : 河南省鄭州市金水路15 • 電話 : +86-371-65688841 • FAX : +86-371-65688841 • E-Mail : yafeichu701@yahoo.cn
国際友好都市 (東北アジア地域)	• 姉妹都市 : 日本三重県、韓国慶尚北道、ロシアサマラ州
インターネット ホームページ	http://www.hnfo.gov.cn (人民政府) http://www.hnfo.gov.cn (外事弁公室)

3) 湖北省

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	略称で鄂と呼ばれる湖北省は、春秋戦国時代の時に楚国に属し、宋国の時には 湖北路、元国の時には湖南江北行省に属し、清国の時に湖北省になった。
地理特性	湖北省は中国の中部地域に位置しており、揚子江中流の洞庭湖北側にあるため、湖北と命名された。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：18万 5,900km² ・位置：東経108° 21' 42" ～116° 07' 50"、北緯29° 01' 53" ～ 33° 16' 47" ・気候：亜熱帯性季節風湿潤気候、日照量が多く温暖で、降水量が多く、雨は主に夏に集中する。
人口及び世帯	・人口：6,050万人 ・人口密度：325人/km² ・世帯数：1,774万9,100世帯
行政区域	・省長(1)、副省長(7)、秘書長(1)、室局(66) ・基礎自治体数：地級市(11)、県級市(24)、県(37)
主要文化行事	宜昌山峡国際観光祭り
文化遺跡	黄鶴楼、東湖、三峡、武当山、神衣架、明顕陵

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP : 7,497億1,700元 ((2006年) • 1人当り所得(元) : 13,150元 (2006年) • 省財政規模(ドル) : 469億 8,200ドル (2006年)
産業現況	• 産業構造 • 第1次産業 : 15.2%、第2次産業 : 44.9%、第3次産業 : 39.9% • 工業団地及び開発区 - 武汉経済技術開発区 - 東湖新技術開発区 (中国光バレー)
主要産品	• 農林水産品 : 穀食、綿花、植物油の原料、野菜、肉類、淡水産品 • 工業生産品 : 自動車、冶金、鉄鋼、機械、電力、化学工業、軽工業、紡織、建築材料 • 核心産業 : 鉄鋼、自動車、化学工業、光電子(Optical Electronics)、情報産業など

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 湖北省人民政府外事弁公室外事3処 • 住所 : 湖北省武漢市武昌八一路3号 • 電話 : +86-27-87894227 • FAX : +86-27-87811262 • E-Mail : chenlu0624@163.com
国際友好都市 (東北アジア地域)	• 姉妹都市 : ロシアサラトフ州 • 友好交流行事 : 2005年 “湖北-韓国友好週間” 行事 2007年 “ロシア-湖北の日” 行事
インターネット ホームページ	http://www.hubei.gov.cn/ http://www.fohb.gov.cn/

4) 湖南省

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	湖南省は、洞庭湖の南側に位置することからその名前がついた。唐の時代には、江南西道と黔中道に属し、その後、湖南觀察使が設置され湖南と呼ぶようになった。宋の時代には、荆湖南路を設置し湖南と略した。元の時代には北湖南道を設置し、明の時代には湖広省に属した後に、湖広布政使司に名前を変えた。清の時代、湖広省に河南省を設置し、今までその名前を使っている。
地域特性	湖南省は、東西 667km、南北774kmである。 東、西、南の三面が山に囲まれ、北は洞庭湖と接している。洞庭湖は、中国で2番目に大きい淡水湖で、夏期には面積が 3,900km ² に達する。
シンボル	・鳥：相思鳥 (<i>Leiothrix lutea</i>) ・花：蓮華

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：21万1,800km² ・位位置：東経108° 47' ～ 114° 45'、北緯24° 39' ～ 30° 28' の間 ・気候：亜熱帯性季節風湿潤気候
人口及び世帯	・人口：6,800万人 ・人口密度：311人/km² ・世帯数：1,993万世帯(2005年人口標本調査データ)
行政区域	・省長(1)、副省長(7)、秘書長(1)、室局(25) ・公務員数：31万人 ・基礎自治体数：地級市(14)、県級市(16)、県(109)
文化行事	5月5日：端午汨羅江・龍舟祭り(龍舟節) 9月：国際観光祭 9月：瀏陽花火祭り
文化遺跡	韶山、張家界、岳麓書院、岳陽楼、南岳衡山など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準 (2007)	• GRDP(ドル) : 1,344億8,500万ドル • 1人当り所得(ドル) : 都市1,807.87ドル、農村574.16ドル • 省財政規模(ドル) : 164億6,000万ドル
産業現況	• 産業構造 農業 : 17.6%、工業 : 42.7%、サービス業 : 39.7% • 工業団地及び開発区 - 国家級開発区 : 長沙経済技術開発区、長沙ハイテク区域、株洲国家ハイテク産業開発区(湖南ヨーロッパ工業団地)、郴州輸出加工区 - 湖南省核心(重点)開発区 : 湖南湘潭ハイテク産業開発区、湖南汨羅工業団地
主要産品	• 農林水産品 : 食糧、植物油の原料、綿花、豚牛羊肉、淡水産品 • 工業生産品 : 非鉄金属、化学繊維、シガレット(タバコ) • 伝統産業及び特産品 : 花火用爆竹、ハスの実

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 湖南省人民対外友好協会 • 住所 : 湖南省長沙市韶山路1号 • 電話 : +86-731-2217254/2218245 • FAX : +86-731-2688455 • E-Mail : hndwyhx@hotmail.com
国際友好都市 (北東アジア地域)	• 姉妹都市 : 日本滋賀県 • 友好都市 : 韓国慶尚北道、全羅南道
インターネット ホームページ	http://www.hunan.gov.cn (人民政府) http://www.hnwgq.gov.cn (外事弁公室)

5) 寧夏回族自治区

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	寧夏は、春秋戦国時代から、羌、戎と匈奴などの民族が集まって住む地域の中の一つであった。1036年に、黨項族の首領・元昊はこの地域に大夏国を立て、歴史的には西夏と称する。元の時代、この地域に寧夏路を設置してから、寧夏という名前で呼び始めた。明、清の時代は、寧夏府を設置し、民国初期に朔方道に名前を変更してから、1928年に寧夏省が立てられた。1954年10月に寧夏省は甘肅省に編入され、1958年10月25日に寧夏回族自治区が正式に立てられた。
地理特性	中国西北地域、黄河中上流地域に位置している。 東西250Km、南北456Kmであり、自治区内397Kmの黄河が、寧夏中北部地域の12の市と県を通っている。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：6万6,400km² - 位置：北緯35° 14′ ～ 39° 23′ 、東経104° 17′ ～ 107° 39′ - 気候：温帯大陸性半乾燥気候、年平均気温5℃～9℃、年間降水量200～600mm、1年の日照時間3,000時間(中国で日照量と太陽放射量が一番多い地域の一つ)
行政区域	- 人口：610万2,500人(2007年末) - 人口密度：116人/km²
人口及び世帯	- 省長(1)、副省長(6)、秘書長(1)、室局63) - 基礎自治体数：地級市(5)、県(22)
文化行事	クルバーン祭(古爾邦節：犠牲祭)、開齋節：イスラムのラマダン終了後の祭り
文化遺跡及び観光地	砂漠、沙湖、賀蘭山岩画(賀蘭山岩画遺跡)、古代万里の長城、西夏王陵、イスラム文化

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP(ドル) : 113億9,400万ドル(2007年末) • 1人当り所得(ドル) : 1,857ドル • 自治区財政規模(ドル) : 19億5,100万ドル
産業現況	• 産業構造 第1次産業 : 11.7%、第2次産業 : 50.4%、第3次産業 : 37.9% • 工業区及び開発区 - 銀川経済技術開発区、石嘴山工業開発区、霊武カシミア工業団地など 16の工業団地
主要産品	• 農林水産品 : クコの実、ナツメ、じゃがいも澱粉、葡萄酒原料、イスラム式牛・羊肉 • 工業生産品 : カシミア製品、石炭、タンタル製品、電解質アルミニウム、合金鑄鉄など • 特産品 : クコの実、賀蘭石、生後一ヵ月前後の羊の毛皮、甘草など

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 寧夏回族自治区人民政府外事弁公室友城処 • 住所 : 寧夏回族自治区銀川市興慶区鳳凰北街106 • 電話 : +86-951-5044307, 5043668 • FAX : +86-951-5044308 • E-Mail : tli1221@yahoo.com.cn, linna39@yahoo.com.cn, leeqing69@yahoo.com.cn
国際友好都市 (北東アジア地域)	• 姉妹都市 : 日本島根県、韓国慶尚北道 • 国際交流行事 : 国際青年交流、専門技術家、大学生教授相互交流、JICAなど
インターネット ホームページ	http://www.nx.gov.cn (人民政府) http://www.nxfao.gov.cn (外事弁公室)

6) 山東省

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	山東は春秋戦国時代(B. C. 772年～B. C. 481年)から、地名として使われ始めた。1357年に、元はこの地域を山東行省と呼び、1368年に、明が山東布政司と称し、現在と大体同様の版図が形成された。1636年から清が公式的に山東省と呼び始めた。
地理特性	山東省は東西約700km、南北約420kmである。泰山は山東の最高峰で、海拔高度が1,532.7mである。最低点は黄河の三角州で海拔高度が2mである。

○ 一般概況(2007年統計)

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積 : 15万7,100km² - 位置 : 山東は中国の東部沿海地域で、黄河下流に位置しており、東に渤海・黄海と接し、海を挟んで韓半島と日本列島と向かい合っている。西北は河北省、西南は河南省と接しており、南側は安徽省・江蘇省と隣り合っている。 - 気候 : 温暖帯湿潤性季節風気候、穏やかな気候、四季がはっきりしている。
行政区域	- 省長(1)、副省長(8)、秘書長(1)、室局(47) - 基礎自治体数 : 地級市(17)、県級市(140)、県(109)
人口及び世帯	- 人口 : 9,367万人 - 人口密度 : 596人/km²
文化行事	4月 : 濰坊国際たこ揚げ祭り 9月 : 曲阜国際孔子文化祭、泰山国際登山祭
文化遺跡	泰山、曲阜:孔府・孔廟・孔林、済南趵突泉、青島ラオ山

○ 経済現況(2007年統計)

区 分	内 容
経済水準	• GRDP : 2兆5,887億7,000万元 • 1人当り所得 : 2万7,723元(年平均為替で換算 : 3,646ドル)
産業現況	• 産業構造 第1次産業 : 9.7%、第2次産業 : 57.1%、第3次産業 : 33.2% • 工業団地及び開発区 : 省級以上開発区155、その中、国家級経済技術開発区3、保税區1、輸出加工区6、省級開發區145を含む • 国家級経済技術開發區 : 青島經濟技術開發區、煙臺經濟開發區、威海經濟技術開發區
主要産品	• 農林水産品 : 小麦、綿花、野菜、果物、なまこ、高麗エビ、ワタリガニ • 工業生産品 : 石炭、原油、セメント、綿糸、麻と綿、鉄鋼 • 伝統産業 : 製造業、農業

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 山東省人民政府外事弁公室亜州処 • 住所 : 中国山東省済南市省府前街1号 〒250011 • 電話 : +86-531-8606-1762 • FAX : +86-531-8692-0219 • E-Mail : sdyazhou@yahoo.com.cn
国際友好都市 (北東アジア地域)	• 姉妹都市 : 日本山口県、和歌山県、韓国慶尚南道、北朝鮮黄海南道 • 友好都市 : 韓国京畿道、仁川市、忠清南道、忠清北道、全羅南道、全羅北道、ロシアオレンブルグ州、ペルミ地方、トムスク州など
インターネット ホームページ	http://www.sd.gov.cn (人民政府) http://www.sdfao.gov.cn (外事弁公室)

2. 日本会員自治体

1) 青森県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 由来 「青森」という地名は、江戸時代前期の寛永元年(1624)、弘前藩が現在の青森市に港町の建設を始める時に名付けられた。当時、現在の青森市本町付近に青い森があり、港に入る船の目印になったと言われている。 • 現在の自治体の誕生 1871年の廃藩置県当初には弘前県という名称だった当時政府から派遣された初代知事の野田豁通が、北海道や下北半島まで広がる大きな県を治めるための利便性に配慮し、県のほぼ中央に位置する青森町(現青森市)に県庁を移し、青森県と称した。
地域特性	青森県は本州の最北端に位置し、北は津軽海峡を隔てて北海道と対し、東は太平洋、西は日本海に囲まれ、南は秋田・岩手の2県に接している。三方を海に囲まれ、白神山地や十和田湖など美しく雄大な自然に恵まれた地域である。 この豊かな自然資源を活かした農林水産業が盛んであり、特に本県産のりんごは、日本国内はもとより海外でも高い評価を受けている。
県のシンボル	• 県章  • 県の花：りんごの花 • 県の木：ヒバ • 県の魚：ひらめ • 県の鳥：白鳥

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	• 面積：9,607.05km²(十和田湖を除く) • 位置：北緯40.12' ~ 41° 33'、東経139° 30' ~ 141° 41' • 気候：平均気温11.1℃、年間降水量1,293.0mm
人口及び世帯数	• 人口：1,394,806人(2008.10.1) • 世帯数：518,953人(2008.10.1) • 人口密度：145.18人/km²

区 分	内 容
行政区分	・組織構成：知事1名, 副知事2名, 7部2局57課(室) ・職員数：4,598人(2008.4.1教育、警察を除く) ・内市町村：10市22町8村
文化行事	・2月：十和田湖冬物語、八戸えんぶり、弘前雪灯籠まつり ・5月：弘前さくらまつり ・7月：恐山大祭、八戸三社大祭 ・8月：青森ねぶたまつり、弘前ねぶたまつり、五所川原立佞武多まつりなど
主要観光地 文化遺跡	十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山、弘前公園、岩木山、白神山地、種差海岸、三内丸山遺跡、太宰治記念館、恐山、仏ヶ浦など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・県内総生産(名目)：46,239億円(2006) ・1人当り県民所得：2,443千円(2006) ・財政規模(2008年度当初予算)：7,078億円
産業現況	・産業構造(金額ベース：2006年) － 第1次産業：4.2% － 第2次産業：23.5% － 第3次産業：72.2% ・主要産業団地 - むつ小川原開発地区(六ヶ所村)3,290ha - 三沢臨空港インダストリアル金矢(六戸町)74.3ha - 弘前オフィス・アルカディア(弘前市)20.8haなど
主要産品	・農水産物：りんご、米、ほたて、ながいも、にんにくなど ・工業産品：りんご、水産物などの加工食料品 ・その他特産品：津軽塗伝統工芸品

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：商工労働部国際交流推進課 ・住所：青森県青森市長島1-1-1 ・電話及びFAX T. +81-17-734-9218 F. +81-17-734-8119
国際姉妹交流 自治体	・ブラジル連邦共和国サンタ・カタリーナ州 ・ロシア連邦ハバロフスク地方 ・アメリカ合衆国メイン州 ・イタリア共和国リグーリア州
インターネット ホームページ	http://www.pref.aomori.lg.jp

2) 山形県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・由来 山形県の「山形」は平安初期の資料「和名類聚抄」に今の山形市の南側を「山方(やまがた)郷」と言ったことに由来があると言われている。なぜここを山方と言ったかは不明だが、今の山形市より見て南のほうには、山岳信仰で知られた蔵王、瀧山の山々がある。 ・現在の自治体の誕生：1876年
地域特性	・位置：東北地方の日本海側に位置し、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約3時間の距離にある。 ・その他特記事項：その名のとおり山が多く、奥羽山脈と出羽山脈に囲まれた三盆地を持つ「内陸」と、日本海に面した平野地域「庄内」からなり、県内のほぼ全域を最上川が貫流している。
シンボル	・県章  ・県の花：べにばな ・県の木：さくらんぼ ・県の魚：サクラマス ・県の鳥：オシドリ ・県の獣：カモシカ

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	• 面積 : 9,323.46 km² • 位置 : 北緯39° 12' ~37° 44'、東経140° 38' ~139° 31'
人口及び世帯数	• 人口 : 1,189,152人 • 世帯数 : 391,156世帯 • 人口密度 : 130.4人/km²
行政区域	• 組織構成 : 知事1人、副知事2人、8部局72課室、4総合支庁、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所 • 職員数 : 4,717人(教育、警察を除く) • 管内市町村 : 13市19町3村
文化行事	• 1月 : 新庄まつり、アマハゲ • 2月 : 黒川能王祇祭 • 5月 : 米沢上杉まつり • 8月 : 山形花笠まつり
主要観光地	最上川、蔵王、出羽三山

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• 県内総生産(名目) : 41,152億円 • 1人当り県民所得 : 243千円 • 財政規模(2008年当初予算) : 一般会計5,672億円
産業現況	• 産業構造 – 第1次産業 : 3.4%、第2次産業 : 28.5%、第3次産業 : 71.3% • 主な産業団地 : 東根大森工業団地、新庄中核工業団地、米沢八幡原中核工業団地、鶴岡中央工業団地
主要産品	• 農水産物 : さくらんぼ、西洋なし、水稻 • 工業産品 : 情報通信機械器具

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・文化環境部県民文化課国際室 ・住所：山形県山形市2-8-1 ・電話及びFAX T. +81-23-630-2116 F. +81-23-624-9908
国際姉妹交流 自治体	・米国：コロラド州 ・中国：黒龍江省 ・インドネシア：パプア州
インターネット ホームページ	http://www.pref.yamagata.jp/

3) 新潟県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1871年7月の廃藩置県によって、越後、佐渡は13県になったが、さらに同年11月に府県の大整理が行われ、新潟、柏崎、相川の3県に統合された。 1873年6月、柏崎県が新潟県に合併され、また1876年4月には相川県が新潟県に合併され、さらに1886年に東蒲原郡が福島県から新潟県に編入されて現在の新潟県の姿となった。
地域特性	新潟県は、日本海沿岸のほぼ真ん中に位置し、朝日山地、飯豊山地、越後山脈、西頸城山地及び白馬山地の1,500mから2,000m級の山々に囲まれ、面積は12,582.60km²（うち、佐渡島855.10km²、粟島9.86km²）で北海道、岩手県、福島県、長野県に次いで全国5位の広さをもつ、南北に長い県である。
シンボル	・県のシンボルマーク  このマークは、新鮮で魅力ある新潟県を県民とともに築いていくためのシンボルとして制定されたものである。環日本海時代の拠点である新潟県の美しい文化、情報が世界に広がっていく国際性、積極性を表現し、「新日本海フロント・新潟県」のイメージをデザインしたものである。（1992年3月27日制定）

区 分	内 容
県の象徴物	• 県章  「新」新を中心に「ガタ」を円形に模様化し、融和と希望を象徴し、県勢の円滑な発展を託したものである。(1963年8月23日制定)
	• 県の花〔チューリップ〕  チューリップは、明治後期の三島郡越路町で栽培が試みられ、産業として栽培が本格化したのが現在の新津市である。肥沃な土地と気象条件に恵まれ、全国のチューリップ球根の生産発祥の地といわれている。また、切花の生産量は、日本一である。(1963年8月23日制定)
	• 県の鳥〔トキ〕  日本産のトキは、メスの「キン」を最後に、2003年10月に絶滅してしまったが、1999年に日中友好のあかしとして中国から贈られた2羽からの増殖活動は順調に展開している。一見シラサギに似ており、羽は風切羽と尾羽が鮮やかな淡紅色(いわゆるトキ色)で国際保護鳥になっている。(1965年9月13日制定)
	• 県の木〔ユキツバキ〕  暖地に分布栽培されているツバキと形態、性質とも異なるツバキが日本海側の山岳地帯に分布していることがわかった。雪の中で緑をみせる生命力を持ち、県民性を象徴していると言える。(1966年8月27日制定)
	• 県の草花〔雪割草〕  雪割草、なかでも花の色や形が多彩に変化することで世界中から注目されているオオスミソウは、新潟をはじめとする日本海側の一部にしか自生していない。 そして新潟の「オオスミソウ」は、その変異の豊かさで他に例はなく、世界でも極めて貴重な、まさに新潟ならではの草花、世界に誇れる草花といえる。 雪割草は、自然を愛し、環境を守るために行動する新潟県民を象徴する草花なのである。(2008年3月1日制定)

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	・面積：12,583km² ・位置：北緯36° 44′ ～38° 33′、東経137° 38′ ～139° 54′ ・気候：平均気温13.9℃、年間降水量2014.5mm(2006年)
人口及び世帯数	・人口：2,405千人(2007年10月1日) ・世帯数：837千世帯(2008年3月31日) ・人口密度：193人/km²(2005年10月1日)
行政区域	・組織構成：知事1名、副知事3人、10部局78課室(2008年11月) ・職員数：7,019人(教員、警察を除く)(2008年4月) ・管内市町村：20市7町4村
文化行事	・1月：献灯祭(三条市)、むこ投げすみ塗り(十日町)、青海の竹のからかい(糸魚川) ・2月：節分鬼踊り(三条市)、南魚沼市雪まつり(南魚沼市)、十日町雪まつり(十日町) ・3月：浦佐毘沙門堂 裸押合い祭(南魚沼市)、湯沢温泉雪まつり(湯沢町)、雪割草まつり(柏崎市) ・4月：高田百万人観桜会(上越市)、糸魚川けんか祭(糸魚川市)、分水桜まつりおいらん道中(燕市)、白山神社春季例大祭(糸魚川市) ・5月：狐の嫁入り行列(阿賀町)、三条まつり(三条市)、牛の角突き(小千谷市、長岡市) ・6月：白根大風合戦(新潟市)、佐渡カンゾウ祭り(佐渡市)、えんま市(柏崎市)、角兵衛 地藏尊まつり(新潟市) ・7月：村上大際(村上市)、関山神社火祭(妙高市)、上越まつり(上越市)、弥彦燈籠まつり(弥彦村)、鉾山祭(佐渡市) ・8月：長岡まつり(長岡市)、新潟まつり(新潟市)、日本海タ日コンサート(新潟市)、アースセレブレーション(佐渡市)、城下町新発田まつり(新発田市) ・9月：片貝まつり(小千谷市)、与板十五夜まつり(長岡市) ・10月：狐の夜祭り(柏崎市)、八海山尊神社火渡大祭(南魚沼市) ・11月：弥彦菊まつり(弥彦村) ・12月：義士祭(新発田市)
主要観光地	・福島潟(新潟市)【日本の自然100選】 ・鈴が滝(朝日村)【日本の滝100選】 ・二つ亀海水浴場(佐渡市)【海水浴場100選】 ・妙高山(妙高市)【日本百名山】 ・清津峡(十日町市)【日本三大渓谷】

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・県内総生産(名目)：93,731億円(2005年) ・1人当たり県民所得：2,772千円(2005年) ・財政規模(2008年度当初予算)： － 一般会計 1兆1,834億円、 － 特別会計908億円
産業現況	・産業構造(2005年10月1日)： － 第1次産業7.5%、－第2次産業31.1%、－第3次産業60.7% ・主な産業団地：新潟県南部産業団地一面積118.6ha 新潟県中部産業団地一面積86.2ha 新潟県東部産業団地一面積126.5ha 新潟県港工業地帯一面積1,533ha
主要産品	・農林水産業 － 水稲作：新潟県産のコシヒカリは、おいしいお米の代名詞として全国に知られ、生産量も全国1位である。信濃川や阿賀野川をはじめとする豊富な水と肥沃な大地、稲の実りに適した気象条件などに加え、農業者の高い栽培技術により、高い評価を得ている。 － 野菜・果物・花き：海岸に広がる砂丘地から山間高冷地まで、特色ある気候風土を活かして多種多様な野菜、果物、花きが生産されており、中でも、えだまめや夏秋なす、チューリップやユリの切花・球根、アザレア等の花木などは、全国トップクラスの規模で栽培されている。また、柿や梨などの果物も多く栽培され、全国的にも有名である。 － 畜産：新潟県の畜産産出額は約544億円で、内訳は鶏が最も多く、豚、乳用牛、肉用牛の順となっている。最近は、「にいがた和牛」や「にいがた地鶏」など、安心・安全で優れた県産ブランド畜産物の生産と販売の拡大を進めている。 － 林業：新潟県内の森林は、県全体面積の69%を占め、豊かな水の供給や災害防止など、生活に役立っており、人工林から生産されるスギ材は、住宅資材などに幅広く利用されている。また、きのこの生産量は全国2位で、農山村の重要な産業となっている。 － 水産業：約630kmの長い海外線を有する新潟県は、多様な漁場に恵まれ、ブリ、イカ、南蛮エビなど、様々な魚種が漁獲されるほか、佐渡島の内湾ではカキの養殖が行われている。また、中越地方の中山間地域は「泳ぐ宝石」と言われる錦鯉の発祥の地であり、養殖が盛んである。 － 商工業：新潟県には金型や精密加工をはじめ、材料・表面処理、鋳造、金属プレスから食品加工などまで、ものづくりには欠かせない基盤技術が高度に集積し、オンリーワン技術を持つ企業が多数活躍しており、金属洋食器、石油ストーブ、磁気ヘッド、米菓などの出荷額が全国1位になっている。また、全国有数の地位にあるニットなどを中心にファッション産地としても有名で、技術的にもプロ野球のユニフォームに採用されるなど、高い評価を受けている。

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：知事政策局国際課 ・住所：〒956-0101 新潟県新潟市中央区新光町4-1 ・電話及びFAX T. +81-25-280-5962 F. +81-25-280-5126
国際姉妹交流 自治体	・友好提携：中国黒龍江省 ・友好交流関係：米国イリノイ州、ロシア沿海地方、ロシアハバロフスク地方、ロシアイルクーツク地方、中国吉林省、中国陝西省、米国ハワイ州、オランダ北ホラント州
インターネット ホームページ	http://www.pref.niigata.lg.jp/

4) 富山県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	富山県は、その地理的条件から、古くから東西文化の交流の地であった。また、中世・近世には、東西勢力の激闘による田畑の荒廃や、幾度となく繰り返される水害を克服し、農業・売薬業をはじめ諸産業を起こした。 近代に入ると、豊かな水資源を活かした水力発電を行い、やがてアルミニウムなどの金属工業や機械産業が発達した。また、売薬の製薬技術は化学工業の基本となりました。第二次世界大戦後には、医薬品製造の伝統を活かしたバイオやIT、深層水、ロボット技術などの先端産業の発展が著しいものとなっている。 こうして築きあげられてきた豊かな郷土、産業、そして、堅実で粘り強い県民性は、富山県の大きな財産となっている。

区 分	内 容
地域特性	富山県は南北に伸びている日本列島の中心、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に接している。3方が険峻な山脈に囲まれ、深い湾を抱え込むように平野が広がり、富山市を中心として半径50kmの円内に県全体が入る地形が特徴と言える。富山は、東京・大阪・名古屋の3大都市圏からほぼ等距離にあり、鉄道や高速道路網の充実により、いずれも鉄道で4時間以内、東京からは飛行機で約1時間の距離にある。
シンボル	・シンボルマーク：県章  富山県のシンボルでもある立山をモチーフに、その中央にとやまのイニシャル「と」を配している。大空に向かって躍進する富山県をイメージしている。(1988年12月27日制定) ・県花：チューリップ  4月下旬になると、砺波地方をはじめ各地でこの花の絨毯が見られる。2004年に「春万葉」「白ずきん」が発表され、富山県で育成した品種は26品種となった。(1954年3月22日選定) ・県木：立山スギ  立山を中心とする山岳地帯に自生している。寒さや雪に強いという特徴をもち、まっすぐ天に向かって伸びる姿は、たくましい生命力を感じさせる。(1966年10月1日制定) ・県鳥：雷鳥  日本アルプスの代表的な高山帯にいるこの鳥は、特に県民が仰ぎ親んできた霊峰立山に多く生息し「立山神の使い」として愛されている。(特別天然記念物)(1961年11月3日制定) ・県魚1：ブリ  「ツバイソ(コズクラ)」「フクラギ」「ガンド」「ブリ」と呼び名を変える出世魚で「富山湾の宝石」と呼ぶにふさわしいものである。(1996年10月12日制定) ・県魚2：シロエビ  「あいがめ」と呼ばれる富山湾特有の深い海底谷に生息し、富山湾が世界唯一の漁場となっている。生きているものは透明な淡いピンク色で美しく「富山湾の宝石」と呼ぶにふさわしいものである。(1996年10月12日制定) ・県魚3：ホタルイカ  3月から6月にかけて産卵のために富山湾沿岸を群遊する。体に多くの発光器を持ち、暗闇で青白く光る幻想的な様子は、まさに「富山湾の神秘」である。(1996年10月12日制定)

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	・面積：4,247.55km² ・位置：北緯36°59′～北緯36°16′、東経137°46′～東経136°46′ ・気候：年平均気温13.7℃、年間降水量2,245.1mm
人口及び世帯数	・人口：1,101,292人(2008年10月1日現在) ・世帯数：379,528世帯(2008年10月1日現在) ・人口密度：259.3人/km²
行政区域	・組織構成：知事(1名)、副知事(1名)、8室部局1室(2008年4月1日現在) ・職員数：4,774人(2007年5月1日現在)(警察・教委・企業局等を除く) ・管内市町村：10市4町1村
文化行事	 (越中八尾おわら風の盆) 富山県には古くから脈々と受け継がれた郷土芸能も数多くある。毎年9月には、「越中おわら風の盆」や、紋付袴に太刀を帯びた若衆が哀愁にじむ旋律にのせ毅然と舞う「城端むぎや祭り」、2月には、雪深い五箇山地域の伝統芸能「こきりこ踊り」など、哀愁漂う独特の情緒を醸し出している。 毎年9月1日～3日まで三晩に渡って夜明けまで越中おわら節を幽玄な踊りと唄で奏で、五穀豊穡を願う。その哀調を帯びた唄や胡弓の音色に惹かれて全国から多くの観光客が集まる。
主要観光地	富山県には、世界に誇る山岳観光ルートである立山黒部アルペンルートをはじめ、トロッコ電車で巡る秘境黒部峡谷、北陸有数の温泉地である宇奈月温泉、世界文化遺産の五箇山合掌造り集落、国宝の瑞龍寺など、非常に魅力的な観光地が数多くある。 富山県では、東アジアを中心に国際旅行博への出展や旅行会社・報道関係者の招聘など、富山の魅力を世界へ発信し、外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んでいる。 富山市から長野県の信濃大町まで、北アルプスを横断する全行程90kmの産学観光ルート。周辺には、落差日本一の称名滝、美しいブナの原生林が広がる美女平、高山植物が咲き乱れる弥陀ヶ原、硫黄ガスが噴き出す荒涼とした地獄谷、霊峰立山のシンボル・雄山、垂直にそびえ立つ断崖が登山者を惹きつける剱岳などがある。  (立山黒部アルペンルート-雪の大谷) また、ケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバスなどを乗り継いでいく交通機関もユニークである。毎年4月下旬の開通時期には、高さ20m以上にもなる“雪の大谷”をぬってバスが走り、夏には花畑、秋には綿に染まる山肌など、大自然のパノラマを見ることができる。

区 分	内 容
主要観光地	 (五箇山合掌造り集落) 平成7年(1995年)世界遺産登録。ブナの生い茂る山々、緑を背景に天に向かって屹立する茅葺きの大屋根、重い雪をすべり落とすための三角屋根、そして、水田、畑、石垣などが、美しい山村景観を織り成す。まるで時の流れが一挙に逆戻りしたかのような静けさが漂っている。
	 (瑞龍寺) 国宝に指定されている曹洞宗の巨刹。前田利長の菩提寺として建立された。仏殿・法堂・山門が国宝に指定されており、総門、大茶堂などは国の重要文化財となっている。平成8年3月には、山門ほかの復元工事が完成し、350年ぶりに創建時の威厳を取り戻した

○ 経済現況

区 分	内 容																
経済水準	・県内総生産(名目) : 45,762.88億円(2006年度) ・1人当たり県民所得 : 3,013千円(2006年度) ・財政規模(2008年度当初予算) : － 一般会計 5,263.68億円、 － 特別会計 1,496.01億円																
産業現況	富山県は、質の高い労働力と豊富な電力・水に支えられ、日本海側屈指の産業集積を形成している。特に、300年に及ぶ薬業の伝統を活かしてバイオによる新産業創出を目指しているほか、ITや深層水関連産業への支援など、富山県の特徴を活かした産業の振興に努めている。古くから有名な医薬品産業をはじめ、銅器・和紙などの伝統産業、ファスナーや産業用ロボットの製造などの最先端技術まで、バラエティーに富んだ産業がそろっている。 ・産業構造(産業別生産額の構成比) － 第1次産業 : 1.2%、 － 第2次産業 : 35.6%、 － 第3次産業 : 66.3% (控除項目等の関係上、合計は100%にならない。) <table><tr><th>団地名</th><th>造成面積(ha)</th><th>企業数</th><th>主 要 生 産 品</th></tr><tr><td>富山八尾中核工業団地</td><td>102.2</td><td>30</td><td>半導体製造装置、電子部品、医薬品など</td></tr><tr><td>富山新港臨海工業用地</td><td>426.8</td><td>90</td><td>アルミ製品、鉄鋼、木材など</td></tr><tr><td>富山イノベーションパーク</td><td>14.9</td><td>11</td><td>ソフトウェア、デザイン、情報通信など</td></tr></table>	団地名	造成面積(ha)	企業数	主 要 生 産 品	富山八尾中核工業団地	102.2	30	半導体製造装置、電子部品、医薬品など	富山新港臨海工業用地	426.8	90	アルミ製品、鉄鋼、木材など	富山イノベーションパーク	14.9	11	ソフトウェア、デザイン、情報通信など
団地名	造成面積(ha)	企業数	主 要 生 産 品														
富山八尾中核工業団地	102.2	30	半導体製造装置、電子部品、医薬品など														
富山新港臨海工業用地	426.8	90	アルミ製品、鉄鋼、木材など														
富山イノベーションパーク	14.9	11	ソフトウェア、デザイン、情報通信など														

区 分	内 容
主要産品	・農水産物：本県は、自然環境に恵まれており、特に「天然のいけす」と呼ばれる富山湾は、暖流と寒流が交差する国内有数の漁場であり、四季折々の魚介類が豊富に採れる。神秘的な光を放つ「ホタルイカ」、海の宝石と称される「シロエビ」、氷見の「寒ブリ」などは全国的に知られており、日本一の海の幸を心ゆくまで味わうことができる。また、本県は水田率全国1位(95.8%)の米どころで、コシヒカリをはじめとする品質の高い米が作られている。 ・工業産品：アルミニウム工業：現在、アルミ建材の全国主要6社のうち4社が本県と深く関わっており、全国シェアの4割近くを有する全国一のアルミ建材生産地となっている。 ・スライドファスナー：世界的なファスナーメーカーの製造拠点が立地しており、全国トップの生産量である。 ・医薬品：富山県は古くから薬業の伝統があり、和漢薬などの医薬品産業が発達している。現在では、産学官が連携してバイオ・ヘルスケア分野での新産業創出を目指している。 ・その他特産品：国の「伝統的工芸品」の指定を受けている高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、庄川挽物木地及び越中和紙など、恵まれた自然と風土の中で生み出され、受け継がれてきた数多くの工芸品がある。

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：富山県知事政策室観光・地域振興局国際・日本海政策課 ・住所：富山県富山市新総曲輪1-7 ・電話及びFAX T. +81-76-444-8873 F. +81-76-432-5648
国際姉妹交流 自治体	・中国：遼寧省 ・ブラジル：サンパウロ州 ・アメリカ：オレゴン州 ・ロシア：沿海地方
インターネット ホームページ	http://www.pref.toyama.jp/

5) 石川県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	650年頃から、現在の石川県の区域は、越前国（現在の福井県）に属していたが、718年に能登国（石川県北部）、823年に加賀国（石川県南部）が分立した。900年代半ばから武士がおこり、1200年代以降武士による統治（加賀では富樫氏、能登では畠山氏）が行われた。 1471年、浄土真宗（仏教）の代表者蓮如が、北陸地域で広く布教を行い、やがて、1488年統治者である富樫氏を倒し、加賀では、僧侶と土豪により統治が約100年近く続いた。 その後、織田信長・豊臣秀吉の家来であった前田利家は、この地を治め、金沢を拠点として、現在の石川県・富山県を領土とする日本最大の大名として繁栄し、以降約300年間、加賀百万石を守ってきた。 明治4年（1871年）以降、県の区域は何度か変更になったが、1883年より現在の区域となっている。この間、1872年に県庁が金沢から石川郡の旧美川町に移り、県名は「石川郡」からとって石川県となった。翌年、県庁は金沢に戻ったが、県名は変更されず現在に至っている。
地域特性	本県は、日本列島の西中央部に位置し、東は富山県及び岐阜県に、南は福井県に接し、北は能登半島となって日本海に突出している。地形は、西南から東北に向かって細長く、東西100.4km、南北198.4km、海岸線は約581.6kmの延長を有している。 すぐれた高山植物群落、広大なブナの原生林と野生動物の宝庫として知られる白山国立公園、美しい海岸美を誇る能登半島国立公園と越前加賀海岸国立公園を有する山紫水明の地であり、その四季は変化に富んでいる。
シンボル	・県旗  「石川」の文字と石川の地形をデザイン化したものである。地色の青は、日本海と豊かな緑・清い水・澄んだ空気という恵まれた石川の自然環境を表している。 ・郷土の花〔クロユリ〕  NHKが、「郷土の花」として選んだもの。霊峰白山の弥陀カ原、室堂平付近（標高2,300～2,500m）に多く自生している。風雪に耐え、可憐に咲くクロユリは、広く県民から親しまれている。

区 分	内 容
シンボル	• 県の木〔あて〕  緑の環境づくりと愛樹思想の啓発を目的に県民から公募し、指定された。能登地方に多く分布し、家具、建築材や輪島漆器の木地にも多く使われている。あての名はヒノキアスナロの北陸での地方名である。
	• 県鳥〔イヌワシ〕  翼長2mの雄々しい姿、勇猛果敢な性格は、ますます躍進する石川県を象徴するにふさわしい鳥として指定された。白山連峰に生息する日本最大級のワシで、英名ではジャパニーズ・ゴールデン・イーグル(日本の金色のワシ)と呼ばれている。

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	• 面積：4,185.47km²(2007.10.1現在) • 位置：北緯 36° 4' ～ 37° 51'、東経136° 14' ～ 137° 22' • 気候：平均気温 14.6℃(2007年)、年間降水量2,236mm(2005～2007年平均)
人口及び世帯数	• 人口：1,169,167人(2008.10.1現在) • 世帯数：439,606世帯(2008.10.1現在) • 人口密度：279.34人/km²(2008.10.1現在)
行政区域	• 組織構成：知事、副知事(2名)、本庁－7部3局3監室等59課(37室)(2009.1.1現在) • 職員数：4,789人(教育、警察除く)(2009.1.1現在) • 管内市町村：10市 9町
文化行事	• 5月：九谷茶碗まつり • 6月：百万石まつり
主要観光地	• 兼六園・武家屋敷・ひがし茶屋町 • 白山スーパー林道・那谷寺・鶴溪谷・いしかわ動物園 • 輪島の朝市・千枚田・のとじま水族館など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・県内総生産(名目) : 45,162億円(2006年度) ・1人当り県民所得 : 2,806千円(2006年度) ・財政規模(2008年度当初予算) : － 一般会計5,129億円、 － 特別会計365億円
産業現況	・産業構造(2005年国勢調査) : － 第1次産業3.9%、 － 第2次産業29.6%、 － 第3次産業65.4% ・主な産業団地 : 七尾港大田工業団地(44千㎡)、金沢港東部工業団地(約121千㎡)、いしかわサイエンスパーク(458千㎡)
主要産品	・農水産物 : 米(コシヒカリ、ゆめみづほ)、野菜(すいか、だいこん)、果物(なし、ぶどう)、魚(スルメイカ、ブリ、ズワイガニ[加能ガニ]) ・工業製品 : 機械、繊維、漆器、陶磁器 ・その他特産品 : 伝統的工芸品(輪島塗、山中漆器、九谷焼、加賀友禅)

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署 : 企画振興部企画課企画グループ ・住所 : 石川県金沢市鞍月1丁目1番地 ・電話及びFAX T. +81-76-225-1316 F. +81-76-225-1315
国際姉妹交流 自治体	・ロシアイルクーツク州 ・中国江蘇省 ・韓国全羅北道
インターネット ホームページ	http://www.pref.ishikawa.jp/

6) 福井県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・県名の由来 「福井」は旧称を「北の庄」といったが、「北」は「敗北」に通じるとして「福の居る場所」として「福井」と改められた。また、「福井」は、よく水が湧き出るところの意味もある。 ・歴史の特記事項 ・ 507年 越前坂井に育った男大迹王が天皇(継体天皇)となる。(「日本書記」) ・ 1244年 道元大仏寺(後の永平寺)創建 ・ 1774年 小浜藩医 杉田玄白ら「解体新書」出版 ・ 1899年 敦賀港が外国貿易港に指定される。 ・ 1932年 福井市に世界初の人絹取引所が開設される。 ・ 1948年 福井地震 全壊家屋33,000戸、死者3,800余人 ・ 1969年 日本原電敦賀発電所で臨海式。日本で2番目の「原子の火」ともる。 ・ 1995年 「世界体操選手権鯖江大会」開催 ・ 2000年 「恐竜まつり ふくい2000」が開催 ・ 2003年 「全国高等学校総合文化祭福井大会」開催 ・ 2004年 福井豪雨災害。死者4人、約14,000世帯に被害。 ・ 2005年 「第20回国民文化祭・ふくい2005」開催 ・現在の自治体の誕生 ・ 1881年 越前・若狭の11郡をもって福井県が誕生
地域特性	・位置：本州日本海沿岸のほぼ中央に位置。地形は、北東から南西にかけて370kmに及ぶ長い海岸線と、東から南にかけて標高1,500m前後の山地に取り囲まれています。
シンボル	・県章 かたかなの「フクイ」を図案化し、県勢の発展と調和を表している。  ・県の花〔水仙〕 日本海の厳しい風雪に耐え抜いて寒中に咲く忍耐強さは、県民性に通じるといわれている。 

区 分	内 容
シンボル	• 県の木〔松〕  清楚で、岩や砂地にもたくましく育つ生命力は、質実剛健な県民性の象徴といわれている。
	• 県の魚〔越前がに〕  荒々しい日本海で育ち、福井の味として広く定着しており、冬の味覚の王者として親しまれている。
	• 県の鳥〔つぐみ〕  毎年晩秋になるとシベリアから日本海の荒波を越えて約100万羽が本県に渡ってくる。

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	• 面積：4,189.25km² • 位置：北緯 36° 17′ ～35° 20′、東経136° 49′ ～135° 26′ • 気候：平均気温15.5℃、年間降水量2,578mm
人口及び世帯数	• 人口：816,198人 • 世帯数：273,552世帯 • 人口密度：194人/km²
行政区域	• 組織構成：知事(1人)、副知事(1人)、7部1庁6局74課(室) • 職員数：3,067人(教育、警察を除く。) • 管内市町村：9市8町
文化行事	• 1月：水仙まつり • 2月：勝山左義長まつり • 4月：ふくい春まつり・越前時代行列 • 5月：三国祭 • 8月：三国花火大会 • 9月：放生祭
主要観光地	   東尋坊 永平寺 福井県恐竜博物館

○ 経済現況

区 分	内 容																																																												
経済水準	・県内総生産(名目)：3兆3,186億円('06年度) ・1人当り県民所得：2,819千円('06年度) ・財政規模(2008年度当初予算)： － 一般会計4,636億円、 － 特別会計161億円																																																												
産業現況	・主要産業団地('05.10.1 就業者比率) － 第1次産業 5.4%, － 第2次産業 33.1%, － 第3次産業 61.5% ・主要産業団地 <table><thead><tr><th>団地名</th><th>所在地</th><th>団地総面積 (ha)</th><th>立地可能面積 (ha)</th><th>地価 (円／㎡)</th></tr></thead><tbody><tr><td>テクノポート福井</td><td>福井市・坂井市</td><td>1,235.7</td><td>15.7</td><td>14,520~15,730</td></tr><tr><td>古屋石塚テクノパーク</td><td>あわら市</td><td>5.1</td><td>2.2</td><td>15,000</td></tr><tr><td>福井県商工業団地</td><td>坂井市</td><td>6.0</td><td>1.8</td><td>応相談</td></tr><tr><td>福井市中央工業団地</td><td>福井市</td><td>28.7</td><td>0.2</td><td>38,000</td></tr><tr><td>中野工業団地</td><td>大野市</td><td>4.6</td><td>0.5</td><td>15,125</td></tr><tr><td>春日野工業団地</td><td>大野市</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>7,248</td></tr><tr><td>今立工業団地</td><td>越前市</td><td>16.4</td><td>1.6</td><td>20,000</td></tr><tr><td>敦賀市産業団地</td><td>敦賀市</td><td>20.0</td><td>4.4</td><td>23,000</td></tr><tr><td>松原産業団地(造成中)</td><td>美浜町</td><td>2.7</td><td>1.8</td><td>応相談</td></tr><tr><td>三十三産業団地</td><td>若狭町</td><td>3.1</td><td>1.9</td><td>9,000程度</td></tr><tr><td>竜前企業団地</td><td>小浜市</td><td>5.3</td><td>1.8</td><td>21,000</td></tr></tbody></table>	団地名	所在地	団地総面積 (ha)	立地可能面積 (ha)	地価 (円／㎡)	テクノポート福井	福井市・坂井市	1,235.7	15.7	14,520~15,730	古屋石塚テクノパーク	あわら市	5.1	2.2	15,000	福井県商工業団地	坂井市	6.0	1.8	応相談	福井市中央工業団地	福井市	28.7	0.2	38,000	中野工業団地	大野市	4.6	0.5	15,125	春日野工業団地	大野市	1.8	1.8	7,248	今立工業団地	越前市	16.4	1.6	20,000	敦賀市産業団地	敦賀市	20.0	4.4	23,000	松原産業団地(造成中)	美浜町	2.7	1.8	応相談	三十三産業団地	若狭町	3.1	1.9	9,000程度	竜前企業団地	小浜市	5.3	1.8	21,000
団地名	所在地	団地総面積 (ha)	立地可能面積 (ha)	地価 (円／㎡)																																																									
テクノポート福井	福井市・坂井市	1,235.7	15.7	14,520~15,730																																																									
古屋石塚テクノパーク	あわら市	5.1	2.2	15,000																																																									
福井県商工業団地	坂井市	6.0	1.8	応相談																																																									
福井市中央工業団地	福井市	28.7	0.2	38,000																																																									
中野工業団地	大野市	4.6	0.5	15,125																																																									
春日野工業団地	大野市	1.8	1.8	7,248																																																									
今立工業団地	越前市	16.4	1.6	20,000																																																									
敦賀市産業団地	敦賀市	20.0	4.4	23,000																																																									
松原産業団地(造成中)	美浜町	2.7	1.8	応相談																																																									
三十三産業団地	若狭町	3.1	1.9	9,000程度																																																									
竜前企業団地	小浜市	5.3	1.8	21,000																																																									
主要産品	・農水産物：福井産コシヒカリ、すいか、ミディトマト、梅、ふぐ、鯖 ・工業産品：眼鏡業、化学、繊維、機械 ・その他特産品：越前打刃物、越前和紙、越前焼、越前漆器、若狭塗、若狭めのう																																																												

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	• 担当部署：産業労働部国際・マーケット戦略課 • 住所：福井県福井市大手3-17-1 • 電話及びFAX T. +81-776-20-0294 F. +81-776-22-1702
国際姉妹交流 自治体	• 中国：浙江省 • アメリカ：ニュージャージー州 • ドイツ：ハールブルク郡ヴィンゼン市
インターネット ホームページ	http://www.pref.fukui.lg.jp/

7) 京都府

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 歴史上の特記事項 京都は、794年、桓武天皇が平安京をこの地に定めてから明治の初めまで一千年余りの間、日本の政治・経済・文化の中心として発展してきた。 • 現在の自治体の誕生 京都府が初めて設けられたのは、1868年のことで、その時は、山城の国だけだった。その後、1871年の廃藩置県により、京都府の区域は、山城の国全部と京都の中央部である桑田、船井、何鹿の3郡になった。ついで、1876年に丹後5郡と丹波の国天田郡が併合され、今の京都府になった。
地域特性	• 位置：日本列島のほぼ中央に位置する京都府は、南北に細長い形をしており、北は日本海と福井県、南は大阪府、奈良県、東は三重県、滋賀県、西は兵庫県の各県に接している。 • その他特記事項：京都府は、そのほぼ中央に位置する丹波山地を境にして、気候が日本海型と内陸型に分かれる。丹後・中丹地域の海岸線は、変化に富むリアス式海岸で、豊富な景勝地や天然の良港に恵まれている。中丹地域から南丹・北桑地域は、大部分が山地で、丹波山地を源に桂川水系、由良川水系に別れ、その流域には、亀岡、福知山盆地のほか小盆地が点在している。京都・乙訓、南山城地域は、桂川、宇治川、木津川の三川合流を要に、山城盆地が広がっている。

区 分	内 容
シンボル	・府章  六葉形は古都の格調高い土地柄を表現し、中央に「京」の文字をひとがたに図案化して配し、全体として府民の連帯性とその力の結合を表象したものである。
	・府の花〔しだれ桜〕 うす紅色の花弁も優しく、流れ落ちるようなしなやかな美しさは、京の風情そのまま。風雪に折れにくいシンの強さが、京都人気質に通じるようである。
	・府の木〔北山杉〕 北山杉は、木肌の美しい磨き丸太として名高く、木立が天に向かって真っすぐに伸びる姿は‘伸びゆく京都府’の象徴である。
	・府の鳥〔オオミズナギドリ〕 舞鶴市の沖合い、冠島に2月から11月まで生息する渡り鳥。魚郡を教えてくれるため‘サバ鳥’とも呼ばれ、木や岩から飛び立つ不思議な習性がある。
	・府の草花1〔嵯峨ぎく〕 京都嵯峨の地に源を発する古典ぎくで、その名称からも、京都を強くイメージ・象徴している。キク科の多年草で、濃赤色、桃色、白色、黄色など色とりどりの花が、10月から11月にかけて開花する。
	・府の草花2〔なでしこ〕 古典によく詠まれ、また、鴨川の河原に「かわらなでしこ」が自生し、古来より府民に愛されてきた。ナデシコ科の多年草で、3月から11月にかけて、緋紅色、桃色、白色などの花が京都を彩る。

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	・面積：4,613km² ・位置：北緯35° 47′ ～34° 42′、東経134° 51′ ～136° 03′ ・気候：平均気温15.6℃、年間降水量1,545.4mm
人口及び世帯数	・人口：263万5,134人 ・世帯数：111万2,353世帯 ・人口密度：571.2名/km²

区 分	内 容
行政区域	・組織構成：知事、副知事(3名)、8部5室84課4センター 1チーム85地域機関 ・職員数：5,036人(教育、警察を除く) ・管内市町村：15市10町1村
文化行事	・1月：蹴鞠初め(4日) ・4月：鴨川をどり(1～24日) ・5月：都をどり(1～30日)、葵祭(15日) ・6月：県祭(5日)、宇治川鵜飼(中旬) ・7月：祇園祭(1～31日)、伊根祭(27～28日) ・8月：宮津灯籠流し花火大会(16日)、大文字五山の送り火(16日) ・10月：宇治茶まつり(第1日曜日)、時代祭(22日)、鞍馬の火祭(22日)、亀岡祭(丹波の祇園祭)(23～25日) ・11月：田山花祭(3日) ・12月：をけら詣り(31日)
主要観光地	京都府には、世界の人々から特に大切な文化財であると認められた文化財である世界文化遺産の17社・寺・城をはじめ豊かな自然、風景など、多数の観光資源がある。 ・世界文化遺産 - 賀茂別雷神社(上賀茂神社)、賀茂御祖神社(下鴨神社)、教王護国寺(東寺)、清水寺、延暦寺、醍醐寺、仁和寺、平等院、宇治上神社、高山寺、西芳寺(苔寺)、天龍寺、鹿苑寺(金閣寺)、慈照寺(銀閣寺)、龍安寺、本願寺(西本願寺)、二条城 ・その他 丹後半島、琴引浜、浜詰夕日ヶ浦・浜詰温泉、伊根の舟屋、天橋立、成相寺、舞鶴湾、赤れんが博物館、五老岳、安国寺、大江山、福知山城、美山かやぶきの里、府立丹波自然運動公園、るり溪、保津川、湯の花温泉、京都御所、平安神宮、八坂神社、知恩院、北野天満宮、大原三千院、常照皇寺、鴨川、京都府立植物園、京都文化博物館、太秦映画村、長岡天満宮、光明寺、大山崎山荘、源氏物語ミュージアム、岩清水八幡宮、一休寺、けいはんな学研都市、浄瑠璃寺、笠置山

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・県内総生産(名目)：10兆297億円 ・1人当り府民所得：2,895千円 ・財政規模(2008年度当初予算)： － 一般会計8,223億7,300万円, － 特別会計2,367億3,900万円 － 公営企業会計259億700万円
産業現況	・産業構造(県内総生産の構成) －第1次産業 2.7% －第2次産業25 －第3次産業69.6%, －分類不能2.3% ・主要産業団地 ＜長田野工業団地＞ － 区域面積：342.0ha(うち工業用地面積 224.0ha) － 立地起業数：42社、従業員数：6,144人(2008.3.31現在) ＜綾部工業団地＞ － 区域面積 136.4ha(うち工業用地面積 69.6ha) － 立地企業数：17社、従業員数：1,745人(2008.3.31現在)
主要産品	・農水産物：宇治茶、京野菜(賀茂なす、九条ねぎ等)、丹波松茸、丹波栗、丹波ワイン、あゆ、鱈、タケノコ、ズワイガニ、丹後とり貝 ・工業産品：電子デバイス・部品(IC、コンデンサ、シリコントランジスタ、小型モーター等)、分析装置・計測機器、電子制御機器、理化学機械器具、リチウム・鉛蓄電池、家庭用レジャー機器(コンピュータゲーム機器等) ・その他特産品：清水焼、黒谷和紙、西陣織、京漆器、京扇子、丹後ちりめん、京友禅、京菓子、京人形、日本酒、京漬物、京懐石、京ゆば

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：政策企画部調整課 ・住所：京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 ・電話及びFAX T. +81-075 414-4341 F. +81-075 414-4363
国際姉妹交流 自治体	・英国スコットランド：エディンバラ市 ・中華人民共和国：陝西省 ・ロシア連邦：レニングラード州 ・アメリカ合衆国：オクラホマ州 ・インドネシア共和国：ジョクジャカルタ特別区
インターネット ホームページ	http://www.pref.kyoto.jp/

8) 兵庫県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・沿 革 兵庫県の名は、現在の神戸市兵庫区に役所が置かれたことにある。ここにある兵庫港(現在の神戸港の一部)が古くから国際貿易港として開港していたためである。また、一説には安政の五カ国条約によって兵庫港開港を約束しながら実際の開港地が神戸に変更されたために、諸外国から条約違反とする避難を避けるため「神戸」ではなく「兵庫」を県名に用いて神戸をその管轄区域に含めてお茶を濁したとする説がある「兵庫」の由来は、天智天応の治世に兵の武器の倉庫の意味である「つわものぐら(兵庫)」があったことから由来する。 ・現在の自治体の誕生 神戸が開港してまもなく江戸幕府が倒れて明治政府ができると、外国と交渉を行い、神戸港や神戸港周辺の旧幕府領を管理するために、慶応4年(明治元年)1月22日に兵庫鎮台が置かれる。その後10日余りで兵庫裁判所と改称すると、5月23日には裁判所を廃して兵庫県を置く。その後、県は、官民混合の議員が行う行政的事項を協議する地方民会や、医学所の開設など、他府県に先駆けて開明的な施策を実施していく。 当初の県域は、神戸港を中心にした小さいもので、いくつかの飛地からなる島のような形をしていた。明治4年には、廃藩置県によって大名が支配する地域はなくなり、明治9年の府県の統廃合によって飾磨県(播磨全域)及び岡山県の一部(但馬全域と丹波の氷上・多紀2郡)、名東県の一部(淡路全域)を併合して、ほぼ現在の県域が確定することになる。
地域特性	北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続いている。兵庫県は、大都市から農山村、離島まで、さまざまな地域で構成されており、多様な気候と風土を通して、海水浴やスキー、温泉などの多彩なレジャーが楽しめることから、「日本の縮図」と言われている。特に、歴史や風土、産業などの違いから、摂津(神戸・阪神)、播磨、但馬、丹波、淡路の個性豊かな5つの地域に分けることができる。
シンボル	・県旗 セルリアンブルーをバックに、波の形をデザインした「浜」の字を白く抜き、南北を海に面した県の姿を象徴している。(1964年制定) 

区 分	内 容
シンボル	・県花〔のじぎく〕  NHKが郷土の花を募ったとき、兵庫県の花として選ばれた。11月ごろ白い花を咲かせる。(1954年選定)
	・県樹〔クスノキ〕  強健で雄大な姿が県のイメージと合うと思われる。県の天然記念物に指定されている樹もある。(1966年制定)
	・県鳥〔コウノトリ〕  1956年に特別天然記念物に指定。但馬地域で保護・増殖、環境整備に取り組み、2005年9月、野生復帰に向けた試験放鳥に成功した。(1965年制定)

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	・面積：8,395.61km² ・位置：北緯34° 09′ ～35° 40′、東経134° 15′ ～135° 28′ ・気候：平均気温12.4℃～16.5℃、年間降水量1,057.9mm～2,313.2mm
人口及び世帯数	・人口：5,598,179人 ・世帯数：2,235,519世帯 ・人口密度：674.84人/km²
行政区域	・組織構成：知事(1名)、副知事(2名)、5部10県民局 ・職員数：8,279人(教育、警察を除く) ・管内市町村：29市12町
文化行事	・1月：十日えびす大祭、全国凧あげ祭り ・2月：神戸市南京町春節祭、初午祭、厄除大祭 ・3月：うずしおまつり、淡路花祭 ・4月：城崎温泉祭 ・5月：神戸祭、相生ペーロン祭 ・6月：ゆかたまつり、湯村温泉まつり ・7月：千燈祭

区 分	内 容
地理及び気候	・ 8月 : 姫路お城まつり、デカンショ祭 ・ 9月 : 高砂観月能 ・ 10月 : 淡路人形祭り、姫路けんかまつり、神戸ジャズストリート ・ 11月 : 有馬大茶会、出石お城まつり、三木金物まつり ・ 12月 : 赤穂義士祭、神戸ルミナリエ
主要観光地	・ 神戸地域 : 六甲山、有馬温泉、北野異人館、生田神社、明石海峡大橋、南京町 ・ 阪神地域 : 甲子園球場、宝塚大劇場、中山寺、兵庫県立芸術文化センター ・ 東・北播磨地域 : 明石公園、兵庫県立フラワーセンター、五百羅漢・玉丘古墳 ・ 中・西播磨地域 : 姫路城、姫路セントラルパーク、赤穂城跡・大石神社、ちくさ高原 ・ 丹波地域 : 兵庫県陶芸美術館、篠山城跡・河原町妻入商家群 ・ 但馬地域 : 城崎温泉、竹田城跡、余部鉄橋、大乘寺、湯村温泉、城崎マリワールド ・ 淡路地域 : 淡路夢舞台、洲本温泉、沼島、うず潮と大鳴門橋

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ 県内総生産(名目) : 19兆6,467億円 ・ 1人当り県民所得 : 288万2千円 ・ 財政規模(2008年度当初予算) － 総額3兆4,612億6,600万円 － 一般会計1兆9,762億3,600万円 － 特別会計1兆2,750億4,400万円 － 公営企業会計2,099億8,600万円
産業現況	・ 産業構造(県内総生産の構成) － 第1次産業 : 0.47%, ー 第2次産業 : 29.27%, ー 第3次産業 : 70.26% ・ 主要産業団地 － 尼崎臨海地区 : 面積17ha － 播磨科学公園都市 : 面積79ha － ひょうご情報公園都市 : 面積15.6ha

区 分	内 容
主要産品	・農水産物 － 全国1位：酒米「山田錦」1万 5,955トン 全国シェア 78.9% － 全国1位：ずわいがに 1,512トン 全国シェア 31.2% － 全国1位：はたはた 3,090トン 全国シェア 21.5% ・工業産品 － 全国1位：天然・養殖真珠装身具 174億8,800万円 全国シェア 69.4% － 全国1位：綿香類 121億6,100万円 全国シェア 40.9% － 全国1位：学生かばん・ランドセル等 81億 2,600万円 全国シェア 41.8% ・その他 特産品 － 全国1位：清酒 1,449億2,700万円 全国シェア 27.2% － 全国1位：釣針 151億9,700万円 全国シェア 95.0% － 全国1位：マッチ 40億5,600万円 全国シェア 93.0% － 全国1位：ケミカルシューズ 500億4,200万円 全国シェア 63.0%

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：産業労働部観光・国際局国際交流課 ・住所：兵庫県 神戸市中央区下山手通5丁目10番地1 ・電話及びFAX T. +81-78-362-3025 F. +81-78-362-3961
国際姉妹交流 自治体	・アメリカ合衆国：ワシントン州 ・ロシア連邦：ハバロフスク地方 ・ブラジル連邦共和国：パラナ州 ・オーストラリア：西オーストラリア州 ・中華人民共和国：広東省 ・中華人民共和国：海南省 ・パラオ共和国：パラオ共和国
インターネット ホームページ	http://web.pref.hyogo.lg.jp/index.html

9) 鳥取県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 県名の由来 日本最初の歴史書「古事記」には、大和朝廷が諸国に鳥を捕らえさせ、これを税として納めるように命じていたという一節がある。当時、鳥取平野は沼や沢の多い湿地帯で、水辺に集まる鳥などを捕らえて暮らす狩猟民族が住んでいた。これらの人々が、大和政権の支配体系に組み込まれ、「鳥取部」として従属するようになり、そこからこの地の呼び名「鳥取県」が生まれたとされている。 • 歴史上の特記事項 鳥取県では、妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡など、全国、世界に誇れる重要な遺跡が多数発見されている。これらの遺跡を、当時、この一帯が大陸や朝鮮半島と盛んな交流を持ち、豊かな土地であったことを物語っている。 • 現在の自治体の誕生 1871年(明治4年)、廃藩置県により、因幡・伯耆両国と隠岐国とによって鳥取県が誕生した。その後、1876年(明治9年)、府県改廃により、いったん島根県に併合されたが、地元士族を中心とした熱心な再置運動が実り、1881年(明治14年)、隠岐島を島根県に残し、再び鳥取県として分離された。
地区特性	• 位置 鳥取県は、日本列島本島の西端に位置する中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと、東西にやや長い県である。北は鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっている。山地の多い地形ながら、3つの河川の流域に平野が形成され、それぞれ鳥取市、倉吉市、米子市が流域の中心都市として発達している。気候は比較的温暖で、春から秋は好天が多く、冬には降雪もあるなど、四季の移り変わりは鮮やかである。また、台風などの自然災害が少なく、気候条件に恵まれている。
シンボル	• 県章  • 県の花：二十世紀梨の花 • 県の木：ダイセンキャラボク • 県の魚：ヒラメ • 県の鳥：おしどり

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	- 面積：3,507km² - 位置：北緯35° 3' 27" ～35° 36' 52", 東経133° 8' 9" ～134° 30' 55" - 気候：平均気温14.9℃、年間降水量2,003mm(2005)
人口及び世帯数	- 人口：594,915人(2008.10.1推計) - 世帯数：213,930世帯(2008.10.1推計) - 人口密度：170人/km²(2008.10.1推計値による)
行政区域	- 組織構成：知事(1名)、副知事(1名)、出納長(1名) - 職員数：5,040人(教員、警察官を除く)(2008.4.1現在) - 管内市町村：4市14町1村
文化行事	1月：酒津のトンドウ(鳥取市気高町) 4月：流し雛(鳥取市用瀬町ほか)、宇部神社例大祭(鳥取市国府町) 5月：花湯まつり(三朝町) 7月：みなと祭(境港市)、水郷祭(湯梨浜町) 8月：しゃんしゃん祭り(鳥取市)、貝殻節祭り(鳥取市気高町)、打吹まつり(倉吉市)、がいの祭(米子市)、江尾十七夜(江府町) 10月：三徳山炎の祭典、大山紅葉祭り
主要観光地	鳥取砂丘、浦富海岸、大山、三徳山、三朝温泉、皆生温泉など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- 県内総生産(名目)：2兆568億7,000万円(2006年度) 1人当り県民所得：2,422千円(2006年度) - 財政規模(2008年度当初予算) － 一般会計3,379億円, － 特別会計998億円
産業現況	- 産業構造(県内総生産の構成) － 第1次産業2.3%, － 第2次産業28.3% － 第3次産業72.8%(2006年度) - 主要産業団地 - 竹内工業団地(境港市)：企業用地面積83.1ha(未売却面積17.1ha)
主要産品	- 農水産品：二十世紀梨、すいか、メロン、ぶどう、柿、白ねぎ、ブロッコリー、砂丘らっきょう、砂丘ながいも、松葉がに、岩ガキ、白いか、ハタハタ、クロマグロ、鳥取和牛、鳥取地鶏、牛乳・乳製品 - 工業産品：電子部品・デバイス、飲料・たばこ・飼料、食料品、電気機械、情報通信機械 - その他特産品：地酒、和紙、緋、陶磁器

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署：文化観光局交流推進課 ・ 住所：鳥取県鳥取市東町1丁目220番地 ・ 電話及びFAX T. +81-857-26-7122 F. +81-857-26-2164
国際姉妹交流 自治体	・ 韓国：江原道(1994年交流提携) ・ 中国：河北省(1986年交流提携) ・ 中国：吉林省(1994年友好交流) ・ ロシア：沿海地方(1991年友好交流) ・ モンゴル：中央県(1997年友好交流)
インターネット ホームページ	http://www.pref.tottori.lg.jp/

10) 島根県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 現在の自治体の誕生 1871年廃藩置県で島根、大森、津和野の3県が設置され、隠岐は鳥取県に属していた。津和野はその後浜田県になった。1876年には鳥取県を含め大規模な1県となったが、1881年に再度島根、鳥取の両県に分かれ、出雲、隠岐、石見が島根県の管轄になった。
地区特性	・ 位置：島根県は中国地方の北部にあり、東は鳥取県に接して京阪神地方に通じ、西は山口県をはさんで九州地方に、南は中国山地をへだてて広島県に接し、北は日本海に臨み、島根半島の北方40～80kmの海上には隠岐諸島がある。
シンボル	・ 県章  ・ 県の花：牡丹 ・ 県の木：黒松 ・ 県の魚：飛魚 ・ 県の鳥：白鳥

○ 一般概況

区 分	内 容
地理及び気候	- 面積：6,707.78km²(2007年10月1日) - 位置：北緯34° 18' ～37° 14' ,東経131° 40' ～133° 23' - 気候：平均気温15.3℃、年間降水量1,640mm
人口及び世帯数	- 人口：731,044人(2007.10.1現在) - 世帯数：272,241世帯(2007.3.31現在) - 人口密度：109人/km²(2007.10.1現在)
行政区域	- 組織構成：知事(1名)、副知事(1名)、7部2局60課1室 - 職員数：13,325人(2007.4.1現在) - 管内市町村：8市12町1村
主要観光地	足立美術館、松江城、出雲大社、石見銀山、津和野

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- 県内総生産(名目)：2兆4,875億円 - 一人当たり県民所得：243万7千円 - 財政規模(2008年度当初予算) - 一般会計5,012億円、特別会計1,009億円
産業現況	- 産業構造(15歳以上の就業者数比) - 第1次産業10.1%、第2次産業25.2%、第3次産業64.1% - 分離不能の産業0.6%(2005年10月1日現在)
主要産品	主要農作物収穫量(2006年)：水稻、だいこん、きゃべつ、はくさい、たまねぎ

・ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：島根県環境生活部文化国際課 - 住所：島根県松江市殿町1番地 - 電話及びFAX T. +81-852-22-6463, F. +81-852-22-6412
国際姉妹交流 自治体	- 中国：寧夏回族自治区、吉林省 - ロシア：沿海地方
インターネット ホームページ	http://www.pref.shimane.lg.jp/

3. 韓国会員自治体

1) 釜山広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	- 釜山は15世紀の前半まで使われた富山浦という地名から由来している。 - 釜山(東萊)は国の関門として国防上の要衝地であった。 1949年8月15日府制が市制に改称され、釜山市になる。 1995年1月1日釜山広域市に改称
地域特性	釜山は韓半島の南東端に位置し、釜山湾を母胎に成長した都市として、地形的に韓半島の背骨である太白山脈の末端である浦項構造盆地から南西方向に進路を変えると大韓海峡にぶつかり、小半島と島そして湾入した豊かで典型的なリアス式海岸の特性を持っている。
市のシンボル	- シンボルマーク  - 市の花：椿 - 市の鳥：カモメ - 市の木：椿の木

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：765.64km² - 位置：朝鮮半島南東端 北緯：34° 52′～35° 23′、東緯128° 45′～129° 18′ - 気候 - 平均気温：14.9℃(7月：23.9℃, 12月：3.8℃) - 四季がはっきりした温帯気候
人口及び世帯	- 人口：3,603,551(男：1,794,937, 女：1,808,614) - 人口密度：4,707人/km²
道路現況及び車両	- 道路総延長：2,515,175km(舗装率 96.9%), 市・郡・道2,515,175km - 車両登録台数：1,038,954台

区 分	内 容
教育機関	・総数：1,036校 - 幼稚園378、小学校 293、中学校 170、一般系高等学校 94、実業系高等学校 43、専門大学 10、大学12、教育大学1、大学院15、その他20校
行政区域 及び職制	・市長1、副市長2、3室2本部7局5管61課 ・行政区分：15区1郡、217邑面洞 ・公務員数：15,933名(市6,240、自治区(郡)9,697)
主要行事	花火祭り、釜山国際映画祭、釜山国際演劇祭、BIFCOM、釜山国際ロックフェスティバル、日の出祭り、プレタポルテ(国際ファッションショー)、釜山国際モーターショー
主要観光地 文化遺跡	広安里、海雲台海水浴場、三光寺、梵魚寺、龍頭山公園、PIFF広場と劇場、ヌリマルAPECハウス、乙淑島エコーセンター、福泉洞古墳群、新羅土城など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・GRDP：511,694億ウォン ・1人当りGRDP：14,515.2千ウォン
産業現況	・産業構造：釜山は1970年代末までに、履物、繊維などの軽工業や成長を主導した合板業で、驚くべき経済成長を見せた。以後、産業の再編を粘り強く行い、実際成長潜在力が大きく釜山経済を主導する10種の戦略産業を選定して、集中的に投資を行って来ている。港町としての広いビジョンで、環太平洋地帯から、物流、情報、金融及び観光の主要拠点の役割をする国際交流の中心地へ釜山を開発していくためである。 － サービス業 69.4%、製造業 18.1%、建設業 8.9%、農林業 1%、その他 2.6% － 主要産業：映画映像、観光、造船機資材など ・産業基盤施設 － 産業団地名：葦山国家産業団地 面積：6,972千㎡ － 産業団地名：新湖産業団地 面積：1,250千㎡ － 産業団地名：釜山科学産業団地 面積：1,970千㎡ － 産業団地名：長安産業団地 面積：1,320千㎡
主要産品	船舶及び自動車部品、履物

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	• 担当組織：国際協力担当官 • 住所：釜山広域市蓮堤区蓮山5洞 1000番地 • 電話及びFAX T. +82-51-888-3541 F. +82-51-888-4039
国際友好提携都市	• 姉妹都市 - 台湾：高雄市 - 米国：ロサンゼルス市、シカゴ市 - 日本：下関市、福岡市 - スペイン：バルセロナ市 - ブラジル：リオデジャネイロ市 - ロシア：ウラジオストック市、サンクトペテルブルグ市 - 中国：上海市 - インドネシア：スラバヤ市 - オーストラリア：ビクトリア州 • 友好協力都市 - 中国：深圳市、天津市 - 日本：大阪市 • メキシコ：ティファナ市 • ベトナム：ホーチミン市 • ニュージーランド：オークランド市 • チリ：バルパライソ • 南ア共和国：西ケープ州 • カナダ：モントリオール市 • トルコ：イスタンブール市 • アラブ首長国連邦：ドバイ市
インターネットホームページ	http://www.busan.go.kr/

2) 大邱広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 数年前に月城洞で、旧石器時代の遺物である細石刃石器が発見され、およそ2万年の前の旧石器時代のものと推定された。 • 大丘という名前は、新羅の景德王の時代(757年)に初めて使われる。以後、朝鮮時代(1780年)に‘大邱’に変更 • 1601年慶尚道の行政、産業、軍事を統轄する慶尚監營が設置、政治経済文化全分野において嶺南地域の生活中心地になる。 • 1981. 7. 1直轄市に昇格 • 1995. 1. 1大邱広域市に改称

区 分	内 容
地域特性	・ グローバル知識経済自由都市 ・ 繊維ファッション都市
市のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 市の鳥：鷺 ・ 市の木：もみの木 ・ 市の花：木蓮

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：884.46 km² ・ 位置：北緯 35° 36' ～ 36° 01'、東経128° 21' ～ 128° 46' ソウルと300km、釜山とは120km 離れている。 ・ 気候：大陸性気候、年平均気温14.6℃(最高37.2℃, 最低-10.1℃)、降水量1,131.5mm
人 口	・ 人口：2,512,670(男：1,259,705, 女：1,252,965) ・ 人口密度：2,842人/km²
道路現況 及び車両	・ 高速道路 大邱は京釜、88、邱馬、中央、大邱-浦項、新大邱-釜山、大邱- 玄風 高速道路など 7の 高速道路が交差して陸路交通が非常に円滑 ・ 車両登録台数：889,324台
教育機関	・ 総数：751校 幼稚園 286、小学校 205、中学校 120、一般系高等学校 67、実業系高等学校 20、専門大学 9、大学 2、教育大学 1、大学院 32、その他 9校
行政区域 及び職制	・ 市長 1、副市長 2、室 1、本部 1、局 9、団1、課 48 ・ 行政区分：7区 1郡、134洞、3邑、6面 ・ 公務員数：10,930人(市4,672、区・郡 4,679、邑面洞 1,579)
主要年中行事	大邱国際ミュージカル祭り、大邱国際オペラ祭り、大邱カラフル祭り(姉妹都市の日)、大邱国際陸上競技大会、E-ゲームフェスティバル、PID、DIOPS、大邱慶北観光エキスポ、グリーンエキスポ、消防防災エキスポ
主要観光地 文化遺跡	八公山、冠峰、桐華寺、把溪寺、大邱郷校、国立大邱博物館、道東書院、薬令市

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP : 279, 280 (億ウォン) • 1人当りGRDP : 11, 243 (千ウォン)
産業現況	• ビジョンと発展戦略 - ビジョン : ‘2011世界陸上選手権大会’、‘知識創造型大邱慶北経済自由区域’ 開発, ‘国家科学産業団地造成’ など大型プロジェクト推進の成功を通じて、大韓民国知識産業の中心 ‘グローバル知識経済自由都市大邱’ として跳躍 - 発展戦略 : 広域経済圏活性化、知識基盤産業育成、低炭素グリーン成長先導、グローバル都市インフラ構築 - サービス業 68.7%、工業製造業 21.8%、建設業 9.0%、農林業 0.5% - 主要産業 : 機械金属、自動車部品、繊維 • 産業基盤施設 - 産業団地現況 : 10地方産業団地 23, 442千㎡ (6, 239業者入居)
主要産品	船舶及び自動車部品、履き物

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	• 担当組織 : 国際通商課 • 住所 : 大邱広域市中央区公平路130番地 (〒) 700-714 • 電話及びFAX T. +82-53-803-3265 F. +82-53-803-3259
国際姉妹友好都市	• ロシア : サンクトペテルブルグ • カザフスタン共和国 : アルマトイ • 中国 : 瀋陽、寧波、揚州、青島、延慶 • ベトナム : ダーナン • ブルガリア : プロヴディフ • 日本 : 広島 • イタリア : ミラノ • 米国 : アトランタ • ブラジル : ミナスジェライス
インターネットホームページ	http://www.daegu.go.kr

3) 仁川広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 仁川の最初名称は 彌鄒忽 ・ 1413. 10. 15 朝鮮太宗13年仁州で仁川郡に変更 ・ 1883. 1. 1 開港 ・ 1910 仁川府設置 ・ 1914 仁川府の一部と富平郡を併合し、富川郡設置、月尾島を仁川府に編入 ・ 1981. 7. 1 仁川直轄市に昇格 ・ 1995. 1. 1 仁川直轄市から仁川広域市に名称変更 ・ 1995. 3. 1 江華郡、甕津郡、金浦郡 黔丹面を仁川広域市と統合
地域特性	・ 地形は蘇萊山(279m)、文学山(213m)、桂陽山(396m)が東・西・北側に位置し、三角形に対峙するその間に、海拔 50-60mの低い丘陵が市街地へ連続的に広がっている。
市のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 市の花：バラ ・ 市の鳥：タンチョウヅル ・ 市の木：ユリの木

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：1007.47km² ・ 位置：朝鮮半島西海岸の中央部 北緯：37° 28'、東経：126° 37' ・ 気候：平均気温：12.7℃(最高：38.9℃、最低：-21.0℃) 年間降水量：1,120.3mm
人 口	・ 人口：2,664,576人(男：1,342,975、女：1,321,601) ・ 人口密度：2,645人/km²
道路現況及び車両	・ 道路総延長：2,274.9km(舗装率 92.0%) 国道 75.0km、市郡道 2,165.3km、地方道 - km、国家支援地方道 34.6km ・ 車両登録台数：853,226台

区 分	内 容
教育機関	- 総数：828校 - 幼稚園 334、小学校 227、中学校 120、一般系高等学校 75、実業系高等学校 30、専門大学 5、大学 4、教育大学、大学院 23、その他 9校
行政区域 及び職制	- 市長 1、副市長 2、室 1、局 9、本部 2、官 4、担当官 6、課 49、担当 226、直属機関 12、出張所 1、事業所 18 - 行政区分：1市 10郡区、1邑 19面 123洞 - 公務員数：12,728人(市 5,758、郡区 5,284、邑面洞 1,686)
主要年中行事	10.15仁川市民の日、仁川海洋海祭り、仁川空祭り、仁川富平風物祭り、仁川蘇萊浦口祭り
主要観光地 文化遺跡	竜游島 乙旺里、徳積島 飛鳥峰、月尾島 文化の街、沿岸埠頭、蘇萊浦口、江華 摩尼山、席毛島、普門寺、積石寺 など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GRDP：379,157億ウォン 1人当り GRDP：14,705.1千ウォン - 財政規模：6兆5千万ウォン
産業現況	- 産業基盤施設：仁川の国家産業団地と地方産業団地の造成面積は 16,493km²、全6,155業者の中で 5,770業社が稼働中であり、99,855人が従事 - 国家産業団地：南洞産業団地 9,574km²、朱安産業団地 1,136km²、富平産業団地 610km² - 地方産業団地：地方産業団地1,136km²、機械産業団地 350km²、西部産業団地 938km²、河帖産業団地 59km²、松島T/P産業技術団地 453km²、青羅1地区産業団地 194km²、松島知識情報産業団地 2,043km²
主要産品	

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：国際協力官室 ・ 住所：仁川広域市南洞区市庁前25仁川広域市庁(〒)405-750 ・ 電話及びFAX T. +82-32-440-3215 F. +82-32-440-8625
国際友好提携都市	・ アメリカ：バーバンク、フィラデルフィア、 アンカレッジ、ホノルル ・ 日本：北九州市 ・ 中国：天津、重慶 ・ ベトナム：ハイフォン ・ パナマ：パナマ ・ イスラエル：テルアビ ・ エジプト：アレクサンドリア ・ インド：コルカタ ・ メキシコ：メリダ ・ フィリピン：マニラ
インターネットホームページ	http://www.incheon.go.kr

4) 光州広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1948年大韓民国政府樹立とともに光州府は1949年光州市に変わる。 ・ 1986年11月釜山・大邱・仁川に引き続き4番目の直割市に昇格 ・ 1995年1月光州直轄市が光州広域市に名称変更
地域特性	・ 西南圏の中核管理都市：湖南の中心都市として交通の要衝地であり、光州先端産業団地建設、大規模な都市開発事業たちが増えるなど、西南圏の中核管理都市として生まれかわっている。 ・ 愛国忠節の都市：日帝時代には抗日独立運動、1980年5月には正義・民主・人権・自由を守るために多くの市民たちが血が流した。5・18民衆抗争の犠牲者を慰めてその精神を継承するために5月18日を国家記念日に制定。5・18墓地聖域化事業など記念事業を積極的に推進している。 ・ 文化芸術の中心都市：学が高い学者や詩人、墨画家をたくさん排出し、南画とパンソリの故郷である。他地域に比べて住民の文化水準が高く、芸術分野に携わる人が多い。世界的な美術祭である“光州ビエンナーレ”創設 ・ 先端産業のメッカ：国内唯一の光産業クラスター形成でアジア最高の光産業のメッカとして跳躍するのはもちろん、2010年世界5大光産業都市として成長。BT、IT、NT 融合産業、家電ロボット、次世代電子金融産業等新産業の育成を通じた未来成長型産業構造の再編

区 分	内 容
市のシンボル	・ シンボルマーク ・ 市の花：クロフネツツジ ・ 市の鳥：鳩 ・ 市の木：銀杏 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：501.28km² ・ 位置：韓半島の南西部を占めている湖南地方の中心部 北緯：北緯35° 09' ~35° 10'、東経126° 38' ~127° 00' ・ 気候：平均気温13.6℃(1月平均：-0.0℃、8月平均：26.1℃)、降水量：1,289mm
人 口	・ 人口：1,423,460人(男：706,959、女：716,501) ・ 人口密度：2,840.0人/km²
道路現況 及び車両	・ 道路総延長：2,162km(舗装率 99.6%) ・ 車両登録台数：462,456台
教育機関	・ 総数：586校 幼稚園237、小学校138、中学校81、一般系高等学校48、実業系高等学校13、専門大学7、大学校9、教育大学1、大学院45、その他8校
行政区域 及び職制	・ 1市長、2副市長、2室6局2本部 ・ 行政区分：1市5区91洞 ・ 公務員数：6,410人(本庁1,032)
主要行事	・ 光州ビエンナーレ、光州デザインビエンナーレ、林芳蔚 国楽祭、光州キムチ祭り、光州鄭律成国際音楽祭、光州国際光産業博覧会など
主要観光地 文化遺跡	・ 無等山、氷月堂、褒忠祠、林芳蔚生家、5・18自由公園など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP : 190,490億ウォン • 1人当りGRDP : 13,199千ウォン • 輸出額 : 10,144百万アメリカドル
産業現況	• 産業構造 － 1次 : 1.2% 2次 : 26.7% 3次 : 71.1% • 産業基盤施設 － 産業団地 : 10(平洞外国人専用工団、河南産団、松岩産団など) － 研究所 : 光州科学技術院、韓国光技術院、高等光技術院、超高速光ネットワーク研究センター、デジタル家電製品研究センターなど20余り － 毎年18の大学と50の実業高校で、35,000人の専門人材を供給
主要産品	• 農産品 : 無等山すいか、チェリートマト、青陽トウガラシ、いちご、ナス、甘柿 • 工業品 : 自動車、家電製品、尖端部品素材、半導体、文化コンテンツ • 工芸品 : 筆、陶磁器、螺鈿漆器、紙工芸

○ その他

区 分	内 容		
連合担当部局	• 担当組織 : マーケティング企画課 • 住所 : 光州広域市西区内防路410(〒)502-702 • 電話及びFAX T. +82-62-613-3082 F. +82-62-613-3089		
国際友好提携都市	<table border="0"> <tr> <td> • 台湾 : 台南市 • 米国 : サンアントニオ市 • 日本 : 仙台 • 中国 : 広州、武漢、瀋陽 </td><td> • インドネシア : メダン市 • イタリア : トリノ • ドイツ : ザールラント </td></tr> </table>	• 台湾 : 台南市 • 米国 : サンアントニオ市 • 日本 : 仙台 • 中国 : 広州、武漢、瀋陽	• インドネシア : メダン市 • イタリア : トリノ • ドイツ : ザールラント
• 台湾 : 台南市 • 米国 : サンアントニオ市 • 日本 : 仙台 • 中国 : 広州、武漢、瀋陽	• インドネシア : メダン市 • イタリア : トリノ • ドイツ : ザールラント		
インターネットホームページ	http://www.gwangju.go.kr/		

5) 大田広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 百済の時には雨述郡、新羅の時には比豊郡、高麗の時には懷徳県・儒城県・鎭岑県に属した地域 ・ 朝鮮時代には、懷徳県・鎭岑県で大きな変動なく続いて来て、高宗32年(1895)地方行政制度の改編で懷徳郡・鎭岑郡地域になる。 ・ その後1914年3月1日、懷徳郡・鎭岑郡と公州郡の一部が合わさって大田郡が新設される。また、従来の懷徳郡と懷南面地域を中心に大田面が新設され、この地域が現在の大田域市の母体になる。 ・ 1949年8月15日大田市になる。1989年1月1日大徳郡全域を編入して大田直轄市になり、1995年1月1日大田広域市に名称が変更
地域特性	・ 韓国先端科学の先駆けである大徳研究団地の技術の源泉と高級ブレインを保有している研究開発の核心都市 ・ 嶺南と湖南に通じる三南の関門として、首都ソウルまでは167.3km、釜山までは294km、光州までは169kmの距離にある。 ・ 京釜・湖南高速道路、国道が分岐している韓国交通の要地である。
市のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 市の花：ハクモクレン ・ 市の鳥：カササギ ・ 市の木：松の木

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：539.79km² ・ 位置：韓半島の中部地方 北緯：36° 10′ ～ 36° 29′、東経：127° 14′ ～ 127° 33′ ・ 気候：平均気温12.3℃(最高：25.5℃, 最低：-1.9℃), 降水量：1,353.8mm
人 口	・ 人口：1,487,836人(男：745,359, 女：742,477) ・ 人口密度：2,757人/km²

区 分	内 容
道路現況 及び車両	- 道路総延長：1,845km(舗装率100%)、国道69km、市郡道83km、地方道1,664km、 国家支援地方道29km - 車両登録台数：537,554台
教育機関	- 総数：602校 - 幼稚園237、小学校138、中学校86、一般系高等学校48、実業系高等学校12、専門大学6、大学 13、大学院58、その他4校
行政区域 及び職制	- 市長1、副市長2、1室7局2本部3官4担当官、46課 - 行政区分：1市5区 - 公務員数：6,831人(市本庁：1,095、自治区：3,697)
主要年中行事	新灘津春花祭り、同春堂文化祭、尤庵文化祭、大田サイエンスフェスティバルなど
主要観光地	国立中央科学館、エキスポ科学公園、宝文山、九峰山、儒城温泉、大清湖、鶏足山
文化遺跡	大清湖、鶏足山

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GRDP：195,140億ウォン 1人当りGRDP：13,830ドル - 財政規模：24,021.18億ウォン
産業現況	- 産業構造 - 農林漁業：1.07%、鉱工業：12.05%、社会間接資本及びその他：86.8% - 産業基盤施設：産業団地(5カ所) - 面積8,660千㎡、従事者数22,217人 - 入居社数：696カ所、生産額：38,690億ウォン - 稼働率：96.6%
主要産品	

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：国際教育担当官 ・ 住所：大田広域市西区屯山洞1420(郵)302-789 ・ 電話及びFAX T. +82-42-600-2246 F. +82-42-471-2441
国際友好提携都市	・ 米国：シアトル ・ 日本：大田(島根県) ・ 中国：南京 ・ ハンガリー：ブタペスト ・ カナダ：カルガリー ・ メキシコ：グアダハラ ・ スウェーデン：ウプサラ ・ ロシア：ノボシビルスク ・ オーストラリア：プリズベン ・ ベトナム：ビンズオン省
インターネットホームページ	http://www.metro.daejeon.kr

6) 蔚山広域市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 三韓時代：辰韓に属する ・ 朝鮮時代：高宗32年蔚山都護府が蔚山に改称 ・ 1962年1月蔚山特定工業地区に指定、公布 ・ 1995年1月蔚山市、郡統合 ・ 1997年7月蔚山広域市になる
地域特性	・ 蔚山を横切って太和江が流れ、蔚山湾には蔚山港、温山港、方魚津港と続く港町である。蔚山はこれらの港を通じて東アジアに伸びて行く韓国の関門の役目を果たして来ており、今日でも世界様々な国と交流・協力関係を広げている。 ・ 港の丘陵地に形成された約1千9百万坪の工業用地は、産業都市蔚山の発展基礎になっている。
市のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 市の花：梨の花 ・ 市の鳥：シラサギ ・ 市の木：銀杏

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：1,057km² - 位置：蔚山広域市は東アジアの中央部、韓半島の東南端に位置し、天恵の温暖な気候を持つ港市である。北緯：33° 06′ ～34° 00′ 東経：126° 08′ ～ 126° 58′ - 気候：平均気温：15℃(1月平均4.8℃、8月平均27.5℃)、降水量：1,135.8mm
人 口	- 人口：1,109,295人(男：571,183、女：538,112) - 人口密度：1,043.5人/km²
道路現況 及び車両	- 道路総延長：3,138.5km(舗装率95.04%) 国道194.8km、広域市道1,247.9km、国家支援地方道12.9km - 車両登録台数：394,770台
教育機関	- 総数：406校 - 幼稚園180、小学校117、中学校56、一般系高等学校33、実業系高等学校12、専門大学2、大学1、その他3校
行政区域 及び職制	1市長、2副市長、2室6局1本部39課 - 行政区分：1市5区郡、58邑・面・洞 - 公務員数：5,209人(市2,306、区・郡2,903)
主要行事	処容文化財、車の無い街文化祭り、長生浦鯨祭り、浜辺祭りなど
主要観光地 文化遺跡	蔚山12景、潤月寺址、朴堤上遺跡、東竺寺、LG化学蔚山工場、石油化学団地及び温山工団、現代自動車蔚山工場、現代重工業など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GRDP：412,266億ウォン 1人当りGRDP：38,367千ウォン

区 分	内 容
産業現況	- 産業構造：農林漁業(0.5%)、鉱業及び製造業(66.4%)、その他(33.1%) - 産業基盤施設 - 国家産業団地：蔚山産業団地(48,055千㎡)、温山産業団地(17,283千㎡) - 農工団地：4カ所(上北、斗西、斗東、達川)595千㎡
主要産品	主要輸出品及び輸出額(2007年末基準) 自動車：15,940百万ドル、造船：9,962百万ドル、石油化学製品：23,074百万ドル

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	- 担当組織：国際協力課 - 住所：蔚山広域市南区中央路 182 (〒)680-701 - 電話及びFAX T. +82-52-229-2744 F. +82-52-229-2779
国際友好提携都市	- 姉妹都市 - 日本：萩 - 台湾：花蓮 - 米国：ポートランド - 中国：長春 - トルコ：コジャエリ - ブラジル：サントス - ベトナム：カインホア省 - ロシア：トムスク州 - 友好協力都市 - 中国：広州、煙台、無錫 - 日本：新潟
インターネットホームページ	http://www.ulsan.go.kr

7) 京畿道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	- 京畿道は漢江に沿って旧石器時代から部族国家が形成され、紀元前75年辰国が三国に分離し、馬韓と辰韓になった。 - その後百済が河南慰礼城に首都に定めたことから、京畿道の地域は400年の間百済の領地になった。 - 我が国で京畿という名称を最初に使ったのは、高麗献宗9年(1018)の時である。 - 京畿道が現在の形態に確立されたのは、世宗朝になり国都を漢陽に遷都した1394年以後である。
地域特性	- 京畿道は東北アジアに長く伸びた朝鮮半島の西部中央地域で西海岸と接しており、朝鮮半島の中心部である首都ソウルを取り囲んでいる。 - 東側から西側へ流れる漢江によって南北に分けられ、漢江の北では山間地域が、漢江の南の地域には平野が広がっている。 - 漢江を中心に経済が発達し、昔から国家発展の中枢的機能を担って来ており、現在は南北和解と西海岸時代の前哨基地の役割を果たしている。 - 悠久な歴史の中で高句麗、新羅、百済の時代を経たことから、古代文化遺跡と文化的な遺産を多く保有している。
道のシンボル	- シンボルマーク  - 道の花：レンギョウ - 道の鳥：鳩 - 道の木：銀杏の木

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：10,114km² - 位置：韓半島の西部中央地域 東経 126° ～127°，北緯 36° ～38° - 気候：年平均気温11～13℃ 内陸に行くほど寒くなり気温差が大きくなる。 年平均降水量は1,100mm

区 分	内 容
人 口	- 人口：1,349千人 - 人口密度：1,044人/km
道路現況 及び車両	- 京畿道は対中国の物流前進基地として急浮上している平澤港を含め、京釜・西海岸・東西高速道路及び鉄道・首都圏の電車など四通八達の交通網と広闊な国家・地方産業団地を持ち、21世紀北東アジア貿易・物流の拠点地域として跳躍している。 - 道路総延長：13,476km(舗装率 80.8%) 高速道路440km、国道1,489km、地方道2,713km(市郡含む) - 車両登録台数：365万台(2006)
教育機関	全体教育機関：4,042校(2007年現在) 幼稚園1,835、小学校1,068、中学校516、高等学校367、専門大学35、教育大学1、大学38、大学院153、その他学校29校
行政区域 及び職制	1道知事、3副知事、5室、11局、2本部 - 行政区分：27市4郡(20区31邑111面393洞) - 公務員数：42,401人(道8,275、市郡34,126人)
主要行事	楊州別山台遊び、楊州牛追い祭祀、華城国際演劇舞踊祭、安城男寺党風物遊び、金浦国際野外彫刻シンポジウム、果川世界野外劇、水原華虹文化祭
主要観光地 文化遺跡	水原華城、北漢山城、南漢山城、幸州山城、龍珠寺、廣州朝鮮白磁陶窯址、統一展望台、板門店 など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GRDP：163兆9,827億ウォン('05年現在) 1人当りGRDP：15,267.0千ウォン - 道の財政規模：287,577億(市・郡包む)
産業現況	- 産業構造 - 農林漁業：2.4%、鉱業・製造業：52.3%、サービス業及びその他：45.3% - 産業基盤施設 - 産業団地名：国家工団4ヵ所(33,526千㎡)、地方工団44ヵ所(14,758千㎡)、農工団地1ヵ所(117千㎡) ▶ 11,784社254,379人従事
主要産品	- 農水産物：米、梨、葡萄、ピーナッツ、松の実 - 工産品：半導体、電子、繊維、機械、化学など - 特産品：安城鎡器、驪州、利川、広州陶磁器など

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：京畿道庁経済政策課展示コンベンションチーム ・ 住所：京畿道水原市八達区道庁前路63（〒442-781） ・ 電話及びFAX T. +82-31-249-2191 F. +82-31-249-3218
国際友好提携都市	・ 日本：神奈川県 ・ 中国：遼寧省、山東省、広東省 ・ 米国：フロリダ州、バージニア州、ユタ州 ・ オーストラリア：クイーンズランド州 ・ スペイン：カタルーニャ州 ・ オランダ：北ホランド州 ・ ロシア：モスクワ州
インターネットホームページ	http://portal.gg.go.kr

8) 江原道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 部族国家の形態を成していた上古時代には 濊国と貊国があったと伝えられており、三国時代には高句麗、百済、新羅が互いに争っていた。弓裔が鉄原に都を定め高麗を建国した後にも行政区域が何回も変わっている。 ・ 朝鮮時代太祖4年(1395)に江原道と称するようになって今日に至る。
地域特性	・ 韓半島の東中部に位置し、朝鮮半島の背骨である太白山脈が南北に伸びている。 ・ 東に212kmの海岸線が日本海と面し、北には145kmの非武装地帯と面しており、38度線はほぼ中央部を通過する。 ・ 太白山を中心に東は海洋性気候で夏に涼しく冬は暖かく、内陸は大陸性気候で夏に蒸し暑く冬は大変寒い。 ・ 特に春川(道庁所在地)地域は湖に囲まれているので、霧が多く立ち込めるといふ特徴がある。
道のシンボル	・ シンボルマーク・  ・ 道の花：クロフネツツジ ・ 道の鳥：タンチョウ ・ 道の木：チョウセンマツ ・ 道の動物：ツキノワグマ

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：20,569km²、休戦線以南は16,873.61km²(林野：13,665.66km²、農耕地：1,668.69km²、その他：1,539.25km²) - 位置：朝鮮半島の中東部。北緯37° 02′ ～38° 37′、東経127° 05′ ～129° 22′ 北緯38度線は江原道のほとんど中央部を通過 - 気候：年平均 気温11.4℃、年平均降水量1,332mm
人 口	- 人口：1,505,420人(男：756,894、女：748,526) - 人口密度：89.8人/km
教育機関	全体：1,125校 幼稚園415、小学校363、中164、一般系高67、実業系高48、専門大10、教育大学1、大学8、大学院35、その他14校
道路現況 及び車両	- 江原道の交通網は高速化、先端化、広域化によって道内全域が2時間以内の生活圏であり、新日本海圏時代、南北交流及び統一に備えた多様な交通体系を整備により新交通時代が始まる。 - 道路総延長：9,540km(舗装率69.7%) 高速道路286km、国道1,971km、地方道1,647km、市郡道5,636km - 車両登録台数：568,213台
行政区域 及び職制	- 道知事 1、副知事 2、1室、6局、2本部 - 行政区分：市郡庁18、邑面洞187 - 公務員数：16,147人(道1,032、市郡9,890、邑面洞2,800)
主要行事	- 春川：MBC川辺歌謡祭、国際人形劇祭、パントマイム祭り、マックス(そば)祭り - 襄陽：マツタケ祭り - 束草：雪花祭り、国際マラソン大会 - 江陵：端午祭 - 太白：つつじ祭 - 原州：国際ウォーキング大会
主要観光地 文化遺跡	雪嶽山国立公園、五台山国立公園、雉岳山国立公園、洛山道立公園、統一安保観光コース、武陵溪

○ 経済現況

区 分	内 容																											
経済水準	• GRDP：25,259.5十億ウォン • 1人当りGRDP：17,178.7千ウォン • 道の財政規模：3,069,005百万ウォン																											
産業現況	• 産業別 実質成長率(2007年基準) － 農林漁業：11.2%、金融保険業：9.8%、製造業：4.4%、教育サービス業：4.2%、通信業：4.3%、鉱業：-5.4% • 産業基盤施設																											
	<table><tr><th>団地名</th><th>造成面積 (㎡)</th><th>主要業種</th><th>入居業者数</th></tr><tr><td>北坪国家産業団地</td><td>1,872,490</td><td>全製造業</td><td>33</td></tr><tr><td>原州文幕一般産業団地</td><td>410,290</td><td>繊維、化学</td><td>17</td></tr><tr><td>原州桐華一般産業団地</td><td>409,137</td><td>電子、映像、機械</td><td>18</td></tr><tr><td>退溪農工団地</td><td>341,379</td><td>電気、機械</td><td>128</td></tr><tr><td>台庄農工団地</td><td>297,524</td><td>電気、医療</td><td>102</td></tr></table>				団地名	造成面積 (㎡)	主要業種	入居業者数	北坪国家産業団地	1,872,490	全製造業	33	原州文幕一般産業団地	410,290	繊維、化学	17	原州桐華一般産業団地	409,137	電子、映像、機械	18	退溪農工団地	341,379	電気、機械	128	台庄農工団地	297,524	電気、医療	102
	団地名	造成面積 (㎡)	主要業種	入居業者数																								
	北坪国家産業団地	1,872,490	全製造業	33																								
	原州文幕一般産業団地	410,290	繊維、化学	17																								
	原州桐華一般産業団地	409,137	電子、映像、機械	18																								
	退溪農工団地	341,379	電気、機械	128																								
台庄農工団地	297,524	電気、医療	102																									
主要産品	• 農水産物：米、じゃがいも、とうもろこし、白菜、イカ、スケトウダラ、さば • 鉱産物：石灰石、石炭、鉄、珪石、珪砂、電力																											

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	• 担当組織 : 国際協力室 • 住所 : 江原道春川市鳳儀洞 15番地 • 電話及びFAX T. +82-33-249-2282 F. +82-33-249-4011
国際友好提携都市	• 姉妹提携(7) : 米国 コロラド州、カナダ アルバータ州、中国 吉林省、日本 鳥取県、モンゴル 中央県、ロシア 沿海地方、フィリピン セブ州 • 友好交流(10) : 日本 富山県、中国 遼寧省、米国 ネバダ州、南ア共和国 ムプマランガ州、ウクライナ オデッサ州、メキシコ オアハカ州、インドネシア ジョグジャカルタ州、ロシア サハ共和国、ベトナム クアンニン省、ドイツ オーバーフランケン県
インターネットホームページ	http://www.provin.gangwon.kr

9) 忠清北道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	- 三韓時代には馬韓地域に属し、三国時代には三国の領分争いが熾烈な地域だった。 - 高麗時代1106年に忠清道と称し、数回の区域改編を通じて朝鮮時代1896年現在の忠清北道に改名された。
地域特性	- アジア大陸の東端にある韓(朝鮮)半島の中央部に位置し、海の無い唯一の内陸道である。 - 北東に太白山脈、東に小白山脈、北西に車嶺山脈によって遮られた巨大な盆地地形を形成しており、農産物が豊富で、ソウル隣接地域には、京部中部高速道路、清州空港など交通が大きく発達しているため、中部圏の核心産業地帯として注目されている。 - 由緒ある文化と忠節の地方として、世界で最初に金属で活字をつくり、数多くの忠臣・烈士・孝子・孝婦を排出した誇り高い地域である。
道のシンボル	- シンボルマーク  - 道の花：白木蓮 - 道の鳥：カササギ - 道の木：ケヤキ

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：7,432km² - 位置：韓(朝鮮)半島の中央 北緯 37° 15' 20" ～ 36° 00' 35"、東経 128° 38' 15" ～ 127° 16' 40" - 気候：夏は高温多湿で冬は寒冷乾燥な温帯モンスーン気候。四季の変化が明確。 - 気温：最高平均 18.8℃、最高 33.5℃、最低平均 9.3℃、最低 -10.1℃、平均 13.7℃ - 降水量：1,562mm
人 口	- 人口：1,527,339(男：771,728、女：755,611) - 人口密度：205.5人/km²
道路現況及び車両	- 道路総延長：6,694km(舗装率73.3%) - 車両登録台数：56万9,460台

区 分	内 容
教育機関	・ 総数：869校 ・ 幼稚園349、小学校256、中学校128、高等学校82、専門大学5、教育大学1、大学8、大学院31、その他9校
行政区域 及び職制	・ 道知事 1、副知事 2、1室、7局、1本部、44室課、12直属機関、7事業所 ・ 行政区分：市郡庁12、邑面洞154(邑14、面89、洞51) ・ 公務員数：12,177人(道2,655、市郡7,197、邑面洞2,325)
主要行事	・ 忠北芸術祭(清州)、清州市民の日行事(清州)、ウルック文化祭(忠州)、堤川義兵祭(堤川)、俗離祝典(報恩)、蘭溪芸術祭(榮洞)、小白山つつじ祭(丹陽)
主要観光地 文化遺跡	・ 俗離山 法住寺、月岳山 国立公園、丹陽八景、陽山八景、上党山城、小白山国立公園、水安堡温泉、清州国立博物館、青南台、古印刷博物館

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GRDP：28兆5,943億ウォン(2008) ・ 1人当りGRDP：1,927万ウォン(2008) ・ 道の財政規模：2兆5,949億ウォン
産業現況	・ 産業構造 － 農林漁業4.8%、鉱製造業39.4%、サービス業など55.8% ・ 産業・農工団地現況('08.11月末現在) － 産業団地：36団地 49,354千㎡(国家2、地方34) － 農工団地：41団地5,538千㎡ ※ 造成中：23団地 28,191千㎡(産業：21ヶ、27,896、農工：2ヶ、295) ・ 製造業現況('07.12月末現在) － 業者数：6,142(大企業86、中小企業6,056) － 従業員：142千人(大企業35、中小企業107) ※ ベンチャー企業数('08.11月末現在)：358
主要産品	・ 農水産物：高麗人参、ぶどう、唐辛子、桃など ・ 工産品：半導体、磁気テープ、織物、綿糸、コンピューターヘッドなど ・ 手工芸品：陶磁器など

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：経済通商局 国際通商課 ・ 住所：忠清北道清州市上党区158番地 ・ 電話及びFAX T. +82-43-220-3274 F. +82-43-220-3259
国際友好 提携都市 (姉妹提携)	・ 米国：アイダホ州 ・ 日本：山梨県 ・ 中国：黒龍江省、広西チワン族自治区 ・ メキシコ：コリマ州 ・ アルゼンチン：チュブ州 ・ インドネシア：中部ジャワ州
インターネット ホームページ	http://www.cb21.net

10) 忠清南道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 忠清南道は三国時代百済の中心地として、熊津(公州)、泗沘(扶余)で燦爛たる文化の全盛期であった。 ・ 高麗時代には忠清道と呼ばれ、1896年から忠清南道という名称を使うようになった。
地域特性	・ 朝鮮半島の中心部である中部地方の南西部に位置し、全国どの地域からでも便利な交通網を備えており、車嶺山脈を中心にした東高西低の地形として海拔100m以下の丘陵地が全体の60%を占め、国内でも最も低い地域である。 ・ 国内5大名山のひとつである湍竜山がそびえ、4大河川のひとつである錦江が流れ、海岸線は典型的なリアス式である。
道のシンボル	・ シンボルマーク ・ 道の花：菊 ・ 道の鳥：オシドリ ・ 道の木：シダレヤナギ 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：8,600.2km²(2007.12月基準) - 位置：韓(朝鮮)半島の中央部西側 北緯 35° 58' ～ 37° 03' 東経 127° 38' ～ 125° 32' - 気候：年平均気温 11.9℃、降水量1,100～1,300mm
人 口	- 人口：2,026,084人(男1,026,869、女999,215) - 人口密度：235.6人/km²
教育機関	- 総数：869校 - 小学校429、中学校188、一般高等学校113、実業系高等学校35、専門大学10、教育大学1、大学24、大学院69
道路現況 及び車両	- 道路総延長：7,556.6km(舗装率 74.87%) 高速道路5路線 301.86km、国道 23路線 1,684.4km、地方道 37路線 1,446.5km、市郡道 5,178 路線 4,123.873km - 車両登録台数：88万台(2008.8月基準)
行政区域 及び職制	- 道知事 1、副知事 2、10室局、44課、1議会事務処、18直属機関、7事業所、本庁内190担当 - 行政区分：7市9郡24邑146面39洞 - 公務員数：16,239人(2008.9月現在)
主要行事	百済文化祭(公州、扶余)、人参祭(錦山)、マッド(泥)祭り(保寧)、東鶴寺春の花祭り(公州)、 恩山別神祭(扶余)、梅軒文化祭(礼山)
主要観光地 文化遺跡	鷄竜山 国立公園、泰安海岸 国立公園、独立記念館、温陽民俗博物館、扶余定林寺址五層 石塔、瑞山磨崖三尊仏、武寧王陵、渚燭寺など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP : 54兆4,490億ウォン(2007.12月現在) • 1人当りGRDP : 28,121千ウォン(2007.12月現在) • 道の財政規模 : 9兆9,229億ウォン(2008年度)
産業現況	• 産業構造 : 農水産業6.3%、鉱業製造業47.3%、サービス業31.8%、建設業10.5%、電気ガス水道業4.2% • 産業基盤施設 : 国家工団5カ所(36,764㎡)、地方工団34カ所(46,507㎡)、農工団地79カ所(12,166㎡)、ソウル-天安牙山 : KTXで25分所要、京釜高速道路、西海岸高速道路がありソウル及び首都圏からのアクセスが便利。
主要産品	• 農産物 : 高麗人参、ぶどう、リンゴ、枸杞の実、くるみ、コウライエビ、アサリ • 工業品 : 機械金属、電機電子、化学、繊維、非金属 • 手工芸品 : 韓山芋麻、ノリゲ(装飾品)、陶磁器

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	• 担当組織 : 国際通商課 • 住所 : 忠清南道大田広域市中区宣化洞287番地 • 電話及びFAX T. +82-42-251-2175 F. +82-42-251-2179
国際友好提携都市	• 姉妹 : ポーランド(ヴィエルコポルスカ県)、ロシア(アムール州)、中国(河北省)、日本(熊本県)、オーストラリア(南オーストラリア州)、アルゼンチン(ミシオネス州) • 友好 : 中国(山東省)、米国(カリフォルニア州)、ベネズエラ(ボリーバル州)、ドイツ(バイエルン州)、ロシア(レニングラード州)、中国(延辺朝鮮族自治州)、ベトナム(ロンアン省)、中国(吉林省)、中国(江蘇省)、日本(奈良県)、カンボジア(シエムレアプ州)、中国(四川省)、中国(上海市)
インターネットホームページ	http://www.chungnam.net

11) 全羅北道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	- 全北地域はBC6世紀以前から馬韓国の中心地・後白済の都として朝鮮の発祥地であり、全羅道(全羅南道、済州島含む)観察使が駐在していた地域。 1018年に全羅道に命名され、1896年には現在の‘全羅北道’に改名された。
地域特性	- 朝鮮半島の西南部に位置し、西側は太平洋沿岸に接している。 - 地形的に東高西低の低い階段式地形で、西側に群山、進封、辺山半島があり、東には小白山脈、蘆嶺山脈がある。 - 蟾津江、錦江の水源地であり、東津江が流れている。 - 悠久な歴史の中に馬韓、百済及び高麗の仏教文化、朝鮮の儒教文化、大韓民国の農耕社会の象徴としての東学農民運動など、民族精神と多くの文化遺跡が残っている。
道のシンボル	- シンボルマーク  - 道の花：サルスベリ - 道の鳥：カササギ - 道の木：銀杏の木

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：8,051km² - 位置：韓(朝鮮)半島の西南部、東経 126°、北緯 36° に位置。首都ソウルまで2時間30分、光州1時間30分、大田1時間 - 気候：年平均気温は13.2℃(冬：1.2℃、夏：26.4℃)、年間降水量は1,200mm
人 口	- 人口：1,915,674(男：953,107、女：962,567) - 人口密度：243.8人/km²
道路現況及び車両	現行：湖南高速道路、88オリンピック高速道路、西海岸高速道路、大田-ジンプ高速道路、全州-群山高速道路、全州-群山産業道路など 建設中：益山-長水高速道路(2006)、高敞-長城高速道路(2006)、全州-光陽高速道路(2009)、茂朱-大邱高速道路(2010)

区 分	内 容
教育機関	・ 総数：1,316校(2008) - 幼稚園514、小学校426、中学校204、高等学校130、専門大学10、大学11、大学院9、その他12校
行政区域 及び職制	・ 道知事 1、副知事 2、室局：10、官課141処3直属機関10消防署、15事業所1出張所 ・ 行政区分：市6、郡8と全244の邑面洞 ・ 公務員数：15,894人(2006)
主要行事	・ 全国大私習遊び(全州)、春香祭(南原)、豊南祭(全州)、全羅芸術祭(全州)、桜文化芸術祭(群山)、馬韓民俗芸術祭(益山)、甲午東学革命記念文化祭(井邑)、四仙文化祭(任実)
主要観光地 文化遺跡	・ 智異山、内蔵山、徳裕山、辺山半島など4国立公園と母岳山、大茈山、馬耳山、禅雲山 など4道立公園。金山寺、内蔵寺、慶基殿、広寒樓、彌勒寺址、万人義塚、茂朱スキ一場、竹林温泉

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GRDP：263,118億ウォン(2006) ・ 1人当りGRDP：14,645.6千ウォン
産業現況	・ 産業構造：1次12.4%、2次24.6%、3次63% ⇒産業社数：製造業9,438、建設業3,346、保健社会福祉3,163、事業サービス業2,235、運輸業11,830、通信業510、製造業166など
主要産品	・ 農水産物：米、麦、桃、高麗人参、唐辛子、ショウガ、くるみ、干し柿 ・ 工業品：自動車、繊維、宝石、化学、製紙、石材、機械、電子、電気 ・ 手工芸品：刺繍、木器、韓紙、合竹扇、陶磁器、太鼓

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：国際協力課 ・ 住所：全羅北道全州市完山区中央洞4街1番地 ・ 電話及びFAX T. +82-63-280-2811 F. +82-63-280-2789
国際友好提携都市	・ 米国：ワシントン州、 ニュージャージー州 ・ 中国：江蘇省、 山東省、 上海 ・ 日本：鹿児島県、 石川県
インターネットホームページ	http://www.jeonbuk.go.kr

12) 全羅南道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 全羅南道の歴史は、BC400年以前から馬韓、百済、統一新羅と後白済時代を経て、高麗、朝鮮、大韓民国とつながっている。 ・ 古代三韓時代から今日に至るまで農業中心の穀倉地帯として悠悠とした地域的特性を持っている。 ・ 995年海陽島として区域が命名され、2回の合併を経て1896年現在の全羅南道に改名
地域特性	・ 全羅南道は、智異山、白雲山、曹溪山、月出山のような美しい山と栄山江、蟾津江、耽津江が羅州平野とともに広がっている。 ・ 海と接している南・西海岸は全国で一番長いリアス式海岸(6,419km)と湾、半島、大小数多くの島々、世界 5大干潟がある清く美しい地域。
道のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 道の花：椿 ・ 道の鳥：ヤマバト ・ 道の木：銀杏の木 ・ 道の魚：マダイ

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：12,121km²(2007年) • 位置：朝鮮半島西南端 東経125°～127° 北緯33°～35° • 気候：温暖多湿な温帯気候 年平均 気温14.2℃(最高：35℃、最低：-11℃) 年平均 降水量 1,100～1,500mm
人 口	• 人口：1,945,000人(男：971,000、女：974,000)(2007年) • 人口密度：161.6人/km²
教育機関	• 総数：1,680校(2007年) - 幼稚園 609、小学校 594、中学校 267、一般高等学校 89、実業高等学校 63、専門大学 11、大学 12、大学院 28、その他学校 7校
道路現況 及び車両	• 総延長：10,130km(高速道路 227、国道2,014、地方道2,293、市郡道 5,596) • 舗装率：68.5%(2007年) • 車両登録台数：637,887台 (2007年)
行政区域 及び職制	• 道知事 1、副知事 2、室局団本部 10、院3、大学1、消防署 10、出張所 1、事業所 8 • 基礎自治体：市5、郡17、邑面洞295 • 公務員数：19,415人(道3,258、市郡16,157)(2007年)
主要行事	• 康津青磁文化祭(康津)、咸平蝶祭り(咸平)、珍島神秘の海割れ祝祭(珍島)、南道食べ物文化フェスティバル(順天)、潭陽竹祭り(潭陽)、靈岩王仁文化祭(靈巖)、張保阜祭り(莞島)、鳴梁大捷祭り(海南、珍島)、順天湾葦祭り(順天)、梅文化祭り(光陽)
主要観光地 文化遺跡	• 多島海：紅島、黒山島、曾島、白島、梧桐島 など • 寺：道岬寺、大興寺、白羊寺、仙巖寺、松広寺、鷲谷寺、雲住寺、泉隠寺、天皇寺、天冠寺、華巖寺など • 歌辞文学地：免仰亭、松江亭、息影亭、瀟灑園など • 陶磁器文化地：康津青瓷、宝城甕器、務安粉青沙器など • 伝統美術文化地：珍島雲林山房、海南緑雨堂、木浦南農記念館など • 馬韓文化遺跡(古墳群、王冠など)、百濟文化遺跡(靈岩王仁博士遺跡地) • その他観光地：和順支石墓、順天楽安邑城、海南牛項里恐竜化石地、地の果て村、莞島尹善道遺跡地、宝城茶園など

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GRDP : 414, 563億ウォン(2006年) ・ 財政規模 : 42, 331億ウォン(2007年)
産業現況	・ 農林漁業27. 5%、鉱工業9. 5%、SOC及びその他サービスが63. 0% ・ 1次産業は農水産業が主で、2次産業は鉄鋼と石油化学が大きいパーセントを占めている。最近造船産業の中心地域として成長しており、未来産業である生物・新素材・ナノ・宇宙航空産業・再生エネルギーなどを地域の特化産業として重点的に育成している。 ・ 産業基盤施設 : 産業団地34(既造成9、推進中11、計画14)
主要産品	・ 農水産物 : 梨、メロン、梅実、無花果、ユズ、サルナシ、緑茶、米、豆、麦、胡麻、タマネギ、ニンニク、白菜、大ネギ、天日塩、海苔、ワカメ、ノリ、カキ、アワビ、イシモチ、タコ ・ 工業品 : 鉄鋼、石油化学、造船、酒類、加工食品、陶磁器類 ・ 手工芸品 : 高麗青磁、竹製工芸品、ワンゴルゴザなど

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織 : 政策企画官室国際交流係 ・ 住所 : 全羅南道務安郡三郷面五龍路1番地 (〒)534-700 ・ 電話及びFAX T. +82-61-286-2174 F. +82-61-286-4734
国際友好提携都市	・ 米国 : オレゴン州、ミズーリ州 ・ コロンビア : ボヤカ州 ・ タイ : ラヨー県 ・ ロシア : ノヴォシビルスク州 ・ キルギス共和国 : チュイ州 ・ ドイツ : シュレスヴィヒ=ホルシュタイン州、ブレーメン州 ・ インドネシア : 西ジャワ州 ・ ベトナム : バリア=ブントウ省 ・ フィリピン : リサール州 ・ マレーシア : クダ州 ・ 中国 : 浙江省、上海市、江蘇省、山東省、湖南省、江西省、四川省、福建省、山西省、重慶 ・ 日本 : 福岡県、佐賀県、長崎県、山口県、高知県
インターネットホームページ	http://www.jeonnam.go.kr

13) 慶尚北道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	- 慶北地域はBC400年以前から始まり、三韓、新羅、統一新羅などの建国地であり、高麗、朝鮮、大韓民国の中心としての役割を果たして来た地域 1314年から区域が命名され、1896年現在の‘慶尚北道’に改名された。
地域特性	- 極東及び北東アジアに位置する朝鮮半島の東南にあり、東は太平洋沿岸に接している。 - 道の領域を横切って洛東江が流れている。 - 半万年の歴史の間、伽倻古代文化、新羅及び高麗の仏教文化、朝鮮の儒教文化、大韓民国の近代化の源流として幾多の文化的遺産と民族精神を持ち、朝鮮半島と北東アジアの歴史の軸となって来た。
道のシンボル	- シンボルマーク  - 道の花：サルスベリ - 道の鳥：アオサギ - 道の木：ケヤキ

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：19,026km²(全国99,954km²の19.1%) - 位置：朝鮮半島の東南部 北緯35° 34′ ～37° 33′ - 気候：年平均気温14.1℃(夏：35.4℃、冬：-8.5℃)、年間降水量900～1,300mm
人 口	人口：2,710,961人('08.06.30現在)
道路現況及び車両	- 高速道路は京釜高速道路など12路線(3路線は建設中)、国道20路線、地方道48路線があり、四通八達の道路網を備えている。 ※ 建設中の高速道路：6カ所 - 浦項～大邱間 - 京釜高速道路 88高速道路 - 浦項～蔚山間実施設計中 - 尚州～盈徳間(東西6軸)実施設計及び工事着手 - 浦項～三陟間基本計画樹立

区 分	内 容
教育機関	・ 総数 : 1,833校 (2005) ・ 幼稚園 723、小学校 502、中学校 283、一般高等学校 125、実業高等学校 75、専門大学 18、大学 19、大学院 70、その他学校 18校
行政区域 及び職制	・ 行政区分 : 23市郡(10市、13郡)、338邑面洞 ・ 公務員数 : 24,126人(道4,140、市郡19,986)
主要行事	・ 新羅文化祭(慶州)、国際仮面舞踊フェスティバル、河回仮面舞踊(安東)、松茸祭り(奉化)、全国民俗闘牛大会(清道)、小白山つつじ祭(榮州)
主要観光地 文化遺跡	・ 仏国寺、石窟庵、普門団地、河回民俗村、陶山書院、白巖温泉、周王山国立公園、雲門寺

・ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GRDP : 577,483億ウォン(2005) ・ 道の財政規模 : 4兆5,766億ウォン('09年当初) ・ 市郡 : 8兆8,087億ウォン
産業現況	・ 産業構造 : 1次24%、2次16.7%、3次59.3%('07年就業者基準) ・ 輸出額 : 453億ドル(全国3,715億ドルの 12.2%) - 主要輸出品目 : 携帯電話、LCD TV、HDD ・ 産業団地施設 : 国家工団6カ所(66,269千㎡)、一般工団33カ所(28,422千㎡)、農工団地54カ所(8,950千㎡)
主要産品	・ 農水産物 : リンゴ、トウガラシ、ニンニク、高麗人参、桃、松茸、イカ、紅ズワイガニ ・ 工業品 : 電子、電気、鉄鋼、繊維、化学、機械 ・ 手工芸品 : 陶磁器、河回仮面、安東布など

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	・ 担当組織：国際通商課 ・ 住所：慶尚北道大邱広域市北区山格洞1445-3番地 ・ 電話及びFAX T. +82-53-950-3085 F. +82-53-950-2177
国際友好提携都市	・ 米国：オハイオ州 ・ 中国：河南省 ・ ロシア：イルクーツク州 ・ 南ア共和国：ノースウエスト州 ・ フランス：アルザス州 ・ インドネシア：ジョグジャカルタ州 ・ トルコ：ブルサ県 ・ ベトナム：タイグエン省 ・ スペイン：カスティーリャ・レオン州
インターネットホームページ	http://www.gb.go.kr

14) 慶尚南道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 三韓時代：北部は辰韓、南部は弁韓に属する。 ・ 伽倻時代：金官伽倻を始め 6伽倻が存在。 ・ 三国時代：新羅真興王23年新羅の地になる。 ・ 高麗時代：睿宗元年(1106年)慶尚晋州道と称する。 ・ 朝鮮時代：高宗33年(1896年)慶尚南道とし、道庁所在地を晋州とする。 ・ 1925. 4. 1：道庁を晋州から釜山に移転 ・ 1963. 1. 1：慶尚南道と釜山市分離 ・ 1983. 7. 1：道庁を釜山から昌原に移転
地域特性	・ 穏やかな気候と豊かな水産資源 ・ 閑麗水島、智異山、伽倻山など天恵の観光資源 ・ 中・東部工業地帯と西・北部農漁村が併存
道のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 道の花：バラ ・ 道の鳥：シラサギ ・ 道の木：ケヤキ ・ 道の魚：メバル

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：10,518.3km² ・位置：韓(朝鮮)半島の東南端、北緯 34° 29′ ～ 35° 54′ 東経 127° 35′ ～ 129° 13′ ・気候：冬の平均気温2.5℃、夏の平均気温25.3℃、降水量は約1,500mm
人 口	・人口：3,172,857人(男：1,592,610、女：1,580,247) ・人口密度：302人/km²
教育機関	・総数：1,704校 - 幼稚園 690、小学校 491、中学校 262、一般系高等学校 126、実業系高等学校 54、専門大学 13、教育大学 1、大学校 12、大学院 45、その他 10校
道路現況 及び車両	・京釜高速道路：蔚山～梁山・釜山 ・南海高速道路：釜山～金海～晋州～泗川～河東・光陽 ・88高速道路：慶北高霊～陝川～居昌～咸陽・全北南原 ・統営大田中部高速道路：京畿河南～全北長水～咸陽～山清～晋州～統営 ・中部内陸高速道路：大邱～昌寧～咸安～馬山 ・中央高速道路：釜山江西～金海大同・大邱東区 ⇒車両登録台数：1,131,088台
行政区域 及び職制	・道知事1、副知事2、国際関係諮問大使1、2室7局、1本部、5担当官、37課、1事業団 ・行政区分：市10、郡10、邑面洞320 ・公務員数：21,943人(道4,101、市郡13,003、邑面洞4,839)
主要行事	・開天芸術祭及び流燈祭り(晋州)、3.1民俗文化祭(昌寧)、閑山大捷祭(統営)、軍港祭(鎮海)、アラン祭(密陽)、義兵祭(宜寧)、小伽倻文化祭(固城)、玉浦大捷祭(巨濟)
主要観光地 文化遺跡	・梁山通度寺、陝川海印寺、河東双磎寺、釜谷温泉、道南観光団地 ・国立公園4ヵ所(智異山、伽倻山、閑麗海上、徳裕山) ・道立公園2ヵ所(加智山、蓮華寺)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GRDP(2007年度) : 631,618億ウォン • 1人当りGRDP(2007年度) : 21,752ドル • 財政規模 : 132,256億ウォン(道51,001、市郡81,255億ウォン)
産業現況	• 産業構造 : 1次(5.0%)、2次(43.1%)、3次(51.9%) • 貿易規模 : 輸出(51,095百万ドル)、輸入(29,555百万ドル) • 産業基盤施設 - 国家産業団地(7)総面積 : 71.1千㎡ - 一般産業団地(27)総面積 : 25.1千㎡ - 農工団地(69)総面積 : 10.1千㎡ ⇒事業者 : 213,137(従業員1,025,453人)
主要産品	• 農産品 : 米、甘柿、梨、リンゴ、イチゴ、すいか、ニンニク、タマネギなど • 工業品 : 機械工業、造船工業関連製品生産

○ その他

区 分	内 容
連合担当部局	• 担当組織 : 国際通商課 • 住所 : 慶尚南道昌原市大方路1番地 • 電話及びFAX T. +82-55-211-2833 F. +82-55-211-3239
国際友好提携都市	• 日本 : 山口県 • 米国 : メリーランド州 • 中国 : 山東省 • インドネシア : 東ジャワ州 • ベトナム : ドンナイ省 • ロシア : ハバロフスク地方 • メキシコ : ハリスコ州 • フィリピン : ラグナ州 • ポーランド : ポモージェ県 • ハンガリー : フェイエール州
インターネットホームページ	http://www.gsnd.net

15) 済州特別自治道

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 上古時代～三国時代：耽羅国 ・ 1105年(高麗肅宗10年)：耽羅郡設置 ・ 高麗高宗の時：耽羅郡→済州 ・ 1915. 5：済州島 ・ 1946. 8. 1：道制実施(2郡1邑12面) ・ 2006. 7. 1：済州特別自治道として出発、2行政市7邑5面31洞に行政区域改編
地域特性	・ 大陸(ロシア、中国)と海洋(日本、東南アジア)を連結する東北アジアの要衝地 ・ 天恵の自然景観が秀麗な世界的な休養観光地 ・ 三無・スヌルムなど、祖先の精神が継承された伝統文化保存地 ・ 2007年6月大韓民国で最初に火山島と溶岩洞窟が世界自然遺産として登録 ・ 外交、国防、司法を除いた広範囲な自治権を確保した特別自治道
道のシンボル	・ シンボルマーク  ・ 道の花：ツツジ ・ 道の鳥：済州オオアカケラ ・ 道の木：楠

○ 一般概要

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：1,848.4km² ・ 位置：韓国(朝鮮)半島の南海上に位置した火山島、朝鮮半島南海岸から見れば南西方向に寄っている。北東側から釜山との距離は302kmでありソウルとは469km離れている。 北緯：33° 06' ～34° 00'、東経：126° 08' ～126° 58' ・ 気候 － 平均気温：済州16.4℃、西帰浦17.8℃ － 降水量：済州1,333.8mm、西帰浦2,018.0mm － 済州島は気候分類学上、亜熱帯性気候圏に属する韓(朝鮮)半島南部に位置する火山島で、四方が海に囲まれていて年中温暖湿潤な海洋性気候

区 分	内 容
人口 ('07. 12. 基準)	- 人口 : 563, 388人(男281, 576、女281, 812) - 人口密度 : 303. 90人/km²
教育機関 ('07. 4. 1. 基準)	- 総数 : 308校 - 幼稚園 111、小学校 106、中学校 42、高等学校 30、専門大学 3、大学 3、大学院 9、その他4校
道路現況 及び車両 ('06. 12. 基準)	- 道路総延長 : 3, 202. 9km(舗装率83. 4%) - 国道453, 017km、市郡道2, 453. 06km、地方道299. 600km、国家支援地方道35. 4km - 車両登録台数 : 228, 858台
行政区域 及び職制	- 道知事(1)、副知事(2)、室(1)、本部(2)、局(8)、団(1)、課(42) - 行政区分 : 1道2市43邑面洞 - 公務員数 : 5, 170人(道1, 034、市1, 200、邑面洞983)
主要行事	耽羅文化祭、菜の花フェスティバル、城山日出祭、すすきの花フェスティバル、桜フェスティバル、済州国際管楽祭、済州ミカンフェスティバル
主要観光地 文化遺跡	三姓穴、観徳亭、城山日出峰、中文観光団地、万丈窟、翰林公園

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GRDP : 70, 495億ウォン 1人当りGRDP : 13, 131. 4千ウォン
産業現況	- 産業構造 - 産業構造 : 1次産業14. 3%、2次産業 2. 8%、3次産業 82. 9% - ユネスコ世界自然遺産登録を通じて国外でも認識された‘清浄’なイメージを2次産業と観光産業に連携 - アジア最高の国際自由都市として育成するための4大先導プロジェクトと2つの新成長先導産業を確定して発表 - 観光客600万時代達成、グローバル競争力を取り揃えた強い中小企業育成 - 最高の低炭素グリーン成長を強力に推進して、済州の産業体質と競争力改善などを包含した経済5大政策を標榜
主要産品	農産品 : みかん、ニンニク、タマネギ、花卉類 など

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署：平和協力課 ・ 住所：済州特別自治道済州市蓮洞 312-1 ・ 電話及びFAX T. +82-64-710-6263 F. +82-64-710-6259
国際友好提携都市	・ 中国：海南省 ・ 米国：ハワイ州 ・ インドネシア：バリ州 ・ ロシア：サハリン州 ・ ポルトガル：マデイラ
インターネットホームページ	http://www.jeju.go.kr

4. 北朝鮮会員自治体

1) 咸鏡北道

○ 一般 概要

区 分	内 容
人口及び面積	208万人、18,427km ²
中心都市	清津
主要産業	機械、化学
主要観光地 文化遺跡	松興温泉、黄津温泉

2) 羅先特級市

○ 一般概要

区 分	内 容
人口及び面積	17万人、746km ²
中心都市	羅先市
主要産業	工業、漁業
主要観光地 文化遺跡	屈浦里原始遺跡、羅先草島

5. モンゴル会員自治体

1) ウランバートル市

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1639年ヌドルリング・オルゴーが設立されてから、現在のウランバートル市の歴史が始まった。1778年以後は、イフ・フレーという名前の都市として発展し始めた。19世紀にイフ・フレーは宗教の中心地であり、モンゴルの政治、行政、文化の主要中心地、また貿易と商取引の中心地でもあった。
地域特性	ウランバートル市の面積は国土総面積の0.3%しかないが、人口の約半分を占める百万人の人口が集中している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：47,400km - 位置：海拔1,350mにトール川の川辺、ボクド山の麓、モンゴル中央地帯に位置する - 気候：年平均気温 2.2℃、年平均降水量242.7mm
人口及び世帯	- 人口：1,025,174人(2008年) - 人口密度：1km²当り195人
行政区域	- 市長(1)、副市長(4)、総マネージャー(1)、局(1)、課(7)、執行機関(24) - 基礎区域：8区域
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	ボクドハーン宮殿

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：国際協力課 - 住所：Sukhbaatar square-11, Ulaanbaatar-46 Mongolia - 電話及びFAX T. +976-11-324331 F. +976-11-324331

区 分	内 容
姉妹都市	・ 姉妹都市：韓国(ソウル特別市)、(南陽州市)、(仁川市)、中国(内モンゴル自治区ホフ市)、米国(デンバー市) ・ 友好都市：ロシア(モスクワ市)、日本(札幌市)
インターネットホームページ	www.ulaanbaatar.mn

2) アルハンガイ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	アルハンガイ県は1725年にセンノヤンハーン県という名称で創立され、人民革命が勝利をおさめたことから行政区域を変え、1923年にチェチェルレックマンダルオルリン県になり、1931年からアルハンガイ県と命名した。
地域特性	アルハンガイ県は、自然が多い地域に位置していることから鳥類や野生の動物が多く、学者たちによるとモンゴルに生息する動物と鳥類の大部分がこの地域に生息する。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：55,300km ・ 位置：モンゴル全土の28.2%を占める。 ・ 気候：アルハンガイ県は、内陸性気候で、平均気温が15℃～零下15℃である。寒いときは47℃まで下がり、暑いときは、40.6℃まで上がったことがある。一年の平均降水量が350～450mmであり、大部分が4～8月に降る。アルハンガイ県の中心地であるチェチェルレグ市は海拔1,739mと高く、経度47° 27'、緯度 101° 27'である。
人口及び世帯	・ 人口：87,000人(2008年度) ・ 人口密度：0.6人/km²
行政区域	・ 知事(1)、副知事(1)、行政局長(1)、課(5)、チーム(1)、係(2) ・ 基礎区域：19のソム(soum)
文化行事	ナダム祭り
文化遺跡	タイハル岩、ウキン湖

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 77, 394, 600トゥグルグ • 1人当りGDP : 872, 300トゥグルグ

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	• 担当部署 : 行政管理課 • 住所 : Arkhangai aimgiin Zasag dargiin tangiin gazar • 電話及びFAX T. +976-1332-21231 F. +976-1332-21231
姉妹都市	• 友好都市 : 韓国(青陽郡)、フランス(プルレジル市)、トルコ(アイドゥン県)
インターネット ホームページ	www.ulaanbaatar.mn

3) バヤン・ウルギー県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1940年6月に開かれた8次国会でカザック、オリアンハイ民族の意見に従ってホブド県から分離し、独立してバヤン・ウルギー県を設立した。
地域特性	バヤン・ウルギー県は、モンゴルにあるカザック民族の主要都市である。住民の88.7%はカザック族、7.2%はオリアンハイ族、1.5%はドウルブド族、1%はトゥー族である。 海拔高度は1,301~4,374mで地域の95.3%は1,600m以上の高地にある。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：47,400km² - 位置：西側はアルタイ山脈を貫いて中国新疆ウイグル自治区と450km、北はスイルヘミング山脈を貫いてロシアアルタイ共和国と225km、東はオブス県と165km、東南はホブド県と450km、境界線が接している。 - 気候：大陸の影響で日較差は激しく、年間降水量は102.6mmである。海拔高度が高い地域に位置しているので寒く、高い山に囲まれているアルタイ・ヌール地域は年間降水量が400～500mmまでになる。ゴビ砂漠地帯に属し山地特有の気温の変化が大きく、特殊な生態系を持っている。年間平均風速は4～9m/sくらいである。最高温度は32℃で、最下温度は-30℃まで下がる。
人口及び世帯	- 人口：約98,300人 - 人口密度：2人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、行政局(1)、課(5)、チーム(1)、郡部(1) - 基礎区域：14ソム(soum)
文化行事	「ナウリーズ」新年記念行事(3月23日)
文化遺跡	チャガン湖 周辺の岩刻画

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Bayanolgii aimgiin Zasag dargiin Tamiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1422-22122 F. +976-1422-23603
インターネットホームページ	http://bayan-ulgii.pmis.gov.mn/

4) バヤンホンゴル県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	バヤンホンゴル県は、1941年12月11日、41,400人の住民から始まった。1942年2月5日にゴブ・ボンボゴル県が設立され、後に「バヤンホンゴル」に改名した。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：116,000km² - 位置：バヤンホンゴル県は、モンゴルの中央部分に位置している。 - 気候：平均気温-0.7℃、1月は-18.4℃、7月は+15℃である。年間平均降水量は216.3mm、1月は812mm、7月は808.5mm程度である。1年間の平均風速は約3.1m/sで、風が最も強い5月には平均風速は3.9m/sである。
人口及び世帯	人口：約8万人
行政区域	- 知事（1）、副知事（1）、局（1）、課（5） - 基礎区域：20ソム（soum）
文化行事	ナダム祭り（7月11日～13日）

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	GDP：620億トゥグルグ

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Bayankhongor aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1442-22273 F. +976-1442-23206
インターネットホームページ	http://bayankhongor.pmis.gov.mn/

5) ボルガン県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	ボルガン県は、紀元前と紀元上半期に匈奴の領土に所属、紀元2～3世紀にジュジャン、鮮卑国、6～8世紀にトレグ、8～9世紀ウィゴル、9～10世紀にクリギス、10～12世紀にヒダン(リャオ)、12～13世紀にメルゲド、ヘレド、ナイマン、ウリアングなどの部族に所属、13～14世紀中盤にモンゴル帝国の領土に属した。16世紀中盤にトセトハーン県に属するようになった。1937年12月15日閣僚の第33号決定によって、セレンゲ県を2つに分けて新しく作る県をボルガン県とした。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：48,700km² - 位置：ボルガン県はモンゴル中部地域の山林と草原地帯に属する。 平均海拔1654m、最高点2,658m、最低点は650mである。 - 気候：寒い時で年間平均気温は零下6.9℃～26.4℃、最低気温は零下45℃～46℃になる。 暑い時は年間平均気温は16.9℃、最高気温は43.5℃になる。
人口及び世帯	- 人口：約10万人 - 人口密度：1.2人/km²
行政区域	- 行政局(1)、課(5) - 基礎区域：15 ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	ダスティチョインホルロン寺院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：513億トゥグルグ 1人当り所得：897,000トゥグルグ

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	• 担当部署：行政管理課 • 住所：Province of Bulgan aimag • 電話及びFAX T. +976-1342-22836 F. +976-1342-22836
国際友好都市	• 姉妹都市：ロシアチタ州ザカメン区 • 友好都市：米国ユタ州、スウェーデンリュスデティル州
インターネットホームページ	http://bulgan.pmis.gov.mn/

6) ゴビ・アルタイ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	ゴビアルタイ県は、1940年5月24日に長官の諮問委員会で決定し第8次国会を通過して11月10日、ザワ県の政党委員会、県自治協力の同意により、ゴビアルタイ県を20のソム、130のバク、11,800世帯、43,300人の住民で設立された。
地域特性	ゴビアルタイ県は、オアシスで有名なところで、モンゴルでは2番目に大きい県である。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：142,200km² • 位置：モンゴル西方に位置する。高度は1,940m。 • 気候：気候は気まぐれで年間平均気温は3.7℃、最も寒い1月には平均気温が-20℃～-30℃で、-50℃まで下がるときもある。最も暖かい7月の平均気温は20℃～24℃で、時には+40℃を超えるときもある。
人口及び世帯	• 人口：約6万人 • 人口密度：1km²当り0.43人
行政区域	• 知事(1)、副知事(2)、行政局(1)、課(5) • 基礎区域：18ソム(soum)

区 分	内 容
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	シャワルガンネ石人像

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 3360, 000\$ • 1人当り所得 : 569\$

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	• 担当部署 : 行政管理課 • 住所 : Toriin zahirgaanii udirldagiin heltes, Zasag dargiin tangiin gazar, Govi Altai aimag • 電話及びFAX T. +976-1482-3565 F. +976-1482-3565
国際友好都市	• 友好都市 : 中国内モンゴル自治区ホフ市、スイスジュラ州

7) ゴビスンベル県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1991年6月21日、国家小議会で承認され、ドルノゴビ県のスンベルソム、シウェゴビホロ、ウランバートル市のバヤントルホロを合併してチョイル市を設立した。 そして1994年8月、国会でチョイル市の境界線内にゴビスンベル県を設立した。

○ 一般概要

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：5,500km² ・位置：モンゴルの中央部の東南、北緯46° 57′～47° 02′、東経107° 57′～109° 04′に位置する。
人口及び世帯	・人口：約1万3千人(2008年度) ・0～15歳31%、16～59歳63.3%
行政区域	・知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) ・基礎区域：3ソム
文化行事	「ボルジギングナダム」伝統スポーツ祭り(4年に1度7月頃)
文化遺跡	チョイルボクド山、チャガンダエルエフ山

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・12,955,900トゥグルグ ・1人当り所得：974,100トゥグルグ
産業現況	・産業構造 － サービス業：55.3%、 － 製造業：44.7%

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：行政管理課 ・住所：Gobisumber aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar, Mongol uls ・電話及びFAX T. +976-1542-23118 F. +976-01542-23118、01542-23165
インターネットホームページ及びE-Mail	・http://pmis.gov.mn/govi-sumber ・bayasgalan_dondogdor.j@yahoo.com

8) ダルハン・オール県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1961年～1965年、第3次5ヵ年計画でウランバートル市の集中を分散させるための衛星都市として、北部地域産業中心地として設計された。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：3,275km² - 位置：ダルハン市はオルホン、セレンゲ川流域に属する。ハラ川の川辺のボルハントフンディに位置しており、平均海拔は700mである。 - 気候：大陸性気候、夏の気温40℃～5℃、冬の気温-30℃～7℃
人口及び世帯	- 人口：90,200人(2008年) - 人口密度：3.6人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：4ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	チャンティンホティン廃墟、ハラギン寺院、トモルティン匈奴墓

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：550億トゥグルグ(2008年) 1人当り所得：613,100トゥグルグ

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Darkhan-uul aimag, Zasag dargiim tangiin gazar - 電話及びFAX T. +976-01373-23744, 01372-23778 F. +976-01373-27121
国際友好都市	姉妹都市：ロシアブリヤート共和国ウラン・ウデ市
インターネットホームページ	darkhan-uul.pmis.gov.mn

9) ドルノド県

○ 自治体概要

区 分	内 容
地域特性	巨大なステップ平原

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：123,500km² - 位置：ドルノド県は、モンゴルの東にロシア、中国及びスフバートル県、ヘンティ県と境界を接している。 - 気候：北側は、北西風による降水量の大部分はヘンティ山に吸収されるので、ドルノド草原は湿度が高くて肌寒く、時には乾燥して肌寒い気候が交差する気候分布を見せている。年間251～260日は晴れ、年間降水量は150～300mmである。平均気温は、冬は約-27℃、夏は 約21℃。
人口及び世帯	- 人口：10万人 - 人口密度：0.3人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5)、チーム(3) - 基礎区域：13ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)、元旦(陰暦1月1日)
文化遺跡	10～11世紀、祖先の歴史を記録したヘルリンバルハート、19世紀にできたオタイ地方のオール山、石人像、ハルヒンゴル戦争記念館

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：530億トゥグルグ(2008年) 1人当り所得：720,000トゥグルグ
産業現況	- 産業構造 - サービス業：38.3%、 - 製造業：42.4%

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：行政管理課 ・住所：Dornod aimgiin Zasag dargiin Tangiin gazar ・電話及びFAX T. +976-1582-23040/23310 F. +976-1582-21608
国際友好都市	・姉妹都市：中国内モンゴル自治区フルンボイル市 ・友好都市：ロシアチタ州
インターネット ホームページ 及びE-Mail	http://www.dornod.mn/ hailaar2004@yahoo.com , olzii11@yahoo.com , mun_huu@hotmail.com

10) ドルノゴビ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	ドルノゴビ県は、11世紀と12世紀にモンゴル帝国時代のヘレド県で、1930年国家小議会代表団と政府が県設立の決断をして、1931年にドルノゴビ県が設立されドルノゴビの新しい歴史が始まった。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：109,500km² ・位置：ドルノゴビ県は、モンゴルの最東端にあり、ウムヌゴビ、ドンドゴビ、ゴビスンベル、ヘンティ、スフバートル県と隣接し、また中華人民共和国とは600km境界線を接している。中心都市のサインシャンドはウランバートル市から鉄道で470km離れている。 ・気候：冬季に-40℃まで寒くなり、夏季には40℃、地表温度が60℃まで上がる時もある。激しい吹雪、砂埃、旱魃、暴雪がたまにある。
人口及び世帯	・人口：55,638人(2008年末)
行政区域	・知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) ・基礎区域：14ソム(soum)

区 分	内 容
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	ハマリン寺院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP : 200億トゥグルグ(2004年)

○ その他現況

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署 : 行政管理課 ・ 住所 : Dornogobi aimgiin Zasag dargiin tangiin gazar ・ 電話及びFAX T. +976-1522-22656 F. +976-1522-22656
国際友好都市	・ 姉妹都市 : 中国内モンゴルエルリアン市、ボーガト市 ・ 友好都市 : 京畿道光州市、日本板橋区
インターネットホームページ	http://dornogobi.pmis.gov.mn/

11) ドンドゴビ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	エムブテルデネの湿地にゲル(モンゴル伝統家屋)を何軒か作り、最初の会議をして県を設立してから、65年が流れている。初めは、家畜を飼う一族がマンダルゴビの北部ジョオキンハルオウォ(城隍堂)の前を居住地としたことから始まった。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：74,700km² - 位置：ウブルハンガイ、ウムヌゴビ、中央、ドルノゴビ県と隣り合っている。北端のハルトルゴイから南端のオボルチャガンまで280km、西端のドルラン山から東端のフーホまで425km。県の中心地マンダルゴビは、ウランバートルから260km離れている。 - 気候：ドンドゴビ県は暖かく、1年に晴れの日が100～120日、1年の日照量は約3,000時間である。しかし湿度が少なく、平均気温は夏には30～35℃、冬には零下35～40℃になる。
人口及び世帯	人口：49,406人(2006年末)
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：15ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	チングギスカーンの最後の子孫と知られているチョクトタイジ(1561～1637)の碑文岩

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：500億トゥグルク 1人当り所得：102万トゥグルク

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Dundgobi aimgiin Zasag dargiin Tamiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1592-22494 F. +976-1592-22494
国際友好都市	- 姉妹都市：ロシアブリヤート共和国ビチュラ地区 - 友好都市：中国内モンゴル自治区エレンホト市、チェコ南モラヴィア州
インターネットホームページ	http://dundgobi.pmis.gov.mn/

12) ザウハン県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	エルデンビスレルト・ザサグトハン県が16世紀後半に創立され、18世紀初めまで約200年の間、西部にアルタイ山脈、東部にハンガイ山脈、北部にエニセイ川の源泉、南部に大ゴビ砂漠まで広大な地域を占めていた。 1923年にザサグトハン県が21のホシヨ(町)とタムガ(村)、成人の弟子3人を連れてハンテシル・オルリン県と名付け、組織するようになった。その後ハンテシルオルリン県が創立されたことによって、現在のザウハン県の基礎となった。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：82,500km² - 気候：1月の平均気温は、零下20℃～30℃で、モンゴルで一番寒いトソンチェンゲル郡の場合、-53℃まで下がったことがある。山岳地域は400mm、西方は80～100mm、他の地域は200mm程度の雨が降る。ザウハン県は一般的にハンガイ、ステップ、ゴビの3つの地域に分けられる。ハンガイ山岳地域は寒く涼しい気候で、ゴビ地域は乾燥して暖かい気候である。
人口及び世帯	- 人口：79,000人 - 人口密度：1人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：24ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	テチンダルザ院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：545億トゥグルク 1人当り所得：691,000トゥグルク

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：行政管理課 ・住所：Zavhan aimgiin Zasag dargiin Tangiin gazar ・電話及びFAX T. +976-1462-22454 F. +976-1462-22454
国際友好都市	・姉妹都市：韓国忠清南道瑞山市 ・友好都市：ロシアトゥヴァ共和国
インターネットホームページ	http://zavkhan.pmis.gov.mn/

13) オルホン県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	’60年代の初め～’70年代の初め、モンゴル・旧ソ連・旧チェコスロバキア地質学者たちがオルホン県のエルデネトの山周辺を何度も調査したところ、産業用の銅とモリブデンの埋蔵地を発見した。その結果、1973年から始まったエルデネト山周辺地域開発や人口増加が急速に進んだことから、1976年にエルデネト市が設立され、以後新しく発展段階に入っていった。1994年、エルデネト市の行政区域が確定し、オルホン県が設立された。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：84,400km² ・位置：首都ウランバートルから北に371km、ダルハンの都市から西に180km、ボルガン県の主要都市から東北に60kmのところに位置している。 ・気候：年間平均気温が0.6℃、年間平均地表気温が1.2℃である。1月の平均気温が-16.5℃、7月の平均気温が18.5℃であり、年間平均日較差は35℃である。
人口及び世帯	・人口：88,200人(2008年度) ・人口密度：195人/km²

区 分	内 容
行政区域	・ 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) ・ 基礎区域：2ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	演奏する母の銅像

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：7,979億トゥグルク(2007年末) ・ 1人当り所得：9百万トゥグルク
産業現況	サービス：2.9%、製造：96.1%、農業：1%
主要産品	・ 農林水産品：ジャガイモ、穀物 ・ 工業生産品：電気銅、モリブデン、カーペット ・ 伝統産業：肉類品、カシミヤ衣類

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署：行政管理課 ・ 住所：Mongolia, Orkhon aimag, Erdenet city, ZDTG-iin bair ・ 電話及びFAX T. +976-01352-27899 F. +976-01352-22621
国際友好都市	・ 姉妹都市：ロシア イルクーツク州のウソリエ・シビルスコエ市、ブリヤート共和国のウラン・ウデ市、米国 アラスカ州フェアバンクス、中国 内モンゴル自治区バガト市 ・ 友好都市：中国 内モンゴル自治区エレンホト市・オルドス市、ハンガリー共和国フェイエール県セーケシュフェヘルヴァール市、ブルガリア ブルガス市、ドイツザクセン州ミットバイダ、スウェーデン シックトヤ市
インターネット ホームページ 及びE-Mail	www.erdenet.mn governor_orkhon@mongol.net

14) ウブスハンガイ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	ウブスハンガイ県は、1931年2月7日に31郡で構成され設立された。
地域特性	13世紀にモンゴルの首都であるハラホリン、16世紀末に設立されたエルデニゾー寺院など、モンゴルの有名な美術作品及び遺跡地が残っている。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：63,500km² - 位置：ウブスハンガイ県は、モンゴルの中心部に位置する。 - 気候：北部地域から南部地域に下りていくほど、気候が暖くなり、降水量が減少する。1年の平均気温は、山林地帯で零下2.1℃、草原地帯で1.0℃、ゴビ砂漠地帯で3.7℃であり、最高は44.8℃、最低は零下47.5℃に達する。1年の平均降水量は、山林地帯で306.1mm、草原地帯で277.3mm、ゴビ砂漠地帯で117.2mmである。地域的特徴と自然災害が少ない。
人口及び世帯	- 人口：109,492人(2007年度) - 人口密度：1.7人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5)、事業チーム13 - 基礎区域：19ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	エルデニゾー寺院、国連の保護遺跡地として登録された突厥石碑「マンティンフシュ」

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：672億トゥグルク(2007年度) 1人当り所得：663,800トゥグルク
産業現況	- 産業構造 - サービス業15%、製造業20%、牧畜業65%
主要産品	伝統産業：羊毛製造、乳製品

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署：行政管理課 ・ 住所：Nutgiin Zahirgaanii ordon 318 toot8 Arvaikheer hot, Uvur khangai aimag, Mongolia ・ 電話及びFAX T. +976-11322-23468 F. +976-11322-22376
国際友好都市	・ 友好都市：ロシアブリヤート共和国のクリムカン地区・バルグジン地区、北朝鮮黄海道、フランスアリエ県
インターネットホームページ及びE-Mail	http://gate1.pmis.gov.mn/uvurkhangai tbbaagii@yahoo.com

15) ウムヌゴビ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1930年11月9日、モンゴル人民共和国政府第87号決議文によって地方自治の行政区域が変更になった。 1931年2月、ウムヌゴビ県が設立された。 1931年3月21日、ウムヌゴビ県の臨時設立委員会が設置され、1931年3月25日から4月10日までウムヌゴビ県にソム(郡)全体を設立した。
地域特性	フタコブラクダの故郷、モンゴルで最大の面積を持つ

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：165,000km² ・ 位置：ウムヌゴビ県の平均海拔が1,300～1,500mである。西から東まではオンゴングオルランからカンザガト山まで700km、北から南まではアハル山からオルウオックガソニ山まで400km、ウムヌゴビ国境すべての長さが約2,070kmである。 ・ 気候：自然の気候は気まぐれで、夏季に30℃～39℃、冬季に-20℃になる。風速は5～15m/s、時々34～45m/sにまでなる。年間平均降水量は133mmである。

区 分	内 容
人口及び世帯	・人口：約46,342人 ・人口密度：0.4人/km²
行政区域	・知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) ・基礎区域：15ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	ゴルバン・サイハン国立公園

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・GDP：619億トゥグルク ・1人当り所得：133,700トゥグルク

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：行政管理課 ・住所：Umnugobi aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar ・電話及びFAX T. +976-1532-22849 F. +976-1532-23480
国際友好都市	・友好都市：中国内モンゴル自治区バヤンノール市、アラシャ
インターネット ホームページ	http://umnugobi.pmis.gov.mn/

16) スフバートル県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1921年からハルヒンチェン県の6つの郡として、1931年にKhalhの4つの県を13の県に変更した時に、ヘンティ、ドルノド県に属していた。行政区域を変えた1942年に、ザブハルラントシヤルガ県が新しくできた。1943年2月20日に、国家小議会の決議によってザブハルラントシヤルガ県を、革命を起こしたスフバータル将軍を記念する意味である“スフバータル”県に地名を変更した。また中心都市をバロンオルト川周辺に移して名前をバロンオルトに改名した。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：82,900km² - 位置：モンゴル東部の南側に位置する。 - 気候：気候は乾燥して日較差が激しい。
人口及び世帯	- 人口：52,800人 - 人口密度：0.4人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：14ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	エルデニゾー寺院、国連の保護遺跡地として登録された突厥石碑‘マンティンフシュ’

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：320億トゥグルク

○ その他現況

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Sukhbaatar aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1512-21585 F. +976-1512-21585
インターネットホームページ	http://sukhbaatar.pmis.gov.mn/

17) セレンゲ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	1947年、セレンゲ県のシャーマルソム地域で昔の人の遺骨が発見されたことによって、中央アジアに人が初めて暮し始めたのはもっと昔であることが分かり、国際人類学者たちは、モンゴル、特にセレンゲ地域には、人間が少なくとも40～50万年前から暮していたということを結論付けた。 またB.C. 1世紀から、中央アジアを支配した匈奴の中心地であり、後に10世紀から力持つようになる‘ゴルワンメルゲド’県もこの地域に位置していた。その後、14～18世紀にかけては、ヒアクト、フデル、ゼルテルを通じて貿易が行われ、セレンゲ地域は、モンゴルに世界の資本が入って来るための関門となり、19～20世紀には国際経済、政治交流の中心になったことで、セレンゲの人々は他の地域より早く世界市場に進出を果たした。
地域特性	セレンゲ県は、アムガイ、ホトル、ハボル、エスヘイなどモンゴルの偉大な王の故郷である。1921年国民革命の初勝利がセレンゲ県であった。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：43,000km² ・位置：首都ウランバートルから358km離れている。 ・気候：気温は日較差が激しく、冬は地面が凍るほど寒く雪が多く降る。冬季の平均気温は-35℃～-42℃であり、夏と秋に雨が多く降る。夏季の平均気温は、30℃～36℃である。春、秋風の方向は気まぐれで風速は12～17m/s、年間降水量は300～400mmである。
人口及び世帯	・人口：94,590人(2008年末) ・人口密度：2.19人/km²
行政区域	・知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5)、郡部(1)、事業チーム(21) ・基礎区域：17ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	アマル・バヤスガラント寺院、革命博物館

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 1,361億3,110万トゥグルク • 1人当り所得 : 1,499,700トゥグルク
産業現況	• 産業構造 - サービス業 : 貿易、外食業 82.3%、休養、宿泊業 8.2% - 製造業 : 鋼産業81.8%、食品業10.9%、建築材料6.3%、その他81.8%

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	• 担当部署 : 行政管理課 • 住所 : 213200 Sukhbaatar, Selenge aimag • 電話及びFAX T. +976-01362-22223 F. +976-01362-23834
国際友好都市	• 姉妹都市 : 韓国奉化郡、中国、日本、ロシア
インターネット ホームページ 及びE-Mail	http://www.selenge.mn sezdtg@mongol.net

18) 中央県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	初めは1923年にボクドハン山の県として、オボルドルロドという所で21のホショーが設立された。現在のリンソム地域である。県の主要都市は、1931年にウランバートル市に集約され、1942年からゾーンモドに移動した。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：74,800km² - 位置：中央県はモンゴルの中部地方にあり、首都ウランバートル市を取り囲んでいる。 - 気候：年間平均気温は夏季に18℃～25℃、冬季に-15℃～-30℃、降水量は200～300mmである。
人口及び世帯	- 人口：88,460人 - 人口密度：1.2人/km²
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：27ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	マンズシル寺院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：740億トゥグルク 1人当り所得：841,800トゥグルク

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Tuv aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1272-23084 F. +976-1272-22429
国際友好都市	友好都市：日本鳥取県、中国吉林省、ロシアブリヤート共和国 エラブノエ地区、ブルガリアルセ州、韓国江原道
インターネットホームページ	http://www.tuv.gov.mn/

19) オブス県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	オブス県の歴史は古くはないが、起源は古代に属する。1925年チャンドマニウーリン県として設立され、中心都市オラーンゴムは、17世紀後半に初めて基礎を作ったモンゴルの古代都市のうちの一つである。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：モンゴルの4.45%にあたる69,585km²の面積を持つ。 • 位置：モンゴルウランバートル市から1,336km離れたモンゴル西方のイフノロディン・ホットゴルに位置している。 • 気候：山脈地帯に位置しており、気候が気まぐれである。オブスノロディンホットゴルの冬季の気圧は、1月に1,054hPa(ヘクトパスカル)、気温は零下50℃に至る。モンゴルで一番寒い地方である。降水量は、イフノロディンホットゴルは年平均100～150mm、草原地帯は200～250mm、高山地帯は250～300mm程度。最も降水量が多い時期は 7、8月で、降水量の少ない時期は1、2月である。風速は4m/s。
人口及び世帯	• 人口：81,200人 • 人口密度：1.16人/km²
行政区域	• 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) • 基礎区域：19ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	オンチンハードニ岩刻画、ドルロドエン・ウィゴル碑文

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP：330億トゥグルク(2004年)

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・担当部署：行政管理課 ・住所：Uvs aimgiin Zasag dargiin Tamiin gazar ・電話及びFAX T. +976-1452-26415 F. +976-1452-22012
国際友好都市	・姉妹都市：中国新疆ウイグル自治区昌吉市 ・友好都市：ロシアハカス共和国アバカン市
インターネット ホームページ 及びE-Mail	http://www.uvsmongolia.mn/ nyamaa_delegnyam@yahoo.com

20) ホブド県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	オイラドチョロス県のホトグチンという英雄は、ホンタイジの導いた王国が、17世紀中盤に設立され、東方王国と言う名でモンゴルのみならず中央アジアの歴史でも知られている。 国民革命勝利以後、西側労働者たちの1次会議の決定によりチャンドマンサン県と称した。モンゴル共和国政府から1931年2月、経済に根拠をおいた行政区域の関連法を立法化した。この法律によってチャンドマンサン県をホブド、オブスという2つの県に分けた。バヤンウルギー県は、1940年ホブド県のカザック、オリアンハイソムを包含して分離した。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：76,000km² ・位置：モンゴル西部に位置する。 ・気候：平均降水量は120～140mmで、1月の平均気温は零下17℃～25.5℃、7月の平均気温は16.5℃、風速は1m/sである。春、秋は120日から160日間と比較的長く続く。

区 分	内 容
人口及び世帯	・ 人口：約90,000人
行政区域	・ 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5)、郡部(1)、文書記録チーム(1)、住民登録情報チーム(1) ・ 基礎区域：17ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	サンギンヘルム城壁

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：598億1,390万トゥグルク(2006年) ・ 1人当り所得：647,700トゥグルク

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	・ 担当部署：行政管理課 ・ 住所：Hovd aimgiin Zasag dargiin Tamgiin gazar ・ 電話及びFAX T. +976-1432-22393 F. +976-1432-22506
国際友好都市	・ 姉妹都市：新疆ウイグル自治区昌吉市 ・ 友好都市：ロシアアルタイ地方、アルタイ共和国、トゥヴァ共和国
インターネット ホームページ	http://hovd.pmis.gov.mn/

21) フブスゴル県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	モンゴルの北に位置し、1931年にフブスゴル県は設立された。
地域特性	県内にあるフブスゴル湖は有名である。モンゴルのスイスとも呼ばれている。森周辺には、トナカイを飼って暮らす部族が小さな部落を形成している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：109,600km² - 位置：モンゴル北部に位置する。 - 気候：フブスゴル県の気候は、気温の日較差が大きい。夏季の一番暑い月の7月には、15℃～20℃になり、最高気温は34℃に達する。冬季の一番寒い月である1月は-24℃～-49℃で、時には-49℃～-52℃まで下がる。年間降水量は、北部は300～400mm、南部は200～300mmであり、大部分は7～8月に雨が降る。
人口及び世帯	人口：119,100人
行政区域	- 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(5) - 基礎区域：23ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	ダンズンダルザ寺院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	GDP：410億トゥグルク(2004年)

○ その他

区 分	内 容
連合担当部署	- 担当部署：行政管理課 - 住所：Huvsgul aimgiin Zasag dargiin Tangiin gazar - 電話及びFAX T. +976-1382-22216 F. +976-1382-22216

区 分	内 容
インターネット ホームページ	http://hovd.pmis.gov.mn/

22 ヘンティ県

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	ヘンティ県は、モンゴル帝国を建設した世界の“千年の人物”と同時にモンゴルの“大王”であるチンギスカンが生まれて育ち権力を握って王座に付いた地域である。17世紀末から創立されたハルハの最初の4つの県の一つで約200年間“チェチェンハン”県という名称であった。人民政府の決定で1923年に、ハンヘンティオール県となった。国の社会経済発展の中、行政改革によりハンヘンティオール県から、1930年にドルノド、1942年にスフバタル県が分離して、ヘンティ県という名称と現在の領土・組織になった。
地域特性	歴史的にモンゴルの心臓地帯であり、特に県の南側のガルシャル地域は、モンゴルで最も早い馬の原産地として有名である。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：83,000km² • 位置：東経108°～113°、北緯46°～49°の間で、ヘンティ山岳地域の大部分を含み、ヘルレン、オノン、オルズ川流域に位置する。ドルノド、スフバートル、ゴビシンベル、中央、セレンゲ県と北は、ロシアと接境する。 • 気候：夏は 30℃～35℃、冬は-32℃～37℃ • 降水量：ハンガイ地帯320mm、ステップ地帯290mm、ゴビ地帯180mm
人口及び世帯	• 人口：76,000人
行政区域	• 知事(1)、副知事(1)、局(1)、課(4) • 基礎区域：17ソム(soum)
文化行事	ナダム祭り(7月11日～13日)
文化遺跡	カルタエアゴイ洞窟

○ その他

区 分	内 容
連絡担当部署	・ 担当部署：行政管理課 ・ 住所：Khentii aimgiin Zasag dargiin Tangiin gazar ・ 電話及びFAX T. +976-1562-22412 F. +976-1562-22412
インターネット ホームページ	http://khentii.pmis.gov.mn/

6. ロシア会員自治体

1) ブリヤート共和国

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1923年：ブリヤート・モンゴル・ソビエト社会主義自治共和国成立、この日をブリヤート共和国の建国日として制定 ・ 1958年：ソ連最高会議幹部会の指令によってブリヤート自治共和国に改称された。 ・ 1992年：自治共和国から ブリヤート共和国に名称を変更 ・ 1994年：初大統領選出 ‘レオニード・ワシリエヴィチ・ポタポフ’ ・ 1998年：第2次大統領選挙で ‘レオニード・ワシリエヴィチ・ポタポフ’ 再選 ・ 2002年：第3次大統領選挙で ‘レオニード・ワシリエヴィチ・ポタポフ’ 3選に成功
地域特性	世界淡水量の20%を占めているバイカル湖の3/4を含んでおり、領土の2/3が森林で覆われている。
シンボル	・ 象徴旗  ブリヤート共和国の国旗は、長方形の中に水平に3種類の色の帯で構成され、上から全体幅の半分を占める青色、その下の4分の1を占める白帯、そして同様に4分の1を占めている黄帯の順に配列されている。

区 分	内 容
シンボル	• 象徴紋章  ブリヤート共和国の公式紋章は、3色の円で構成されている。(青―白―黄)円の上部は太陽、月、暖炉が描かれていて、永遠の生を象徴する。円の中心には青-白の紐の幅が同様に描写されており、バイカル湖の波が描かれ、その背景には薄緑と濃い緑で描かれた現地の地形をよく表している山頂がある。円の下部には空色のリボン模様の‘ハダック’が囲んでいるが、この‘ハダック’というのはブリヤート共和国民族のお客様を歓迎する伝統を表しているもので、円の下部を支えている部分はこの紋章の基礎になる。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：35万1,300km² • 位置：シベリア南側に位置し、モンゴル、トゥヴァ共和国、イルクーツク及びチタ州とザバイカル地方と境界を結んでおり、この共和国の行政首都であるウランウデはモスクワから5,532km離れている。 • 気候：寒い冬と暑い夏がある酷寒の大陸性気候である。冬は積雪量が少なく乾燥した寒さと極寒で、春は降雨量が少なく風が吹いてまた寒い気候である。夏は昼には暑く夜にはひんやりとし、期間が短い。7、8月に降水量が集中している。夏の平均気温は+18.5℃、冬の平均気温は-22℃で、年間降雨量は244mmである。
人口及び世帯	• 人口：96万人(2007年) • 人口密度：2.73人/km²
行政区域	• 基礎自治体数：21地区、6都市、都市型定着地29、農村611。
文化行事	バイカルの日(8月2～3日)
文化遺跡	ラマ教修道院(イボルギンスク、グシノーゼルスク、チョンゴルスク等々)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 58億6,500万\$ (2006年) • 1人当り所得 : 6,110\$ (2006年)
産業現況	• 産業構造 : 工業25%、農業10%、建設7%、運送17%、貿易11%、サービス16%
主要産品	• 機械製作、木材、木材加工、非鉄金属、食品加工産業と軽工業 • 電気エネルギー : 時間当り35Kwと約500万キロカロリーの熱エネルギーが作られる。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 外交経済振興部 • 住所 : Ulan-Ude, the Republic of Buryatia? 670000 Reception of V. Nagovitsyn 9 Sukhe-Batora str. • 電話 : 7-3012-21-31-64 • FAX : 7-3012-21-45-43 • E-Mail : buryatia@icm.buryatia.ru
インターネット ホームページ	http://www.Gov.buryatia.ru

2) サハ(ヤクーチア)共和国

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 1922年4月27日ヤクーチア独立自治州(ソ連連邦内)が形成された • 1990年9月27日国民の積極的な支持によって独立国家として宣布される。 • 1991年10月大統領制の始まり。 • 1991年12月初大統領「ミハイル・エフィーモヴィチ・ニコラエフ」の当選に伴い、名称を「サハ共和国」に変更
地域特性	ロシア連邦で領土が最も広い地域として豊かな鉱物資源を保有している。

区 分	内 容
シンボル	• 象徴旗  サハ共和国の国旗は青色、白色、赤色そして緑の横の直線で構成されている。国旗は青色部分の幅が全体の国旗の3/4を占め、白色1/16、赤色1/16、緑は1/8の幅になっている。青色部分の中央には白い円が描かれており、円の直径は国旗幅の2/5である。国旗の幅と長さの割合は1:2。
	• 象徴紋章  サハ共和国の紋章は円形であり、中には古代伝令の姿が描写されている。(この絵はレナ川の岩壁に描かれている)これは太陽を象徴する円形の盾で、枠には伝統装飾文様である7つの四角形のクリスタル結晶体が描かれている。太陽は銀色、伝令兵は暗い赤色、枠は暗い青色、装飾は白色である。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：310万3,200km² • 位置：サハ共和国の領土は北緯60° に位置している一方で、領土の40%は北極圏に含まれている。共和国の西部と南西部地方は、クラスノヤルスクとイルクーツクの国境と接し、南部はザバイカリエ地方及びアムール州と接している。北は東シベリア海、ラプテフ海と接し、内陸の境界は近付くのが困難な山岳地帯に位置している。 • 気候：極限の対照を成している。酷寒の大陸性気候で夏には+40℃まで上がり、冬には-60℃まで下がり、気温差がおおよそ100℃を超える。 冬には北の空でオーロラ現象が起き、夏には白夜が起きる。
人口及び世帯	• 人口：95万1,436人(2008年) • 人口密度：0.3人/km²
行政区域	• 基礎自治体数：首都(ヤクーツク)、34個の郡

区 分	内 容
文化行事	・ 4月27日サハ共和国の日 ・ 6月21日昔の伝統による新年
文化遺跡	・ ユネスコ指定口伝名作英雄叙事詩 ‘オロンホ’

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：約99億5,200万\$ ・ 1人当り所得：10,460\$
産業現況	・ 産業構造：非鉄金属、電力、食糧産業がこの地域すべての産業生産の96.9%を占めている。 ・ 産業基盤施設：重油発電所、水力発電所
主要産品	・ 鉱物資源：88のロシア共和国政府の中、3位の埋蔵量を持ち、ダイヤモンド、金、アンチモン、タタル生産に主導的な立場であり、天然ガスと石炭採掘にも積極的に関与している。 ・ 非鉄金属：非鉄金属冶金業は産業生産全体の72.2%を占める。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	・ 担当部署：外交部 ・ 住所：Russia, 677011, Republic of Sakha (Yakutia), Yakutsk, Lenin avenue, 30 ・ 電話：7-4112-34-06-07 ・ FAX：7-4112-34-19-39 ・ E-Mail：mvs@sakhanet.ru
インターネット ホームページ	http://www.sakhaexport.ru

3) トゥヴァ共和国

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 1921年9月9日：ロシアソビエト社会主義連邦共和国の外務省人民委員会でトゥヴァ民族独立承認のための民族構成会 • 1925年7月22日：モスクワでトゥヴァ人民共和国とソ連邦の間で友好関係確立と、外交部の外交に関する協定を締結 • 1926年8月10日：ウランバートルでトゥヴァ人民共和国とモンゴル人民共和国の間で相互独立承認及び友好関係確立と外交部の外交に関する協定を締結 • 1944年10月：トゥヴァ自治州としてソ連編入承認に関するソ連邦最高会議幹部会議の法令に署名 • 1961年：ロシア連邦の自治共和国として地位獲得 • 1990年12月：トゥヴァ共和国の最高会議で、ロシア共和国の一員として共和国の政府主権に関する宣言書採択 • 1991年12月28日：トゥヴァ共和国大統領に関する法が採択される。 • 1993年10月21日：共和国最高議会でトゥヴァ共和国憲法採択 • 2001年5月6日：新憲法が採択。トゥヴァ共和国大統領の地位に関する法令解除 • 2002年3月：トゥヴァ共和国 政府の議長選挙 • 2002年6月：トゥヴァ共和国 政府の議会選挙
シンボル	・象徴旗  青色の長方形が土台となり、その下と上方から始まる2つの白い線が1つの直線と出会って中央を横切る。左側の三角形部分は黄色である。2つの線はトゥヴァに沿って流れるボルショイエニセイ“ビーヘム”川とマールイエニセイ“カーヘム”川を意味しており、2つの白い線が合わさった線はベルフニエニセイ“ウルグヘム”川を意味する。黄色は富と偉大さを象徴し、青色は清い空、目的の崇高さ、相互尊敬及び社会的理解と同意を象徴する。また白色は社会道德の清潔、高潔さを象徴すると同時にトゥヴァ人がお客さんが訪問した時にもてなす伝統の飲み物であるミルクティーを思い浮かばせる。 ・象徴紋章  青色の土台に黄色い民族伝統衣装を着て馬に乗っている人間を形状化し、馬上の人は黄金色の太陽を向けて駆けていく。”ガダク”と呼ばれる伝統帯に“トゥヴァ”と 共和国の名前が書かれている。馬上の人は数世紀の間、農業と牧畜業に携わったトゥヴァの伝統的な命の形態とトゥヴァ民族の独創性を表す。太陽に向けて駆ける騎手は、幸せな生活、平和、高い理想の追求を意味する。“ガダク”という帯は伝統祭りの儀式に使われ、情のある客への応対とトゥヴァ人の親切を表す。紋章の真似ることができない独特の形式を持つ5枚の花びらの模様は、古代仏教での永遠さを象徴している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：16万8,600km² - 位置：トゥヴァ共和国は中央アジアに位置し、東シベリアの南側、またエニセイ川の上流に位置している。トゥヴァ共和国の首都はクズル市でアジアでの地理的な中央点である。 - 気候：海と大洋から遠く離れている山岳地帯を形成しているため、極端な大陸性気候であり、冬が長く非常に寒いが夏は暑い。冬は寒いが風はなく、盆地地域では降雪量が少ない。夏は山岳地域では暖かく盆地地域は暑い。1月の気温平均は-28℃～-32℃で、7月の平均気温は+15℃～+20℃である。一番寒い冬は-58℃で一番暑かった夏は+40℃である。 トゥヴァ共和国は高い峰と深い盆地が交差する山岳地方である。トゥヴァ共和国の面積の82%が山岳地帯で平地は18%である。永久凍土層があるツンドラ気候地域、タイガ森林地帯、ステップと砂漠の複合気候地域
人口及び世帯	- 人口：31万1,619人(2008年) - 人口密度：1.85人/km²
行政区域	基礎自治体数：トゥヴァ共和国は、17のコズン地区と2つの都市地域(クズル市、アクドブラク市)で構成されている。
文化遺跡	トゥヴァ草原の古墳(皇帝)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：10億8,132万\$ (2006年) 1人当り所得：3,470\$ (2006年)
産業現況	- 産業構造：産業 8.2%、農業 15%、建築 3.5%、運送 3.2%、通信 1.5%、商業 12.7%、その他 55.2%。 - 産業基盤施設：経済の主要な部分は畜産業を基盤とする農業であり、莫大な天然資源を基盤にした産業団地が大部分を占めている。
主要産品	石綿、木材加工、食品産業、素材、天然毛織毛氈、記念品、非鉄金属製品

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	・ 担当部署：国際課 ・ 住所：Russia, 667000, Republic of Tuva, Kyzyl city, Chuldum str., 18 ・ 電話：7-39422-1-01-49 ・ FAX：7-39422-1-02-25 ・ E-Mail：maadyr@mail.ru
インターネットホームページ	http://www.gov.tuva.ru/

4) アルタイ地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1915年：アルタイ鉄道がノボシビルスク、バルナウル、セミパラティンスクと連携されて建設された。 ・ 1917年 7月：アルティ州がバルナウルを中心に誕生 ・ 1925～1930年：アルタイ領土がノボシビルスクを中心にしてシベリア地方に併合される。 ・ 1930～1937年：ノボシビルスクを中心に西シベリア地方に変わる。 ・ 1937年：バルナウルを中心にアルタイ地方が再び設立される。 ・ 1991年：山岳アルタイ地方自治州（現在のアルタイ共和国として独立）がアルタイ地方に統合される。
地域特性	世界で一番大きい西シベリア平原があり、東部は山地で西部はステップ地域であり、大部分の地域はタイガの森林で覆われている。
シンボル	・ 象徴旗  アルタイ地方の旗は赤い正方形の土台に左側に青色の線があり、その上に農業を意味する黄色い穂が配列されている。旗の中央にはアルタイ地方の紋章が形象化されている。 ・ 象徴紋章  アルタイ地方の紋章は、フランス式の盾の形態を土台にしている。盾は横で2等分され、紋章の上の部分の青は偉大を象徴しており、煙が出ている熔鉱炉は18世紀のアルタイ地方の歴史を形象化したものだ。紋章の下部分の赤色部分は品位と勇猛を象徴し、エルミタージュに保管されている“皇帝の花瓶”が描かれている。青いリボンが絡まった黄金色の小麦の穂の花輪が盾を取り囲んでいて、小麦はアルタイ地方の主要産業である農業を表している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：16万7,850km² - 位置：アルタイ地方は、西シベリア東南部に位置し、西シベリア平原とアルタイ山脈が出会う所である。西部と南部の境界はカザフスタンと国境を接していて、北部地方と東北部地方はロシアのノボシビルスクとケメロヴォ州、東南部地方はアルタイ共和国と国境を接している。 - 気候：気候は、夏は暑く冬は寒いが穏やかな大陸性気候だ。夏には平地より山が涼しく、冬は平地より山が暖かい。このような気候の特性のおかげで、山の低い地帯には大規模な農場があり、果物の収穫量が多い。11月初めから雪が厚く積もり始め、3月末や4月初めにとけ始める。1月は普通-17.6℃、7月は+18.4℃、1年の降水量は250～350mmである。
人口及び世帯	- 人口：250万8,500人(2008年) - 人口密度：15.3人/km²
行政区域	基礎自治体数：アルタイ地方はシベリア連邦地区に含まれている。都市地域は12、地方自治地域が60、農村地域が720ある。
文化遺跡	ブラフマン民族人形劇劇場

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：5,200\$ (2006年) 1人当り所得：130億4,420万\$ (2006年)
産業現況	産業構造：採鉱、加工産業 部門、エネルギー資源部門が主である。
主要産品	- 工業製品：トレーラー、鉄道貨物車、農業用車タイヤ、無限軌道トラクター、プレス機 - 食料品加工製品：チーズ、小麦粉、穀物、動物性油など

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	- 担当部署：国際及び対外関係部 - 住所：Russia, 656035, Altai region, Barnaul city, Lenin prospect, d. 59 - 電話：3852) 63-43-69, 36-90-48 • FAX：(852) 26-23-60 - E-Mail：dved@ab.ru

5) ザバイカリエ地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1937年9月26日：チチンスク州形成 ・ 2008年3月1日：チタ州とアガブリヤート自治州が統合して、ザバイカリエ地方になった。
地域特性	タイガとステップ地帯の中間に位置し、領土の50%以上が山岳のタイガ樹林で覆われ、南部と谷は大草原で覆われている。 観光産業の潜在力が大きく、中国、モンゴルとの経済関係が大きな比重を占める。
シンボル	・ 象徴旗  ・ 象徴紋章 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：43万1,500km² (ロシア全体の2.5%) ・ 位置：ザバイカル西方と北西の境界は、ロシアのブリヤート共和国とイルクーツク州、北東と東の境界はサハ(ヤクーツク)共和国とアムール州、南側と東南はモンゴル、中国と約5,000km 国境を接している。 ・ 気候：酷寒の大陸性気候(冬は長く乾燥し積雪量が多く、夏も乾燥して短いが暖かい)。1月の平均気温は-26℃～-33℃度であって、7月の平均気温は17～21℃度である。年間降雨量は120～200mmで夏に集中している。
人口及び世帯	・ 人口：111万9,000人(2005年) ・ 人口密度：2.6人/km²(2005年)
行政区域	・ 基礎自治体数：31区、5都市、44村、375自治組織
文化遺跡	ツゴールラマ教修道院

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 9,040億ルーブル(2007年) • 1人当り所得 : 約15万ルーブル(2007年)
産業現況	• 産業構造 : 主要産業は鉱業(炭鉱含む)と冶金であり、農業と林業が発達している。 • 産業基盤施設 : 主要産業の会社はチタ市にあり、工学と金属加工(機関車と自動車修理工場、工作機械工場)、木工及び食品産業の中心地である。 • 観光 : ザバイカリエ地方の経済において最大の発展可能性がある。
主要産品	• 鉱物資源 : 鉄、ポリメタル、銅、モリブデン、金、フッ素、沸石、シュミッテライト、石炭と褐炭など • 工業生産品 : 最近燃料-エネルギー複合工業、冶金工業、食品工業の比重が大きくなっている。 • 農業 : 農業総生産量の中で畜産業が約70%を占め、残りは穀物栽培が占める。複合農工業企業は穀物、ジャガイモ、野菜、マクワウリ、牛乳、肉、卵、蜂蜜、羊毛、生皮、綿毛などを生産している。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 外交通商 • 住所 : Russia, 672002, Chita city, Amurskaya str., 68 • 電話 : 7-3022-30-00-66 • FAX : 7-3022-30-04-89 • E-Mail : crafed@mail.chita.ru
インターネット ホームページ	www.obladm.chita.ru

6) クラスノヤルスク地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 1619年：エニセイスク県(現在のエニセイスク市)創建 • 1628年：アンドレイ・ドゥベンスキーによってクラスヌィヤル県が創建される。 • 1690年：“クラスノヤルスク”はシベリアがロシアの領土に確定し、市に昇格した。 • 1822年：エニセイスク・クベルニーが創立される。交通と地理的に有利なクラスノヤルスク市が行政の中心都市(現・庁所在地)になる。 • 1895～1897年：エニセイ地方に“トランシビルスカヤ 鉄道”設立 • 1917年：クラスノヤルスクに王政崩壊が知らされ、10月革命の消息があった後、ソビエト政権が立ち入る。 • 1920年：ソビエト地域に再編される。 • 1925年：ノヴォニコラエフスク(今のノボシビルスク市)を行政の中心都市(現・庁所在地)として、シベリア地方が創立されてエニセイスク・クベルニー州はシベリア地方に編入される。 • 1930年：東シベリア地方が創立される。
地域特性	交通インフラが発達していて、豊かな資源と共に大きな潜在力を持っている地方である。
シンボル	• 象徴旗  クラスノヤルスク地方の旗は、赤い長方形を土台に、真ん中に州の紋章があり、紋章の高さは土台の高さの2/5、縦横の割合は2：3である。 • 象徴紋章  クラスノヤルスク地方の紋章：真紅の色を土台に黄金の獅子が右に黄金のシャベルを、左手には黄金の鎌を握っている。クヌギの葉、青いリボン、チョウセン松の枝で取り囲まれた盾である。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積：236万6,800km² • 位置：クラスノヤルスク地方はシベリア中央に位置し、ロシア領土の13.86%を占める。エニセイ川の沿岸に位置し、北端は北海のカルスク海とラプチェフ海に接している。

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 気候：年中気温の変化が激しい酷寒の大陸性気候である。この地方の北部と中心地を含めて居住分布の低い地域は暑く短い夏と長い冬が気候の特徴である。年間気温が10°C以上の日が北では40日以下で、南では110～120日である。1月の平均気温は北が-36°C、南は-18°Cであり、7月の平均気温は北が10°C、南が20°Cであり、年中降雨量は316mmである。
人口及び世帯	・ 人口：296万6,000人(2008年) ・ 人口密度：1.2人/km^2
行政区域	・ 18都市区域、44行政地域、35田園都市類型、484田舎地域、3閉鎖都市地域(ソルネチヌイ、ジェレズノゴルスク、ゼレノゴルスク)
文化遺跡	・ スパソブレオブラジェンスキー修道院 ・ スビャタヤ プラスケビヤ ピアトニーチャ礼拝堂(寺院) 

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：7,212億ルーブル(2007年) ・ 1人当り所得：24万9,600ルーブル
産業現況	・ 産業構造：職業創出的な側面で見ると、1位は鉄鉱、非鉄金属冶金工業である。クラスノヤルスク金属冶金工業団地が設立された。2007年冶金業の全収入は、3,991億ルーブルである。2番目は機械製作で2007年に271億ルーブルを稼いだ。3位は木材産業で、約400余りの企業が関わっている。 ・ 産業基盤施設：エニセイ川に大規模の水力発電ダムがある。
主要産品	・ 鉱物産業：ロシア全体基準で27%のアルミニウム、70%の銅、80%のニッケル、74%のコバルトと90%以上の白金類を生産する。 ・ 工業生産品：収獲用コンバイン、木材運送トラック、冷蔵庫、200トンまで処理するクレーン、ロケット宇宙関連技術、通信装備

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署：州行政部 • 住所：Russia, 660009, Krasnoyarsk krai, Krasnoyarsk city, prospect Mira, 110 • 電話：7-3912-49-32-35 • FAX：7-3912-22-11-78 • E-Mail：ovs@krskstate.ru
インターネットホームページ	http://www.krskstate.ru

7) 沿海地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 1938年10月20日：ソ連邦最高会議幹部会議の指令により形成された。当時極東地方の分割はハバロフスクと沿海州に分けられた。 • 1943年：沿海州とウスリー州が沿海地方に統一された。
地域特性	東海岸と並んで伸びているシホテアリン山脈の南西半分が沿海地方の大部分を占め、西側国境に沿ってウスリー川と興凱湖沿岸に平野がある。
シンボル	• 象徴旗  • 象徴紋章 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・面積：16万5,900km² ・位置：ロシア語でプリモルスキーと言う。ロシア語で‘プリ’は‘沿岸’、‘モルスキー’は‘海の’という意味で海岸線が1,350kmも伸びている。北西は中国東北地方、南西は北朝鮮に接し、南東は日本海と面している。 ・気候：温帯モンスーン気候で、冬が乾燥し晴れた天気で寒いことが特徴である。夏は暖かくじめじめして、降水量が集中する。また台風がよく来て赤道の台風が毎年海岸を襲う。秋は暖かく晴れて乾燥する。7月の平均気温は14～21℃で、1月は-12℃から海岸では-27℃まで下がる。年間降水量は600～900mmで、植物が育つ期間は120～200日間である。
人口及び世帯	・人口：199万5,800人(2008年) ・人口密度：12.3人/km²
行政区域	・行政中心：ウラジオストック ・基礎自治団体数：12都市、22地方自治区域(29都市型居住地と116の村落)
文化行事	沿海 地方の日(10月25日)
文化遺跡	ハサン歴史文化記念地(露日戦争記念)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・GDP：116億3,550万\$ (2006年) ・1人当り所得：5,830\$ (2006年)
産業現況	・産業構造：主産業は、鉱産業、機械製造業、金属工業等であり、人口密度が高いウスリー川流域では乳牛と肉牛が飼育され、穀物、ひまわりなどが栽培されている。ペティホプカとノボシヤフティンスクには露天石炭鉱山があり、スズ、鉛、亜鉛、螢石も採掘される。 ・産業基盤施設：海岸には漁業基地と捕鯨基地がある。
主要産品	・農林水産品：牧畜業、穀物、ひまわり ・工業生産品：機械製造、金属工業 ・その他産業：漁業、木材、毛皮

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	・ 担当部署：国際協力観光部 ・ 住所：Russia, 690110, Vladibostok, Svetlanskaya str., 22, kab. 417 ・ 電話：7-4232-208-340 ・ FAX：7-4232-209-259, 209-236 ・ E-Mail：sakovsky@primorsky.ru
インターネットホームページ	http://www.primorsky.ru

8) ハバロフスク地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1856年：黒龍江沿岸に設立され、‘ニコルライエフスクーナーアムール’の沿海地方と中心地域から初めて自発的な行政区域の形態が登場 ・ 1920年：新しい沿海地方の地域(首都ハバロフスク)が沿海地方の地域から分離した。 ・ 1938年：極東地域がハバロフスク地方と沿海地方に分かれた。
地域特性	ハバロフスク地方は、主に鉄道交通を通じて貨物運送が形成され、全体貨物流通量の95%を占め、ここを貫く航空路を通じてアジア国家とアメリカ大陸及びヨーロッパを連結する交通の要衝地になる。ハバロフスク地方の国際空港は、日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾、イスラエルなど大規模な国際空港と繋がっている。
シンボル	・ 象徴旗  ハバロフスク地方の旗は3種類の色で表現され、ここで使われている3色の意味は次のとおりである。 － 青色：美しさ、柔らかさ、偉大の象徴である。ここでの意味は、ハバロフスク地方の広大な水資源を象徴している。 － 緑色：希望、喜び、豊饒の意味を持ち、‘終りのない海のようなタイガ地帯’と称されるハバロフスク地方に棲息している多様で独特の多くの動植物群を象徴している。 － 白色：清潔、善良、謙遜を象徴する色である。白の背景は清く平和な空とその純粋さを表し、この地域の人々の純粋な心も同時に意味している。

区 分	内 容
シンボル	・ 象徴紋章  ハバロフスク地方地方の紋章はフランス式紋章の形態を土台にしている。銀色を土台にしたハバロフスク地方の紋章には、腹部に白色の毛のある黒熊が、力強く実際に近い形で描写され、西の方を向いて注意深く胸の方に前足を寄せて座り、ハバロフスク地方の中心地の紋章を支えている。この紋章は5色に彩色されている。 赤色(真紅色)は勇猛、大胆、怖れのないことを象徴、 青色(紺碧)は美しさ、柔らかさ、偉大さを象徴 黒色は思慮、謙虚、悲哀を象徴 金色は富裕、公正、寛大さを象徴 銀色は清潔、善良、自立心を象徴 ハバロフスク地方の紋章は、現代的な記号学—紋章の構造を利用して、紋章に要求される構成要素を上手く備えている。この紋章は、ハバロフスク地方で継承されている歴史、文化、自然—気候的特性、極東地方の人々の主な伝統形式などを象徴的によく表しており、それ自体が記念碑的な価値を持つ。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：788,600km²(ロシア領土の4.5%でロシア極東経済特区の12.7%) ・ 位置：ハバロフスク地方は、ロシア極東部の中心地に位置している。陸地、海と航空路の要衝地として内部の主要都市と太平洋港を連結して、CISと西ヨーロッパをアジア太平洋沿岸国家と連結する役目を果たしている。ハバロフスク地方は、ロシア連邦で最大の行政区域に属する。この地域は、南北に1,800km、東西に125～750km伸びている。中心地からモスクワまでの距離は鉄道で8,533km、航路では6,075kmである。 ・ 気候：地形の特性と形態は、海岸に近いことから、北から南まで多様な気候が現われる。冬は少ない雪と極限の寒さが続き1月の平均気温は南側(-22℃)から北は-40℃まで、海岸地域では-18℃～-24℃まで下がる。夏は暑くてじめじめし、7月の平均気温は、南側では20℃、北では約15℃ぐらいである。年間降水量は北では約400～600mmで、平野と東の山脈傾斜地帯では約600～800mmである。
人口及び世帯	・ 人口：140万5,400人(2007年) ・ 人口密度：1.8人/km²(2007年)

区 分	内 容
行政区域	基礎自治体数：19の地方自治体 -2都市(ハバロフスク、コムソモリスク・ナ・アムール)、17の地域(オホーツク、アヤノーマイスク、トゥグローツミカン、ニコライ、ボーリナオシベンコ、ウルチスク、ベルフネブレイン、ソネチネ、コムソモリスク、アムール、ナナイ、パニン、ハバロフスク、ソベツコーガパン、ラゾ、ビヤーゼム、ビキン)
文化行事	言論の日(9月11日)
文化遺跡	ドラマ地方劇場(1894年設立)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：57億6,000万ドル 1人当り所得：319.7ドル
産業現況	- 産業構造：基本的に森林調達と機械製作部分が発達し、鋼鉄、圧延、精油製品の全体を極東地域で生産している。2004年の統計によると、工業部分がハバロフスク地方の経済基盤の50%以上を占める。ハバロフスク地方は他の極東地域より、はるかに多様な分野を扱っている。約30%は、工業機械設備と金属加工、食品業14%、非鉄金属工業が13%、森林木材加工業が12.5%を占める。 - 産業基盤施設：ハバロフスク地方の燃料-エネルギー団地(極東地域で最大規模の発電所)
主要産品	- 主導産業：燃料-エネルギー団地、機械製作、金属加工業、林業 - 特化産業：鉄鋼業、非鉄金属業、漁業、食料品工業(肉類、乳製品、小麦粉製品、酒類製品など) - 輸出製品：多用途プロペラ貨物-旅客機、小型水陸両用飛行機 Be-103、モーターボート、小型ボート

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	- 担当部署：外交通商観光部 - 住所：Russia, 680000, Khabarovsk, Muravyev-Amursky St., 19 - 電話：7-4212-32-76-03 - FAX：7-4212-32-76-03 - E-Mail：vnesh@adm.khv.ru
インターネットホームページ	http://www.adm.khv.ru

9) アムール州

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1858年アムール州形成 ・ 1918年アムール社会主義共和国に改名 ・ 1932年極東共和国に属し、アムール県に改名されハバロフスク地方に編入 ・ 1948年アムール州として分離
地域特性	領土の大部分がアムール川と接し、太平洋沿岸の港とアムール周辺を連結する2つの鉄路がアムール州を通過する。
シンボル	・ 象徴旗  旗の下の3分の1は、青色が占め、上部と下部を分ける銀色の波模様は川の波を形象化したものである。波模様は旗の15分の1の大きさで、旗の上部の赤色はアムール州の無垢な歴史とアムール人の精神を形象化したものである。 ・ 象徴紋章  州のシンボルは15世紀に形成された盾模様を基にしている、このような盾模様は勇猛さを象徴している。 盾の緑色は州の経済が農業に根幹を置いていることを意味し、盾の上に描かれた“古代皇帝の冠”はアムール州が属しているロシア連邦が単一国家であることを意味する。銀色の波柄は州が川辺に位置している特色を表している。 赤い光のアレクサンドルのリボンが絡んだクヌギの枝は、ロシアの国境を守護するという団結心、力と光栄を象徴している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：36万3,700km² ・ 位置：アムール州はブラゴヴェシチェンスクを州都とし、ロシア極東地域の南側に位置し、その面積は363,700km²である。南側は中国と国境を接し、西方はザバイカリエ地方、北はサハ(ヤクーチア)共和国、そして東はハバロフスク地方と接している。 ・ 気候：亜温帯気候に属し、モンスーンの特徴がある大陸性気候である。平野地域には大部分、年中風の無いのどかな天気が続く。霜の無い期間は北では57日、南側では144日であり、10℃を超える生育期は115～134日である。1月の平均気温は-30.2℃で、7月の平均気温は20.8℃である。

区 分	内 容
人口及び世帯	- 人口：86万9,600人(2008年) - 人口密度：2.4人/km²
行政区域	基礎自治体数：20郡と8市、24村と600余の里で構成
文化行事	アムール州150周年(2008年12月8日)
文化遺跡	アルバジノ村

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：58億6,500万m\$ (2006年) 1人当り所得：6,110\$ (2006年)
産業現況	- 産業構造：州領土の半分は耕作地で56%は森になっていて、水力発電所が発達している。130年間、技術を集約させて来た金鉱採掘産業において金鉱保有量がロシア全域で3位を占める。 - 産業基盤施設：ロシアとアジアを連結する要衝地に位置し、トランシーブ(シベリア幹線)とバム(バイカル-アムール幹線鉄道)の総延長長さは3,000kmに達する。“アムール”高速道路(チターハパロフスク)が建設中である。専門化された研究機関(砂金精錬、合金技術、現代的なケーブルライニング技術、高度な精密石炭加工技術、呼吸機械通診断及び治療方法研究所など)がある。
主要産品	農林水産品：気候条件が穀物とジャガイモ、野菜、飼料用植物の耕作と牛、豚の畜産業を行うのに適しており、アムール州でロシアの豆の40%を生産する。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	- 担当部署：外交通商部 - 住所：Russia, 675023, Amur Region, Blagoveschensk, Lenin str., 135 - 電話：7-4162-44-12-97 - FAX：7-4162-44-38-11 - E-Mail：department@kvest.amurobl.ru
インターネットホームページ	http://www.amurobl.ru

10) イルクーツク州

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1764年：イルクーツク県設立 ・ 1887年：イルクーツク郡設立 ・ 1937年：ソ連連邦に属したイルクーツク州形成 ・ 1967年：経済文化的な成果に対してレーニン勲章授与
地域特性	イルクーツク州はロシアで6番目に面積が大きい州として、ロシア全体の面積の4.6%を占め、世界最大の淡水湖であるバイカル湖と接している。 州領土が南方のタイガ地域に位置し、また80%を超える松、チョウセンマツそして広葉樹などの山林が領土を占めている。
シンボル	・ 象徴旗  旗の青色は水を意味し、バイカル湖、アンガラ、そして州にある多くの川を形象化している。白は純粋と善、謙遜を意味し、雪が多いシベリアの冬を形象化したものである。緑は杉の枝の色であり、希望と喜び、豊饒を意味し、イルクーツクの天恵の植物界と豊かな森林資源を強調している。クヌギの葉で構成された王冠が盾の上に置かれ、青き聖アンドレイのリボンで編まれたクヌギの葉がその周辺に巻きついている。 ・ 象徴紋章  このシンボルは州の歴史的伝統、世代間の結合を表現し、ロシアの過去と単一性はもちろん我が州が持っている現在の知的、産業的な潜在力を形象化している。銀色は正義と純粋、黒い色は知恵と和解、そして赤い色は勇気と勇猛、大胆であることを意味する。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：76万7,900km² ・ 位置：北から南までの長さが1,500km、西から東までの長さが1,300kmである。最南端はオレンブルグ、サラトフ、ボロネズィのような都市と同じ経度に、最北端は緯度65°にマガダン州とヤクーツクの都市よりさらに北に位置している。モスクワからイルクーツクまでの距離は5,042kmである。イルクーツク州領土の大部分は中シベリア高原周辺で、アンカラ、レナ、ニジニヤヤ・ツングースカ川上流沿岸に位置している。

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 気候：海からの距離が遠く、アジア大陸中部に位置しているため、典型的な大陸性気候である。冬は乾燥し極寒で、夏は暑く乾燥する。1月の平均気温は約-15°C～-33°Cで、7月の平均気温は17°C～19°Cぐらいである。年間降水量は400mm程度で、北西側と西側の山脈の傾斜地には年間降水量が800mmまでになる。年の生育期は116～127日ぐらいである。
人口及び世帯	・ 人口：244万6,378人 ・ 人口密度：3.3人/km^2
行政区域	・ 基礎自治体数：イルクーツクの州都はイルクーツクで、ウスチオルダ・ブリヤート自治区に属する。31区、22都市と60村がある。
文化遺跡	イルクーツク地域博物館、タリツィ民俗建築博物館

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	・ GDP：225億8,000万\$ ・ 1人当たり所得：9,230\$ (2006年)
産業現況	・ 産業構造：木材生産、セルロース、パルプ及び製紙生産と板など林業と係わる産業が発達し、石油と石炭を含む多様な鉱物が多く埋蔵されている。
主要産品	・ 山林関連：木材、パルプ及び製紙、板など ・ 鉱物資源：金、カリウム雲母(白雲母)、鉄鉱石、稀有金属、石炭、炭化水素原料、褐炭、瀝青炭等 ・ 観光産業：‘神聖な海’と呼ばれるバイカル湖周辺を観光地として開発

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	・ 担当部署：地域行政府 ・ 住所：Russia, 664027, Irkutsk city, str., Lenina 1a ・ 電話：7-3952-25-64-98 ・ FAX：7-3952-24-33-40 ・ メール：vin@govirk.ru
インターネットホームページ	http://www.govirk.ru

11) カムチャツカ地方

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1849年：カムチャツカ州建設 ・ 1932年：ハバロフスク地方の行政単位として成立 ・ 1956年：ハバロフスク地方からカムチャツカ州として分離 ・ 2008年：カムチャツカ地方になる。
地域特性	面積が英国、イタリア、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドのような国より広く、カムチャツカ地方の境界はベーリング海とオホーツク海、太平洋と面している。
シンボル	・ 象徴旗  ・ 象徴紋章 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：47万2,300km² ・ 位置：ロシア東北の方に位置し、カムチャツカ半島は太平洋経済地帯に属している。海岸線の長さは5,500kmである。 ・ 気候：地域の北は極地方気候に近く、海岸は海洋性気候、内陸は大陸性気候である。冬は雪が降り酷寒が続く、1月の平均気温は-24℃～-26℃程度で、夏は短くて涼しく雨がよく降り、7月の平均気温は12～14℃で年間降水量は300～700mmである。
人口及び世帯	・ 人口：35万8,800人(2007年) ・ 人口密度：0.76人/km²(2007年)
行政区域	・ 基礎自治団体数：11行政区、4市、8都市型村、5農村

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP : 21億8,869万\$ (2006年) • 1人当り所得 : 6,100\$ (2006年)
産業現況	• 産業構造 : 主要産業分野は漁業である。産業生産で漁業が約60%を占め、電気電力(地方電力-インフラ部門)の産業生産量は22.7%、非鉄金属は8.0%、機械製作及び金属加工は5.0%(漁業インフラ部門)、食料品製造は4.9%である。その他の部門は総産業生産の4%を占める。
主要産品	• 主要漁獲種 : サケ、ニシン、平目、タラ、すずき、かれい、さば • 主要特産物(北部地域) : 鹿、毛皮、ジャガイモと野菜栽培 • 主要特産物(西海岸地域) : 毛織物、石炭採掘

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署 : 国際部 • 住 所 : Russia, 683040, Petropavlovsk-Kamchatsky, Lenin Square, 1 • 電話 : 7-4152-42-53-06 • FAX : 7-4152-42-53-06 • E-Mail : kra@mail.kamchatka.ru

12) マガダン州

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	• 18世紀以前にヤクト人が移住した。 • 1920年 : 地質調査学術団が到着し、実質的な歴史が始まった。 • 1953年12月 : “極東開発地域” に、マガダン市を行政、経済、学問と文化の中心にするマガダン州が形成された。 • 1963年 : 5倍の建築地域拡張を見通した新しい都市大拡張計画が承認される。 • 1969年 : マガダン州地域の農業科学-研究大学で、北方鹿の飼育、搾乳、その他家畜の飼育とジャガイモを含めた野菜栽培、草草地造成 技術開発 • 1995年1月1日 : 最近新しい住居区域の成長に起因した人口の増加によって12万8,000人の人口を確保

区 分	内 容
地域特性	・豊かな地下資源を持ち、酷寒の気候による農業活動の難しさによって相対的に漁業が発達している。 ・地域の人口、特に労働力が多く流出している（流出口の60%が、労働が可能な年齢帯である）。
シンボル	・ 象徴旗  マガダン州の旗は高さと幅がそれぞれ2：3の割合の四角形の赤い布地に描かれており、青い線の左側上部にマガダン州のシンボルがある。マガダン州の旗の標準（創案者の写本）はマガダン州議会に保管されている。 ・ 象徴紋章  マガダン州の3つで分けられた盾の紋章は、古典的なフランスの紋章の形態による。上部は真紅の赤い色で、水平の下部は等しく両分され、垂直に分けられている。紋章は金の縁で囲まれている。上の赤色の土台部分には下に2つの金塊、上部に銀塊が表現されている。これらはそれぞれ開化、福祉、マガダン州の経済基盤を現わす象徴である。金と銀塊後方には、手につかんだ黄金のハンマーと、ツルハシが交差し、これらはマガダン州の創始期の主力経済分野の象徴として開拓、北国労働者たちの栄光、新しい領土の征服、世代の継勝、忍耐、自制、強さを象徴している。 下の右側には濃い青の土台に3匹の黄金の魚が表現され、これは州の活発な分野である漁業と魚加工業を象徴している。空色の紋章の左下部分には水力発電ダムが銀に表現され、並んだ後ろには高圧電力送電塔がある。 これら表現されたシンボルは、未来のコリマ地方とマガダン州の水力発電系において、発展を表している。その上に飛んでいる飛行機は、マガダン州がロシアの他の地域を含めて世界の多くの国々と繋がれている交通の重要なシンボルであることを表している。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	・ 面積：46万2,500km² ・ 位置：太平洋とオホーツク海の海岸に位置し、ツンドラと森林ツンドラ地帯の中間地域にある。 ・ 気候：連邦の中央地域から遠く離れ、酷寒の気候である。年6～7.5ヵ月間冬が続く。領土の半以上がオホーツク海と太平洋で取り囲まれていて、4分の3以上がツンドラと森林ツンドラ地帯であるため、主となる領土の年平均気温はとても不安定である。

区 分	内 容
人口及び世帯	• 人口：16万5,800人(2008年) • 人口密度：0.36人/km²(2008年)
行政区域	• 基礎自治体数：53の都市自治制 -1都市(マガダン)、8自治体、21都市型地域、23の里
文化行事	6月28日白夜祭り
文化行事	ゼックロンドン湖

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	• GDP：14億8,225万\$ (2006年) • 1人当り所得：8,940\$ (2006年)
産業現況	• 産業構造：豊かな鉱物資源を基に、採掘産業の比重が高く、漁業が2番目に高いパーセントを占めている。 • 産業基盤施設：魚加工施設、機械製作施設、森林木材加工施設、建築材料生産設備、食料品加工施設
主要産品	• 農林水産品：魚、農業作物栽培、鳥類の飼育 • 鉱物資源：金、銀、スズ、タングステンが豊かで、銅、モリブデン、石油そして天然ガスが発見されている。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	• 担当部署：地域行政府 • 住所：Russia, 685000, Magadan region, Magadan city, Proletarskaya str., d. 14 • 電話：7-4132-62-66-62 • FAX：7-4132-62-32-17 • メール：eeld@maglan.ru

区 分	内 容
インターネット ホームページ	http://www.magadan.ru
写真資料	    

13) サハリン州

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1850年：ネベリスコイアムール地域にロシア旗を立ててサハリンとこの地域をロシアの地として宣布する。 ・ 1869年：公式的な流刑地に指定 ・ 1869年：初のロシア村‘マルローアレクサンドロフカ’設立 ・ 1905年6～7月：日本軍のサハリン占領 ・ 1907～1911年：日本が南サハリンの地域に樺太州を設立 ・ 1914年：サハリン移住者たちは兵役の義務から自由になる。 ・ 1916年：アレクサンドロフカに北サハリン最初の無線電信局稼動 ・ 1925年1月20日：ソ連連邦と日本の間の相互関係原則に関する相互協約を北京で結び、この協約でサハリン州がソ連に帰って来た。 ・ 1935年：モスクワとサハリン間の初航空路開設 ・ 1941年4月1日：日本とソ連間の中立条約締結 ・ 1990～1991年：ソ連連邦共産党から脱退
地域特性	島で成り立っており、海産物が豊かで冬の気候は冷酷である。
シンボル	・ 象徴旗  ・ 象徴紋章 

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	- 面積：8万7,100km²で、南北に長く(15°)伸びている。 - 位置：太平洋と大陸を横切るユーラシア大陸の東海岸に位置し、サハリン島、大クリル列島(千島列島)、モネロン(海馬島)、チュレーニー島(海豹島)で構成されている。 - 気候：温帯性モンスーン気候で、1月の平均気温は南部が-6℃で島北部が-24℃まで下がる。最低気温の記録は-54℃である。8月の平均気温は南部が19℃、北部が10℃である。最高気温の記録は38℃である。年間降水量は600～1,200mm。山間地帯の降雪量は5メートル以上になり、このような気候条件で雪崩が頻繁に発生する。 千島列島は典型的な海洋性気候で、冬季の降霜や夏季の暑さが無い。夏にはむしろ雨と霧が頻繁にあり、全体の年間降水量は1,000～1,400mmで、強風はハリケーンのようなレベルで40m/sec以上に至る。
人口及び世帯	- 人口：52万6千人 - 人口密度：6/km²
行政区域	基礎自治体数：25自治区組織、17市外地域、2自治区、2都市移住地域と3農村移住地域

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP：2,500億ルーブル(2007年) 1人当り所得：27万ルーブル(2007年)
産業現況	産業構造：石油ガス部門が50%以上を占める。
主要産品	- 石油産業：サハリン州の総生産量のうち、石油ガス部門は大きい比重を占めている。2001年にサハリンでは370万トンの石油が採取され、サハリン大陸棚の石油埋蔵量は7億トン、ガス埋蔵量は1兆立方メートルと推算される。 - 水産業：ロシア水産物生産量の10%、極東地域水産物生産量の20%を占め、2001年漁獲量と水産物生産量は42万2,800トンを記録した。 - 林業産業：樹林の総面積は530万ヘクタール、木材資源は6億立方メートルで、毎年8万立方メートルの原木が伐採されそのうち75%が輸出される。

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	・ 担当部署：外交通商部 ・ 住所：Russia, 693000, Yuzhno-Sakhalinsk, Kommunistichesky ave., 32 ・ 電話：7-4242-72-82-20 ・ FAX：7-4242-72-74-93 ・ メール：khandm@mail.ru
インターネットホームページ	http://www.yuzhno.sakh.ru

14) トムスク州

○ 自治体概要

区 分	内 容
沿 革	・ 1604年：ボリス・コドゥノフ皇帝によってトムスク市が創建される。1629年トムスクは市となる。 ・ 1643年：トムスクに火事が発生、ここに木城郭壁と6つの塔と石碑を持った新しい要塞の都市が建設される。 ・ 1738年：トムスク市に宿駅ができ、この時からすべての商品はトムスクを通るようになる。 ・ 1804年：トムスクは新しいグベルニ（行政地域単位）の行政中心地に選定され、市庁、宿駅社会、政府機関などができたことで新しい歴史の場が開かれるようになる。 ・ 1917年：トムスクはシベリア地方に編入される。後に、西シベリア地方に編入される。 ・ 1937年：トムスクはノボシビルスク州に編入される。 ・ 1944年8月：トムスク州の設立が決定される。トムスクは再びシベリアの行政と経済の中心地になる。 ・ 1991年：トムスクは歴史都市としての資格を授与される。
地域特性	アルタイ山脈からシベリアタイガまで700km地域にかけて広がっており、18,000の支流と6,000の湖を持つシベリアオビ川が半分に分かれて流れているトムスク州は、学問と純粋なビジネスの中心地である。住民の1/5が大学生で、ロシアでは学者と学生の都市としての名声が大変高い。

区 分	内 容
シンボル	• 象徴 旗  トムスク州の旗の土台は白の長方形で縦と横の割合は2 : 3である。土台の中央にはトムスク州の紋章が描写され、紋章の大きさは土台の1/3である。反対側には旗の正面の文様が繰り返されている。
	• 象徴 紋章  トムスク州の紋章はフランス式の盾文様の形態を現わしている。辺の長さの割合は9 : 8で、緑の土台中に赤い目と舌を持った銀色の馬が跳躍する様子を形づくっている。盾の上には皇帝の王冠が置かれ、その周辺をトムスク州の旗色のリボンで編まれた黄金色のクヌギが取り囲んでいる。木の枝には州の中の都市を紋章で配置することができる。 トムスク州の紋章の図案者はアキモフである。

○ 一般概況

区 分	内 容
地勢及び気候	• 面積 : 31万6,900km² • 位置 : トムスク州はロシア連邦88州の一つであり、南西部シベリアに位置している。アルタイ山脈からシベリアタイガまで700km地域にかけて広がっており、18,000の支流と6,000の湖を持ったシベリアオビ川が地域を半分に分かれて流れている。トムスク州は西シベリア平原南東部地域のほとんど大部分を占め、州の首都はトムスク市である。(北緯56.30'、東経 85.00'に位置し、モスクワから鉄道で3,500kmの距離にある。)ケメロヴォ州、オムスク州、ノヴォシビルスク州、チュメニ州、クラスノヤルスク地方、ハンティ-マンシ自治管区と接している。 • 気候 : トムスク州の南北の境界の距離はほぼ600kmである。このため南部地域と北部地域の気候条件は確実に差がある。州の大部分の地域はタイガ地域内に位置している。周期的に温暖な大陸性気候で冬が少し長い。一年の平均気温は-0.6℃、7月の平均気温は18.1℃、1月の平均気温は-19.2℃である。州の北部の気候は冬が非常に長く厳しい寒さの特色を持つ。不凍期間は100~105日で、年間降水量は435mmである。

区 分	内 容
人口及び世帯	- 人口 : 103万6,600人(2005年) - 人口密度 : 3.3人 /km²(2005年)
行政区域	基礎自治体数 : 4都市自治、16地方自治区 (2都市型、118の農村地域と576の村)
文化行事	聖ペチェルキーとリャゼニエ(1月19日)

○ 経済現況

区 分	内 容
経済水準	- GDP : 124億6,000万\$ (2006年) 1人当り 所得 : 12,020\$ (2006年)
産業現況	- 産業構造 : 工業従事労働者が労働人口全体の1/4を占める。 - 産業基盤施設 : 州内に約3,500の工業基盤企業がある。基本産業分野は燃料、電力、非鉄金属、化学、石油化学、機械製作及び金属加工、森林、木材加工と食料品など
主要産品	- 工業生産品 : 化学及び石油化学(合成樹脂、プラスチック、メタノールと技術ホルマリンなど) - 資源採掘 : 石油採油、ガス

○ その他

区 分	内 容
連絡部署	- 担当部署 : 経済-投資部 - 住所 : 634050, トムスク市 レーニン広場6(Lenin Square, Tomsk, Russia, 634050) - 電話 : 7 (3822) 51-08-11 - FAX : 7 (3822) 51-08-00 - E-Mail : d-invest@tomsk.gov.ru
国際友好都市	姉妹都市 : 韓国(蔚山広域市)、中国(遼寧省)、アメリカ(モンロー)
インターネットホームページ	http://www.tomsk.gov.ru

第3章 事務局運営

- 第1節 事務局設置 ● 247
- 第2節 機能及び役割 ● 249
- 第3節 主要業務推進及び成果 ● 250
- 第4節 実務小委員会 ● 262
- 第5節 実務者ワークショップ ● 272
- 第6節 国際経済フォーラム ● 290

第3章 事務局運営

第1節 事務局設置

1. 設立背景及び意義

ア. 設立背景

- 1996年設立時、NEARは議長自治体の円滑なNEAR運営のために巡回事務局制度を採択したが、2年ごとに議長自治体と事務局が同時に移動することによって問題点が発生した。

〈巡回事務局制度運営内訳〉

- ・ 第1回：大韓民国慶尚北道(1996～1998)
 - ・ 第2回：日本富山県(1998～2000)
 - ・ 第3回：日本兵庫県(2000～2002)
 - ・ 第4回：ロシアハバロフスク地方(2002.9.10～9.11)
 - * 次期総会開催自治体が総会開催時まで2年間歴任することに変更
 - ・ 第5回：中国黒龍江省(2002.9～2004.9)
- 巡回事務局の問題点は、対内的には事務局の頻繁な移動で業務の連携性・持続性の欠如、迅速な情報交換及び伝達機能の求心的な役割が不十分、会員自治体間の類似事業の散発的な推進、連合の長期発展プログラム開発及びビジョン提示の困難などが、対外的には連合の国際的地位向上と立地確保の限界性、国際機関との連携性不足及び役割の不十分さなどが問題点として指摘された。
- 事務局常設化は、2000年9月第3回日本兵庫総会で慶尚北道の提案により公式化され、2002年9月第4回ハバロフスク総会で事務国機構、運営に関して6自治体で「事務局設置共同実務機構」を構成、2004年9月第5回黒龍江省総会で常設事務局を慶尚北道に設置することに決定。

〈常設事務局推進及び議論過程〉

- ・ 1998年10月第2回富山総会
 - － 事務局運営、経費負担などに関する問題提起
- ・ 1999年7月第2回実務委員会(富山県)
 - － 事務局運営体制について継続的に検討することを合意
- ・ 2000年9月第3回兵庫総会
 - － 慶尚北道知事：連合事務局の必要性と慶尚北道に事務局誘致提案
 - － 事務局設置に関する案件は 2001年実務小委員会と実務委員会で検討し、2002年ハバロフスク総会に報告するように最終合意文採択
- ・ 2001年2月第3回実務小委員会開催(兵庫県)
 - － 慶尚北道の事務局設置提案に対して同意
- ・ 2001年8月第3回実務委員会開催(兵庫県)
 - － 慶尚北道と富山県からそれぞれ事務局設置の希望
 - － 2002年9月ハバロフスク総会で最終決定することに合意
- ・ 2002年9月第4回ハバロフスク総会
 - － 事務局の機構、運営について6自治体で構成した「事務局設置共同実務機構」結成合意
- ※(韓国)慶尚北道、釜山広域市/(日本)兵庫県、富山県
(ロシア)ハバロフスク地方/(中国)黒龍江省
- ・ 2004年1月第4回実務委員会(黒龍江省)
 - － 事務局誘致は慶尚北道が単独申し込み
 - － 2004年9月第5回黒龍江省総会で最終決定することにする
- ・ 2004年9月第5回黒龍江省総会で事務局を4年連任制にし、慶尚北道に置くことに決定

イ. 設立意義

- 常設事務局制度を導入することで、事務局の実質的機能遂行と交流協力の中心としての役割を期待
- 国際機関として連合の活動を対外的に公式化し、連合の国際的地位強化及び連合運営のノウハウの蓄積によって、共同发展ビジョンの提示とプログラム開発などが可能
- 会員自治体間の結束力強化及び成功事例の施策を広め共有することで北東アジア共同发展に寄与

2. 組織及び人員

ア. 組織：1総長、1局、2課（企画総務課、国際協力課）

イ. 人員：15人（慶尚北道派遣公務員5人）

- 事務総長(1級公務員相当)
- 事務局長(行政4級公務員)
- 課長2人(行政5級、電算5級)
- 職員2人(行政6級、行政7級)
- 専門職4人(中国語、日本語、モンゴル語、ロシア語、英語)
- 会員自治体派遣公務員 4人(中国、日本、ロシア、モンゴル)

3. 予算

ア. 事務局の円滑な運営のために「NEAR 事務局設置及び運営支援条例」を制定(2005. 4. 14)し、予算を確保する。

イ. 年度別予算現況

- 2005年度予算：784百万ウォン
 - ・ 人件費336、運営費161、事業費279、その他8
- 2006年度予算：1,235百万ウォン
 - ・ 人件費277、運営費283、事業費564、その他112
- 2007年度予算：1,304百万ウォン
 - ・ 人件費416、運営費378、事業費494、その他16
- 2008年度予算：1,304百万ウォン
 - ・ 人件費419、運営費424、事業費542、その他14

4. 場所

- 場所：浦項テクノパーク3階(慶尚北道浦項市南区芝谷洞601)
- 開所日：2005年5月2日
- 使用面積：専用面積104坪(333m²)

第2節 機能及び役割

1. 機能

- 常設事務局制度の導入以来、組織を細分化して役割を具体化し、企画総務課は、職員の人事管理、予算編成及び執行、事業計画書、年次報告書、会計報告書作成、連合の長期発展計画案作成及び調整、連合発展のための共同プロジェクト開発及び推進、連合関連資料整理、そ

して情報分析などを担当する。

- 国際協力課は、総会及び実務委員会の運営支援、総会及び実務委員会議決事項の遂行支援、分科委員会活動支援、連合ホームページ運営、電子情報管理、会員自治体間の業務連絡及び調整、地域研究機関間のネットワーク構築、連合情報誌発刊、対外広報などを担当する。

2. 役割

- 北東アジアの経済、文化、情報など交流協力のメインチャンネル
- 北東アジアの実質的な「経済通商交流の場」提供
- 資料収集・分析提供、実質的な交流協力プログラム開発及び執行、積極的な対外協力及び広報

第3節 主要業務推進及び成果

1. 2005年

- 事務局設置などインフラ構築
 - ・ 事務局設置：2005.5.2、浦項テクノパーク内入居
 - ・ 組織及び職員構成：慶尚北道派遣公務員及び直接採用(外国語専門職員)
 - ・ 規定制定：服務規定、会計規定など各種規定制定
- 会員自治体広報展示館設置・運営
 - ・ 目的：各会員自治体を象徴する特産品、広報物の統合展示で北東アジアの‘実感できる場’として活用
 - ・ 事業内容
 - － 展示館(全体：770×270×50cm、自治体別：60×49×50cm)
 - － 会員自治体を代表する物品を展示
 - ※ CD、パンフレット、工芸品、特産品など展示
 - ・ 推進成果
 - － 5ヵ国32自治体(中国5、日本9、韓国10、モンゴル2、ロシア6)の展示品
 - － 釜山実務委員会及び慶尚北道ビジネス促進会議の期間中に事務局訪問の会員自治体参加者が見学
- NEAR公式ホームページ(経済通商ネットワーク)運営
 - ・ 目的：サイバー上で NEARと会員自治体を体系的に広報し、会員自治体間の通商交流を促進するための電子商取引システム構築
 - ・ 事業内容(構成)
 - － About NEAR：NEARの誕生過程と活動成果を整理

- Secretariat : リアルタイムで情報交換と業務処理支援
- NEAR Members : 会員自治体情報、ビジネス情報提供
- e-Marketplace : 会員自治体の企業体及び商品紹介、直取引支援
- ・ 推進成果
 - 経済通商分科コーディネーターである慶尚北道の提案('01. 8)
 - 慶尚北道の連合事務局誘致をきっかけに着手('04. 9)
 - 1次開通('05. 7. 1)第6回日韓経済交流会議で試行(慶州)
 - ネットワーク説明会開催('05. 12. 1)、会員自治体職員事務局訪問時

○ NEAR広報物製作・配付

- ・ 目的 : 多様な形態の広報物を作成して会員自治体及び主要機関・団体に提供することで事務局の国内外知名度向上
- ・ 事業内容
 - 広報パンフレット製作・配布 : 韓、英、中、日、ロシアなど5ヵ国語で製作・配布、会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関・団体に送付
 - 月刊ニュースレター(NEAR News) : 英語を共通語にし、韓、中、日、ロシアなど4ヵ国語で併記で製作、会員自治体 174など関連機関・団体に定期的に送付
 - プレゼンテーション製作・活用 : 韓、英、中、日、ロシアなど 5ヵ国語で製作
- ・ 推進成果
 - 広報パンフレット製作・配布 : 7. 20
 - NEAR News 発刊 : 毎月末
 - プレゼンテーション製作広報 : 11. 30(釜山実務委員会時)

○ 海外会員自治体広報団派遣

- ・ 目的 : 事務局設置を広く広報し、資料収集、事務局と各会員自治体との人的ネットワーク構築
- ・ 事業内容
 - 言語別新規採用職員を中心に3チームで広報団編成
 - 日本(10. 3~8)、中国(10. 17~22)、ロシア(10. 26~29)など3地域
 - 議長歴任自治体、分科委員会コーディネート自治体、新規加入自治体訪問
- ・ 推進成果
 - 歴代総会、実務委員会及び分科委員会を開催して会員自治体の資料収集
 - 各会員自治体と事務局間の人的ネットワーク構築で業務効率性向上

○ 第5回釜山実務委員会開催

- ・ 目的 : 会議資料準備、通訳支援など実務委員会の準備を主導的に行い、事務局の役割とイメージを確立

- ・ 会議概要

- － 日時：2005. 11. 29～12. 1
- － 場所：釜山市(ロッテホテル)
- － 参加：5ヵ国22自治体約100人
- － 議題：NEAR徽章制定、海外会員自治体職員のNEAR事務局派遣など

- ・ 推進成果

- － 招請状発送及び参加者確定、会議企画及び会議書類作成(11月)
- － 今後の事務局が各種会議を主導的に運営することができる能力を養う

- 2005環日本海国際シンポジウム開催

- ・ 目的：北東アジアの専門家と関連機関・団体を招待して北東アジア地域の協力と共同発展方
案について模索等

- ・ 事業内容

- － 日時/場所：2005. 10. 21/浦項文化芸術会館
- － 主催/主管：北東アジア地域自治体連合事務局、浦項市/韓東大学

- ・ 行事内容

- － 基調演説：趙建植前統一部長官、環日本海経済圏活性化と南北経済協力
- － 主題発表：チェイユ(中国)、フレールロブスカヤ(ロシア)など6人

- ・ 推進成果

- － NEAR 事務局の役割と発展方向を公式的に議論
- － 国内外に連合事務局を広報する契機を作る

2. 2006年

- NEAR公式ホームページ構築・運営

- ・ 目的：会員自治体及び一般の方に、NEARに対する親しみを向上させ、映像会議システム構築
などで業務の効率性向上

- ・ 事業内容

- － NEAR公式ホームページ構築及び運営
- － E-マーケットプレイス及び電子カタログ製作など経済通商ネットワーク運営

- ・ 推進成果

- － NEAR公式ホームページ構築(会員自治体情報掲載)
- － 電子商取引サポートシステム構築など

- NEAR会員自治体拡大

- ・ 目的：NEARが北東アジアを代表する国際機関としての地位を確立するために会員自治体を拡大する
- ・ 事業内容
 - NEARの現会員自治体は40で、北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の25%程度
 - ※ 韓国16(10)、中国31(5)、日本47(11)、ロシア32(10)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(2) (括弧の中は加入自治体数)
 - 非会員自治体を対象に NEAR 広報及び加入案内実施
 - NEAR ホームページ案内や広報物の持続的な送付
 - 国内市・道を対象に市道別姉妹提携自治体の参加勧誘要請
 - 国内派遣国際交流員(K2H など)を NEAR 会員自治体間議会交流実施
- ・ 推進成果：25新規会員自治体加入
 - 6ヵ国40自治体⇒6ヵ国65自治体に拡大

○ NEAR実務者ワークショップ開催

- ・ 目的：実務者ワークショップを通じた業務担当者中心の人的交流網を形成、効率的な行政システムを構築して連合の結束と発展の契機を作る。
- ・ 行事概要
 - 期間：2006. 5. 17～5. 19[泊3日]
 - 場所：慶州(現代ホテル)
 - 参加：5ヵ国20自治体60人余り
 - 議題：NEAR発展方案議論、総会上程議題議論など
- ・ 推進成果
 - 事務局活動広報及び対外交流窓口用意
 - 業務担当者との人的ネットワーク形成で業務効率性向上

○ 海外会員自治体職員NEAR事務局派遣勤務

- ・ 目的：会員自治体の結束力を高め円滑な事務局業務推進のために、各会員自治体所属職員の事務局派遣推進
- ・ 派遣勤務実施
 - 人員：3人(中国、モンゴル、ロシア各1人)
 - 期間：'05. 5月から1年間の単位で実施
- ※ 事務局では派遣勤務者が国内生活に不便がないように生活費の一部支援
- ・ 推進成果
 - 職員構成多国籍化で名実共に国際機関としての位置を占めた。
 - 慶尚北道主導の事務局運営から会員自治体運営体制に切り替えるための土台を作った。

○ NEAR第6回総会開催

- ・ 目的：事務局開所以来初めて開催された総会の成功により、事務局業務の力量を示す
- ・ 行事概要
 - － 期間：2006. 9. 12～9. 15[3泊4日]
 - － 場所：釜山(ロッテホテル)
 - － 参加：5ヵ国52自治体150人余り
 - － 議題：連合主要活動経過報告、会員自治体代表基調演説、その他総会一般議題討論
- ・ 推進成果
 - － 事務局の国際会議開催能力を養い事務局の力量を示した

○ NEAR会員自治体間の議会交流実施

- ・ 目的：会員自治体間の多様な交流協力を通じた友好増進及び発展方案模索
- ・ 推進事項
 - － 期間：2006年12月
 - － 訪問対象：中国寧夏回族及びモンゴル中央県議会
 - － 内容：慶尚北道議会議員の会員自治体議会を訪問して相互議会交流実施
- ・ 推進成果：2ヵ国2会員自治体と議会交流実施

3. 2007年

○ 北東アジア通商交流事業支援

- ・ 目的：北東アジア会員自治体間通商交流を推進して実質的な経済通商交流増進に寄与
- ・ 推進事項
 - － 期間：4. 22～4. 28(土)[7日間]
 - － 訪問自治体：モンゴルウランバートル市、中国湖北省、河南省
- ・ 主要内容
 - － モンゴルウランバートル市：市・道間、商工会議所間 MOU締結、輸出入商談
 - － 中国湖北省：副省長接見、商工会議所間MOU締結、輸出入商談
 - － 中国河南省：投資貿易博覧会参加
- ・ 推進成果：2ヵ国3会員自治体と議会交流実施、各会員自治体とMOU締結で交流協力の活性化に寄与

○ NEAR ホームページ補完構築事業

- ・ 目的：使用者が簡単に使えるように便宜性を考慮したシステム構築、資料保安のための情報保護システム補強

- ・ 事業概要
 - － 事業期間：2007.9月～12月
 - － 使用言語：6ヵ国語(韓、英、中、日、ロシア、モンゴル語)
 - ・ 事業内容
 - － 「北東アジア地域自治体連合」27の新規自治体情報追加
 - － 分科委員会別ホームページ構築及びリンク
 - － NEAR ホームページと経済通商ネットワークを分離してリンク
 - － 未構築分科委員会(国境協力、科学・技術) ホームページ開設
 - － 既構築分科委員会(環境、文化交流、防災) リンク
 - － 総会、実務委員会、会議資料及び運営規定などDB構築
 - ・ 推進成果
 - － 北東アジア地域自治体連合のすべての活動情報をDB構築することで手軽に議事録及び関連資料検索
 - － 分科委員会ホームページを通じたプロジェクト推進及び情報交流
 - － 6ヵ国語の連合ホームページ運営でオンラインを通じた会員自治体間交流強化
 - － 北東アジア地域自治体連合の生活、文化、観光情報などの構築を通じた会員国家及び自治体情報共有活性化
- 第2回NEAR実務者Workshop開催
- ・ 目的：実務者間の人的ネットワークを堅固にし、効率的な業務体系構築を通じた連合の結束と発展の契機を用意
 - ・ 行事概要
 - － 期間：5.15(火)～5.18(金)[3泊4日]
 - － 場所：慶尚北道内一円(慶州、安東、榮州、聞慶、高靈など)
 - ・ 主要内容
 - － 2007年度事務局主要事業説明
 - － 連合交流拡大及び発展方案議論
 - － 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - － 事務局訪問及び会員自治体文化体験など
 - － 参加：5ヵ国32自治体80人余り
 - ・ 推進成果
 - － 事務局活動広報、対外交流窓口の用意
 - － 連合会員業務担当者間交流拡大、連合発展方案議論を通じた連合結束と発展の契機を用意
 - － 人的ネットワーク形成で業務効率性及び相互理解増進

○ 第6回山東省実務委員会開催

- ・ 目的：第6回連合総会で新しい議長自治体に選任された中国山東省が、その間の各分科委員会活動状況を点検して連合の各種懸案を実務レベルで議論するため
- ・ 行事概要
 - － 期間：9.3(月)～9.6(水)[3泊4日]
 - － 場所：中国山東省済南市ソフィテルギンザホテル
- ・ 主要内容
 - － 分科委員会設置及び運営規程改正
 - － 連合会費制導入議論
 - － 京畿道2010年総会誘致提案
 - － 慶尚北道連合事務局連任制提案など
 - － 参加：5ヵ国31自治体80人余り
- ・ 推進成果
 - － 分科委員会及び連合事務局活動報告
 - － 観光、海洋・漁業分科委員会新設協議
 - － 連合会費制導入は2008年総会に上程することに決定
 - － 京畿道2010年総会誘致決定
 - － 連合事務局慶尚北道連任決定('09年～'13年)
 - － 2008年第7回総会に備えた事前点検など

○ 2007年 NEAR 国際経済フォーラム開催(第1回)

- ・ 目的：北東アジア経済通商分野の学者・企業家などが参加する国際経済フォーラムを開催して、北東アジア地域の共同発展のための具体的・実質的な方案模索
- ・ 行事内容
 - － 期間：2007. 10. 16～10. 19[3泊4日]
 - － 場所：大邱広域市インターブルゴホテル
 - － 主題：北東アジア地方政府間経済協力増進
 - － 発表者：5ヵ国11人(韓、中、日、モンゴル、ロシア)
- ・ 発表内容
 - － 北東アジア発展条件
 - － 経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案
 - － 文化的共通性の開発を通じた北東アジア共同体模索
 - － 北東アジア地域の協力構想と北東アジア共同体構想など

- ・参加：5ヵ国22会員自治体など300人
- ・推進成果
 - － 北東アジア地域の交流協力及び共同発展のための具体的で実質的な方案を模索する契機とする
 - － 事務局が名実共に北東アジア交流協力チャンネルのハブの役割を主導することができる多様な施策を本格的に推進
- 海外会員自治体職員 NEAR 事務局派遣勤務
 - ・目的：会員自治体の結束力を高め円滑な事務局業務推進のために、各会員自治体所属職員の事務局派遣推進
 - ・派遣勤務実施
 - － 人員：4人(中国、モンゴル、ロシア、日本各1人)
 - － 期間：'05.5月から1年間の単位で実施
 - ※ 事務局では派遣勤務者が国内生活に不便がないように生活費一部支援
 - ・推進成果
 - － 職員構成多国籍化で名実共に国際機関としての位置を占める。
 - － 事務局運営の慶尚北道主導から会員自治体運営体制に切り替えるための土台を準備
- 国際研修室運営
 - ・目的：海外派遣職員に対する現地適応能力養成、慶尚北道に対する好感度向上
 - ・推進状況
 - － 事務局外国職員対象韓国語講座運営－ボランティア活用
 - － 慶尚北道海外派遣公務員の語学及び国際エチケット講座
 - － 地域内で参加希望の学生、主婦、企業人など一般人にも公開
 - ・推進成果
 - － 海外派遣職員に対する現地適応能力養成
 - － 地域住民の参加を通じた連合事務局の対外的広報及び奉仕の機会として活用
- NEAR広報物製作、配付
 - ・目的：様々な形態の広報物を作成して会員自治体や主要機関団体に提供することで事務局の国内外の知名度向上
 - ・事業内容
 - － 広報パンフレット製作、配布
 - ・ 韓、英、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語で製作配布
 - ・ 会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関、団体に送付
 - － 月刊ニュースレター(NEAR News)製作・配布(隔月制)
 - ・ 英語を共通語にし、韓、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語で併記製作

- ・ 会員自治体など関連機関、団体に定期的に送付。団体に提供することで事務局の国内外知名度向上
- ・ 推進成果
 - － 会員自治体及び国内外関連機関に配布することで連合の知名度向上
- NEAR会員自治体拡大で連合の地位強化
 - 目的：NEARが北東アジアを代表する国際機構としての地位を確立するために会員自治体拡大
 - ・ 事業内容
 - － NEARの現会員自治体が65で、北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の40%程度(括弧の中は加入自治体数)
 - ※ 韓国16(11)、中国31(6)、日本47(10)、ロシア32(14)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(22)
 - － 非会員自治体を対象に NEAR 広報及び加入案内実施
 - － NEAR ホームページ案内及び News Letterなど広報物を継続的に送付
 - － 国内市・道を対象に市道別姉妹提携自治体に参加勧誘要請
 - － 国内派遣国際交流員(K2H など)を NEAR 会員加入広報要員化
 - ・ 推進成果
 - － 6ヵ国65自治体⇒6ヵ国69自治体に拡大
 - ・ 正式加入書提出ーマガダン(ロシア)
 - ・ 加入申し出自治体ー天津、山西省、甘肅省(中国)
 - ・ オブザーバー自治体ー山口(日本)、遼寧省(中国)

4. 2008年

- NEAR ホームページサーバー維持補修事業
 - ・ 目的：'05年5月に導入したウェブ、DB、メールサーバーなどの無償瑕疵補修期間の終了により、安定的なシステム運営のためのシステム維持補修契約締結
 - ・ 事業概要
 - － 事業期間：2008.5月
 - － 維持補修期間：'08年5月～'09年4月(1年間)
 - ・ 事業内容
 - － ハードウェア：ウェブサーバー、メールサーバー、DBサーバー各1式、Back up装置1式
 - － ソフトウェア：NEARホームページ、経済通商ネットワーク、Solaris10などの運営プログラム
 - ・ 推進成果
 - － NEAR交流協力のサイバー拠点としての発展期待
 - － 会員自治体間の情報のリアルタイム提供で会員自治体間交流協力増進

- 安定的なシステム管理で24時間ウェブサービス提供

○ 第3回NEAR実務者Workshop開催

- ・ 目的：実務者間の人的ネットワークを強化し、効率的な業務体系構築を通じた連合の結束と発展の契機を用意し、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換
- ・ 行事概要
 - 期間：5.27(火)～5.30(金) [3泊4日]
 - 場所：慶尚北道浦項市POSCO国際館
 - 主要内容
- ・ 2008年度事務局主要事業説明
- ・ 経済・観光分野の交流活性化方案、経済・観光・文化分野の交流のための優秀事例及び要望事項(国家別発表)
- ・ 参加会員自治体広報及び協力事項発表
- ・ 事務局訪問、産業視察及び文化体験など
 - 参加：5ヵ国42自治体84人
- ・ 中国6、日本5、韓国13、モンゴル13自治体
- ・ 推進成果
 - 事務局活動の広報及び北東アジア交流協力のメインチャンネルとしての役割を充実に遂行
 - 連合会員の業務担当者間交流拡大及び連合発展方案の議論を通じた連合結束と発展の契機を用意
 - 人的ネットワーク形成で業務効率性及び相互理解増進

○ 第7回山東省総会開催

- ・ 目的：北東アジア地域自治体連合(NEAR) 第7回連合総会は創設以来12年間、経済、環境、文化、防災、国境協力、科学・技術など多様な分野で交流と協力を展開し、そこで得た多くの成果を基に共同発展を模索しようと“革新的な協力で共に繁栄を”を主題に開催
- ・ 行事概要
 - 期間：9.1(月)～9.4(木) [3泊4日]
 - 場所：中国山東省済南市山東ホテル
 - 主要内容
 - ・ 連合主要活動経過報告(実務委員会/事務局/分科委員会)
 - ・ 会員自治体代表発表(4ヵ国12自治体)
 - ・ 総会議題発表及び票決(6議題)
- (1) 2010年総会誘致申し込み(大韓民国京畿道)
- (2) 事務局誘致申し込み(大韓民国慶尚北道)

(3) 海洋・漁業分科委員会新設及びコーディネーター担当選定(中国山東省)

(4) 観光分科委員会新設及びコーディネーター担当選定(中国河南省)

(5) 連合会費制導入提案(ロシアハバロフスク地方)

(6) 新規会員加入申し込み

－ 参加：5ヵ国31自治体80人余り

・ 推進成果

－ 連合主要活動経過報告(実務委員会/事務局/分科委員会)

－ 第7回北東アジア地域自治体連合総会山東宣言採択

－ 総会議決事項

(1) 2010年第8回総会を大韓民国京畿道で開催決定

(2) 2012年9月まで連合事務局を引き続いて大韓民国慶尚北道に置くことに決定

(3) 海洋・漁業分科委員会の新設を承認してコーディネート自治体は山東省に決定

(4) 観光分科委員会の新設を承認してコーディネート自治体は中国河南省に決定

(5) 連合会費制は連合事務局に委任して各国会員自治体から国家別に1人代表を推薦してもらい、会費制度特別委員会を構成して具体的な方案を検討した後、次期実務委員会に上程して討論した後総会で決定

(6) 大韓民国の仁川広域市、大田広域市、光州広域市、蔚山広域市とロシア連邦マガダン州の5つの自治体の新規加入を議決。

○ 第2回2008年NEAR国際経済フォーラム開催

・ 目的：北東アジア経済分野の学者、企業人、公務員などが参加する国際経済フォーラムを開催して、北東アジア地域の共同発展のための具体的で実質的な方案模索

・ 行事内容

－ 期間：2008. 11. 5～11. 7[泊4日]

－ 場所：慶尚北道慶州市現代ホテル

－ 主題：北東アジア共同発展のための企業及び企業人の役割と協力

－ 発表者及び討論者：5ヵ国15人(韓、中、日、モンゴル、ロシア)

・ 発表内容

－ アジア太平洋地域の経済統合に向けた動き：現況、挑戦課題及び北東アジア地域に与える意味

－ 世界金融危機と北東アジア経済協力

－ 東アジア共同体の成立

－ 商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化

－ 沿海地方経済のための商工会議所の役割

- 物流の観点からみた、北東アジア地域での韓国の戦略的位置
- 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力
- グリーン成長と企業の社会的責任
- 豆満江開発計画(GTI) 北東アジア協力プログラム
- ・参加：5ヵ国22会員自治体など300人
- ・推進成果
 - 北東アジア共同発展のための企業及び企業人の協力と役割について具体的で実質的な方案を模索する契機となった
 - 事務局が名実共に北東アジア交流協力チャンネルのハブの役割を主導することができる多様な取り組みを本格的に推進
- 海外会員自治体職員のNEAR事務局への派遣勤務
 - ・目的：会員自治体の結束力を高め、事務局の円滑な業務推進のために各会員自治体所属職員の事務局への派遣を推進
 - ・派遣勤務実施
 - 人員：4人(中国、モンゴル、ロシア、日本各1人)
 - 期間：'05.5月から1年単位で実施
 - ※ 事務局側は、派遣勤務者が派遣生活に不便のないように生活費の一部を支援
 - ・推進成果
 - 職員構成の多国籍化で名実共に国際機関となる。
 - 慶尚北道主導の事務局運営から会員自治体共同運営体制へと切り替えるための基盤作り
- 国際研修室運営
 - ・目的：海外派遣職員に対する現地適応能力を養い慶尚北道に対する好感度向上
 - ・推進状況
 - 事務局外国職員対象韓国語講座運営－ボランティア活用
 - 慶尚北道海外派遣公務員語学及び国際エチケット講座
 - 地域内で参加希望の学生、主婦、企業人など一般の方にも公開
 - ・推進成果
 - 海外派遣職員に対する現地適応能力養成
 - 地域住民の参加を通じた連合事務局の対外的広報及び奉仕の機会として活用
- NEAR広報物製作、配付
 - ・目的：様々な形態の広報物を作成して会員自治体及び主要機関団体に提供することで事務局の国内外認知度向上
 - ・事業内容

- 広報パンフレット製作、配付
 - ・ 韓、英、中、日、ロシア、モンゴルなど 6ヵ国語で製作、配付
 - ・ 会員自治体、北東アジア地域の非会員自治体、北東アジア関連主要機関、団体に送付
- ニュースレター(NEAR News)製作、配付(隔月制)
 - ・ 英語を共通語として韓、中、日、ロシア、モンゴルなど6ヵ国語併記で製作、配付
 - ・ 会員自治体など関連機関、団体に定期的に提供することで事務局の国内外認知度向上
- ・ 推進成果
 - 会員自治体及び国内外関連機関に配布することで連合認知度向上
- NEAR 会員自治体拡大で連合の地位強化
 - ・ 目的：NEARが北東アジアを代表する国際機構としての地位を確立するために会員自治体数の拡大
 - ・ 事業内容
 - NEARの今の会員自治体数は69で北東アジア地域で会員資格を持つ160自治体の43%程度(括弧の中は加入自治体数)
- ※ 韓国16(15)、中国31(6)、日本47(10)、ロシア32(14)、北朝鮮12(2)、モンゴル22(22)
 - 非会員自治体を対象にNEAR広報及び加入案内実施
 - ・ NEAR ホームページ案内及びNews Letterなど広報物の継続的な送付
 - ・ 国内市・道を対象に、市道別姉妹提携自治体の参加誘導要請
 - ・ 国内派遣国際交流員(K2Hなど)をNEAR会員加入のための広報要員化
 - ・ 推進成果
 - 6ヵ国65自治体⇒6ヵ国69自治体に拡大
 - * 第7回総会(中国山東省)で新規加入議決自治体
 - 大韓民国4(仁川、大田、光州、蔚山広域市)、ロシア1(マガダン州)

第4節 実務小委員会

1. 実務小委員会概要

- 総会または実務委員会などで提案された重要案件を円滑に処理するために多くの会員自治体の意見を十分に聞き、実務委員会または総会に報告する必要がある時に開催

2. 主要活動

ア. 第1回会議

(1) 開催背景及び目的

- '97実務委員会の会議で提案された議題をより具体化し、'98年度総会で査定するため

(2) 会議概要

- 開催日時：'97. 11. 26(水)～11. 29(土)
- 開催場所：ヒルサイドホテル(大邱・八公山)
- 参加：課長級実務者7自治体14人(韓4、中3、日5、ロシア2)
 - ・ 韓国：慶尚北道、忠清北道
 - ・ 中国：河南省、黒龍江省
 - ・ ロシア：極東ザバイカル経済協議会
 - ・ 日本：富山県、兵庫県
- 会議進行形式
 - ・ 4カ国語による逐次通訳の円卓会議
- 会議スケジュール

区 分	11/26(水)	11/27(木)	11/28(金)	11/29(土)
09:00	・ 入国/登録	・ 開会 ・ 事務総長挨拶 ・ 参加代表紹介	・ 討議	・ 出国
09:30		・ 討議		
12:00		・ 午餐	・ 午餐	
13:30		・ 討議	・ 市内観光	
19:00	・ 晚餐	・ 晚餐 (事務総長主催)	・ 晚餐	

○ 討議内容

'97実務委員会時、議論することにした事務局運営や共同課題導出などに関する事項

(3) 会議内容総括

<北朝鮮・モンゴルの連合加入問題>

- ロシア極東ザバイカル経済協議会の推進状況報告
 - ・ 北朝鮮の加入誘導

- － ハバロフスクが接触中であり、30人余りの使節団の訪北に対して北朝鮮政府と合意(近いうちに訪北を行う計画)
- ・ モンゴルの加入勧誘
 - － ハバロフスクと何回かの意見交換で肯定的な答えを期待
- 実務小委員会は北朝鮮とモンゴルの連合加入に備えて憲章の会員条項の改正案に合意。連合憲章第4条“会員の範囲”で既存の大韓民国、中華人民共和国、日本国、ロシア連邦以外に北朝鮮とモンゴルを追加するように憲章を改正
 - ※ 日本の会員自治体の中で一部は北朝鮮の連合加入に否定的な立場を表明。

〈分科委員会設置〉

- '97実務委員会で提案された様々な事業の効率的な推進のために機能別に 5つの分科委員会を構成
 - ・ 分類：経済・通商、文化交流、環境、防災、一般交流
 - ・ 構成：実務委員会の補助機関として構成し、総会の承認を得てから設置
 - ・ 運営：委員会別にコーディネート自治体を選定して運営
- 設置根拠を作るために憲章改正案に合意

〈北東アジアビジネス促進会議開催提議〉

- 慶北で'98.9 北東アジア地域連合会員自治体間の経済・通商交流促進総合イベントとして開催される北東アジアビジネス促進会議の事業概要説明
- 中国、ロシア側で関心を表明

〈連合センター及び事務局運営〉

- 事務局の巡回による問題点には参加者たちが概ね共感したが、現段階で事務局の固定問題には否定的な雰囲気
- 慶北道では長期発展研究機能及び現巡回事務局の欠点補完のために参謀機関として連合センターの設置意志を表明
- 事務局固定及び連合センター設立に関する各国の意見

[日本側]

- － 連合設立時の事務局固定の必要性は認めるが、慶北に固定させることは時期尚早という立場
- － 連合センターの設置は事務局を事実上固定させることとして総会で討議しなければならない事項という立場

[ロシア側]

- － 事務局固定問題は財政分担問題が先だという立場を表明(従来の立場を変更)

- 連合センターの必要性には共感するが、財政分担、機構体系上の問題は残る。

[中国側]

- 意見なし。(連合センター設置に河南省は同調)

- 慶北道は設立の必要性、既存事務局との差別性などで継続的な議論の必要性を申し立てたが、全体的に今回の会議で連合センター設置を憲章に規定する改正案準備には否定的な立場→長期課題として残す('98総会再討議)

(4) 今後の関連事項

- 富山県で第2回実務小委員会開催を希望
- 慶北は事務局として第2回会議の議題、開催の場所及び日程を定める計画

※ 連合事務局では

- ① 分科委員会構成及び運営規定の準備
- ② 各自自治体別の大型プロジェクトをまとめて連絡
- ③ '98総会報告書作成

- 合 意 文 -

'97年8月に開催された北東アジア地域自治体連合実務委員会の合意文に基づいて、中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の代表自治体関係者たちが'97年11月26日から11月29日にかけて慶尚北道で実務小委員会を開催した。

参加者一同は'98連合総会に報告する事項について次のとおり共通の意見を出した。

1. 北朝鮮、モンゴル国の連合加入による憲章改正

現 行	改 正
連合の会員は北東アジア地域に位置する中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の自治体の中で“連合”の設立目的に賛同する広域地方自治体とし、総会の決定により範囲を拡大できる。	連合の会員は北東アジア地域に位置する中華人民共和国、北朝鮮、日本国、大韓民国、ロシア連邦、モンゴル国の自治体の中で“連合”の設立目的に賛同する広域地方自治体とし、総会の決定により範囲を拡大できる。

2. 分科委員会の設置に関する事項

1) 分科委員会の区分

- ① 経済通商分科委員会 ② 文化交流分科委員会 ③ 環境分科委員会
④ 防災分科委員会 ⑤ 一般交流分科委員会

2) 分科委員会構成などに関する憲章改正

現 行	改 正
第2節 実務委員会 第10条(構成及び運営) ① 実務委員会は、事務総長及び各会員自治体長が指名する局長級幹部によって構成され、事務総長が議長の承認を得て毎年 1回以上召集する。 ② 実務委員会の委員長は事務総長が努め、会議結果は総会に報告しなければならない。	第2節 実務委員会 第10条(構成及び運営) ① 左同 ② 左同 ③ <u>個別プロジェクトなどの円滑な推進の支援のために、総会の承認を得て実務委員会の補助機関として分野別に分科委員会を設置することができる。</u>

現 行	改 正
第11条(機能) 実務委員会は次の各号の機能を遂行する。 1. 事業計画及び個別プロジェクトの協議 2. 年例報告書及び会計報告書の検討 3. 会員自治体間の意見調整 4. 総会で委任した事項の決定	第11条(機能) 実務委員会は次の各号の機能を遂行する。 1. 事業計画及び個別プロジェクトの協議 2. 年例報告書及び会計報告書の検討 3. 会員自治体間の意見調整 4. <u>分科委員会の設置(構成、機能、運営方法など)に関する事項(新設)</u> 5. 総会で委任した事項の決定 6. その他、必要と認められる事項

会議参加者は、上記の事項を会員自治体に伝え、事務局から'98年連合総会に報告することに同意すると同時に、結果の合意文を中国語、日本語、韓国語及びロシア語で作成した。

イ. 第2回会議

(1) 開催背景及び目的

- 第1回実務小委員会(大邱)で出された案件の未合意点の議論及び今年の定期総会議題の討議、次期総会開催地の選定などに関する協議

(2) 会議概要

- 開催日時：'98.7.7(火)～7.10(金)
- 開催場所：日本富山県富山市(厚生年金休暇センター)
- 参加：連合会員国別各代表自治体実務課長級19人
 - ・ 韓国5、中国4、日本6、ロシア4
 - － 韓国：慶尚北道、忠清北道
 - － 中国：河南省、黒龍江省
 - － 日本：富山県、兵庫県
 - － ロシア：極東ザバイカル経済協議会
- 会議進行：4カ国逐次通訳による円卓会議形式
- 会議スケジュール

区 分	7/7(火)	7/8(水)	7/9(木)	7/10(金)
09:30	・ 入国・登録	・ 開会 ・ 富山県副知事 歓迎の挨拶 ・ 事務次長挨拶 ・ 参加者紹介	・ 討議	・ 出国
10:00		・ 討議		
12:00		・ 午餐	・ 午餐	
13:30		・ 討議	・ 視察	
19:00	・ 夕食	・ 懇談会	・ 夕食	

○ 討議内容

- ・ 分科委員会設置規定及び新規会員の加入規定協議
- ・ '98連合総会開催関連日程案内及び議題協議
- ・ 2000年連合総会開催地選定に関する事項など協議

(3) 会議内容総括

＜ 連合センター設立 ＞

- 慶尚北道から、連合の持続的発展のために連合事務局の機能以外の総合サポート機能を担当する連合センターの設立が提案されたことについて、連合センターの主旨及びその必要性には同感するが、これは実務小委員会より総会で議論される事項という意見に従って
- 慶尚北道は連合センターに関する基本計画を各会員自治体に提示し、会員自治体はその意見を整理し、憲章改正案に関する意見と共に慶尚北道に知らせることに合意
- 連合センター設立に関する各代表自治体の意見

[日本側]

- 慶尚北道が独自の設立・運営するには賛同するが“連合センター”を連合憲章に明記するのには反対の立場
- “連合センター”は日本語で唯一無二の核心機関という意味を持つため“連合支援機関”に変更することを提案

[中国側]

- 特別な意見なし。

[ロシア側]

- 慶尚北道提案に基本的に賛成して
- 各国を代表するセンターとして育成することも考える。

＜北朝鮮及びモンゴルの連合参加＞

- モンゴルの中央県が’98総会への参加を希望したのに反して北朝鮮の参加意志は不透明だった。
- 連合憲章第4条(会員の範囲)で北朝鮮を削除することを日本側が提案
- 慶北は連合の門戸を開放するという主旨で会員の範囲に北朝鮮を明記することを提示して合意

＜連合分科委員会設置＞

- 第1回実務小委員会の合意文による5つの分科委員会の設置を再確認して関連規定案を総会に提出することに合意

※ 分科委員会区分：経済・通商、文化交流、環境、防災、一般交流

- ただし、分科委員会の自律性と推進力を養うために慶尚北道が提案した機能(3条)、参加(6条)、費用負担(7条)条項の変更については、富山県と協議して素案を総会に提出することに合意
- 連合の分科委員会への参加を希望する自治体を事務局である慶尚北道で申込みの受付及び選定を推進

〈連合'98総会開催関連〉

- “連合富山総会” への名称変更を提議
 - 富山県が'98年10月に開催される連合総会の公式名称として「'98北東アジア地域自治体会議」を使うということについて
 - 慶尚北道側は連合が結成されて連合憲章上の総会開催という点から「'98北東アジア地域自治体連合富山総会」に変更することを提案
 - “連合総会” という名称を使う時には中国側の参加が難しい点から、中国及び日本側が反対の立場を表明
- 2000年総会開催地決定
 - 連合事務局である慶尚北道が8月10日まで開催希望自治体の申込みを受けて調整することに合意
- 議長自治体引継手続き協議
 - 引継の当事者である慶尚北道と富山県が今後十分に協議し決めることに合意
 - ロシアは、連合が創立されてから初の議長交代という点で格式ある儀式(行事)の必要性を指摘。
- 自治体新規加入
 - 自治体の連合参加手続きに対し、中国の場合、中央政府の統制を受けなければならないという現実的な側面を考慮し、当分の間は連合憲章の基本精神に賛成を示し、北東アジア地域自治体会議に参加することを入会したものと認定
- 事務局活動事項報告
 - 慶尚北道が事務局の活動事項及び共同プロジェクトの推進状況を総会で報告することに合意

－ 合 意 文 －

1998年7月7日から7月10日まで日本国富山県で中華人民共和国、日本国、大韓民国、ロシア連邦の代表自治体関係者などが集まり、北東アジア地域自治体連合(以下「連合」と言う。)第2回実務小委員会を開催した。

この小委員会で'98北東アジア地域自治体会議(以下「自治体会議」と言う。)における議事運営などに関する協議を行い以下の事項について合意を得た。

1. 自治体会議においては必要によって連合事務局と協議しながら開催自治体である富山県が開催準備を行う。
2. 会員の範囲及び分科委員会の設置については、第1次実務小委員会の合意文どおり憲章改正

を行うことを確認する。

3. 5つの分科委員会を設置することについては、第1次実務小委員会の合意文どおり総会の承認を得ることを確認する。
4. 分科委員会の設置及び運営に関する規定案については、第1次実務小委員会で合意した内容について慶尚北道から機能、参加及び費用負担の項目に対する新しい提案があった。このため、実務小委員会の構成員が各国自治体の意見を集約し、その結果を踏まえ慶尚北道と富山県が協議し、自治体会議に提出する草案を作成する。
5. 2000年の北東アジア地域自治体会議開催自治体については、連合事務局が調整を行う。
6. 自治体の連合参加手続きについては、当分の間、連合憲章の基本精神に賛成を示し、北東アジア地域自治体会議に参加することを入会したこととする。
7. 慶尚北道側から北東アジア地域自治体連合センターの設立に関する新しい提案があった。実務小委員会の構成員は、慶尚北道が意図するこのセンターの基本計画を提示してもらい、各国自治体の意見をまとめ、憲章改正案に関する意見も合わせて慶尚北道に報告する事にする。また慶尚北道は実務小委員会の構成員にその報告の写しを送付する。
8. 極東ザバイカル協議会から各国ごとに連絡調整を担当する機関の設置について提案があり、有益な意見交換を行った。

上記の内容を今回の実務小委員会の合意事項とし、中国語、日本語、韓国語、ロシア語で作成する。この内容を連合事務局は実務委員会構成員に報告する。

ウ. 第3回会議

(1) 開催背景及び目的

- 第5回総会(2004年中国黒龍江省)での自治体連合の会費に関する件及び第5回実務委員会連合徽章制定、連合事務局への職員派遣に関する決意事項の進行状況を報告するため。

(2) 会議概要

- 開催日時：2006.5.17(水)～5.19(金)
- 開催場所：慶尚北道慶州市現代ホテル
- 参加：5ヵ国20自治体40人
 - ・ 中国(4)：黒龍江省、山東省、河南省、寧夏回族自治区
 - ・ 日本(2)：富山県、鳥取県
 - ・ 韓国(9)：釜山広域市、京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道

- ・モンゴル(1)：中央県
- ・ロシア(4)：ハバロフスク地方、サハ(ヤクーチア)共和国、イルクーツク州、ブリヤート共和国

○ 日程

区分	5/17(水)	5/18(木)	5/19(金)
09:00	・入国/登録	・開会式 ・参加者紹介 ・実務小委員会	・慶州観光
10:00		・実務者ワークショップ	
12:00		・午餐	・午餐
13:30		・posco視察 ・事務局訪問	・出国
19:00	・歓迎晚餐	・晚餐	

(3) 会議内容

〈報告事項：事務局〉

(ア) 総会決意事項の進行状況報告

- 自治体連合会費に関する件：第5回総会で連合会費制導入について満場一致で同意。具体的な納付方法は第5回実務委員会で議論し、総会で討論して決定することに合意。

(イ) 実務委員会決意事項進行状況の報告

○ 連合徽章制定

- ・ 第5回総会で連合徽章制定議題が通過し、来る第6回釜山総会で決めることに決定
- ・ 2005年11月30日に開かれた第5回実務委員会で徽章制定委員会の構成に合意し、2006年4月徽章制定委員会発足、2006年5月18日第1回徽章制定委員会を開催。
- ・ 徽章制定委員会の委員

国名	自治体名	委員名	職位
中国	黒龍江省	楊鴻鵬	外事弁公室副処長
日本	富山県	城木一郎	国際・日本海政策課長
韓国	釜山広域市	安ジョンイル	国際協力課長
モンゴル	中央県	ナムナンシレン	社会政策課長
ロシア	ハバロフスク地方	ベセディーナ	対外経済開発及び観光局長

○ 連合事務局への職員派遣

- 第5回実務委員会の合意によって、2005年12月から2006年2月まで職員派遣の受付
- 2006年5月から中国、ロシア、モンゴルから各 1人ずつ派遣され事務局に勤務する計画
- 事務局では会員自治体派遣職員が韓国生活に不便がないように支援する。
- 派遣公務員

国 名	自治体名	氏 名	職位
中国	寧夏回族自治区	・馬玉岐	外事弁公室処長
モンゴル	中央県	・ダシゼベク チェレンドンドフ	国営会計財団専門委員
ロシア	ブリヤート共和国	・アレクサンドル マングトフ	経済開発対外関係部傘下国際 関係及び対外協力局顧問

(4) 会議結果

○ 連合徽章制定

- ・ 提案理由：北東アジア地域自治体連合徽章制定による推進経過を報告し「徽章制定委員会」が最終確定した徽章(案)に対し総会の承認を申請する。
- ・ 推進経過
 - 2004年9月：第5回総会で日本富山県と中国黒龍江省が提案した連合徽章制定議題を通過させ、第6回釜山総会で確定することに決定
 - 2005年11月：第5回釜山実務委員会で徽章制定に関する具体的な推進方法について議論した結果「徽章制定委員会」を構成して推進することに決定
 - 2006年5月：第1回徽章制定委員会会議を開催、以前から使用していた事務局徽章を基に委員からの意見を踏まえ、事務局で徽章(案)を作成することにする。
 - 2006年8月：第2回徽章制定委員会の会議(釜山・西面)で、事務局が準備した徽章(案)に対し、委員の検討意見を聞き「徽章制定委員会」の最終案として確定し、総会に上程することに決定
 - 決定事項：「徽章制定委員会」で用意した徽章(案)を総会に上程する事にする。

第5節 実務者ワークショップ

1. 第1回会議

ア. 行事概要

- (1) 日時：2006年5月17日(水)～5月19日(金)

- (2) 場所：慶州現代ホテル
- (3) 主催：釜山広域市、北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 会議の趣旨：第5回総会と第5回実務委員会の決議事項に関する推進状況の点検及び第6回総会の議題発掘、そして会員自治体間の通商、文化、観光などの交流拡大と共同発展方を模索し、相互発展の基盤作りと連合の結束力強化が目的
- (5) 主要議題：総会、分科委員会関連事項、経済活性化、連合運営、黄砂被害の共同対処のための自治体の役割
- (6) 会議言語：韓国語、中国語、日本語、ロシア語
- (7) 参加自治体：5ヵ国20自治体40人

国 名	自 治 体 名
中国(4)	黒龍江省、山東省、河南省、寧夏回族自治区
日本(2)	富山県、鳥取県
韓国(9)	釜山広域市、京畿道、江原道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道
モンゴル(1)	中央県
ロシア(4)	ハバロフスク地方、サハ(ヤクーチア)共和国、イルクーツク州、ブリヤート共和国

イ. 行事日程

- 5/17(水)
 - ・ ～18:30：登録
 - ・ 19:00～21:00：歓迎晚餐
- 5/18(木)
 - ・ 09:00～12:00：実務小委員会
 - ・ 12:00～13:00：実務者ワークショップ
 - ・ 15:00～18:40：POSCO産業視察、事務局訪問など
 - ・ 19:00～21:00：晚餐
- 5/19(金)
 - ・ 09:00～12:00：慶州市文化視察
 - ・ 13:00～：送迎

ウ. 議題内容

- (1) 総会・分科委員会

(ア) 2008年総会開催申請及び事務局との協力(山東省)

- 山東省は、今年9月釜山で開かれる北東アジア地域自治体連合第6回総会で2008年北東アジア地域自治体連合第7回総会の開催を公式に申請。
- 山東省の2008年総会開催が確定した場合、山東省総会のために創設する準備委員会と北東アジア地域自治体連合事務局が緊密に協調して行くことを提案

(イ) 2010年連合総会開催申請(京畿道)

- 京畿道は、朝鮮半島の中央に位置する人口1千万の韓国最大の地方自治体として、北東アジア先端産業の集積地及び北東アジアのハブになろうと努力している。
- 京畿道の北東アジア地域自治体連合総会誘致は、21世紀北東アジア地域の共同発展と交流協力ネットワークを強化し、連合を一つに連携すると同時に、世界の中に跳躍する京畿道を経験できる良い機会になると予想

(ウ) 分科委員会次期コーディネート自治体選出提案

- 国境地区協力分科委員会：ノボロフスク地方
- 一般交流分科委員会：富山県

(エ) 分科委員会新設提案

(2) 経済活性化

(ア) 北東アジア地域自治体連合総会開催時、貿易博覧会開催(忠清北道)

- 連合の総会期間中に総会開催地域で連合自治体間の実質的な経済・貿易交流促進のために「北東アジア地域貿易博覧会」を開催すれば、連合会員国家間の交流を活性化し、相互に企業情報を得ることができる良い機会になる。
- また連合会員自治体間貿易交流がもっと活発になって、相互経済貿易ネットワーク構築が可能になると予想。

(3) 連合運営

(ア) 連合会員の範囲規定(黒龍江省)

- 第5回総会まで北東アジア地域自治体連合の会員は39自治体であった。過去の慣例によって自治体が総会に参加すれば自動的に連合会員として認められた。しかし、一部の自治体は会議に一度参加した後、その後開かれた関連会議には参加せず会員の資格を喪失している。北東アジア地域自治体連合の組織形式を規範化することを希望

(イ) 実質的成果を出すことができる議題の導出希望(黒龍江省)

- 北東アジア地域自治体連合が創立されてから10年になったが、まだ具体的で実質的な成果を出すことができない。第6回総会では北東アジア地域間の経済、貿易、文化などの分野における相互交流と協力関連行事のような実質的な議題を提案することを希望。

(ウ) 多様な分野の行事開催提案(河南省)

- 北東アジア地域自治体連合は、経済、貿易、環境、観光分野の交流と協力を強化すべきである。毎年、貿易、文化、ハイテク製品、物流など一定の主題を決めて展覧会や投資誘致行事などを開催し、連合は行事の開催主題、場所、巡回方法を定め、会員自治体を回りながら開催する方法を模索するべきである。

(エ) 北東アジア地域自治体連合の共同研究課題選定(忠清北道)

- 北東アジア地域自治体連合は、会員自治体が 6ヵ国 40自治体に広がったが、総会や実務委員会会議の時に、該当自治体に関連する主題を主として発表するために、他の自治体に参加を呼びかけても反応が少ないのが実情だ。
- したがって会議の時、該当自治体の意見発表も重要だが、会員全体の共通の関心事に対して共同議題を決めて研究及び討論することで会議運営が活性化することを希望。

(4) 黄砂被害共同対処のための自治体の役割(京畿道)

- 北東アジア地域の乾燥地帯の砂塵や砂嵐の発生頻度が頻繁になり、規模も益々拡大する趨勢で、関心や憂慮が表明されている。現在北東アジアの砂漠化及び黄砂の発生を抑制するために韓国、日本、中国などの国家レベルでの共同対応の必要性に合意をした状況である。
- このような国家間の合意事項を黄砂発源地域レベルで効率的に履行するために、地方政府の役割がいっそう強調されなければならない。このため北東アジアの黄砂発生及び被害地域範囲に属した地方自治体間の相互協力と支援を通じて、黄砂問題に対する対処方案と中・長期的な共同協力方案を準備しなければならない。

〈北東アジアの黄砂被害の低減と緩和のための地方政府の可能な役割〉

- (ア) 市民の認識転換を誘導(黄砂の影響都市、市民の認識向上を誘導し、草の根レベルで実行可能な市民行動の代案を発掘)
 - (イ) 地方自治体間レベルの協力体制構築
 - (ウ) 資金調達の融通性及び長期計画に焦点を置いた実行計画を樹立
 - (エ) 砂漠化の進行地域に対する技術及び関連教育訓練機会の提供(政策開発と法的制度含む)
 - (オ) 学者/技術者/公務員相互間の情報共有と交換など
- (5) その他検討事項

(ア) 北東アジア地域自治体連合(NEAR)諮問委員会新設、運営提案

- 現在北東アジア地域自治体連合の組織は、総会、実務委員会、分科委員会で構成されているが、連合の効率的な運営と活性化のために諮問委員会を新設し運営することを提案
- 諮問委員会の委員構成及び委嘱対象：退任した歴代 NEAR 議長及び国際関係の専門家
- * 前・現職議長に対する持続的な関心と礼遇

(イ) 韓国企業人のハバロフスク地方訪問及びハバロフスクの企業人との懇談会開催

エ. 会議結果

(ア) 2008年総会の開催申し込み(山東省)

(イ) 連合「諮問委員会」新設及び運営(江原道)

(ウ) 科学技術分科委員会新設(京畿道)

(エ) 国境協力分科委員会のコーディネート自治体変更(ハバロフスク地方)案件は第6回釜山総会に上程することに決定

＜ 参照：第6回北東アジア地域自治体連合総会概要 ＞

○ 開催期間：2006年9月12日(火)～9月15日(金) [3泊4日]

○ 開催場所：BEXCO、APEC ホールなど

○ 参加対象：6ヵ国40会員自治体長など100人余り

○ 使用言語：韓国語、中国語、日本語、英語、ロシア語

○ 主要予想議題

① 分科委員会新設

② 加入希望会員自治体加入決議

③ 連合徽章制定

④ 次期総会(2008年)開催地決定

⑤ その他会員自治体提出案件

○ 主要日程

・ 9.12：到着、登録

・ 9.13：総会(前日)、歓迎晚餐

・ 9.14：総会(午前)、視察、歓送晚餐

・ 9.15：出発

○ 参加条件：会議期間中、自治体別に2人まで宿泊費と現地交通を提供

○ 参加費(分担金)：参加自治体当り327,000ウォン(\$333相当)

2. 第2回会議

ア. 開催概要

(1) 期間：2007.5.15(火)～5.18(金) [3泊4日]

(2) 場所：慶尚北道一円(慶州、安東、榮州、聞慶、高靈など)

- (3) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 主旨：実務者間の人的ネットワークを強化し、効率的な業務体系を構築し、連合の結束と発展の契機をつくる
- (5) 主要内容
 - 2007年事務局主要事業説明
 - 連合の交流拡大及び発展方案議論(国家別発表)
 - 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - 会員自治体文化体験
- (6) 会議言語：中国語、日本語、韓国語、モンゴル語、ロシア語
- (7) 参加
 - 参加会員自治体：5ヵ国32自治体61人
 - ・ 中国6自治体、日本2自治体、韓国8自治体、モンゴル12自治体、ロシア4自治体
 - NEAR事務局：16人

イ. 行事日程

- 5月15日(火)
 - ・ ～ 18:30：登録、宿泊所割当
 - ・ 19:00～21:00：歓迎晚餐
- 5月16日(水)
 - ・ 08:30～08:45：出席者紹介
 - ・ 08:45～08:55：事務局長挨拶
 - ・ 08:55～09:15：2007年事務局主要事業説明
 - ・ 09:30～11:00：連合交流拡大及び発展方案議論
 - ・ 11:00～12:30：参加自治体広報及び協力事項発表
 - ・ 14:00～18:00：移動(事務局→安東)
 - ・ 18:00～19:00：陶山書院探訪
 - ・ 19:30～21:00：夕食、親交の時間
- 5月17日(木)
 - ・ 09:00～10:00：移動(安東国学文化会館→榮州紹修書院)
 - ・ 10:00～10:40：紹修書院探訪
 - ・ 11:00～12:00：浮石寺探訪
 - ・ 13:30～16:30：浮石寺→閔慶島嶺

・ 16:30 ~ 18:00 : 聞慶鳥嶺探訪

・ 20:00 ~ 22:00 : 歓送晚餐

○ 5月18日(金)

・ 10:00 ~ 11:00 : 大伽倻(高霊・大加羅)博物館探訪

・ 14:30 ~ : 送迎

ウ. 参加自治体

国 名	自 治 体 名
中国 (6)	黒龍江省、河南省、湖北省、湖南省、寧夏回族自治区、山東省
日本 (2)	新潟県、島根県
韓国 (8)	釜山広域市、大邱広域市、京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅南道、慶尚北道、済州特別自治道
モンゴル (12)	ドンドゴビ県、ウブスハンガイ県、中央県、ウムヌゴビ県、スフバートル県、セレンゲ県、ドルノゴビ県、ゴビスンベル県、ゴビ・アルタイ県、オルホン県、ボルガン県、バヤンホンゴル県
ロシア (4)	サハ(ヤクーツク)共和国、ハバロフスク地方、サハリン州、トムスク州

エ. 会議内容

(1) 2007年事務局主要事業報告

(ア) 2006年事業推進成果

- 会員自治体誘致拡大 : 全6カ国65会員自治体に拡大、国際機関としての地位確保
- 実務小委員会及び実務者ワークショップ開催 : 5. 17~19日、慶州で5カ国20自治体、50人が参加、会員自治体が結束力を強化して協力ネットワークを構築
- 会員自治体職員事務局派遣勤務実施 : 5月から中国、ロシア、モンゴル各 1人ずつ勤務、国際機関本部にふさわしい組織構成及び対外業務効率性向上
- NEAR会員自治体間の議会交流支援 : 2006年12月中慶尚北道議会交流団の中国寧夏回族自治区、モンゴル中央県の議会訪問支援、議会レベルの交流協力方案及び議会交流協議会発足協議など
- 広報物などの発刊、NEARの広報強化 : 「NEAR NEWS LETTER」5カ国語で発刊、会員自治体などに配付、連合広告用リーフレット 5カ国語で発刊など

(イ) 2007年主要事業計画

- 北東アジア通商交流事業支援 : 会員自治体間、経済主体間の相互訪問友好協力締結などの支援、官民合同通商使節団構成、有望会員自治体訪問

- 北東アジア経済フォーラム開催：北東アジア経済通商専門家を討論者として招待しセミナーを開催、経済通商交流活性化のための企業人の役割を議論、対外民間経済協力の人的ネットワーク基盤構築及び情報提供

*10.16～19日慶尚北道北東アジアビジネス促進会議と連携

- NEAR実務者ワークショップ開催：連合業務の実務者相互間ネットワークを強化して効率的な業務体制構築、会員自治体別実務者1～2人、5.15～18日、慶尚北道一円
- 北東アジア民俗フェスティバル開催：NEAR会員自治体の多様な伝統民俗芸術公演推進、慶州世界文化エキスポ期間(9.7～10.26)中
- 事務局交流協力基盤強化：現65会員自治体を80会員自治体に拡大推進中、中国、ロシア、モンゴルに引き続き日本も職員派遣、モンゴルの自治体の会員拡大によるモンゴル専門委員採用、ニュースレター6ヵ国語で発刊

(ウ) 連合交流拡大及び発展方案

- 文化、体育交流及び連合総会開催に関する議題(中国黒龍江省)
 - 1) 文化、体育分野交流の強化：総会開催時、書道・美術展、小規模芸術公演、茶道、太極拳、テコンドーのような文化行事開催を提案
 - 2) 連合総会は、各国地方自治体を回りながら開催する方案：第9回総会がモンゴルやその外の地域で開催されると、相互理解を増進し、連合と北東アジア地域の繁栄と発展を促進すると期待
- 「北東アジア交流の翼inしまね」運営に関して(日本島根県)
 - 1) 北東アジア地域の青年たちを島根に招待し、島根県の青年たちと一緒に文化交流プログラムを行うことで、各地域の相互理解促進及び次代を担う若者達の北東アジア地域の新しいネットワーク形成を目的とする。
 - 2) 2008年は文化交流分科委員会が結成されてから10年目になる年として、交流の翼事業を見直し、今後10年間交流の翼事業を実施する自治体を島根県だけではなく、NEARに参加する自治体に徐々に拡大する計画である。
- NRAR発展方案(韓国大邱広域市)
 - 1) 事務局レベルでの努力方案：対外活動強化及び他の国際機関とのネットワーク構築[世界地方自治体アジア太平洋支部(ジャカルタ)、Citynet(福岡)、Asia Network of Major Cities(東京)、北東アジア知事・省長会議(江原道)など]
 - 2) 会員自治体の努力部門：会員自治体の国際行事を事務局のウェブサイトや隔月の機関誌を通じて広報するだけでなく、事務局主要関係者を招待し、活動範囲を広げる必要がある。
 - 3) 定期会議構成に関する意見：総会時、地方自治体に有益で必要な主題として会員自治体の成功事例の発表を通じた優秀な行政を共有することができるトレーニングフォーラムや、これらの分野で有名な人物の基調演説または、講演、そして専門機関とともに行う実務者

力量強化プログラムなどを並行させ、会員自治体の総会に対する関心度と参加率を向上。

- 会員自治体間の共同発展のための環境造成(モンゴル・ウムヌゴビ県)
 - 1) 会員国家と人材教育及び研修、業務提携などの協力が必要であり、砂漠化と黄沙を防ぐために防止林造成事業の協力が切実である。
 - 2) 中小企業発展と地域民たちの保健・教育分野にも会員自治体が協力して相互利益がある交流を希望。
- モンゴルに連合事務局支部開設(モンゴル中央県)
 - 1) 北東アジア地域自治体連合の行事がモンゴルでも開催できるように、連合支部をモンゴルに開設する方案
- 経済協力を通じた北東アジア自治体間交流活性化(ロシアハバロフスク地方)
 - 1) 北東アジアの国々の経済交流活性化のためには、地域単位での共同プロジェクトを開発してこれらのプロジェクトを成功させるために努力
 - 2) 我々の連合の活動が各々自分を紹介する水準から脱し、連合会員自治体の相互間の協力を通じて実質的な業務を推進する時期になったと考え、会員としてより責任のある連合活動のために連合会員資格を再検討し連合加入費、連合会費制導入などを検討する必要がある。
- 一般交流分科委員会次期コーディネーター募集案内(事務局)
- (ウ) 参加会員自治体広報及び協力事項
 - 2007北東アジア地域自治体連合実務委員会開催案内(中国山東省)
 - 1) 9月3日～6日まで済南市で開催
 - 2) 北東アジア自治体国際協力対話行事開催
 - ・ 地方自治体の国際化推進施策と成功事例
 - ・ 外国人投資誘致のための新しいモデル、新しい方式、新しい施策
 - ・ 地方自治体が文化ブランドを創造し、自らの知名度を高める方法
 - ・ 企業と製品の海外進出施策
 - 2007年慶北訪問の年(韓国慶尚北道)
 - 1) 訪問の年のスローガン：“オソオイソ(ようこそ)、慶北2007!”。
 - 2) 約160余りの新しい代表観光商品開発(週末テーマ旅行商品、推薦観光コース各52選、列車旅行商品など)
 - 3) 3,100人分の職創出効果、4,200億ウォン相当の地域経済波及効果
 - 2012麗水世界博覧会誘致支持協力(韓国全羅南道)
 - 1) 全羅南道の位置と麗水エキスポの意義：オリンピック、ワールドカップとともに世界3大イベントの一つで、人類が成し遂げた様々な成果を展示、未来に対するビジョンを提示
 - 2) 国際的観点からの麗水博覧会の意義：海洋を主題に計画しており、人類に海と沿岸の価値を

- 知らせ、発展的な未来ビジョンを共有することで人類の共栄と生活の質の向上にも大きく寄与
- 3) 我が全羅南道で2012麗水世界博覧会の開催が成功するように連合会員自治体皆さんの特別な関心と積極的なサポートをお願いする。

－ ドルノゴビ県の観光現況に関する紹介(モンゴルドルノゴビ県)

- 1) 珍しい砂漠動物、海洋化石、恐竜化石、砂丘、冷たい湧き水、絶壁、考古学遺物
- 2) モンゴルの宗教指導者であり哲学者、作家、社会評論家、芸術家、作曲家、画家、医師、反体制僧侶でもあるダンザンラブジャの多くの遺産

－ 第4回アジアの子供国際競技大会紹介

- 1) 青少年たちにオリンピック精神を鼓吹し、青少年体育システム確保と向上、アジア青少年間の友好関係確立、国際青少年体育分野協力などが目的
- 2) ヤクーツクは国際競技大会が円満に進行できるようにスポーツ競技進行に必要なすべてのインフラを構築
- 3) 2008年7月サハ共和国ヤクーツクで開催される予定。

－ ロシア・トムスク州の革新フォーラム紹介(ロシアトムスク州)

- 1) トムスク革新フォーラム
 - ・ 毎年開催される行事として他の自治体との革新的な活動組織に関する経験について交流し、その過程で国際関係をより発展させることが目的
 - ・ 今年は、革新フォーラム開催10周年になる年、毎年他の地域から150人以上がフォーラムに参加し、外国人投資者の関心が高くなっている。
- 2) 北東アジア地域自治体連合会員自治体所在大学総長会議
 - ・ 北東アジア地域間の発展を阻害する主要問題の一つが北東アジア地域専門家の不在(北東アジア地域経済、文化、通商法及び言語専門家の不在)
 - ・ 北東アジア地域自治体所在大学総長の集まりを通じて、北東アジア地域所在大学の相互間の交流を通した両大学の成績認定制、交換学生制、交換教授制など多様な事業を広げることでヨーロッパの“教育統合システム”のようなシステム導入

－ サハリン州発展戦略紹介(ロシア・サハリン州)

- 1) 輸送施設：ロシア大陸 ～ サハリン州を連結するトンネル型橋建設、サハリン港の現代化など
- 2) 建設部門：安楽な居住地建設という名称の住宅建設プロジェクトが進行中、2006年～2010年の間、新都市建設計画
- 3) 観光：休養施設地“山の中の空気”建設中、“アニバ～海辺”の観光団地建設プロジェクト
- 4) 石油ガス油田事業：石油ガス採掘作業と加工作業連携推進
- 5) 石炭採掘分野：全部で70の石炭埋蔵地所有、推定埋蔵量140億トン、輸送インフラ建設が主要課題

- 北東アジア地域自治体連合第1回科学技術分科委員会開催案内(韓国京畿道)
 - 1) 北東アジア自治体の科学技術振興協力方案という主題で、2007年7月23日から4日間京畿道・水原で開催
 - 2) 会員自治体間の科学技術振興のための協力基盤構築など

3. 第3回会議

ア. 行事概要

- (1) 期間：2008. 5. 27(火)～5. 30(金) (3泊4日)
- (2) 場所：慶尚北道浦項市POSCO国際館
- (3) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (4) 趣旨：実務者間の人的ネットワークを強固にすることで効率的な業務体制の構築を通じた連合の結束と発展の契機をつくり、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換
- (5) 主要内容
 - 2008年事務局主要事業説明
 - 経済・観光分野の交流活性化方案、経済・観光・文化分野の交流のための優秀事例及び要望事項(国家別発表)
 - 参加会員自治体広報及び協力事項発表
 - 会員自治体産業視察及び文化体験
- (6) 会議言語：中国語、日本語、韓国語、モンゴル語、ロシア語
- (7) 参加
 - 参加会員自治体：5ヵ国42自治体84人
 - 中国6自治体、日本5自治体、韓国13自治体、モンゴル13自治体、ロシア5自治体
 - NEAR事務局：17人

イ. 日程

	日時	分	内 容	場 所	備 考
5. 27 (火)	～ 18:30		・登録、宿所割当	Posco国際館 1階ロビー	
	19:00～21:00	120	歓迎晚餐 ・歓迎の辞(事務総長) ・祝辞(浦項副市長)	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	
	21:00～		宿泊	Posco国際館、ホテルバレンタイン	
5. 28 (水)	07:00～08:20	80	朝食	Posco国際館ディメドレー(2階)	
	09:00～09:20	20	開会及び出席者紹介	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	司会(企画総務課長)
	09:20～09:45	25	2008事務局主要事業説明		国際協力課長
	09:45～10:00	15	休息		
	10:00～11:10	70	経済・観光分野交流活性化 方案及び行政優秀事例発表	Posco国際館グランドボールルーム(2階)	進行(事務局長)
	11:10～12:40	90	会員自治体広報及び協助事項発表	〃	進行(事務局長)
	12:40～13:40	60	昼食	Posco国際館ディメドレー(2階)	
	13:40～13:50	10	移動(Posco国際館→事務局)		
	13:50～14:20	30	事務局訪問		企画総務課長
	14:20～14:40	20	移動(事務局 → Posco)		専用バス
	14:40～15:40	60	Posco 見学		
	15:40～16:20	40	移動(Posco→虎尾岬日の出公園)		専用バス
	16:20～17:50	90	虎尾岬日の出公園観覧		
	17:50～19:10	80	移動(虎尾岬→慶州現代ホテル)		専用バス
	19:10～20:00	30	チェックイン	慶州現代ホテル 1階ロビー	
5. 29 (木)	20:00～21:30	90	晚餐及び親交時間	慶州現代ホテルダイヤモンドホール(地下 1階)	
	08:00～09:00	60	朝食	慶州現代ホテルサラホール(1階)	
	09:00～09:10	10	移動(現代ホテル→慶州博物館)		専用バス
	09:10～10:40	90	国立慶州博物館観覧		
	10:40～11:00	20	移動(慶州博物館→天馬塚)		専用バス
	11:00～11:50	50	天馬塚観覧		
	11:50～12:00	10	移動(天馬塚→ウォンブン食堂)		専用バス
	12:00～13:00	60	午餐	ウォンブン食堂	韓食

	日 時	分	内 容	場 所	備 考
5. 29 (木)	13:00～13:20	20	移動(ウォンブン食堂→慶州EXPO)		専用バス
	13:20～14:50	90	慶州EXPO観覧		
	14:50～15:10	20	移動(慶州EXPO→仏国寺)		専用バス
	15:10～15:40	30	仏国寺観覧		
	15:40～16:50	70	移動(仏国寺→大邱 E-Mart)		専用バス
	16:50～18:30	100	Shopping	大邱 E-Mart	
	18:30～18:50	20	移動(E-Mart→グランドホテル)		専用バス
	18:50～19:30	40	チェックイン	グランドホテル	
	19:30～21:30	120	歓送晚餐	グランドホテルプラザホール(5階)	
5. 30 (金)	08:00～09:00	60	朝食及びチェックアウト	グランドホテルコーヒーショップ(1階)	
	09:00～09:40	40	移動(ホテル→八公山桐華寺)		専用バス
	09:40～11:40	120	八公山桐華寺観覧		
	11:40～12:00	20	移動(桐華寺→ポクポ食堂)		専用バス
	12:00～13:30	90	午餐	ポクポ食堂	韓食
	13:30～14:00	30	移動(ポクポ食堂→東大邱駅)		専用バス
	14:00～		歓送		

ウ. 参加者名簿 : 5カ国42自治体84人

国 名	自 治 体 名
中国 (6)	黒龍江省、湖北省、河南省、寧夏回族自治区、山東省、天津市
日本 (5)	富山、山形、新潟、鳥取、島根県
韓国 (13)	釜山広域市、大邱広域市、京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚北道、慶尚南道、済州特別自治道、蔚山広域市、大田広域市、仁川広域市
モンゴル (13)	アルハンガイ、バヤンホンゴル、ボルガン、ゴビアルタイ、ゴビスンベル、ダルハンオール、オルホン、ウムヌゴビ、ウブルハンガイ、セレンゲ、ホブド、オブス、ウランバートル
ロシア (5)	ブリヤート共和国、ハバロフスク地方、イルクーツク州、サハリン州、トムスク州

エ. 2008年度事務局主要事業

(1) 2007年事業推進成果

(ア) 会員自治体誘致拡大

- 広報団派遣など積極的な誘致活動で3ヵ国6自治体加入意思表示

※ 中国(1)、韓国(4)、ロシア(1)

- 2008年総会まで6ヵ国75会員自治体に拡大すると予想、国際機関としての地位確保

(イ) 会員自治体間通商交流実施

- 4.22～28 慶尚北道通商交流団の中国、モンゴル訪問

- 自治体間通商交流として交流協力の活性化に寄与

(ウ) 実務者ワークショップ開催

- 5.15～18 慶州で5ヵ国32自治体80人参加

- 会員自治体間結束力強化、人的ネットワーク構築で相互理解増進

(エ) 第6回山東省実務委員会開催

- 9.3～6 中国山東省で5ヵ国32自治体80人参加

- 観光、海洋・漁業分科委員会新設協議、事務局慶尚北道連任協議など。

(オ) 国際経済フォーラム開催

- 10.16～19 大邱で 5ヵ国 22自治体及び専門家など300人参加

- 経済、文化分野など北東アジア地域自治体間協力強化方案模索など

(カ) 会員自治体公務員の招請留学斡旋

- 韓国大邱大学韓国語過程、学部、大学院過程毎年2名ずつ

- モンゴル・ドルノゴビ県ナンディンチェチェック(ロシア1人推進中)

(キ) 広報物など発刊、NEAR広報強化

- NEAR NEWS誌及び広告用リーフレット(6ヵ国語)配付

- 会員自治体など152機関、連合知名度向上など

(2) 2008主要事業計画

(ア) 第7回山東省総会開催支援

- 9.1～4 中国山東省で開催される総会が充実したものになることで連合の結束と発展の契機をつくる

- 観光、海洋・漁業分科委員会新設及びコーディネート自治体選出、新規会員自治体承認、2010年総会開催地決定及び事務局連任決定、連合会費制の導入に関する審議、議決など

(イ) 会員自治体の拡大

- 2008年総会まで6ヵ国 75会員自治体に拡大計画

* 現在入会推進自治体：4ヵ国10自治体

- 非会員自治体を対象に新規加入集中広報及び山東省総会ではオブザーバーの資格で参加するように積極的に広報

(ウ) 国際経済フォーラム開催

- 北東アジアのエネルギー・資源分野の学者をパネラーとして招待しフォーラムを開催
- エネルギー・資源分野開発及び交流活性化方案論議
- エネルギー・資源分野での人的ネットワーク基盤構築及び情報提供

※ 2008年10月中の慶尚北道の北東アジアビジネス促進会議と連携推進

(エ) NEAR実務者ワークショップ開催

- 実務者ネットワークを強化し、効率的な業務体制の構築及び連合の結束と発展のきっかけをつくる、第7回山東省総会に備えた事前点検及び意見交換

会員自治体別実務者2人を招待し、事務局活動紹介及び懸案事項に関する実務者討議など

※ 5.27～30 慶尚北道一円(浦項、慶州)

(オ) NEAR連合白書発刊

- NEARの10年間の成果と活動を新たに評価し、新しい相互交流協力プログラムを準備するための指針を用意
- NEARの創立と沿革、分野別主要活動など各種資料収集、整理
- 6ヵ国語(中国語、日本語、ロシア語、モンゴル語、韓国語、英語)約500ページ

※ 事務局で各種会議資料、結果報告書など資料収集に積極的な協力を願う。

(カ) 事務局交流協力基盤強化

- 分科委員会運営活性化及び新設を通して会員自治体の実のある交流協力推進
- NEARを紹介する動画や映像を製作し、またニュースレターを6ヵ国語で発刊し、会員自治体、非会員自治体、主要団体に配付

オ. 経済、観光分野交流活性化方案及び行政優秀事例

(1) 北東アジア地域自治体連合の発展方案(大韓民国慶尚北道)

- (ア) 自治体間の交流と協力ネットワークを強化：実務者が業務に愛着を持ち、活発な交流や意思疎通ができるようなプログラム開発に積極的に努力
- (イ) 連合会費制導入の必要性：連合がより独立的で、活発な活動をするためには責任と権限を分散し、共同責任の下に運営するのが望ましい
- (ウ) 毎年実務者ワークショップが開かれているが、北東アジア業務を担当する他の地方政府の実務者とのインタビュー記事を、NEARが発刊するニュースレターのシリーズで取り扱い、相互の意思疎通をより活性化する方案
- (エ) 北東アジア地域自治体連合事務局で派遣勤務をした歴代会員自治体の公務員の持続的な交流
- (オ) 北東アジア地域自治体連合のホームページ活性化：訪問回数や掲示が多い人、あるいは該当地方自治体の便り掲載、リプライをする回数などを基準に、イベント行事をしたり、所

定のインセンティブを与えたり、各自治体のNEAR担当者が一日一度は自発的にホームページを訪問する方法を考える。

(2) 連合交流発展方案(モンゴルセレンゲ県)

- (ア) 連合会員国であるモンゴル、ロシア、中国、日本、北朝鮮及び韓国これら6カ国は、それぞれその国の特徴を持ち、発展水準が異なるため、連合側ではできるだけ会員自治体間の交流活動を共通の関心分野に限って促進・発展させることが重要
- (イ) 堅実な財政状態を維持するためには会費制形態の基金作りが重要：総会で基金規定を承認、常設運営サポート及び会計専門家(財政専門家) 採用、運営報告は1年または6ヵ月ごと
- (ウ) 類似国際機構と団体の運営形態調査、連合の目標に相応しい主要施策の導入、専門家の交換及び研修などの活動を実施することも効果的である。

(3) 会員自治体間経済協力方案(ロシアハバロフスク地方)

- (ア) 地域レベルの協力や共同発展のためには、NEAR連合の可能性をもっと積極的に利用すべき時期である。
- (イ) NEAR事務局が北東アジア国家の経済問題に対する情報分析や研究を施行するための準備が必要：このためにはもちろんNEARの会員自治体もそういう経済関連資料を継続的に収集、し準備をして、持続的に事務局に提供しなければならない。

カ. 参加会員自治体広報及び協力事項

(1) 2008年山東省北東アジア地域自治体連合総会紹介(中国山東省)

- (ア) 9月1日から4日まで済南市で開催
- (イ) 今回の総会の特徴の一つは、総会期間の間、第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア環境保護産業商談会を同時に開催

(2) 鳥取県と北東アジア地域との国際交流現況(日本鳥取県)

- (ア) 鳥取砂丘、温泉MAP、皆生温泉、三朝温泉、ゴルフ場、三徳山投入堂など
- (イ) 2008SBS Korean Tour(エマソンパシフィック鳥取県オープン開催)
- (ウ) 鳥取県と北東アジア地域各国との友好交流：大韓民国(江原道)、中国(吉林省、河北省)、ロシア(沿海地方)、モンゴル(中央県)

(3) 忠北バイオコリア2008五松(韓国忠清北道)

- (ア) 行事概要
 - ・ 期間：'08年10月8日(水)～10月10日(金)
 - ・ 場所：忠清北道五松生命科学団地
 - ・ 主催：忠清北道、韓国保健産業振興院、韓国貿易協会
 - ・ 主管：(財)五松バイオ振興財団ほか11の機関・団体

(イ) 主なプログラム

- ・ 展示会：250社、400ブース、誘致対象(国内外バイオ企業、機関、団体及び外国国家・主要政府)
- ・ カンファレンス：13トラック、40セッション、誘致対象(基調演説－ノーベル賞受賞者など世界的な学者、CEO、専門家など、学術会議－生命工学会、細胞分子生物学会などバイオ関連)
- ・ ビジネスフォーラム：企業説明会(企業、地方自治体など保有技術・事業戦略発表、投資誘致)、パートナーリング(企業、地方自治体、投資者など相互に1：1のビジネスミーティング)

(4) 2012麗水博覧会など紹介(韓国全羅南道)

(ア) 2012年麗水世界博覧会開催

- ・ “生きている海、呼吸する沿岸”を主題に2012年5月12日から8月12日まで
- ・ 世界80余国と国際機関、企業などの参加予想
- ・ 141万㎡の敷地には海洋テーマ館、国際機構館、国内外企業広報館など展示施設や支援施設
- ・ 展示施設の他にも優秀海洋都市コンテスト

(イ) 2010年F1国際自動車競技大会

- ・ 2010年から2016年まで全羅南道霊巖郡サーキット場
- ・ ワールドカップ、オリンピックと並ぶ世界3大スポーツイベント、11チーム 22人のドライバーが毎年 17 ～ 18カ国を巡回して参加

(ウ) 第10回韓中の地方政府交流会議

- ・ 2008年11月4日から7日まで全南霊巖郡現代ホテル
- ・ 全羅南道と韓国地方自治団体国際化財団の共同開催
- ・ 主題は“地域活性化及び地域発展政策と課題”

(5) ラムサール総会開催を控えて(韓国慶尚南道)

(ア) “健康な湿地、健康な人間”と言う主題で2008年10月28日から11月4日まで開催

(イ) 参加規模165ヵ国政府代表と国際機関、NGOなど2千人余り

(ウ) 主要行事：全体会議、常任委員会会議、地域会議などがあり、付帯行事としては、参加者に湿地と自然環境、地域文化探訪機会を提供する湿地探訪・生態観光プログラム、伝統料理市場、文化公演など多様な文化芸術行事。

(6) トムスク州一般現況及び北東アジア地域交流現況紹介(ロシアトムスク州)

(ア) シベリア連邦地区自治体中、石油やガスの採掘分野で1位

(イ) 世界第1の鉄鉱石の産地、バクチャル(Bakchar)鉄鉱石産地はロシアの全体鉄鉱石埋蔵量の57%

(ウ) シベリア地域の学問や教育の中心地、6主要国立大学が位置する

(エ) ロシア市場の石油加工分野及びIT、BT分野の先導的な役割

(7) 2008年皆既日食紹介(モンゴルホブド県)

- (ア) 2008年8月1日の皆既日食をきっかけに盛りだくさんの行事を用意
 - (イ) 言語と文化、そして伝統が異なる多くの民族が住むモンゴルホブド県で起こる皆既日食の観測行事に関心と参加を願う。
- (8) 中国山東第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア地域環境保護産業商談会基本現況(中国山東省)
- (ア) 山東省は中国の環境保護産業の最大の市場：自らに挑戦状を投げて中国で一番厳格な環境保護基準と環境管理制度を実行、投資を拡大して循環経済を發展させ、生態山東建設、新しい舞台構築、環境保護産業發展、市場を造成して環境保護對外協力を拡大
 - (イ) 中国山東第3回親環境産業国際博覧会及び北東アジア地域環境保護産業商談会
 - ・ 主要特徴：環境保護市場の莫大な需要満足、需要による専門ブース区域設置、参加企業にオーダーメード型商談案内、公平で開放的な環境保護市場構築
 - ・ 主要内容：北東アジア地域環境保護産業商談会、環境保護産業技術製品展、親環境産業製品展、環境保護需要展、技術フォーラム及びオーダーメード商談
 - (ウ) 参加案内：グリーン博覧会公式ホームページ <http://www.greenexhibition.com>
- (9) 観光分科委員会設置及びコーディネート担当(中国河南省)
- (ア) 中国にはまだ分科委員会のコーディネートを担当する自治体がない。2006年第6回釜山総会で河南省人民政府外事弁公室ボンヨンチョン主任が初めて観光分科委員会新設提議及び分科委員会コーディネーターを希望
 - (イ) 河南省は、観光資源が豊かで、観光産業發展が急速である：中国国内観光交易会が河南省鄭州市で開催され、全国31省、自治区、直轄市の観光関連2,095業者及び1万人の観光従事者が参加
 - (ウ) 河南省が観光分科委員会のコーディネートを引き受けた場合、我々は河南省の天恵の観光資源と、数々の国際及び国内観光行事の開催を成功させた経験を生かし、観光分科委員会と行事を有機的に結合し、北東アジア地域自団体連合の各会員自治体のために観光展覧会や紹介行事、観光協力フォーラムなどを開催する等、実質的な協力の場を提供する。
- (10) 世界科学都市連合(WTA) 紹介(韓国大田広域市)
- (ア) 大田広域市が主導的に創設・運営している、計29ヵ国59会員を持つ国際機構として第5回WTAテクノマートのドバイでの開催を成功させた。WTA創立10周年を記念する第6回WTA総会が来る10月、WTA宗主都市である大田で開催される。
 - (イ) 世界科学都市連合(WTA)は、持続可能な科学都市發展のための世界科学都市間国際交流及び相互協力増進、科学都市の企業、大学、研究所などの發展的な欲求を解消することができる汎世界的な交流の場を提供、世界科学都市間發展戰略共有、科学技術を通じた人類の幸福と繁榮に寄与

- (ウ) 国際機構レベルで会員都市間の国際交流活性化支援を通じた緊密な協力体制の構築や、UNESCO、IASPなど関連の国際機関との共助など、国際機関としての活動を積極的に推進している。
- (エ) 都市連合体レベルでは会員都市間の人材、情報、技術交流を通じた地域発展促進と経済活性化を図り、市場フォーラムを通じた科学都市発展戦略と経験を共有、大学総長によるフォーラムを通じた地域の拠点大学間協力体制構築のために努力している。

第6節 国際経済フォーラム

1. 第1回フォーラム

ア. 行事概要

(1) 日時：2007. 10. 16(火)～10. 18(木)

※ 全体日程：16日登録、歓迎晚餐、17日フォーラム・商談会、18日産業文化視察

(2) 場所：韓国・大邱市インターブルゴホテル・クラベルホール(本館1階)

(3) 参加：北東アジア地域65会員自治体 150人余り(局・課長級及び実務公務員、バイヤー・企業、産・学・研の経済関連分野従事者)

(4) 主催：北東アジア地域自治体連合、大韓民国慶尚北道

(5) 主題：北東アジア地方政府間経済協力増進

(6) 発表者：5ヵ国11人(韓、中、日、ロシア、モンゴル)

※ 慶尚北道と2007北東アジア国際経済フォーラム及び貿易商談会を共同開催する。

イ. 主要内容

(1) 晚餐

○ 総長主宰歓迎晚餐：10. 16(火)19:00～21:00

○ 知事主宰歓迎晚餐：10. 17(水)19:00～20:30

(2) 国際経済フォーラム：10. 17(水)09:00～17:30

○ 基調演説：金泳鎬(柳韓大学総長)

○ 主題発表1：岩國哲人(日本)衆院議員外4人

○ 主題発表2：和田春樹(日本)前東京大社会科学研究所所長外4人

○ 総合討論：意見発表及び自由討論

ウ. 日程別詳細推進計画

(1) 1日目

(ア) 歓迎晩餐[10.16(火)19:00~21:00、2階アマンテホール、総長主宰]

- 参加人員：15名程度(NEAR事務総長、事務局長、発表者11人等)
- メニュー：韓定食または洋食(ラウンドテーブル)
- 進行手順：参加者紹介→総長歓迎の辞→参加者答辞または乾杯→晩餐→閉会
- 準備事項：座席配置図、席札、総長歓迎の辞、通訳要員、司会シナリオ、お盆など

(2) 2日目

(イ) 2007NEAR国際経済フォーラム[10.17(水)09:00~17:30、1階クラベルホール]

- 参加者：300人(専門家及び経済通商関連公務員など)

※ 主要参加者：道知事

- 発表者：岩國哲人外10人
- 準備事項
 - ・ 通訳員確保(中、日、ロシア、英語)座席配置図、席札、メモ用紙、筆記具、ミネラルウォーター、コップ、デジタルマイク(発表者)
 - ・ 総長開会の辞、知事歓迎の辞、慶尚北道議会議長または中央政府招待者からの祝辞、司会シナリオ
 - ・ 会議場の外には、飲料水台、お盆、懸垂幕設置など

エ. 2007年NEAR国際経済フォーラムスケジュール

時間	分	内 容	場 所	備 考
09:00～09:20	20	登録	インタブルゴホテル クラベルホール(1階)	
09:20～09:30	10	開会及び参加者紹介		NEAR 事務局長
09:30～09:40	10	開会の辞(李海斗NEAR事務総長)		
09:40～09:50	10	歓迎の辞(金寛容慶尚北道知事)		
09:50～10:00	10	祝辞(姜大明山東省省長)		
10:00～10:25	25	基調演説 -北東アジア地方間協力の制度設計		柳韓大学 総長 金泳鎬
[主題発表 I] 10:30～12:10[100分]				
10:30～10:50	20	岩國 哲人 - 北東アジア発展の条件	クラベルホール (1階)	
10:50～11:10	20	ブリアナトーリ -経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案		
11:10～11:30	20	張宇燕 - 世界エネルギー構図と中国エネルギー安保		
11:30～11:50	20	孫炳海 - 文化的共通性の開発による北東アジア共同体の模索		

時間	分	内 容	場所	備考
11:50 ~ 12:10	20	ハシチヨロン - モンゴルの対外貿易、ヨーロッパからアジア各国との統合へ	クラベルホール (1階)	
12:10 ~ 14:00		午餐	コンベンションホール(2階)	
[主題発表Ⅱ] 14:00~15:40[100分]				
14:00 ~ 14:20	20	和田春樹 - 北東アジア地域協力構想と東アジア共同体構想	クラベルホール (1階)	
14:20 ~ 14:40	20	イヴァンコフ - シベリア経済活動の現況とシベリア協定		
14:40 ~ 15:00	20	張軍 - 北東アジア経済統合：経済的合理性と政治的知恵		
15:00 ~ 15:20	20	ドードンバルジル - モンゴルの投資環境		
15:20 ~ 15:40	20	金仁哲 - 東アジア金融統合の進化過程		
15:40 ~ 16:05	25	Coffee Break		
16:05 ~ 17:30	85	総合討論		
19:00 ~ 20:30	90	歓迎晚餐	レディースホール(2階)	

オ. 歓迎晚餐[10.17(水) 19:00 ~20:30、2階レディースホール、総長主宰]

○ 参加人員：40名程度

- ・ 道議会議長、発表者(11人)、会員自治体(1人)、地域大学及びその他(18人)
- ・ メニュー：韓定食または洋定食
- ・ 進行手順：参加者紹介、歓迎の辞、参加者答辞または乾杯、晚餐、閉会

※ 社会：NEAR 事務局長(4ヵ国語随時通訳)

- ・ 準備事項：座席配置図、歓迎の辞、司会シナリオ、通訳員配置、席札準備など

カ. 主題発表内容

(1) 基調演説

- (ア) 主題：北東アジアの地方間協力の制度設計
- (イ) 発表者“金泳鎬(韓国、柳韓大学総長)
- (ウ) 内容

○ 地方の立場からの接近—もう一つの北東アジア

- ・ Nation to nationの北東アジアではなく、local to localの北東アジアという、もう一つの北東アジアを作ろうということ。

- ・ 理念の壁、安保の壁、過去の歴史の壁などがいたる所にあるので、政経分離型または、過去と未来に分離する時間分離型にするしかなく、国家と地方を分離し地方がリードする形にする。
- もう一つ北東アジアの制度化とNEAR連合の活性化問題
 - ・ 北東アジアの地方自治体連合のNEARへの吸収・統合
 - ・ NEARは6カ国80余地方自治体相互間の交流協力組織のため、地域内の市民、企業、大学、NGOなどの各セクター間の交流を伴っていない。
- NEARは、貿易投資だけではなく金融的な関心も重要
 - ・ 西ヨーロッパは自由貿易協定や関税同盟などの貿易統合をしてから、貨幣、金融の統合に進んだ。
 - ・ 地方間の共同事業、特に地球温暖化に関する共同対応事業のためのNEAR Fund造成が重要
- NEAR が共に出捐し参加するNEAR大学設立提議
 - ・ 北東アジア各地方の産業発展や情報化及び環境等に関する研究や教育のセンター及び各地方に必要な人材養成所
- 北東アジアの地方間技術協力モデル
 - ・ 地域大学の研究開発資源を活用するための大学内研究センターの設立
 - ・ 地域内ベンチャーキャピタル創出のための技術金融会社の設立
 - ・ 地域中小企業のための技術資源プログラム
 - ・ Matching Fundの概念に根拠がある地域特化研究開発プロジェクトの支援
 - ・ 地域研究施設など研究開発下部構造拡充など
- Near is beautiful
 - ・ 今日すべての地方やすべての国家は近くの地方や隣国と良い関係を持つことが競争力の源泉
 - ・ 世界化は地域統合を経てから成り立ち、同時に地域統合が世界化の大海で安全な場所になる。
- (2) 主題発表
 - (ア) 北東アジア発展条件：岩國哲人(日本、衆議院議員)
- 北東アジアの歴史的一体性
 - ・ 文字という共有文化財
 - ・ 儒教の影響と家族主義
 - ・ 気候の共通性：四季の変化、豊かな水、天恵の農業環境
- 北東アジアと日本経済
 - ・ 長寿企業の数字と順位(日本最高の長寿企業は韓国人が設立した会社)
 - ・ 日本と北東アジアの貿易額(50年間の推移別添資料)

○ 北東アジア経済力の強みと弱点

- ・ 経済発展の優位性：高い人口増加率、豊かな食糧資源、高度工業国の存在
- ・ 経済発展の問題点：エネルギー資源不足、産業資金不足、地域内経済格差、交通網などインフラ構築未備、深刻しつつある環境汚染、政治、軍事的緊張

○ 北東アジア経済に対する提案

- ・ 各国自治体共同の企画・推進機関の設立
- ・ 域内共通の労働ライセンス
- ・ 資金調達のための証券市場整備
- ・ エネルギー資源確保のための常設航路設置
- ・ 交通網、特にシルクロード鉄道建設
- ・ 自由貿易地区「FTZ」を各国に設置

(イ) 経済分野での北東アジア地域自治体間協力強化方案：ブリアナトーリ(ロシア、極東ザバイカル経済協議会事務局長)

○ ロシア・中国関係の地域的側面

- ・ 両国機関間の関係が強化され、協力過程での合意及び法的基盤、組織基盤の拡大
- ・ 政治的統合の展開
- ・ ロ・中間経済交流が速いスピードで増加

○ 地域的側面でのロシア・日本関係

- ・ 日・ロ関係で注目すべき事実は、日本財界の努力で日・ロ間協力が、両国間の大型プロジェクトを主とした協力から極東地域に位置する中小企業への支援に、その性格を変化させた。

○ ロシア極東地域での韓国・ロシア協力

- ・ 極東やザバイカル(Trans-baikalia)地域にある、沿海地方やハバロフスク地方、サハリン州及びサハ共和国などの自治体は、韓国の主要パートナーとして極東地域に埋蔵されている資源の開発やエネルギー分野での協力が進行中。
- ・ 両国の地方間協力のためのインフラ強化に努力を傾けている。

○ 協力活性化措置

- ・ ロシア政府は、2007年8月に連合統合プログラムの「極東及びザバイカル地域の経済及び社会発展プログラム」を2013年まで承認
- ・ 「アジア-太平洋地域の国際協力の中心としてのウラジオストク市開発」プログラムの下部プログラムとしてウラジオストク市に通商・ファイナンシャル、輸送・物流、工業、学問・教育などのための大型センターの建設計画

(ウ) 世界エネルギー構図と中国エネルギー安保：張宇燕(中国、中国社会科学院アジア太平洋研究所長)

- 世界エネルギー構図の進歩、現況及び未来
 - ・ 油価変動と世界エネルギー構図の進歩：燃料時代、石炭時代、石油時代、天然ガス時代、太陽エネルギー、風力エネルギー時代に次々と移り変わっていくだろう。
 - ・ 国際原油価格の趨勢と世界エネルギー構図の未来：現在、基本的に判断できるのは、国際原油価格は相変わらず高い水準に位置しており、長期間高油価時期にあるということ。
- 中国のエネルギー安保基本問題
 - ・ 価格変動リスク：油価上昇が世界経済に一部否定的な影響を及ぼし、M.A. Alexanderによると、油価の高低を判別する価格基準は、1バレル45ドルが高油価、35ドルは低油価、35～45が正常油価ということ。
 - ・ 可用性リスク：供給源の安定性を維持するいくつかの方法は直接投資、株式投資、戦略備蓄、市場直購買
- 油価変動は国際市場の需要・供給の構造を反映するだけでなく、国際関係の権力構造を反映
 - ・ S.Strangeは、“エネルギーは国際政治・経済学で権力運営にはなくてはならない条件だ。また、信頼できないエネルギー供給では安全や財貨を獲得することができない”と指摘する。
- (エ) 文化的共通性の開発を通じた北東アジア共同体模索：孫炳海(韓国、韓国国際経済学会長)
- 共同文化圏としての北東アジア：漢字、儒教、律令のような中国文化を主成分としている。
- 東アジア経済に対する儒教文化の影響：修己安民や知行合一の思想が資本主義発展の倫理的基礎、高い道徳的倫理意識と国民優先の統治理念、教育重視及び節制の行動様式など
- 北東アジア共同体論議で儒教的価値が持つ意義：アジア的価値の根源として儒教的価値、北東アジアのアイデンティティ確保
- 儒教的共同体形成と意義：アジア的価値の開発と世界体制内の文化的多様性維持、市場経済の非道徳性補完
- 伝統価値復元と再解釈や共同文化の伝播は、地方政府、非政府機構、民間企業及び個人間の交流活動を通じて十分に行うことができる地域統合運動の一環
- 北東アジア共同体構築のための文化的共通性回復運動には、既に組織となっているNEARのような地方政府間の協力組織や学術、観光、文化部門での民間組織が大きく寄与すると期待される。
- (オ) モンゴルの対外貿易、ヨーロッパからアジア各国との統合：ハシチョロン(モンゴル、国立モンゴル大学長)
- '90年代初の市場経済体制の転換期：旧ソ連の支配的な役割、特殊通貨使用、産業化及び東欧諸国との協力(1962年モンゴルのCMEA加入、CMEA諸国との協力など)、コメコンでモンゴルの特化産業：モンゴルは鉱物供給国家、モンゴル対外貿易の95%がコメコン中心、その中旧ソ連が90%を占める。

- 1990年市場経済への転換及び対外貿易自由化：1990年以前モンゴルはほとんど独占的に東欧と貿易、貿易自由化以後主要交易相手をアジアに転換
 - (カ) 北東アジア地域協力構想と東アジア共同体構想：和田春樹(日本、東京大学名誉教授)
- リージョナリズムの大切さが増大している状況：東アジア共同体、東南アジア共同体、北東アジア共同体
- 北東アジア共同体を推進するためにまず必要なこと：北東アジア地域は絶えず戦争を繰り返し、和合しなければ共存することができない。
- 地域共同体発展のために次に必要なこと：経済協力、環境保護協力など
 - ・ 渡り鳥、鳥類インフルエンザ、黄砂、台風、津波などが国境を越えて発生しており国を越えたシステムを求めている。
 - ・ (キ)シベリア経済活動現況とシベリア協定：イワンコフ(ロシア、シベリア協議事務総長)
- “シベリア協議”は1990年10月にロシア連邦19の連邦州による自発的な経済連合体として創設
 - ・ 会員自治体の総面積650万km²(ロシア連邦総面積の38.4%)人口2,300万人(ロシア連邦総人口の16%)、ロシア総石油埋蔵量の77%、天然ガスの85%、石炭の80%、銅の70%埋蔵
 - ・ 経済の主要分野：鉄、非鉄金属、電気エネルギー、石油ガス、化学及び石油化学、林業木材加工、軽工業、食品工業など
 - ・ 地域総生産1兆3,330億ルーブル
- シベリアと北東アジア国家の天然資源と経済はお互いに補完的な関係：シベリアは大規模石炭原料供給先として北東アジア国家と協力、地域交通インフラの共同発展は北東アジアからヨーロッパへの商品運送期間を短縮、運送費を節減させ、シベリアの学術研究所は海外パートナーに研究成果物を実行させるための提案をし、生産競争力を高めることができる構造的・技術的共同協力体構築可能
 - ・ (ク)北東アジア経済統合(経済的合理性と政治的知恵)：張軍(中国、上海復旦大学教授)
- 北東アジア国家間には経済発展や相互補充性において完璧な「はしご構造」が形成されている。日本は高度に発達した産業国家として資本と技術が豊富であり、韓国は新しい産業国家として生産コストが増加しつつあり、中国は安い労働力と人的資源、市場潜在性が豊富であり、極東地方のロシアとモンゴルは天然資源が豊富である。
- 域内構造変化と技術移転に対する機会は莫大で、域内関連国家はこれによるとてつもない経済的利益を享受することになるだろう。
- 北東アジアの経済協力のためには関連国、特に韓・中・日が相互間理解及び信頼増進のために政治的知恵を集めなければならず、このような点で韓・中・日は新アジアリージョナリズムに向けて積極的な役目を果たさなければならない。
 - ・ (ケ)モンゴル投資環境：ドードンバルジル(モンゴル、中央モンゴル開発庁長)

○ モンゴル投資環境現況

- ・ 1990年以後政治及び経済の体制転換を同時に始めたモンゴルは、民主化及び市場経済体制を導入し、経済・知識・思考を自由化、対外開放政策を推進
- ・ モンゴルは広大な領土、豊かな天然資源、遊牧文明を維持した牧畜業とそれらからの原資材、ロシアや中国の強大国の間に位置し、比較的若い労働人口の保有と高い教育水準などの長所によって外国人投資量が年々増加
- ・ モンゴル議会で外国人投資誘致のために“ザミン-ウッド”地域を自由経済貿易地帯、“アルタンボラク”、“チャガンノル”地域を自由貿易地帯として指定・承認

○ 外国人投資の法的環境、外国人投資のための法的保障

- ・ 外国人投資に対する平等措置
- ・ 外国人投資者の私有財産を国有化や強制没収ができないように法律的に保障
- ・ 外国への円滑な配当金送金、自分の財産を外国に送り、財産権譲渡
- ・ 長期投資安定化契約締結
- ・ (コ)東アジア金融統合への段階的アプローチ：金仁哲(韓国、成均館大学教授)

○ 域内金融統合のための段階的アプローチ：地域国家間の為替政策調整、域内共同通貨導入、域内単一通貨創設

○ 東アジア単一通貨のための3段階の取り組み：問題の核心は域内単一通貨を望むか望まないかではなく、どんな過程と段階を経て単一通貨を樹立するか、来るアジア単一通貨時代にどのように備えるかである。

- ・ 第1段階(為替安定に向けた政策調整)：為替が安定する場合、域内貿易及び投資がさらに促進され通貨危機を予防
- ・ 第2段階(地域通貨の導入)：域内通貨基金及び地域開発銀行、地域投資銀行など設立、会員国相互間合意を通じて固定相場制を採用し、国際外為市場の非会員国を相手に変動為替が適用される。
- ・ 第3段階(東アジア単一通貨樹立)：単一中央銀行が設立され、会員諸国では地域単一通貨は国内通貨に置き換えられるようになる。

2 第2回フォーラム

ア. 行事概要

(1) 日時：2008. 11. 5(水)～11. 7(金) [2泊3日]

※ 全体日程：5日登録、歓迎晚餐、6日フォーラム・歓迎晚餐、7日文化体験

(2) 場所：大韓民国慶尚北道慶州市現代ホテル

(3) 参加：300人(各会員自治体公務員、企業家、産・学・研経済関連分野従事者及び地域の名士)

- (4) 主催：北東アジア地域自治体連合事務局
- (5) 主題：北東アジア共同発展のための企業及び企業人の役割と協力
- (6) 発表者：5ヵ国8人(韓、中、日、ロ、モ)

イ. 行事主要内容

(1) 晚餐

- 総長主宰歓迎晚餐：11.5(水)18:30～20:00
- 知事主宰歓迎晚餐：11.6(木)18:30～20:00

(2) 2008国際経済フォーラム：11.6(木)09:30～17:00

- 基調演説：金学洙アジア経済共同体理事長、前UNESCAP事務総長
- 主題発表Ⅰ：李景台韓国貿易協会国際貿易研究院長外3人
- 主題発表Ⅱ：村上雅章(日本)ソウルジャパンプラブ理事長外2人
- 招待演説：ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)
- 総合討論：意見発表及び自由討論

(3) 文化体験：11.7(金)09:30～14:00

- 国立慶州博物館、慶州世界文化EXPO、仏国寺観覧

ウ. 日程別詳細推進計画

(1) 1日目(11月5日)

(ア) 歓迎晚餐[11.5(水)18:30～20:00、1階ピサホール、総長主宰]

- 参加人員：20人程度

※ NEAR事務総長、事務局長、発表者及び討論者14人等

- メニュー：洋食(ラウンドテーブル方式)

- 進行手順：①参加者紹介→②総長歓迎の辞→③参加者答辞または乾杯→④晚餐→⑤閉会

- 準備事項：座席配置図、席札、総長歓迎の辞、通訳要員(言語別) 司会シナリオ、お盆など

(2) 2日目(11月6日)

(ア) 2008NEAR国際経済フォーラム[11.6(木)09:30～17:00、コンベンションホール(地下1階)]

- 参加者：200人程度(経済関連専門家、企業家及び経済通商関連公務員など)

※ 主要参加者：金寛容(慶尚北道知事)、ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)、金学洙(元UNESCAP事務総長)など

- 発表者：李景台韓国国際貿易研究院長外8人

○ 討論者：楊平安(中国国際貿易促進委員会韓国首席代表)外4人

(イ) 歓迎晚餐[11.6(木)18:30～20:00、地下1階コンベンションホール、知事主宰]

○ 参加人員：100人程度

※ 知事、NEAR事務総長、発表者及び討論者、経済関係者、会員自治体参加者など

○ メニュー：洋食(ラウンドテーブル方式)

○ 進行手順：① 参加者紹介→② 知事歓迎の辞→③ 参加者答辞または乾杯→④ 晚餐→⑤ 国楽
(韓国伝統音楽)公演→⑥ 閉会

※ 司会：NEAR事務局長(随時通訳)

(3) 3日目(11月7日)

(ア) 国立慶州博物館観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)09:50～10:50(60分)

○ 場所：慶州市仁旺洞

○ 観覧内容：1975年設立、新羅千年の文化をひと目で見る事ができる所、慶州一帯で出土された10万点の遺物の展示、本館、第1展示室、第2別館など

○ 移動：国立慶州博物館→慶州文化EXPO

(イ) 慶州世界文化EXPO観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)11:10～12:10(60分)

○ 場所：慶州市千軍洞

○ 観覧内容：エキスポ公園、3Dアニメーションワールド、世界化石博物館、慶州タワー、CT体験
官、新羅王京森など

○ 移動：天馬塚→食堂

(ウ) 仏国寺観覧

○ 日時：2008. 11. 7(金)13:50～14:40(50分)

○ 場所：慶州市進峴洞

○ 観覧内容：統一新羅時代の建築、ユネスコの世界文化遺産(仏国寺の大雄殿、釈迦塔、多宝
塔、青雲橋、白雲橋など)

○ 移動：仏国寺→送迎

4) スケジュール

	日時	分	内 容	場所	備考	
1日目 (11.5)	15:00～18:00	180	登録、チェックイン	慶州現代ホテル1階ロビー		
	18:30～20:00	90	歓迎晚餐	招待：ピサホール(1階) 一般：ダイヤモンドホール(地下1階)		
	20:00～		宿泊			
2日目 (11. 6)	07:00～08:30	90	朝食	サラホール(1階)		
	09:30～10:00	30	登録	コンベンションホール(地下1階)		
	10:00～10:05	5	開会及び参加者紹介		司会 (NEAR事務局長)	
	10:05～10:11	6	開会の辞(李海斗NEAR事務総長)			
	10:11～10:18	7	歓迎の辞(金寛容慶尙北道知事)			
	10:18～10:25	7	祝辞(アミルドショルUNパートナーシップ事務所事務総長)			
	10:25～10:50	25	基調演説 - アジア太平洋地域の経済統合：最新動向、挑戦課題及び北東アジア地域に及ぶ影響		アジア経済共同体理事長金学洙	
	10:50～11:00	10	移動 (Posco国際館→事務局)			
	[主題発表Ⅰ] 11:00～12:20[80分]					
	11:00～11:20	20	李景台 - 北東アジア金融協力方案	コンベンションホール(地下1階)		
	11:20～11:40	20	谷口誠 - 東アジア共同体成立のために			
	11:40～12:00	20	劉方會 - 商工会議所の積極的な役割による北東アジア地域の経済協力活性化			
	12:00～12:20	20	ブレジネフ - 沿海地方経済のための商工会議所の役割			
	12:20～14:00	100	昼食			
	[主題発表Ⅱ] 14:00～15:00[60分]					
	14:00～14:20	20	村上雅章 - 物流の視点から見た北東アジア地域における韓国の戦略的位置	コンベンションホール(地下1階)		
	14:20～14:40	20	テンベレル - 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力			

日 時		分	内 容	場 所	備 考
3日目 (11. 7)	14:40 ~ 15:00	20	崔劉浩 - グリーン成長と企業の社会的責任 (CSR)	コンベンションホール(地下1階)	
	15:00 ~ 15:20	20	招待演説		GTI代表ナタリア
	15:20 ~ 15:30	10	Coffee Break		
	15:30 ~ 17:00	90	総合討論 歓迎晚餐	コンベンションホール(地下1階)	司会 (NEAR事務局長)
	18:30 ~ 20:00	90			
	07:00 ~ 08:30	90	朝食	サラホール(1階)	
	08:30 ~ 09:30	60	チェックアウト		
	09:30 ~ 09:50	20	ホテル→慶州国立博物館		専用バス
	09:50 ~ 10:50	60	慶州国立博物館観覧		
	10:50 ~ 11:10	20	博物館→慶州文化EXPO		専用バス
11:10 ~ 12:10	60	慶州文化EXPO観覧			
12:10 ~ 12:30	15	慶州文化EXPO→食堂		専用バス	
12:30 ~ 13:30	60	昼食			
13:30 ~ 13:50	20	食堂→仏国寺		専用バス	
13:50 ~ 14:40	50	仏国寺観覧			
14:40 ~		歓送		専用バス	

5) 主題発表者紹介：9人

- **基調演説**：金学洙(韓国、アジア経済共同体理事長、前UNESCAP事務総長)
 - ・ アジア太平洋地域の経済統合：最新動向、挑戦課題及び北東アジア地域に及ぶ影響
- **李景台**(韓国、韓国国際貿易研究院長、前対外経済政策研究院長)
 - ・ 北東アジア金融協力方案
- **崔龍浩**(韓国、韓国産学研究院理事長、慶北大教授)
 - ・ グリーン成長と企業の社会的責任
- **谷口誠**(日本、前OECD事務次長、岩手県立大総長)
 - ・ 東アジア共同体成立のために
- **村上雅章**(日本、ソウルジャパンクラブ理事長)

- ・物流の視点から見た北東アジア地域での韓国の戦略的位置
- **劉方会**(中国、山東省国際貿易促進委員会会長)
 - ・商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化
- **ブレジネフ**(ロシア、沿海地方商工会議所長)
 - ・沿海地方経済のための商工会議所の役割
- **テンベレル**(モンゴル、モンゴル商工会議所所長)
 - ・北東アジア共同発展のための企業の役割と協力
- **招請演説**：ナタリア・ヤチェイストバ(UNDP-GTI事務局代表)
 - ・「豆満江開発計画」北東アジア協力プログラム

6) 討論者紹介：5人

- **孫東辰**(韓国、東国大慶州キャンパス総長、アジア研究院理事長)
- **孫炳海**(韓国、慶北大東アジア経済研究所長)
- **楊平安**(中国、中国国際貿易促進委員会韓国代表部首席代表)
- **クズネゾフ**(ロシア、在韓ロシア貿易代表部副代表)
- **ラウダンオヨン**(モンゴル、在韓モンゴル大使館商務官)

7) 主題発表内容

(1) 基調演説

(ア) 主題：アジア太平洋地域の経済統合に向けた動き-現況、挑戦課題及び北東アジア地域に与える意味

(イ) 発表者：金学洙(韓国、アジア経済共同体理事長)

(ウ) 内容

- アジア太平洋地域経済統合に向けたいくつかの歩み
 - ・アジアハイウェイ(Asian Highway)やアジア横断鉄道(Trans-Asian Railway)のように会員国家の参加と交渉を通じて各国の首都と首都、または重要な経済地点と地点を繋ぐことで広範囲な地域に渡っている国々を連結する段階
 - ・貿易協定のようなソフト面での政府間の協定
- 小地域的(Sub-regional) 処理方式の重要性：ASEANとGMS(メコン河流域開発計画)、SAARC(南アジア地域協力連合)、ECO(経済協力機構)、SPECA(中央アジア経済圏特別プログラム)、SCO(上海協力機構)、PIRS(太平洋諸島フォーラム)など小地域機関の役割が重要だ。
- 北東アジアの挑戦課題及び潜在的戦略
 - ・政府間体制の不在：他の小地域とは異なり北東アジアには公式的で包括的なすべての国家を

含む政府間体制がまだない。

- ・ 周辺小地域協力浮上
 - ・ 地方政府の重要性
 - ・ 民間部門の重要性
- 歴史的残滓や敵対意識、紛争が相変らず残っている北東アジア地域では中央政府の役割が大変制限的なので、このような空白は地方政府と民間部門で補うことができる。

(2) 主題発表内容

(ア) 世界金融危機と北東アジア経済協力：李景台(韓国、韓国国際貿易研究院長)

- 北東アジア金融資本市場の衝撃と安定回復：域内金融協力体制強化、アジアの域内資金の流れを拡大すること。
- 実物経済の沈滞予防：景気の急激な鈍化を防止するためには内需拡大が要求され、租税減免、財政支出拡大、金利引下げなど、積極的な内需拡大手段を動員しなければならないが、国家別に独断的に運用するよりは北東アジア国家が協力して共同で施行するのがより効果的だ。
- 北東アジア通貨協力の加速化：北東アジアは今世界製造業の中心であり、今後もそうなるためには、金融と実体経済間の健全な関係を設定しなければならないという主張を、説得力をもって準備すべきである。

(イ) 東アジア共同体の成立：谷口誠(日本、岩手県立大総長)

- 東アジア共同体の必要性：1990年グローバル化の動きの中でEU(欧州連合)、NAFTA(北米自由貿易協定)に代表される地域統合は進展しつつあり、アジアにも何らかの形の地域統合が必要だと主張
- “東アジア共同体”構築は韓・中・日の共同責任
- 日本の“価値観外交”の問題：アジアの一国である日本がアメリカ一辺倒ととられかねない市場主義、民主主義、人権といった“価値観外交”を推進することにはより慎重であるべきだった。
- 実効性ある“アジア共同体”のために日本が取るべき具体的な政策
 - 日本の新しい外交政策確立：日米同盟を重視しながらもアジアの一国として東アジア共同体成立を考慮した自主的外交推進
 - 日・韓・中関係の大切さ：日・韓・中3国の関係強化が必須
- “東アジア共同体”成立に向けて日本が取るべき具体的な政策
 - 東アジア経済共同体構築
 - 北東アジア環境協力機構構築
 - 北東アジアのエネルギー資源共同開発
 - 北東アジアの共通農業政策構想
- 日・韓・中3国がFTA、EPAなどの経済分野での地域協力を推進することは、北東アジアの地域

協力を進展させ“東アジア経済共同体”を成立できるようにし、環境、農業、エネルギー、金融などの分野において地域協力を強化し、日・韓・中間の相互信頼関係が生まれ、そこに共同体の構築に不可欠な“共同体意識”が醸成されるはずだ。

(ウ) 商工会議所の積極的な役割を通じた北東アジア地域の経済協力活性化：劉方會(中国、山東省国際貿易促進委員会会長)

- 北東アジア地域経済協力は発展の真っ只中にある。
- 山東省は北東アジア地域経済協力で積極的な役割を發揮するはずだ。
- 北東アジア地域経済協力で企業が主体的な役割を發揮するはずだ。
 - ・ 経済交流を展開して北東アジア地域企業間協力の需要を満足させなければならない。
 - ・ 核心的な分野を発掘して協力の場を構築し、さらに実質的な経済貿易協力を展開しなければならない。

(エ) 沿海地方の経済のための商工会議所の役割：ブレジネフ(ロシア、沿海地方商工会議所所長)

- 沿海地方発展プロジェクト紹介：輸送施設の現代化(貨物積替、1万トン規模の化学製品、260億m³のLNG積替えのための動力ターミナル建設計画) 極東南部地域に新しい経済地区建設(年間60万トンの生産能力を持ったアルミニウム工場、原子力発電所、石油・石油製品及び液化ガス運送用のタンカーの造船所など) 沿海地方南部地域に約3百万人が居住可能な新都市建設。
- 商工会議所は沿海地方の企業代表と外国企業代表との定例的な会議を開催、3年以上企業活動をしている企業が会員として登録され、商工会議所役員企業は皆活発な企業活動をしている。他地域の商工会議所と相互協力、企業家交流、地域経済発展の見込みについて議論

(オ) 物流の視点で見た北東アジア地域での韓国の戦略的位置：村上雅章(日本、ソウルジャパンクラブ理事長)

- 広大な経済後背地を持つ韓国：中国、ロシア、日本、モンゴル
- 渤海湾経済圏に面する韓国：韓国企業が密集する山東省、特に天津・東北3省を後背地にした巨大プロジェクト多数

(カ) 北東アジア共同発展のための企業の役割と協力：テンベレル(モンゴル、モンゴル商工会議所所長)

- 北東アジア地域の総合パートナーシップを拡張発展：中央政府間会議の拡大強化、国際的な協力強化、中央政府及び企業の経済協力強化発展、文化教育、科学、人文分野の協力拡大などを通じた短期事業基本計画樹立
- 北東アジア地域協力強化のためには政治会談及び中央政府省長間協議及び会談、各国首脳相互訪問、首脳会談の定例化を進める一方、企業間各種行事、展示会、博覧会、商談会、研修会などを開催して互いに協力。

- (ギ) グリーン成長と企業の社会的責任：崔龍浩(韓国、韓国産学研究院理事長)
- 気候変化と持続可能な発展：グローバル環境規制の強化、企業の経済的規制強化、環境統制不十分な場合の莫大な経済的損失
- 韓国のグリーン成長構想：エネルギー、環境部門の立ち後れ
 - ・ OECD国家中排出量7位、エネルギー効率性は日本の1/3
 - ・ グリーン成長に向けた政策基調：低炭素及び親環境、グリーン成長、グリーンエネルギー産業発展戦略(インフラ構築を通じた成長動力化支援)
- 韓国企業の持続可能な発展戦略：経済と環境そして社会的価値の調和、透明性と倫理経営重視、人権と労働問題考慮、利害関係者と活発なコミュニケーション
 - ・ 国際基準に当たる持続可能な経営推進、環境産業進出、親環境技術開発
- 韓国地方自治体とNEARの役割
 - ・ 韓国地方自治体の持続可能な発展戦略(地方自治体の持続可能な発展ビジョン及びロードマップの樹立、4大分野7大重点課題、国際基準に基づく持続可能な発展戦略推進(国際機関加入及び活動参加))
 - ・ 持続可能な発展のための NEARの役割：北東アジアグリーンフンド造成、北東アジア持続可能な経営アカデミー運営、北東アジア企業の社会的責任連帯、北東アジア炭素排出権市場の開設、北東アジア親環境技術共同開発と移転の円滑化、北東アジアの大々的な植樹運動の展開
- (3) 招待講演
 - (ア) 主題：豆満江開発計画(GTI) 北東アジア協力プログラム
 - (イ) 発表者：ナタリア・ヤチェイストバ(ロシア、UNDP-GTI 事務局代表)
 - (ウ) 発表内容
- 北東アジア地域協力：地理的・経済的・インフラ的に互いに繋がっている国々にもかかわらず強力な地域機構が無く、深い統合を成す重要な必須条件であるFTAが一つも締結されたことがない。
- 豆満江開発計画(GTI)プログラム
 - ・ 北東アジアの国々はAPECやUNESCAPまたは、上海協力機構のような多様な地域機構に参加しているが、北東アジア国家に焦点を置いた地域の政府間機構はまだない状況。
 - ・ GTIは唯一の政府間協力モデル：GTIはUNDPの支援を受ける北東アジア国家間の協力プログラムとして、中国、北朝鮮、韓国、モンゴル、ロシアなど 5カ国が加盟している。
 - ・ 2005年中国長春で開催された第8回GTI諮問委員会会議：UNDPの継続的な支援と共に財政・人的資源支援を増やすことを決定、2006～2015GTI戦略的実行計画を採択(運送、エネルギー、観

光、投資分野に活動を集中)

○ GTIの最近活動 - 実質的な結果に焦点

- ・ 第9回GTI諮問委員会会議(2007年11月ロシア・ウラジオストク):新しく実質的な協力段階の扉を開いたという点で、GTI発展の全過程の分岐点、企業人諮問会議、エネルギー理事会、観光協議会、環境協力の枠組みが揃った。
- ・ 第10回GTI諮問会議が2009年4月モンゴル政府主催で開かれる予定:初めてのGTI諮問委員会-企業人諮問委員会が共同セッションとして開催されることで、域内投資制度の透明性と魅力を高めることを目標に、北東アジア内の直接的な官民の対話が行われる。

○ 地域貿易及び投資:ロシアに対する日本の直接投資総規模は2年前1億7千500万ドルで、2008年初めは3億2千200万ドルに増え、特にエネルギー及び自動車分野の投資が増加、ロシア経済に対する韓国総投資は2008年7億3千830万ドル。

○ インフラ分野の地域協力

- ・ 貨物及び旅客運送を通じた北東アジア地域開発促進のためにザルビノ(ロシア)、東草(韓国)、新潟(日本)を連結する3国フェリー路線が近々開通予定、エネルギー分野の協力も順調である。

○ 協力強化の結果と展望

- ・ ロシア及び中国政府は GTI共同基金を継続的に支持、財政的な支援をすることに決定
- ・ GTIプログラムはUNDPの協力を受けて政府と市民社会、民間部門が共同で取り組むことになる。
- ・ GTIプログラムは会員政府の努力に対するシナジーを新たにすることで北東アジア交流メカニズムのバネとして作用
- ・ 北東アジアの経済統合促進は本質的に非常に重要な任務だが、親善関係を強化して国民間の相互理解を増進させることも同様に重要
- ・ GTI教育及び研究ネット構築が必要、NEARがこの部門で積極的な役割を果たすと信じて、GTI事務局との関係が強化されるのを希望する。